

茨城県教育財団文化財調査報告第129集

茨城中央工業団地造成工事  
地内埋蔵文化財調査報告書

南小割遺跡 権現堂遺跡  
親塚古墳 後原遺跡  
(上 卷)

作業室用

平成10年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第129集

# 茨城中央工業団地造成工事 地内埋蔵文化財調査報告書

みなみこわりいせき ごんげんどういせき  
南小割遺跡 権現堂遺跡  
おや づか うしら はら  
親塚古墳 後原遺跡  
(上 卷)

平成10年3月

茨 城 県  
財團法人 茨城県教育財團

奥一瀬沼、中央一瀬沼川、手前左～南小糸瀬川

遺跡遠景（西側から東方向を望む）





小波状口縁を有する土器群（南小剣遺跡）

## 序

茨城県は、県央地域において、常陸那珂地区開発や高速交通体系の整備によって活性化する人・物・情報の交流を活用し、北関東の発展を牽引する中核都市地域づくりを進めています。

茨城中央工業団地造成工事は、この計画に沿って実施されるもので、その予定地内には、埋蔵文化財の包蔵地である南小割遺跡、権現堂遺跡、親塚古墳及び後原遺跡が確認されております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県から茨城中央工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について委託を受け、平成6年4月から平成7年9月にかけて、上記4遺跡の調査を実施してまいりました。

本書は、南小割遺跡、権現堂遺跡、親塚古墳及び後原遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が、研究の資料としてはもとより、郷土の歴史の理解を深めると共に、教育、文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である茨城県からいただきました多大な御協力に対し心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、茨城町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただきましたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成10年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 橋本 昌

## 例　　言

1 本書は、平成6年度から平成7年度にかけて、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が発掘調査を実施した、南小割遺跡、椎現堂遺跡、親塚古墳及び後原遺跡の発掘調査報告書である。

なお、4遺跡の所在地は次のとおりである。

南小割遺跡 東茨城郡茨城町大字駒渡字南小割434番地の1ほか

椎現堂遺跡 東茨城郡茨城町大字野曾1,300番地ほか

親塚古墳 東茨城郡茨城町大字南栗崎1,011番地の1ほか

後原遺跡 東茨城郡茨城町大字南川又1,047番地の1ほか

2 上記4遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

|                  |  |  |
|------------------|--|--|
| 理　事　長            | 磯　田　勇<br>橋　本　昌                           | 昭和63年6月～平成7年3月<br>平成7年4月～                                  |
| 副　理　事　長          | 小　林　秀　文<br>中　島　弘　光<br>齊　藤　佳　郎            | 平成6年4月～平成8年3月<br>平成7年4月～<br>平成8年4月～                        |
| 専　務　理　事          | 中　島　弘　光                                  | 平成5年4月～平成7年3月  |
| 常　務　理　事          | 一　木　邦　彦<br>梅　澤　秀　夫<br>齊　藤　紀　彦            | 平成7年4月～平成8年3月<br>平成8年4月～平成9年3月<br>平成9年4月～                  |
| 事　務　局　長          | 藤　枝　宣　一<br>齊　藤　紀　彦<br>小　林　隆　郎<br>西　村　敏　一 | 平成4年4月～平成7年3月<br>平成7年4月～平成8年3月<br>平成8年4月～平成9年3月<br>平成9年4月～ |
| 埋　藏　文　化　財　部　長    | 安　藤　幸　重<br>沼　田　文　夫                       | 平成5年4月～平成8年3月<br>平成8年4月～                                   |
| 埋　藏　文　化　財　部　長　代理 | 河　野　佑　司                                  | 平成6年4月～  |
| 企　画　管　理　課        | 課　長                                      | 水　剣　敏　夫<br>小　幡　弘　明   |
|                  | 課　長　代　理                                  | 河　崎　孝　典<br>根　本　達　夫   |
|                  | 主　任　調　査　員                                | 清　水　薰　穂<br>海　老　澤　稔   |
|                  |  | 小　高　五　十二   |
| 經　理　課            | 課　長                                      | 小　幡　弘　明<br>河　崎　孝　典<br>鈴　木　三　郎                              |
|                  | 主　查                                      | 田　所　多　佳　男  |
|                  | 課　長　代　理                                  | 大　高　春　夫  |
|                  | 主　任                                      | 小　池　孝　典  |
|                  | 主　事                                      | 宮　本　勉  |
|                  |  | 軍　司　浩　作  |

|       |          |       |                        |
|-------|----------|-------|------------------------|
| 調査第一課 | 課長(部長兼務) | 安藤 幸重 | 平成5年4月～平成8年3月          |
|       | 調査第一班長   | 川井 正一 | 平成6年4月～平成7年3月          |
|       | 調査第二班長   | 萩野谷 悟 | 平成7年4月～平成7年9月          |
|       | 主任調査員    | 中村 敬治 | 平成6年4月～平成7年3月調査        |
|       | 主任調査員    | 江幡 良夫 | 平成7年4月～平成7年9月調査        |
|       | 主任調査員    | 小島 敏  | 平成6年10月～平成7年9月調査       |
|       | 主任調査員    | 川又 清明 | 平成6年4月～平成6年9月調査        |
| 整理課   | 課長       | 野田 良直 | 平成7年4月～平成7年9月調査        |
|       | 主任調査員    | 山本 静男 | 平成7年4月～平成9年3月          |
|       | 主任調査員    | 小泉 光正 | 平成9年4月～                |
|       | 主任調査員    | 中村 敬治 | 平成8年4月～平成9年3月整理・執筆・編集  |
|       | 主任調査員    | 江幡 良夫 | 平成9年4月～平成10年3月整理・執筆・編集 |

- 3 本書に使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、绳文土器の型式については茨城県立歴史館主任研究員斎藤弘道氏から、地点貝塚の調査分析については財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査事務所長鈴木素行氏から、古墳時代前期の集落及び土器類については東京電機大学付属高校教諭鈴木敏弘氏から、それぞれ御指導をいただいた。炭化材の同定分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。
- 5 発掘調査及び出土遺物の整理に際して御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

#### 6 遺跡の概要

|                    |   |     |                                |                |                      |                                 |
|--------------------|---|-----|--------------------------------|----------------|----------------------|---------------------------------|
| ふりがな               | いわらきちゅうとうこうとうようだんらぞうせうじょうじしないまいぞうぶんかめいこうさくじょ  |     |                                |                |                      |                                 |
| 書名                 | 茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書                      |     |                                |                |                      |                                 |
| 副書名                | 南小割遺跡、椎現堂遺跡、親塚古墳、後原遺跡                         |     |                                |                |                      |                                 |
| 巻次                 |   |     |                                |                |                      |                                 |
| シリーズ名              | 茨城県教育財团文化財調査報告                                |     |                                |                |                      |                                 |
| シリーズ番号             | 第129集   |     |                                |                |                      |                                 |
| 著者名                | 中村 敬治 江幡 良夫                                   |     |                                |                |                      |                                 |
| 編集機関               | 財団法人 茨城県教育財團                                  |     |                                |                |                      |                                 |
| 所在地                | 〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587 |     |                                |                |                      |                                 |
| 発行年月日              | 1998(平成10)年3月20日                              |     |                                |                |                      |                                 |
| ふりがな               | いわらきちゅうとうこうとうようだんらぞうせうじょうじしないまいぞうぶんかめいこうさくじょ  |     |                                |                |                      |                                 |
| 所取遺跡               | コード   |     |                                |                |                      |                                 |
| 所在地                | 北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因                          |     |                                |                |                      |                                 |
| みなみこわりいせき<br>南小割遺跡 | 市町村 通路番号                                      |     |                                |                |                      |                                 |
| みなみこわりいせき<br>南小割遺跡 | 0830  | 2   | 36° 140°<br>17° 26°<br>46° 40° | 平成6年度<br>平成7年度 | 19,568m <sup>2</sup> | 茨城中央工業<br>団地造成工事<br>に伴う事前調<br>査 |
| ごんげんどういせき<br>椎現堂遺跡 | 08302   | 195 | 36° 140°<br>18° 25°<br>02° 25° | 平成7年度          | 9,154m <sup>2</sup>  |                                 |
| おやづかこふん<br>親塚古墳    | 08302   | 181 | 36° 140°<br>18° 22°<br>10° 45° | 平成7年度          | 2,260m <sup>2</sup>  |                                 |

|                  |  |   |     |                   |                    |   |                      |  |
|------------------|--|---|-----|-------------------|--------------------|---|----------------------|--|
| うしろはらいせき<br>後原遺跡 | いばらけんの東茨城<br>茨城県東茨城<br>ぐいばらきあづまいばらき<br>郡茨城町大字<br>みなみかわまた<br>南川又1,047番<br>地の1ほか | 08302   | 225 | 36°<br>18'<br>16" | 140°<br>21'<br>00" | 平成7年度<br>19950401～<br>19950930                    | 10,842m <sup>2</sup> |  |
| 所収遺跡名            |  |   |     |                   |                    |   |                      |  |
| 南小創造跡            | 包藏地<br>集落跡<br>墓  | 旧石器時代<br>縄文時代<br>(前期)<br><br>古墳時代<br>(前・中・<br>後期)<br><br>平安時代 | 種別  |                   |                    | 主な時代  |                      | 主な遺構   |
|                  |  |   |     |                   |                    | 主な遺物  |                      | 特記事項   |
|                  |  |   |     |                   |                    | 石核、削器、スクレイ<br>バー、ナイフ形石器                           |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 縄文土器片(二ツ木<br>式、関山Ⅱ式器)                             |                      | ・多量の被熱礫出土。   |
|                  |  |   |     |                   |                    | 貝刃、ヤマトシジミ、<br>マガキ、ハイガイ、ウ<br>ネナシトマヤガイ、ハ<br>マグリ、その他 |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 縄文土器片(二ツ木式、<br>関山Ⅱ式器)                             |                      | ・大形の陥し穴<br>(3タイプ有り)  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 石器(石鏃、楔形石器)                                       |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 整穴住居跡 158軒<br>(前期126軒、中期18<br>軒、後期14軒)            |                      | 土師器(壺、高壺、壺、<br>台付壺、瓶)、須恵器(壺)、土製品<br>(土玉、管状土錘、土<br>製炉石)、石製品(砥<br>石) |
|                  |  |   |     |                   |                    | 方形圓溝墓 1基<br>(前期)                                  |                      | 土師器(壺、甕)   |
|                  |  |   |     |                   |                    | 掘立柱建物跡 1棟   |                      |  |
| 椎現堂遺跡            | 包藏地<br>古墳<br>墳跡  | 古墳時代<br>平安時代<br>中・近世<br>時期不明                                  |     |                   |                    | 土坑 5基   |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 整穴住居跡 14軒   |                      | 土師器(高台付壺、皿、<br>甕)、須恵器(短頸壺)   |
|                  |  |   |     |                   |                    | 土坑 6基   |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 地下式壙 3基   |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 整穴住居跡 1軒  |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 掘立柱建物跡 4棟   |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 溝 3条  |                      | 須恵器(高壺)  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 土坑 101基   |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 不明遺構 1基   |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    |   |                      |  |
| 親塚古墳             | 集落跡<br>墓   | 奈良時代<br>平安時代<br>中・近世<br>時期不明                                  |     |                   |                    | 須恵器(壺片)   |                      | ・円墳(盗掘により石室破壊)   |
|                  |  |   |     |                   |                    | 須恵器(短頸壺)、灰釉<br>陶器(高台付壺)                           |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 井戸 1基   |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 陶器(片口鉢)   |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 溝 5条  |                      |  |
| 後原遺跡             | 包藏地  | 中・近世<br>時期不明  |     |                   |                    | 土坑 22基  |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 須恵器(壺)  |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 火葬墓 2基  |                      | 土師器(甕)   |
|                  |  |   |     |                   |                    | 土坑 1基   |                      |  |
|                  |  | 土坑 3基   |     |                   |                    | 須恵器(壺、高壺)   |                      |  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 溝 7条  |                      | 須恵器(壺、高壺)  |
|                  |  |   |     |                   |                    | 土坑 6基   |                      |  |

# 凡 例

- 1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、南小割遺跡はX=+33,280m, Y=+49.920mの交点(D3ai)を、権現堂遺跡はX=+33,640m, Y=+49,360mの交点(E2ai)を、親塚古墳はX=+33,800m, Y=+48,920mの交点(B2ai)を、後原遺跡はX=+34,040m, Y=+47,960mの交点(C2ai)を、それぞれ基準点とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……、西から東へ1, 2, 3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c……j、西から東へ1, 2, 3……0とし、位置を表示する場合は、大調査区の名称を冠し、「A1a区」、「B2b区」のように呼称した。

- 2 遺構、遺物及び土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-SI 土坑-SK 掘立柱建物跡-SB 古墳-TM 地点貝塚-SM

井戸-SE 溝-SD 不明遺構-SX

遺物 土器・陶器-P 土製品-DP 石製品-Q 金属製品・古銭-M 拓本土器-TP

土層 撥乱-K

- 3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。



第1図 調査区呼称方法概念図

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺跡の全体図は500分の1、住居跡や土坑は80分の1に縮尺し掲載した。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にS=1/○と表示した。

(3) 「主軸方向」は長径方向とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E, N-10°-W)。

なお、[ ]を付したものは推定である。



●土器

○土製品

□石器・石製品

△貝製品

(4) 土器の計測値は、A - 口径 B - 器高 C - 底径 D - 高台径 E - 高台高 F - 体部径とし、単位はcmである。

なお、現存値は（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。

(5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測(P)番号、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

6 遺構番号については、調査の過程において遺構の種類ごとに調査順に付したが、整理の段階で遺構でないと判断したものは欠番とした。

# 目 次

## 一上 卷 一

序

例 言

凡 例

|                   |    |
|-------------------|----|
| 第1章 調査経緯 .....    | 1  |
| 第1節 調査に至る経過 ..... | 1  |
| 第2節 調査経過 .....    | 1  |
| 第2章 位置と環境 .....   | 3  |
| 第1節 地理的環境 .....   | 3  |
| 第2節 歴史的環境 .....   | 4  |
| 第3章 南小割遺跡 .....   | 9  |
| 第1節 遺跡の概要 .....   | 9  |
| 第2節 基本層序 .....    | 10 |
| 第3節 遺構と遺物 .....   | 10 |
| 1 竪穴住居跡 .....     | 10 |

## 一下 卷 一

|                 |    |
|-----------------|----|
| 2 掘立柱建物跡 .....  | 1  |
| 3 方形周溝墓 .....   | 7  |
| 4 土坑 .....      | 9  |
| 5 溝 .....       | 49 |
| 6 その他の遺構 .....  | 51 |
| (1) 地点貝塚 .....  | 51 |
| (2) 地下式壙 .....  | 57 |
| (3) 不明遺構 .....  | 61 |
| 7 遺構外出土遺物 ..... | 62 |
| 第4節 まとめ .....   | 72 |
| 第4章 権現堂遺跡 ..... | 83 |
| 第1節 遺跡の概要 ..... | 83 |
| 第2節 基本層序 .....  | 84 |
| 第3節 遺構と遺物 ..... | 85 |
| 1 古墳 .....      | 85 |
| 2 土坑 .....      | 90 |

|                    |     |
|--------------------|-----|
| 3 井戸               | 99  |
| 4 溝                | 100 |
| 5 遺構出土遺物           | 104 |
| 第4節 まとめ            | 113 |
| 第5章 親塚古墳           | 115 |
| 第1節 遺跡の概要          | 115 |
| 第2節 基本層序           | 115 |
| 第3節 遺構と遺物          | 116 |
| 1 壁穴住居跡            | 116 |
| 2 塚                | 119 |
| 3 火葬墓              | 120 |
| 4 土坑               | 122 |
| 第4節 まとめ            | 125 |
| 第6章 後原遺跡           | 127 |
| 第1節 遺跡の概要          | 127 |
| 第2節 基本層序           | 128 |
| 第3節 遺構と遺物          | 128 |
| 1 土坑               | 128 |
| 2 溝                | 132 |
| 3・遺構出土遺物           | 137 |
| 第4節 まとめ            | 139 |
| 付 章                | 141 |
| 付章1 南小割第2地点貝塚試料の分析 | 143 |
| 付章2 南小割遺跡出土炭化材樹    | 149 |
| 写真図版               |     |

## 挿 図 目 次

### 一 上 卷 一

#### 南小割遺跡

|                      |                       |    |
|----------------------|-----------------------|----|
| 第1図 調査区呼称方法概念図       | 34図 第18号住居跡実測図        | 40 |
| 第2図 周辺遺跡分布図          | 35図 第19号住居跡実測図        | 40 |
| 第3図 南小割遺跡調査区         | 36図 第20号住居跡実測図        | 41 |
| 第4図 南小割基本土壠図         | 37図 第20号住居跡出土遺物実測図    | 42 |
| 第5図 第1号住居跡実測図        | 38図 第21号住居跡実測図        | 43 |
| 第6図 第1号住居跡出土遺物実測図    | 39図 第21号住居跡出土遺物実測図    | 44 |
| 第7図 第2号住居跡実測図        | 40図 第22号住居跡実測図        | 45 |
| 第8図 第2号住居跡出土遺物実測図    | 41図 第22号住居跡出土遺物実測図    | 46 |
| 第9図 第3-A号住居跡実測図      | 42図 第23・24号住居跡実測図     | 48 |
| 第10図 第3-A号住居跡出土遺物実測図 | 43図 第24号住居跡出土遺物実測図    | 49 |
| 第11図 第4号住居跡実測図       | 44図 第25号住居跡実測図        | 50 |
| 第12図 第5号住居跡実測図       | 45図 第25号住居跡出土遺物実測・拓影図 | 51 |
| 第13図 第5号住居跡出土遺物実測図   | 46図 第26号住居跡実測図        | 53 |
| 第14図 第6号住居跡実測図       | 47図 第26号住居跡出土遺物実測図    | 54 |
| 第15図 第7号住居跡実測図       | 48図 第27号住居跡実測図        | 56 |
| 第16図 第7号住居跡出土遺物実測図   | 49図 第27号住居跡出土遺物実測図    | 57 |
| 第17図 第8号住居跡実測図       | 50図 第28号住居跡出土遺物実測図    | 58 |
| 第18図 第8号住居跡出土遺物実測図   | 51図 第28・29号住居跡実測図     | 59 |
| 第19図 第9号住居跡実測図       | 52図 第29号住居跡出土遺物実測図    | 59 |
| 第20図 第10号住居跡実測図      | 53図 第30・31号住居跡実測図     | 60 |
| 第21図 第10号住居跡出土遺物実測図  | 54図 第30号住居跡出土遺物実測図    | 61 |
| 第22図 第11号住居跡実測図      | 55図 第31号住居跡出土遺物実測図    | 61 |
| 第23図 第12号住居跡実測図      | 56図 第32号住居跡実測図        | 62 |
| 第24図 第12号住居跡出土遺物実測図  | 57図 第32号住居跡出土遺物実測図    | 63 |
| 第25図 第13号住居跡実測図      | 58図 第33号住居跡実測図        | 65 |
| 第26図 第13号住居跡出土遺物実測図  | 59図 第33号住居跡出土遺物実測図    | 65 |
| 第27図 第14・15号住居跡実測図   | 60図 第34号住居跡実測図        | 66 |
| 第28図 第14号住居跡出土遺物実測図  | 61図 第35号住居跡実測図        | 67 |
| 第29図 第15号住居跡出土遺物実測図  | 62図 第35号住居跡出土遺物実測図    | 68 |
| 第30図 第16号住居跡実測図      | 63図 第36号住居跡実測図        | 69 |
| 第31図 第16号住居跡出土遺物実測図  | 64図 第36号住居跡出土遺物実測・拓影図 | 70 |
| 第32図 第17号住居跡実測図      | 65図 第37・38号住居跡実測図     | 71 |
| 第33図 第17号住居跡出土遺物実測図  | 66図 第37号住居跡出土遺物実測図    | 72 |

|       |                |     |       |                   |     |
|-------|----------------|-----|-------|-------------------|-----|
| 第67図  | 第38号住居跡出土遺物実測図 | 73  | 第105図 | 第60号住居跡出土遺物実測図    | 111 |
| 第68図  | 第39号住居跡実測図     | 74  | 第106図 | 第60号住居跡出土遺物実測図(1) | 113 |
| 第69図  | 第39号住居跡出土遺物実測図 | 75  | 第107図 | 第60号住居跡出土遺物実測図(2) | 114 |
| 第70図  | 第40号住居跡実測図     | 76  | 第108図 | 第60号住居跡出土遺物実測図(3) | 115 |
| 第71図  | 第40号住居跡出土遺物実測図 | 77  | 第109図 | 第61号住居跡実測図        | 117 |
| 第72図  | 第41号住居跡実測図     | 78  | 第110図 | 第61号住居跡出土遺物実測図    | 118 |
| 第73図  | 第42号住居跡実測図     | 79  | 第111図 | 第62号住居跡実測図        | 119 |
| 第74図  | 第42号住居跡出土遺物実測図 | 80  | 第112図 | 第62号住居跡出土遺物実測図    | 120 |
| 第75図  | 第43号住居跡実測図     | 81  | 第113図 | 第63号住居跡実測図        | 122 |
| 第76図  | 第43号住居跡出土遺物実測図 | 82  | 第114図 | 第63号住居跡出土遺物実測図    | 123 |
| 第77図  | 第44号住居跡実測図     | 83  | 第115図 | 第64号住居跡実測図        | 124 |
| 第78図  | 第44号住居跡出土遺物実測図 | 83  | 第116図 | 第64号住居跡出土遺物実測図(1) | 126 |
| 第79図  | 第45号住居跡実測図     | 84  | 第117図 | 第64号住居跡出土遺物実測図(2) | 127 |
| 第80図  | 第45号住居跡出土遺物実測図 | 84  | 第118図 | 第65号住居跡実測図        | 128 |
| 第81図  | 第46号住居跡実測図     | 85  | 第119図 | 第66・67号住居跡実測図     | 129 |
| 第82図  | 第46号住居跡出土遺物実測図 | 86  | 第120図 | 第66号住居跡出土遺物実測図    | 129 |
| 第83図  | 第47号住居跡実測図     | 88  | 第121図 | 第67号住居跡出土遺物実測図    | 131 |
| 第84図  | 第47号住居跡出土遺物実測図 | 89  | 第122図 | 第68号住居跡実測図        | 133 |
| 第85図  | 第48号住居跡実測図     | 90  | 第123図 | 第68号住居跡出土遺物実測図    | 134 |
| 第86図  | 第48号住居跡出土遺物実測図 | 90  | 第124図 | 第69号住居跡実測図        | 134 |
| 第87図  | 第49号住居跡実測図     | 92  | 第125図 | 第69号住居跡出土遺物実測図    | 135 |
| 第88図  | 第49号住居跡出土遺物実測図 | 92  | 第126図 | 第70・71号住居跡出土遺物実測図 | 136 |
| 第89図  | 第50号住居跡実測図     | 93  | 第127図 | 第70号住居跡出土遺物実測図    | 137 |
| 第90図  | 第50号住居跡出土遺物実測図 | 94  | 第128図 | 第71号住居跡出土遺物実測図    | 138 |
| 第91図  | 第52・53号住居跡実測図  | 97  | 第129図 | 第72号住居跡実測図        | 139 |
| 第92図  | 第52号住居跡出土遺物実測図 | 97  | 第130図 | 第72号住居跡出土遺物実測図(1) | 141 |
| 第93図  | 第53号住居跡出土遺物実測図 | 98  | 第131図 | 第72号住居跡出土遺物実測図(2) | 142 |
| 第94図  | 第54号住居跡実測図     | 99  | 第132図 | 第72号住居跡出土遺物実測図(3) | 143 |
| 第95図  | 第54号住居跡出土遺物実測図 | 100 | 第133図 | 第72号住居跡出土遺物実測図(4) | 144 |
| 第96図  | 第55・56号住居跡実測図  | 102 | 第134図 | 第73号住居跡実測図        | 147 |
| 第97図  | 第55号住居跡出土遺物実測図 | 103 | 第135図 | 第73号住居跡出土遺物実測図    | 149 |
| 第98図  | 第56号住居跡出土遺物実測図 | 104 | 第136図 | 第74号住居跡実測図        | 150 |
| 第99図  | 第57号住居跡実測図     | 105 | 第137図 | 第75・76号住居跡実測図     | 152 |
| 第100図 | 第58号住居跡実測図     | 105 | 第138図 | 第75号住居跡出土遺物実測図    | 153 |
| 第101図 | 第58号住居跡出土遺物実測図 | 106 | 第139図 | 第76号住居跡出土遺物実測図    | 155 |
| 第102図 | 第59号住居跡実測図     | 108 | 第140図 | 第77号住居跡実測図        | 157 |
| 第103図 | 第59号住居跡出土遺物実測図 | 109 | 第141図 | 第77号住居跡出土遺物実測図    | 157 |
| 第104図 | 第60号住居跡実測図     | 110 | 第142図 | 第78号住居跡実測図        | 159 |

|       |                   |          |       |                     |          |
|-------|-------------------|----------|-------|---------------------|----------|
| 第134图 | 第78号住居跡出土遺物実測図    | .....160 | 第181图 | 第95号住居跡出土遺物実測図      | .....207 |
| 第144图 | 第79号住居跡実測図        | .....161 | 第182图 | 第96号住居跡実測図          | .....208 |
| 第145图 | 第79号住居跡出土遺物実測・拓影図 | .....162 | 第183图 | 第96号住居跡出土遺物実測図      | .....209 |
| 第146图 | 第80・81号住居跡実測図     | .....164 | 第184图 | 第97号住居跡実測図          | .....210 |
| 第147图 | 第80号住居跡出土遺物実測図(1) | .....166 | 第185图 | 第98号住居跡実測図          | .....211 |
| 第148图 | 第80号住居跡出土遺物実測図(2) | .....167 | 第186图 | 第98号住居跡出土遺物実測図      | .....212 |
| 第149图 | 第80号住居跡出土遺物実測図(3) | .....168 | 第187图 | 第99号住居跡実測図          | .....213 |
| 第150图 | 第81号住居跡出土遺物実測図    | .....170 | 第188图 | 第99号住居跡出土遺物実測図      | .....214 |
| 第151图 | 第82号住居跡実測・遺物出土位置図 | .....172 | 第189图 | 第100号住居跡実測図         | .....216 |
| 第152图 | 第82号住居跡出土遺物実測図(1) | .....174 | 第190图 | 第100号住居跡出土遺物実測・拓影図  | .....217 |
| 第153图 | 第82号住居跡出土遺物実測図(2) | .....175 | 第191图 | 第101号住居跡実測図         | .....218 |
| 第154图 | 第83号住居跡実測図        | .....177 | 第192图 | 第101号住居跡出土遺物実測・拓影図  | .....218 |
| 第155图 | 第83号住居跡出土遺物実測図    | .....178 | 第193图 | 第102号住居跡出土遺物実測図     | .....219 |
| 第156图 | 第84号住居跡実測図        | .....180 | 第194图 | 第102号住居跡実測図         | .....219 |
| 第157图 | 第84号住居跡出土遺物実測図    | .....180 | 第195图 | 第103号住居跡実測図         | .....221 |
| 第158图 | 第85号住居跡実測図        | .....181 | 第196图 | 第103号住居跡出土遺物実測図     | .....222 |
| 第159图 | 第85号住居跡出土遺物実測図    | .....182 | 第197图 | 第104号住居跡実測図         | .....223 |
| 第160图 | 第86号住居跡実測図        | .....183 | 第198图 | 第104号住居跡出土遺物実測図     | .....224 |
| 第161图 | 第86号住居跡出土遺物実測図    | .....184 | 第199图 | 第105号住居跡実測図         | .....225 |
| 第162图 | 第87号住居跡実測図        | .....185 | 第200图 | 第105号住居跡出土遺物実測・拓影図  | .....225 |
| 第163图 | 第87号住居跡出土遺物実測図    | .....185 | 第201图 | 第106号住居跡実測図         | .....226 |
| 第164图 | 第88号住居跡実測図        | .....187 | 第202图 | 第106号住居跡出土遺物実測図     | .....227 |
| 第165图 | 第88号住居跡遺物出土位置図    | .....188 | 第203图 | 第107号住居跡実測図         | .....228 |
| 第166图 | 第88号住居跡出土遺物実測図(1) | .....189 | 第204图 | 第108号住居跡実測図         | .....229 |
| 第167图 | 第88号住居跡出土遺物実測図(2) | .....190 | 第205图 | 第108号住居跡出土遺物実測図(1)  | .....231 |
| 第168图 | 第89号住居跡実測図        | .....192 | 第206图 | 第108号住居跡出土遺物実測図(2)  | .....232 |
| 第169图 | 第89号住居跡出土遺物実測図(1) | .....193 | 第207图 | 第109号住居跡実測図         | .....233 |
| 第170图 | 第89号住居跡出土遺物実測図(2) | .....194 | 第208图 | 第109号住居跡出土遺物実測図     | .....234 |
| 第171图 | 第90・91号住居跡実測図     | .....196 | 第209图 | 第110・111号住居跡実測図     | .....236 |
| 第172图 | 第90号住居跡遺物出土位置図    | .....197 | 第210图 | 第110号住居跡出土遺物実測図     | .....236 |
| 第173图 | 第90号住居跡出土遺物実測図(1) | .....198 | 第211图 | 第112号住居跡実測図         | .....238 |
| 第174图 | 第90号住居跡出土遺物実測図(2) | .....199 | 第212图 | 第113号住居跡実測図         | .....239 |
| 第175图 | 第92号住居跡実測図        | .....201 | 第213图 | 第113号住居跡出土遺物実測図     | .....240 |
| 第176图 | 第92号住居跡出土遺物実測図    | .....201 | 第214图 | 第114・116・117号住居跡実測図 | .....242 |
| 第177图 | 第93号住居跡実測図        | .....203 | 第215图 | 第114号住居跡出土遺物実測図     | .....243 |
| 第178图 | 第93号住居跡出土遺物実測図    | .....203 | 第216图 | 第117号住居跡出土遺物実測図     | .....245 |
| 第179图 | 第94・95号住居跡実測図     | .....205 | 第217图 | 第115号住居跡実測図         | .....246 |
| 第180图 | 第94号住居跡出土遺物実測図    | .....206 | 第218图 | 第115号住居跡出土遺物実測図     | .....247 |

|       |                       |     |       |                    |     |
|-------|-----------------------|-----|-------|--------------------|-----|
| 第219图 | 第118号住居跡実測図           | 248 | 第257图 | 第136号住居跡実測・遺物出土位置図 | 291 |
| 第220图 | 第118号住居跡出土遺物実測図       | 249 | 第258图 | 第136号住居跡出土遺物実測図(1) | 292 |
| 第221图 | 第119号住居跡実測図           | 250 | 第259图 | 第136号住居跡出土遺物実測図(2) | 293 |
| 第222图 | 第119号住居跡出土遺物実測図       | 252 | 第260图 | 第137号住居跡実測図        | 294 |
| 第223图 | 第120号住居跡実測図           | 254 | 第261图 | 第137号住居跡出土遺物実測図    | 294 |
| 第224图 | 第120号住居跡出土遺物実測図       | 255 | 第262图 | 第138号住居跡実測図        | 295 |
| 第225图 | 第121-A号住居跡実測図         | 257 | 第263图 | 第139号住居跡実測図        | 296 |
| 第226图 | 第121-B号住居跡実測図         | 257 | 第264图 | 第139号住居跡出土遺物実測図(1) | 297 |
| 第227图 | 第121-B号住居跡出土遺物実測図     | 258 | 第265图 | 第139号住居跡出土遺物実測図(2) | 298 |
| 第228图 | 第122号住居跡実測図           | 260 | 第266图 | 第140号住居跡実測図        | 299 |
| 第229图 | 第122号住居跡出土遺物実測図       | 261 | 第267图 | 第140号住居跡出土遺物実測・拓影図 | 300 |
| 第230图 | 第123号住居跡実測図           | 263 | 第268图 | 第141号住居跡実測図        | 301 |
| 第231图 | 第123号住居跡出土遺物実測図       | 264 | 第269图 | 第141号住居跡出土遺物実測・拓影図 | 302 |
| 第232图 | 第124号住居跡実測図           | 266 | 第270图 | 第142号住居跡実測・遺物出土位置図 | 304 |
| 第233图 | 第124号住居跡出土遺物実測図       | 267 | 第271图 | 第142号住居跡出土遺物実測図    | 305 |
| 第234图 | 第125号住居跡実測図           | 268 | 第272图 | 第143号住居跡実測図        | 306 |
| 第235图 | 第125号住居跡出土遺物実測図       | 269 | 第273图 | 第143号住居跡出土遺物実測図    | 306 |
| 第236图 | 第126号住居跡実測図           | 270 | 第274图 | 第144号住居跡実測図        | 308 |
| 第237图 | 第126号住居跡出土遺物実測・拓影図    | 270 | 第275图 | 第145号住居跡実測図        | 309 |
| 第238图 | 第127号住居跡実測図           | 271 | 第276图 | 第146号住居跡実測図        | 310 |
| 第239图 | 第127号住居跡出土遺物実測・拓影図    | 272 | 第277图 | 第146号住居跡出土遺物実測図(1) | 311 |
| 第240图 | 第128号住居跡実測図           | 274 | 第278图 | 第146号住居跡出土遺物実測図(2) | 312 |
| 第241图 | 第128号住居跡出土遺物実測・拓影図    | 275 | 第279图 | 第147号住居跡実測図        | 314 |
| 第242图 | 第129号住居跡実測図           | 276 | 第280图 | 第147号住居跡出土遺物実測図    | 314 |
| 第243图 | 第129号住居跡出土遺物実測・拓影図(1) | 277 | 第281图 | 第148号住居跡実測図        | 316 |
| 第244图 | 第129号住居跡出土遺物実測・拓影図(2) | 278 | 第282图 | 第148号住居跡出土遺物実測図    | 316 |
| 第245图 | 第130号住居跡実測図           | 279 | 第283图 | 第149号住居跡実測図        | 317 |
| 第246图 | 第130号住居跡出土遺物実測図       | 280 | 第284图 | 第149号住居跡出土遺物実測図    | 318 |
| 第247图 | 第131・132号住居跡実測図       | 281 | 第285图 | 第150号住居跡実測図        | 319 |
| 第248图 | 第131号住居跡出土遺物実測図       | 282 | 第286图 | 第150号住居跡出土遺物実測・拓影図 | 319 |
| 第249图 | 第132号住居跡出土遺物拓影図       | 283 | 第287图 | 第151号住居跡実測図        | 320 |
| 第250图 | 第133号住居跡実測図           | 284 | 第288图 | 第151号住居跡出土遺物拓影図    | 321 |
| 第251图 | 第134号住居跡実測図           | 284 | 第289图 | 第152号住居跡実測図        | 321 |
| 第252图 | 第135号住居跡実測図           | 285 | 第290图 | 第152号住居跡出土遺物拓影図    | 322 |
| 第253图 | 第135号住居跡遺物出土位置図       | 286 | 第291图 | 第153号住居跡実測図        | 323 |
| 第254图 | 第135号住居跡出土遺物実測図(1)    | 287 | 第292图 | 第153号住居跡出土遺物実測図    | 323 |
| 第255图 | 第135号住居跡出土遺物実測図(2)    | 288 | 第293图 | 第154号住居跡実測図        | 324 |
| 第256图 | 第135号住居跡出土遺物実測図(3)    | 289 | 第294图 | 第154号住居跡出土遺物実測図    | 324 |

|       |                    |     |
|-------|--------------------|-----|
| 第295図 | 第155号住居跡実測図        | 325 |
| 第296図 | 第155号住居跡出土遺物実測図    | 326 |
| 第297図 | 第156号住居跡実測図        | 328 |
| 第298図 | 第156号住居跡出土遺物実測図    | 329 |
| 第299図 | 第157号住居跡実測図        | 331 |
| 第300図 | 第157号住居跡出土遺物実測図    | 332 |
| 第301図 | 第158号住居跡実測図        | 333 |
| 第302図 | 第158号住居跡出土遺物実測図    | 334 |
| 第303図 | 第159号住居跡実測図        | 335 |
| 第304図 | 第159号住居跡出土遺物実測図    | 335 |
| 第305図 | 第160号住居跡実測図        | 336 |
| 第306図 | 第160号住居跡出土遺物拓影図    | 336 |
| 第307図 | 第161号住居跡実測図        | 337 |
| 第308図 | 第161号住居跡出土遺物実測・拓影図 | 337 |
| 第309図 | 第162号住居跡実測図        | 338 |
| 第310図 | 第162号住居跡出土遺物実測図    | 338 |
| 第311図 | 第163号住居跡実測図        | 339 |
| 第312図 | 第163号住居跡出土遺物実測・拓影図 | 340 |
| 第313図 | 第164号住居跡実測図        | 341 |
| 第314図 | 第164号住居跡出土遺物拓影図    | 342 |
| 第315図 | 第165号住居跡実測図        | 343 |
| 第316図 | 第166号住居跡実測・遺物出土位置図 | 344 |
| 第317図 | 第166号住居跡出土遺物実測図    | 345 |
| 第318図 | 第167号住居跡実測図        | 346 |
| 第319図 | 第168号住居跡実測図        | 347 |
| 第320図 | 第168号住居跡出土遺物実測図    | 347 |
| 第321図 | 第169号住居跡実測図        | 348 |
| 第322図 | 第169号住居跡出土遺物実測図(1) | 349 |
| 第323図 | 第169号住居跡出土遺物実測図(2) | 350 |
| 第324図 | 第170号住居跡実測図        | 351 |
| 第325図 | 第170号住居跡出土遺物実測図    | 352 |
| 第326図 | 第171号住居跡実測図        | 353 |
| 第327図 | 第171号住居跡出土遺物実測図(1) | 354 |
| 第328図 | 第171号住居跡出土遺物実測図(2) | 355 |
| 第329図 | 第172号住居跡実測図        | 357 |
| 第330図 | 第172号住居跡出土遺物実測図    | 358 |
| 第331図 | 第173・174号住居跡実測図    | 360 |
| 第332図 | 第173号住居跡出土遺物実測図    | 361 |
| 第333図 | 第174号住居跡出土遺物実測図    | 362 |
| 第334図 | 第175号住居跡実測図        | 363 |
| 第335図 | 第175号住居跡出土遺物実測図    | 363 |
| 第336図 | 第176号住居跡実測図        | 365 |
| 第337図 | 第176号住居跡出土遺物実測図    | 366 |
| 第338図 | 第177号住居跡実測図        | 368 |
| 第339図 | 第177号住居跡出土遺物実測図    | 368 |
| 第340図 | 第178号住居跡実測・遺物出土位置図 | 370 |
| 第341図 | 第178号住居跡出土遺物実測図    | 371 |
| 第342図 | 第179号住居跡実測図        | 372 |
| 第343図 | 第180号住居跡実測図        | 374 |
| 第344図 | 第180号住居跡出土遺物実測図    | 375 |
| 第345図 | 第181号住居跡実測図        | 376 |
| 第346図 | 第181号住居跡出土遺物実測図    | 377 |
| 第347図 | 第182号住居跡実測図        | 378 |
| 第348図 | 第182号住居跡出土遺物実測図    | 379 |
| 第349図 | 第183号住居跡実測図        | 380 |
| 第350図 | 第183号住居跡出土遺物実測図    | 380 |
| 第351図 | 第184号住居跡実測図        | 381 |
| 第352図 | 第185号住居跡実測図        | 382 |
| 第353図 | 第185号住居跡出土遺物実測図    | 383 |
| 第354図 | 第186号住居跡実測図        | 385 |
| 第355図 | 第186号住居跡出土遺物実測図    | 386 |
| 第356図 | 第187号住居跡実測図        | 388 |
| 第357図 | 第187号住居跡出土遺物実測図    | 389 |
| 第358図 | 第188号住居跡実測図        | 391 |
| 第359図 | 第188号住居跡出土遺物実測図    | 392 |
| 第360図 | 第189号住居跡実測図        | 393 |
| 第361図 | 第189号住居跡出土遺物実測図    | 394 |
| 第362図 | 第190号住居跡実測図        | 395 |
| 第363図 | 第191号住居跡出土遺物実測図    | 395 |
| 第364図 | 第191号住居跡実測図        | 396 |

## 一 下 卷 一

|       |                   |    |       |                    |    |
|-------|-------------------|----|-------|--------------------|----|
| 第367図 | 第3号掘立柱建物跡実測図      | 3  | 第405図 | 第115号土坑実測図         | 28 |
| 第368図 | 第3号掘立柱建物跡出土遺物実測図  | 3  | 第406図 | 第118号土坑実測図         | 29 |
| 第369図 | 第4号掘立柱建物跡実測図      | 5  | 第407図 | 第119号土坑実測図         | 29 |
| 第370図 | 第5号掘立柱建物跡実測図      | 6  | 第408図 | 第122号土坑実測図         | 30 |
| 第371図 | 第1号方形周溝墓実測図       | 8  | 第409図 | 第125号土坑実測図         | 30 |
| 第372図 | 第1号方形周溝墓出土遺物実測図   | 9  | 第410図 | 第126号土坑実測図         | 31 |
| 第373図 | 第3号土坑実測図          | 10 | 第411図 | 第127号土坑実測図         | 31 |
| 第374図 | 第4号土坑実測図          | 11 | 第412図 | 第132号土坑実測図         | 32 |
| 第375図 | 第4号土坑出土遺物実測図      | 11 | 第413図 | 第135号土坑実測図         | 32 |
| 第376図 | 第5号土坑実測図          | 12 | 第414図 | 第136号土坑実測図         | 33 |
| 第377図 | 第5号土坑出土遺物実測図      | 12 | 第415図 | 第137号土坑実測図         | 33 |
| 第378図 | 第9号土坑実測図          | 12 | 第416図 | 第139号土坑実測図         | 34 |
| 第379図 | 第10号土坑実測図         | 13 | 第417図 | 第140号土坑実測図         | 34 |
| 第380図 | 第19・20号土坑実測図      | 14 | 第418図 | その他の土坑実測図(1)       | 35 |
| 第381図 | 第22号土坑実測図         | 14 | 第419図 | その他の土坑実測図(2)       | 36 |
| 第382図 | 第30号土坑実測図         | 15 | 第420図 | その他の土坑実測図(3)       | 37 |
| 第383図 | 第37号土坑実測図         | 16 | 第421図 | その他の土坑実測図(4)       | 38 |
| 第384図 | 第37号土坑出土遺物実測図     | 16 | 第422図 | その他の土坑実測図(5)       | 39 |
| 第385図 | 第45号土坑実測図         | 17 | 第423図 | その他の土坑実測図(6)       | 40 |
| 第386図 | 第47号土坑実測図         | 18 | 第424図 | その他の土坑実測図(7)       | 41 |
| 第387図 | 第47号土坑出土遺物実測図     | 18 | 第425図 | その他の土坑出土遺物実測・拓影図   | 45 |
| 第388図 | 第51号土坑実測図         | 20 | 第426図 | 第1~3号溝土層・断面実測図     | 50 |
| 第389図 | 第51号土坑出土遺物拓影図     | 20 | 第427図 | 第1-A・B号地点貝塚実測図     | 51 |
| 第390図 | 第62号土坑実測図         | 20 | 第428図 | 第2-A・B号地点貝塚実測図     | 53 |
| 第391図 | 第71号土坑実測図         | 21 | 第429図 | 第2-A・B号地点貝塚出土遺物拓影図 | 53 |
| 第392図 | 第73号土坑実測図         | 22 | 第430図 | 第3号地点貝塚実測図         | 54 |
| 第393図 | 第73号土坑出土遺物実測図     | 22 | 第431図 | 第3号地点貝塚出土遺物実測図     | 54 |
| 第394図 | 第74号土坑実測図         | 23 | 第432図 | 第4号地点貝塚実測図         | 55 |
| 第395図 | 第74号土坑出土遺物拓影図     | 23 | 第433図 | 第4号地点貝塚出土遺物実測・拓影図  | 55 |
| 第396図 | 第79号土坑実測図         | 23 | 第434図 | ヤマトシジミ殻高別分布状況・個体数  | 56 |
| 第397図 | 第85号土坑実測図         | 24 |       | グラフ                |    |
| 第398図 | 第88号土坑実測図         | 24 | 第435図 | 第1・2号地下式壙実測図       | 58 |
| 第399図 | 第88号土坑出土遺物拓影図     | 24 | 第436図 | 第2号地下式壙出土遺物実測図     | 58 |
| 第400図 | 第98号土坑実測図         | 25 | 第437図 | 第3号地下式壙実測図         | 60 |
| 第401図 | 第100号土坑実測図        | 26 | 第438図 | 第3号地下式壙出土遺物実測図     | 60 |
| 第402図 | 第102号土坑実測図        | 27 | 第439図 | 第1号不明遺構実測図         | 61 |
| 第403図 | 第102号土坑出土遺物実測・拓影図 | 27 | 第440図 | 遺構外出土遺物実測・拓影図(1)   | 63 |
| 第404図 | 第104号土坑実測図        | 28 | 第441図 | 遺構外出土遺物拓影図(2)      | 64 |

|                             |    |                               |    |
|-----------------------------|----|-------------------------------|----|
| 第42図 遺構外出土遺物拓影図(3) .....    | 65 | 第407図 縄文時代前期住居跡のタイプ別平面形 ..... | 73 |
| 第43図 遺構外出土遺物実測・拓影図(4) ..... | 66 | 第408図 タイプ別陥し穴一覧 .....         | 76 |
| 第44図 遺構外出土遺物実測図(5) .....    | 68 | 第409図 南小割遺跡集落変遷図 .....        | 81 |
| 第45図 遺構外出土遺物実測図(6) .....    | 69 |                               |    |
| 第46図 遺構外出土遺物実測・拓影図(7) ..... | 70 | 付 図 南小割遺跡遺構全体図 .....          |    |

#### 椎現堂遺跡

|                                |    |                                  |     |
|--------------------------------|----|----------------------------------|-----|
| 第49図 椎現堂遺跡調査区 .....            | 83 | 第403図 第23号土坑実測図 .....            | 95  |
| 第51図 椎現堂遺跡基本土層図 .....          | 84 | 第404図 第23号土坑出土遺物実測図 .....        | 95  |
| 第42図 調査C区トレンチ位置図 .....         | 85 | 第405図 その他の土坑実測図(1) .....         | 96  |
| 第43図 第1号古墳実測図、第1号古墳埴丘土 .....   | 86 | 第406図 その他の土坑実測図(2) .....         | 97  |
| 層セクション図、第1号古墳周溝・墓 .....        |    | 第407図 その他の土坑実測図(3) .....         | 98  |
| 道土層セクション図、第1号古墳石室 .....        |    | 第408図 第1号井戸実測図 .....             | 100 |
| ・墓道断面図 .....                   |    | 第409図 第1号井戸出土遺物実測図 .....         | 100 |
| 第49図 第1号古墳石室・掘方平面図、土層 .....    | 89 | 第410図 第2号溝出土遺物実測図 .....          | 101 |
| セクション図 .....                   |    | 第411図 第1～4号溝土層セクション・断面図 .....    | 102 |
| 第45図 第1号古墳出土遺物拓影図 .....        | 90 | 第412図 第5号溝土層セクション・断面図 .....      | 103 |
| 第46図 第3号土坑実測図 .....            | 90 | 第413図 調査A区遺構外出土遺物実測図 .....       | 104 |
| 第47図 第4号土坑実測図 .....            | 91 | 第414図 調査B区遺構外出土遺物実測・拓影図 .....    | 105 |
| 第48図 第4号土坑出土遺物実測図 .....        | 91 | 第415図 調査C区遺構外出土遺物実測図(1) .....    | 107 |
| 第49図 第9号土坑実測図 .....            | 91 | 第416図 調査C区遺構外出土遺物実測・拓影図(2) ..... | 108 |
| 第46図 第12号土坑実測図 .....           | 92 | 第417図 椎現堂遺跡遺構全体図(1) .....        | 112 |
| 第41図 第12号土坑出土遺物実測図(1) .....    | 93 | 第418図 椎現堂遺跡遺構全体図(2) .....        | 113 |
| 第42図 第12号土坑出土遺物実測・拓影図(2) ..... | 94 |                                  |     |

#### 親塚古墳

|                              |     |                           |     |
|------------------------------|-----|---------------------------|-----|
| 第479図 親塚古墳調査区 .....          | 115 | 第485図 第1号火葬墓出土遺物実測図 ..... | 121 |
| 第480図 親塚古墳基本土層図 .....        | 115 | 第486図 第2号火葬墓実測図 .....     | 121 |
| 第481図 第1号住居跡実測図 .....        | 117 | 第487図 第2号火葬墓出土遺物実測図 ..... | 122 |
| 第482図 第1号住居跡出土遺物実測図 .....    | 118 | 第488図 その他の土坑実測図 .....     | 124 |
| 第483図 第1号塚現況図・土層セクション図 ..... | 120 | 第489図 親塚古墳遺構全体図 .....     | 125 |
| 第484図 第1号火葬墓実測図 .....        | 120 |                           |     |

#### 後原遺跡

|                       |     |                               |     |
|-----------------------|-----|-------------------------------|-----|
| 第490図 後原遺跡調査区 .....   | 127 | 第497図 その他の土坑実測図 .....         | 131 |
| 第491図 後原遺跡基本土層図 ..... | 128 | 第498図 第3・5・7号溝出土遺物実測図 .....   | 135 |
| 第492図 第1号土坑実測図 .....  | 129 | 第499図 第1～4号溝土層セクション・断面図 ..... | 136 |
| 第493図 第3号土坑実測図 .....  | 129 | 第500図 第5～7号溝土層セクション・断面図 ..... | 137 |
| 第494図 第4号土坑実測図 .....  | 130 | 第501図 調査A区遺構外出土遺物実測図 .....    | 137 |
| 第495図 第5号土坑実測図 .....  | 130 | 第502図 後原遺跡遺構全体図 .....         | 138 |
| 第496図 第6号土坑実測図 .....  | 131 |                               |     |

# 表 目 次

## 一 上 卷 一

### 南小割遺跡

表 1 南小割遺跡周辺遺跡一覧表 ..... 7 表 2 南小割遺跡竪穴住居跡一覧表 ..... 397

## 一 下 卷 一

表 3 南小割遺跡土坑一覧表 ..... 46 表 4 陥し穴一覧表 ..... 77

### 権現堂遺跡

表 5 権現堂遺跡土坑一覧表 ..... 99 表 7 後原遺跡土坑一覧表 ..... 139

### 親塚古墳

表 6 親塚古墳土坑一覧表 ..... 124

# 写 真 図 版 目 次

### 南小割遺跡

P L 1 遺跡遠景（西方から望む），遺跡全景

遺物出土状況，第33号住居跡，第35号住居跡，  
第35号住居跡炉内遺物出土状況

P L 2 調査前風景，遺跡確認状況（中央部），遺構  
確認状況（西部），完掘全景(1)～(4)

P L 7 第35号住居跡遺物出土状況，第37号住居跡，  
第32・35号土坑，第37号住居跡窓内遺物出土  
状況，第38号住居跡，第39号住居跡，第39号  
住居跡窓内遺物出土状況，第40号住居跡，  
第40号住居跡窓内遺物出土状況

P L 3 第3-A号住居跡，第3-A号住居跡遺物出土  
状況，第3-B号住居跡，第4号住居跡，第  
5号住居跡，第6号住居跡，第8号住居跡，  
第3号土坑遺物出土状況，第10号住居跡

P L 8 第41号住居跡，第42号住居跡，第42号住居跡  
遺物出土状況，第43号住居跡，第44号住居跡，  
第46号住居跡，第47号住居跡，第47号住居跡  
遺物出土状況

P L 4 第11号住居跡，第13号住居跡，第13号住居跡  
窓内遺物出土状況，第14号住居跡，第14  
号住居跡窓内遺物出土状況，第15号住居  
跡，第16号住居跡，第16号住居跡遺物出土状況

P L 9 第49号住居跡，第50号住居跡，第50号住居跡  
遺物出土状況，第60号住居跡窓内遺物出  
土状況，第52号住居跡，第54号住居跡遺物出  
土状況(1)，第54号住居跡遺物出土状況(2)，第  
58号住居跡

P L 5 第17号住居跡，第17号住居跡遺物出土状況，  
第18号住居跡，第19号住居跡，第21号住居跡，  
第21号住居跡窓内遺物出土状況，第22号  
住居跡，第24号住居跡

P L 10 第58号住居跡遺物出土状況，第59号住居跡。

|        |   |   |
|--------|---|---|
|        | 第59号住居跡遺物出土狀況，第60号住居跡遺物出土狀況，第60号住居跡   | 第101号住居跡  |
| P L 11 | 第61号住居跡，第62号住居跡，第62号住居跡遺物出土狀況，第63号住居跡，第64号住居跡，第64号住居跡遺物出土狀況(1)，第64号住居跡遺物出土狀況(2)，第66·67号住居跡              | P L 19 第101号住居跡遺物出土狀況，第102号住居跡，第103号住居跡，第103号住居跡遺物出土狀況，第104号住居跡，第104号住居跡遺物出土狀況，第105号住居跡，第106号住居跡                            |
| P L 12 | 第68号住居跡，第69号住居跡遺物出土狀況，第71号住居跡，第71号住居跡龕內遺物出土狀況，第72号住居跡，第72号住居跡遺物出土狀況(1)，第72号住居跡遺物出土狀況(2)，第72号住居跡爐內遺物出土狀況 | P L 20 第107号住居跡，第108号住居跡，第108号住居跡遺物出土狀況，第109号住居跡遺物出土狀況，第109号住居跡貯藏穴內遺物出土狀況，第112号住居跡，第113号住居跡，第114·115号住居跡                    |
| P L 13 | 第73号住居跡，第73号住居跡遺物出土狀況，第76号住居跡，第76号住居跡龕內遺物出土狀況，第77号住居跡，第78号住居跡，第79号住居跡，第79号住居跡遺物出土狀況                     | P L 21 第116号住居跡，第117号住居跡，第117号住居跡遺物出土狀況，第118号住居跡，第119号住居跡，第119号住居跡遺物出土狀況，第120号住居跡，第120号住居跡遺物出土狀況                            |
| P L 14 | 第80·81号住居跡，第82号住居跡，第82号住居跡遺物出土狀況，第82号住居跡龕內遺物出土狀況，第83号住居跡，第83号住居跡遺物出土狀況(1)，第83号住居跡遺物出土狀況(2)，第84号住居跡      | P L 22 第120号住居跡貯藏穴內遺物出土狀況，第121-B号住居跡，第121-B号住居跡遺物出土狀況，第122号住居跡，第122号住居跡爐，第122号住居跡遺物出土狀況，第123号住居跡，第123号住居跡遺物出土狀況             |
| P L 15 | 第84号住居跡爐內遺物出土狀況，第85号住居跡，第85号住居跡遺物出土狀況，第86号住居跡，第87号住居跡，第89号住居跡，第89号住居跡遺物出土狀況(1)，第89号住居跡遺物出土狀況(2)         | P L 23 第123号住居跡貯藏穴內遺物出土狀況，第124号住居跡，第125号住居跡，第126号住居跡，第127号住居跡，第128号住居跡，第128号住居跡遺物出土狀況，第129号住居跡                              |
| P L 16 | 第88号住居跡遺物出土狀況(1)，第88号住居跡遺物出土狀況(2)，第88号住居跡貯藏穴1內第一次遺物出土狀況，第88号住居跡貯藏穴1內第二次遺物出土狀況，第88号住居跡Ps內遺物出土狀況，第88号住居跡  | P L 24 第130号住居跡，第131号住居跡，第131号住居跡遺物出土狀況，第132号住居跡，第133号住居跡，第134号住居跡，第135号住居跡遺物出土狀況   |
| P L 17 | 第90·91号住居跡，第90号住居跡遺物出土狀況，第90号住居跡貯藏穴1內遺物出土狀況，第93号住居跡，第93号住居跡遺物出土狀況，第94号住居跡，第94·95号住居跡遺物出土狀況，第95号住居跡      | P L 25 第136号住居跡，第137号住居跡，第137号住居跡爐內遺物出土狀況，第138号住居跡，第139号住居跡，第139号住居跡遺物出土狀況，第140号住居跡·第66号土坑，第140号住居跡遺物出土狀況                   |
| P L 18 | 第96号住居跡，第96号住居跡遺物出土狀況，第97号住居跡，第98号住居跡，第99号住居跡，第100号住居跡，第100号住居跡遺物出土狀況                                   | P L 26 第141号住居跡，第141号住居跡遺物出土狀況，第142号住居跡，第142号住居跡遺物出土狀況(1)，第142号住居跡遺物出土狀況(2)，第143号住居跡，第143号住居跡遺物出土狀況，第146号住居跡遺物出土狀況，第147号住居跡 |
|        |   | P L 27 第146号住居跡遺物出土狀況，第147号住居跡  |

|        |  |  |
|--------|--|--|
|        | 第148号住居跡，第149号住居跡，第150号住居跡，第151号住居跡遺物出土狀況，第152号住居跡，第152号住居跡遺物出土狀況                                  | 土層斷面，第2号地点貝塚確認狀況，第3号地点貝塚，第4号地点貝塚土層斷面，第1号不明遺構，第1号掘立柱建物跡   |
| P L 28 | 第155号住居跡，第155号住居跡遺物出土狀況，第156号住居跡，第156号住居跡遺物出土狀況，第157号住居跡，第158号住居跡，第158号住居跡遺物出土狀況，第159号住居跡          | P L 38 第2号掘立柱建物跡，第2号掘立柱建物跡P <sub>3</sub> ，第2号掘立柱建物跡P <sub>4</sub> ，第3号掘立柱建物跡，第3号掘立柱建物跡P <sub>1</sub> 內遺物出土狀況，第3号掘立柱建物跡P <sub>2</sub> 內遺物出土狀況，第4号掘立柱建物跡，第5号掘立柱建物跡 |
| P L 29 | 第160号住居跡，第162号住居跡，第162号住居跡遺物出土狀況，第163号住居跡，第166号住居跡，第166号住居跡炉，第167号住居跡，第169号住居跡                     | P L 39 第1号方形周溝墓，第1·2号地下式壙，第3号地下式壙，第3号溝   |
| P L 30 | 第169号住居跡遺物出土狀況，第169号住居跡炉，第170号住居跡，第171号住居跡，第173·174号住居跡，第173·174号住居跡遺物出土狀況，第175号住居跡，第175号住居跡遺物出土狀況 | P L 40 第1·3·A·7·8号住居跡出土土器  |
| P L 31 | 第176号住居跡遺物出土狀況，第177号住居跡，第178号住居跡，第178号住居跡遺物出土狀況，第180号住居跡，第180号住居跡遺物出土狀況，第181号住居跡遺物出土狀況，第182号住居跡    | P L 41 第10·12·17·21号住居跡出土土器  |
| P L 32 | 第182号住居跡遺物出土狀況，第183号住居跡，第184号住居跡，第186号住居跡，第187号住居跡，第188号住居跡，第188号住居跡貯藏穴內遺物出土狀況，第189号住居跡遺物出土狀況      | P L 42 第16·17·20·22·24号住居跡出土土器   |
| P L 33 | 第4号土坑遺物出土狀況，第10号土坑，第25号土坑遺物出土狀況，第28号土坑，第30号土坑，第37号土坑，第46号土坑遺物出土狀況，第47号土坑遺物出土狀況                     | P L 43 第22·24·27·29号住居跡出土土器  |
| P L 34 | 第62号土坑，第73号土坑，第78号土坑，第79号土坑，第85号土坑遺物出土狀況，第86号土坑遺物出土狀況，第97号土坑，第98号土坑                                | P L 44 第27·31·35·37·38号住居跡出土土器   |
| P L 35 | 第99号土坑，第100号土坑，第103号土坑，第104号土坑，第108号土坑遺物出土狀況，第111号土坑，第114号土坑，第115号土坑                               | P L 45 第35·37·40号住居跡出土土器   |
| P L 36 | 第118号土坑，第119号土坑，第122号土坑，第126号土坑，第127号土坑，第131号土坑遺物出土狀況，第132号土坑遺物出土狀況，第135号土坑                        | P L 46 第42·44·46·47·49号住居跡出土土器   |
| P L 37 | 第137号土坑，第3号土坑，第1号地点貝塚  | P L 47 第47·50·52·54号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 48 第54·55·58号住居跡出土土器   |
|        |  | P L 49 第59·60号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 50 第60·62号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 51 第61·64号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 52 第64号住居跡出土土器   |
|        |  | P L 53 第64·67·69·71·72号住居跡出土土器   |
|        |  | P L 54 第72号住居跡出土土器   |
|        |  | P L 55 第72号住居跡出土土器   |
|        |  | P L 56 第73·75号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 57 第75·76号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 58 第76·80号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 59 第80·81号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 60 第80·82号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 61 第82·83号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 62 第82·85号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 63 第83·85·87·88号住居跡出土土器  |
|        |  | P L 64 第88号住居跡出土土器   |
|        |  | P L 65 第88号住居跡出土土器   |
|        |  | P L 66 第88·89号住居跡出土土器  |

- P L 67 第89・90号住居跡出土土器
- P L 68 第90・92号住居跡出土土器
- P L 69 第90・92・93・95号住居跡出土土器
- P L 70 第96・98・99号住居跡出土土器
- P L 71 第98・99・103号住居跡出土土器
- P L 72 第103・104・106号住居跡出土土器
- P L 73 第105・106・108号住居跡出土土器
- P L 74 第108~110・113・114号住居跡出土土器
- P L 75 第114・117号住居跡出土土器
- P L 76 第113~115・117・119号住居跡出土土器
- P L 77 第119・120号住居跡出土土器
- P L 78 第120~122号住居跡出土土器
- P L 79 第121-B~124号住居跡出土土器
- P L 80 第124・125・127・129~131号住居跡出土土器
- P L 81 第130・131・135号住居跡出土土器
- P L 82 第135・136号住居跡出土土器
- P L 83 第135・136号住居跡出土土器
- P L 84 第136・139号住居跡出土土器
- P L 85 第139・140・142・143号住居跡出土土器
- P L 86 第143・146・147号住居跡出土土器
- P L 87 第146・148・154・155・156・158号住居跡出土土器
- P L 88 第156~159・162号住居跡出土土器
- P L 89 第163・169・170・172・173号住居跡出土土器
- P L 90 第173~176号住居跡出土土器
- P L 91 第176~178・180号住居跡出土土器
- P L 92 第181~183・185・186号住居跡出土土器
- P L 93 第185~187・189号住居跡, 第3号掘立柱建物跡, 第1号方形周溝墓出土土器
- P L 94 第1号方形周溝墓, 第5・25・37・43・46号土坑出土土器
- P L 95 第47号土坑・第2号地下式壙出土土器
- P L 96 第47号土坑出土土器, 遺構外出土土器, 第178号住居跡出土土器
- P L 97 第60・72号住居跡出土土器
- P L 98 第14・27・43・50・54・59・64・108・118・172・191号住居跡, 第47号土坑, 遺構外出土土製品
- P L 99 第16・81・83・86・88・89・94・96・108・113・115・121-B・124・131・136・139・143・148・157・178号住居跡出土土製品
- P L 100 第3-A・5・10・13~15・18・27・62・86・173号住居跡, 遺構外出土土製品
- P L 101 第123号住居跡出土土器製品, 第12・14・16・21・55・67・163・171・176号住居跡出土石製品
- P L 102 第78・88・122・157・166・171・178号住居跡出土土器製品, 遺構外出土石製品
- P L 103 第106・131・149・163号住居跡, 遺構外出土石製品
- P L 104 第178・186号住居跡, 第61・73・102・107・127号土坑, 遺構外出土石製品
- P L 105 第100・101・103・106・108・109・123・124・126~128号住居跡, 遺構外出土石製品
- P L 106 第83・141号住居跡出土石製品, 第129号住居跡出土貝製品, 第3・4地点貝塚出土貝製品, 第2号地点貝塚出土土器, 遺構外出土石器・古銭・鉄製品
- P L 107 第1~3号地点貝塚出土貝, 第121-A号住居跡出土鐵滓
- P L 108 第25・79号住居跡出土土器片
- P L 109 第79・100号住居跡出土土器片
- P L 110 第101・128号住居跡出土土器片
- P L 111 第127・128号住居跡出土土器片
- P L 112 第129号住居跡出土土器片
- P L 113 第141・150・152号住居跡出土土器片
- P L 114 第160・161・163号住居跡出土土器片
- P L 115 第36・51・73号土坑出土土器片
- P L 116 第74・88号土坑出土土器片
- P L 117 遺構外出土土器片(1)
- P L 118 遺構外出土土器片(2)
- P L 119 遺構外出土土器片(3)
- P L 120 遺構外出土土器片(4)
- P L 121 遺構外, 第2・4号地点貝塚出土土器片, 土製炉石, 貝
- P L 122 第88号住居跡出土土器, 小波状口縁を有する

## 土器群

### 椎現堂遺跡

- P L123 試掘全景（調査B区）、完掘全景（調査A区）、  
遺構確認状況（調査A区）、遺構確認状況  
(調査C区)、第12号土坑、第12号土坑遺物  
出土状況、第15号土坑、第19号土坑遺物出土  
状況
- P L124 第1号古墳、第1号古墳確認状況、第1号古  
墳土層断面、第1号古墳主体部土層断面、第  
1号古墳石室
- P L125 第1号古墳裏込め部土層断面(1)、第1号古墳  
裏込め部土層断面(2)、第1号古墳石材片出土  
状況、第1号古墳主体部全景、第3号溝、第  
4号溝、第1号井戸、遺構外遺物出土状況  
(藏骨器)
- P L126 第12号土坑、遺構外出土土器
- P L127 遺構外出土土器
- P L128 第2号溝、第1号井戸、第1号古墳、第12号  
土坑、遺構外出土土器・石器・古錢
- P L129 遺構外出土土器片

## 親塚古墳

- P L130 調査前全景、遺構確認状況(1)、遺構確認状況(2)、  
完掘全景、第1号塚土層断面、第1号住居跡、  
第1号住居跡遺物出土状況(1)、第1号住居跡  
遺物出土状況(2)
- P L131 第1号火葬墓確認状況、第1号火葬墓土層断  
面、第1号火葬墓遺物出土状況、第1号火葬  
墓、第2号火葬墓確認状況、第2号火葬墓土  
層断面、第1号土坑、第2号土坑
- 後原遺跡
- P L132 遺構確認状況（調査A区）、遺構確認状況  
(調査B区)、完掘全景（調査A区）、第1  
号溝、第3号溝、第3号溝遺物出土状況(1)、  
第3号溝遺物出土状況(2)、第4号溝
- P L133 第5号溝、第1号土坑、第3号土坑、第4号  
土坑、第6号土坑、第7号土坑、遺構外遺物  
出土状況
- P L134 第1号住居跡、第1・2号火葬墓、遺構外出  
土土器（親塚古墳）、第3・5・7号溝、遺  
構外出土土器（後原遺跡）

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経過

茨城県は、県央地区において常陸那珂地区開発や高速交通体系の整備によって活性化する交流を活用し、北関東の発展を牽引する中核都市地域づくりを目指しており、その一翼を担う産業の高度化を図るために、北関東自動車道インターチェンジ周辺に、高度化する物流ニーズに対応した流通拠点や研究開発生産拠点の形成を目指している。その主要事業の一つとして、茨城中央工業団地を整備し、活力ある地域づくりに寄与するとしている。

工事に先立ち、茨城県は、平成4年10月28日に茨城県教育委員会に工事予定地内における埋蔵文化財包蔵地の有無について照会した。茨城県教育委員会は、平成5年4月22日から5月21日に現地踏査を、平成5年6月21日から25日に試掘調査を実施し、平成5年11月5日に茨城中央工業団地造成工事地内に南小割遺跡（19,568m<sup>2</sup>）、椎現堂遺跡（8,779m<sup>2</sup>）、親塚古墳（2,260m<sup>2</sup>）及び後原遺跡（10,842m<sup>2</sup>）が存在していることを茨城県あてに回答した。茨城県と茨城県教育委員会は、茨城中央工業団地造成工事区域内における埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。その結果、茨城県教育委員会は、平成6年1月28日に南小割遺跡を現状保存することが困難であると判断し、記録保存とする旨を茨城県に回答し、調査機関として財団法人茨城県教育財団が紹介された。茨城県教育財団は、茨城県と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成6年4月1日から南小割遺跡の調査を実施することとなった。

茨城県と茨城県教育委員会は、平成7年3月3日に、椎現堂遺跡、親塚古墳及び後原遺跡の取り扱いについて協議した結果、現状保存することが困難であると判断した。平成7年3月8日に茨城県教育委員会は、記録保存とする旨を茨城県に回答し、引き続き茨城県教育財団が、椎現堂遺跡、親塚古墳及び後原遺跡の調査を実施することとなった。

## 第2節 調査経過

南小割遺跡、椎現堂遺跡、親塚古墳及び後原遺跡の発掘調査を、平成6年4月1日から平成7年9月30までの1年6ヶ月にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を月ごとに記述する。

平成6年度－南小割遺跡（10,025m<sup>2</sup>）

4月 発掘調査を開始するため、現場事務所や倉庫の設置、調査器材の搬入等の諸準備を行った。14日から調査補助員を雇用し、諸施設の整備、遺跡内の清掃作業を開始した。19日には、発掘調査の円滑な推進と作業の安全を願って歓入れ式を挙行し、グリッド試掘を開始した。

5月 試掘調査の結果、調査区南部の栗畑から縄文土器片、土師器片及び石器などの遺物が多量に出土した。出土遺物から、縄文時代前期と古墳時代前期から平安時代にかけての集落跡の存在が確認できた。

6月 2日には、重機による表土除去を調査区南部から開始した。表土除去と同時に遺構確認作業を行った。23日から、方眼杭打ち測量（茨城県技術公社）を実施した。

7月 4日には、重機による表土除去及び遺構確認作業を終了した。その結果、竪穴住居跡191軒、掘立柱建物跡2棟、土坑95基及び溝3条を確認し、5日から遺構調査を開始した。

- 8月 継続して堅穴住居跡や土坑の遺構調査を行った。
- 9月 当初、南小割遺跡19,568m<sup>2</sup>を平成6年4月1日から平成7年3月31までの1年間で調査することになっていたが、多数の遺構が確認されたため、1日には発掘調査計画の変更について、茨城県教育財団と茨城県教育委員会との間で協議を行った。16日には、茨城県教育委員会と茨城県との間で協議を行い、その結果、27日には、計画変更について異議がない旨回答があり、平成6年度の調査面積10,025m<sup>2</sup>、平成7年度の調査面積9,543m<sup>2</sup>に計画を変更した。
- 10月 引き続き遺構調査を進め、これまでに堅穴住居跡69軒と土坑36基の調査を終了した。
- 11月 古墳時代前期の住居跡同士が重複し、その下からは、縄文時代前期の住居跡が確認できた。
- 12月 古墳時代前期の住居跡が多く、土器等の遺物も多量出土した。引き続き住居跡等の遺構調査を進め、堅穴住居跡120軒、土坑45基及び溝3条の調査を終了した。
- 1月 2か所の住居跡内地点貝塚（縄文時代前期）を確認した。
- 2月 10日には、古墳時代前期の大集落が確認できたため、東京電機大学付属高校教諭の鈴木敏弘氏を講師として迎え、集落に関する班内研修会を実施した。
- 3月 8日には、今年度分の調査を概ね終了した。9日には、完掘全景の航空写真撮影を実施し、12日には、現地説明会を開催し、遺構、遺物を公開した。13日から補足調査を行い、堅穴住居跡165軒、掘立柱建物跡5棟、土坑123基、溝3条及び地点貝塚6か所の調査を終了した。
- 平成7年度—南小割遺跡（9,543m<sup>2</sup>）,権現堂遺跡、親塚古墳、後原遺跡
- 4月 7日に現地踏査を行い、発掘調査の諸準備を行った。12日から南小割遺跡の遺構調査を開始した。14日には、併せて権現堂遺跡の伐開を開始した。
- 5月 18日からは、南小割遺跡東端部の第1号方形周溝墓の調査を開始した。権現堂遺跡と後原遺跡のグリッド試掘を併せて行った。
- 6月 22日には、前年度から継続調査を実施した南小割遺跡の堅穴住居跡193軒、土坑138基、掘立柱建物跡5棟、溝3条、方形周溝墓1基及び地点貝塚6か所の遺構調査を概ね終了し、30日には完掘全景の航空写真撮影を実施した。
- 7月 権現堂遺跡（A～C区）、親塚古墳及び後原遺跡の表土除去を開始した。権現堂遺跡、親塚古墳及び後原遺跡の遺構数が少ないため、7日に茨城県と調査計画（期間短縮）の変更について協議した結果、9月30日までの調査期間となった。10日から、権現堂遺跡、親塚古墳及び後原遺跡の方眼杭打ち測量（茨城県技術公社）を実施した。権現堂遺跡の第1号墳と親塚古墳の第1号塚の調査を併行して行った。
- 8月 親塚古墳と後原遺跡の遺構調査を継続して行った。
- 9月 25日には、親塚古墳、権現堂遺跡及び後原遺跡の遺構調査を概ね終了した。30日までに事務所の撤収を完了し、現地調査を終了した。

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

南小割遺跡は、茨城県東茨城郡茨城町大字駒渡434番地の1ほかに、椎現堂遺跡は、東茨城郡茨城町大字野首1,300番地ほかに、親塚古墳は、東茨城郡茨城町大字南栗崎1,011番地の1ほかに、後原遺跡は、東茨城郡茨城町大字南川又1,047番地の1ほかに、それぞれ所在している。

茨城町は、茨城県の中央部よりやや東に位置し、東は涸沼を隔てて東茨城郡大洗町、鹿島郡旭村に、南は東茨城郡美野里町、小川町、鹿島郡鉢田町に、西は東茨城郡内原町、西茨城郡友部町、阿見町に、北は水戸市に接している。町域は、東西約17km、南北約14km、面積約121km<sup>2</sup>で、人口は35,537人、世帯数は9,482戸（平成8年4月現在）である。町の中央を南北に国道6号が通じ、それと並行するように常磐自動車道が西に隣接する友部町を通っている。町の北部では東西に通じる北関東自動車道の建設が進められている。

茨城町の地形は、町のはば中央部を東流する涸沼川と、その東に展開する涸沼（面積約9.35km<sup>2</sup>）によって、台地を南北に二分されている。北部の台地は、標高25~30mの東茨城北部台地の先端部を形成し、北西から涸沼前川を含む大小の支谷が涸沼に南面して開口している。南部に発達する台地は、東から大谷川、寛政川が涸沼に流入し、その間に大小無数の支谷が台地深くまで侵入し、北部台地に比べて起伏も多く一層複雑な地勢を成している。これらの河川流域の沖積低地は水田として利用され、台地は畠・樹園地が展開している。

町の基幹産業である農業は、稻作に施設園芸・果樹栽培・養豚・酪農などを取り入れた複合經營が行われている。県都水戸市に接する地の利から、県立の工業・食品等の各試験場や警察・消防などの各学校施設が設置され、県央の中核田園都市としての役割を果たしている。

地質をみると、台地を形成している最も古い地層は新生代、第三紀の地層で、岩質は泥岩で水戸層と呼ばれている。水戸層の上に第四紀の地層が不整合に堆積している。粘土・砂からなる見和層、礫からなる上市層、灰褐色の常緑粘土層、関東ローム層の順に堆積しており、これらの地層はいずれもほぼ水平層である。

南小割遺跡、椎現堂遺跡、親塚古墳及び後原遺跡の4遺跡は、北側を流れる涸沼前川と南側を流れる涸沼川とに挟まれた馬の背状の河岸段丘上に位置している。南小割遺跡は、茨城町の北西部の駒渡地区にあり、東流する涸沼川左岸の標高24~26mの河岸段丘上に位置している。当遺跡の南側は東流する涸沼川と沖積低地が広がり、低地は水田として利用されている。現況は畠・平地林であり、水田との比高は、12~14mである。椎現堂遺跡は、南小割遺跡の北西0.7kmほど離れた台地上（標高21~28m）に位置し、現況は畠・山林である。親塚古墳は、南小割遺跡の北西1.2kmほど離れた台地上（標高29m前後）に位置し、現況は山林・荒地である。後原遺跡は、南小割遺跡の北西2.2kmほど離れた台地上（標高29m前後）に位置し、現況は山林・荒地である。

#### 参考文献

- ・蜂須紀夫 「茨城県 地学ガイド」 1986年11月
- ・角川書店 「日本地名大辞典 8 茨城県」 1983年3月
- ・茨城町史編さん委員会 「茨城町椎現堂遺跡」 1988年3月
- ・茨城町教育委員会 「小幡北山埴輪製作遺跡」 1989年2月
- ・茨城町史編さん委員会 「茨城町上ノ山古墳」 1994年3月

・茨城町史編さん委員会 「茨城町史 通史編」 1995年2月

・茨城町史編さん委員会 「茨城町史 地誌編」 1995年2月

## 第2節 歴史的環境

茨城町には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。当町周辺は、潤沼をはじめ、潤沼川、潤沼前川など水運に恵まれ、古代から人々が生活を営む場としては絶好の舞台となってきた。ここでは、南小割遺跡周辺の主な遺跡について時代を追って述べることにする。

旧石器時代の遺跡は、東山遺跡（5）と向地南遺跡（6）で、打製石斧や槍先形尖頭器が出土している。縄文時代の遺跡は、町内全域に113か所がみられる。早期の遺跡は、沈籠文土器（三戸式、田戸式）が出土している中落遺跡（7）がある。前期になると遺跡数が増加する。潤沼前川流域には、大戸下郷遺跡（8）、宮後遺跡（9）、シッペイ沢遺跡（10）、東畠遺跡（11）、東山遺跡が、寛政川流域には、神谷遺跡（12）、神谷東遺跡（13）、西台遺跡（14）が、潤沼周辺は最も多く、椎現峯遺跡（15）、前野遺跡（16）、金子立遺跡（17）、金子立遺跡（18）、糞糞遺跡（19）など10数遺跡が存在している。潤沼川流域には、金谷遺跡（20）をはじめ、今回調査を実施した南小割遺跡（1）、赤坂南坪遺跡（21）、富士山遺跡（22）、小山台遺跡（23）、台畑遺跡（24）、椎現堂遺跡（2）、難山遺跡（25）が存在している。また、縄文海進にともなって椎現峯遺跡、シッペイ沢遺跡、越安貝塚（26）など8か所に貝塚が形成されている。南小割遺跡の貝塚（縄文時代前期）は、潤沼川流域では最も奥部に位置している。中期になると、天古崎遺跡（27）や大道西遺跡（28）など前期よりさらに遺跡数が増し、町内全域にみられるようになる。後期に入ると遺跡数は減少はじめ、潤沼、潤沼川及び潤沼前川に集まる傾向を示している。この頃小堤貝塚（29）が形成される。晩期になるとさらに遺跡数は減少し、下土師遺跡（30）、小堤貝塚、神谷遺跡など10か所を数えるほどである。晩期の遺跡はほとんどが後期から続く遺跡で、潤沼川以南に存在している。

弥生時代の遺跡は、現在41か所確認されている。後期後半の標式土器となった長岡式土器が、長岡遺跡（31）と昭和61年度に当教育財団が発掘調査した奥谷遺跡、小鶴遺跡（32）の3遺跡から出土している。平成7年度に当教育財団が発掘調査した矢倉遺跡（33）からは、十王台式期（後期後半）の集落が確認されている。他に、大畑遺跡（34）、大戸下郷遺跡、台畑遺跡などからは、十王台式土器片が出土している。

古墳時代になると遺跡数が増加する。奥谷遺跡からは、古墳時代前期の豪族居館跡の溝や住居跡が確認され、潤沼周辺の神谷遺跡、神谷東遺跡、大峯遺跡（35）、大作遺跡（36）、西台遺跡、椎現峯遺跡などからも、前期の土器や住居跡が確認されている。昭和60年に周溝の調査を行い、茨城町地方では最も古い時期に位置づけられた前方後方墳（4世紀末から5世紀初頭）である宝塚古墳（36）をはじめ、中期から後期にかけての古墳が61基ほど確認されている。神谷古墳群（37）からは、2基の帆立貝式古墳が確認され、茨城町で唯一の前方後円墳である上ノ山古墳（38）からは、南へ4kmほど離れた位置にある小幡北山埴輪製作遺跡（39）で造られたものと思われる埴輪（6世紀後半）が出土している。

律令制下の奈良・平安時代の茨城町は、那賀郡八郷郡、茨城郡鳥田・安俣・白川郷、鹿島郡宮前郷に所属していた。この時期の遺跡は、町内全域に確認され、今回発掘調査を行った南小割遺跡を含め98遺跡を数える。奥谷遺跡からは、百数十点の墨書き土器のほか円面鏡や刀子が出土している。特に、墨書きの「曹司」は、官中・官衙などの庁舎・宿直所・局・部屋などの意味があり、当時の奥谷遺跡が官衙的あるいは公共的な施設を含む集落であったことを示している。面山遺跡（40）からは、「土師特主」と書かれた墨書き土器が、大峯遺跡から

は、墨書き土器や円面鏡が、宮後遺跡からは、円面鏡や藏骨器がそれぞれ出土している。

中世の遺跡は、主に城館跡である。すでに消滅したものまで含めるならば、その数は12か所に及んでいる。現存する町内の城館の中では小幡城跡（41）が最大規模であるが、築城者については現時点では不明である。  
他に、宮ヶ崎城跡（42）、海老沢館跡（43）、鳥羽田城跡（44）、飯沼城跡（45）などが所在している。奥谷遺跡からは、地下式壙、土坑、井戸、堀が確認され、土師質土器や陶器が出土している。前田地区の万束山からは、13世紀前半と思われる「青白磁薦牡丹文梅瓶」が出土している。

近世になると、町の中心部を南北に走る水戸街道に沿って、長岡、小幡は宿駅として発展した。海老沢、網掛は水上交通の要所としても栄え、水戸藩をはじめ、仙台藩など奥州諸藩と江戸を結ぶ輸送経路の中継として極めて重要な役割を果たしていた。

\* 文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の該当番号と同じである。

#### 註

- (1),(6),00 茨城町史編さん委員会 「茨城町史 通史編」 1995年2月
- (2) 茨城町史編さん委員会 「茨城町椎現峯遺跡」 1988年3月
- (3) 茨城町教育委員会 「小堤貝塚」 1986年3月
- (4) 茨城県教育財団 「一般国道6号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 奥谷遺跡 小幡遺跡」  
『茨城県教育財団文化財調査報告 第50集』 1989年3月
- (5) 茨城県教育財団 「矢倉遺跡 現地説明会資料」 1996年2月
- (7) 茨城町大峯遺跡発掘調査会 「茨城町大峯遺跡」 1990年3月
- (8) 茨城町史編さん委員会 「茨城町上ノ山古墳」 1994年3月
- (9) 茨城町教育委員会 「小幡北山埴輪製作遺跡」 1989年2月

#### 参考文献

- ・茨城県 「茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代」 1979年
- ・茨城県 「茨城県史料 考古資料編 弥生時代」 1991年
- ・茨城県 「茨城県史料 考古資料編 古墳時代」 1991年
- ・茨城県 「茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代」 1995年
- ・岩善房 「新編常陸国誌」 1997年
- ・茨城県教育委員会 「茨城県遺跡地図」 1990年3月



第2図 周辺遺跡分布図

表1 周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名     | 県遺跡番号 | 時代          |        |        |        |        | 番号 | 遺跡名        | 県遺跡番号 | 時代          |        |        |        |        |
|----|---------|-------|-------------|--------|--------|--------|--------|----|------------|-------|-------------|--------|--------|--------|--------|
|    |         |       | 旧<br>縄<br>文 | 弥<br>生 | 古<br>墳 | 奈<br>平 | 中<br>近 |    |            |       | 旧<br>縄<br>文 | 弥<br>生 | 古<br>墳 | 奈<br>平 | 中<br>近 |
| ①  | 南小割遺跡   |       | ○           |        | ○      | ○      | ○      | 24 | 台畠遺跡       | 197   |             | ○      |        |        |        |
| ②  | 椎現堂遺跡   | 195   | ○           |        | ○      |        | ○      | 25 | 稚山遺跡       | 223   | ○           |        |        |        |        |
| ③  | 親塚古墳    | 181   |             |        |        | ○      | ○      | 26 | 越安貝塚       | 4283  | ○           |        |        |        |        |
| ④  | 後原遺跡    | 225   |             |        |        | ○      | ○      | 27 | 天古崎遺跡      | 4287  | ○           | ○      |        |        |        |
| 5  | 東山遺跡    | 4307  | ○           | ○      | ○      | ○      |        | 28 | 大道西遺跡      | 4286  | ○           | ○      |        |        |        |
| 6  | 向地南遺跡   |       | ○           | ○      |        | ○      |        | 29 | 小堤貝塚       | 4284  | ○           | ○      | ○      |        |        |
| 7  | 中落遺跡    | 4285  | ○           | ○      | ○      |        |        | 30 | 下土師遺跡      | 191   | ○           |        |        |        |        |
| 8  | 大戸下郷遺跡  | 4294  | ○           | ○      | ○      |        |        | 31 | 長岡遺跡       | 227   | ○           | ○      |        |        |        |
| 9  | 宮後遺跡    | 4308  | ○           | ○      | ○      | ○      |        | 32 | 小鶴遺跡       | 4349  | ○           |        |        |        |        |
| 10 | シッペイ沢遺跡 |       | ○           |        |        |        |        | 33 | 矢倉遺跡       | 4324  | ○           | ○      | ○      |        |        |
| 11 | 東畠遺跡    | 4306  | ○           | ○      | ○      | ○      |        | 34 | 大畠遺跡       | 4295  | ○           |        | ○      |        |        |
| 12 | 神谷遺跡    | 4288  | ○           | ○      | ○      |        |        | 35 | 大峯遺跡       |       | ○           | ○      | ○      | ○      |        |
| 13 | 神谷東遺跡   | 4339  | ○           | ○      | ○      | ○      |        | 36 | 大作遺跡       |       |             | ○      |        |        |        |
| 14 | 西台遺跡    | 4311  | ○           | ○      | ○      | ○      |        | 37 | 宝塚古墳       | 179   |             | ○      |        |        |        |
| 15 | 椎現峯遺跡   | 4312  | ○           |        | ○      | ○      |        | 38 | 神谷古墳群      | 185   |             | ○      |        |        |        |
| 16 | 前野遺跡    | 4347  | ○           |        | ○      |        |        | 39 | 上ノ山古墳      | 4316  |             | ○      |        |        |        |
| 17 | 金子立遺跡   |       | ○           |        |        |        |        | 40 | 小幡北山埴輪製作遺跡 | 4297  |             | ○      |        |        |        |
| 18 | 金子立西遺跡  |       | ○           |        |        | ○      |        | 41 | 面山遺跡       | 220   |             |        | ○      |        |        |
| 19 | 親沢遺跡    |       | ○           |        | ○      | ○      |        | 42 | 小幡城跡       | 4127  |             |        |        | ○      |        |
| 20 | 奥谷遺跡    | 4338  | ○           | ○      | ○      | ○      | ○      | 43 | 宮ヶ崎城跡      | 4301  |             |        | ○      |        |        |
| 21 | 赤坂南坪遺跡  | 192   | ○           |        | ○      |        |        | 44 | 海老沢館跡      | 4302  |             |        | ○      |        |        |
| 22 | 富士山遺跡   | 193   | ○           |        |        | ○      |        | 45 | 鳥羽田城跡      | 4351  |             |        |        | ○      |        |
| 23 | 小山台遺跡   | 4336  | ○           |        | ○      | ○      |        | 46 | 飯沼城跡       | 4128  |             |        |        | ○      |        |



第3図 南小割遺跡調査区

### 第3章 南小割遺跡

（この章では、南小割遺跡の概要、調査区の位置、地形、地質、土壌、水文、気候等について述べる。）

#### 第1節 遺跡の概要

南小割遺跡は、茨城町の北西部、湧沼川左岸の標高24~26mの河岸段丘上に位置している。遺跡の南側には東西に流れる湧沼川と、水田に利用されている沖積低地が広がっている。西側にはその低地に繋がる支谷があり、谷津田として利用されている。調査区は最長東西約150m、南北約270m、面積19,568m<sup>2</sup>で、現況は畑・平地林であり、水田との比高は12~14mである。支谷を隔てた遺跡の南西150mの河岸段丘上には、茨城町地方では一番古いとされている前方後方墳の「宝塚古墳」（4世紀末から5世紀初頭）が所在している。当遺跡の集落跡は、「宝塚古墳」の築造時期と一部重なることから、何らかの関わりがある可能性が考えられる。また、南東4kmほどの湧沼川対岸の河岸段丘上には、縄文時代前期の住居跡3軒、古墳時代前期の豪族居館跡や住居跡6軒、奈良・平安時代の住居跡90軒を確認した「奥谷遺跡」が所在している。

今回の調査によって、住居跡193軒（縄文時代前期~20軒、古墳時代前期~126軒、中期~18軒、後期~14軒、奈良・平安時代~14軒、時期不明~1軒）、土坑138基、掘立柱建物跡5棟、方形周溝墓1基、地下式壙3基、溝3条、不明遺構1基地点貝貝塚6か所を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に432箱出土した。遺物は大部分が古墳時代前期の土師器・土製品であり、住居跡、掘立柱建物跡及び方形周溝墓などから出土している。特に、当遺跡の特徴的な遺物として、口縁が波状を呈する土師器の甕と、炉から出土している土製炉石が挙げられる。その他、縄文土器（花積下層式、二ツ木式及び開山式）、土師器、須恵器及び陶器などが出土している。

#### 第2節 基本層序

調査区内(C4b3区)にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った（第4図）。

第1層は、14~18cmの厚さの耕作土層で、暗褐色をしている。

第2層は、20~30cmの厚さで、明褐色をしたソフトローム層である。

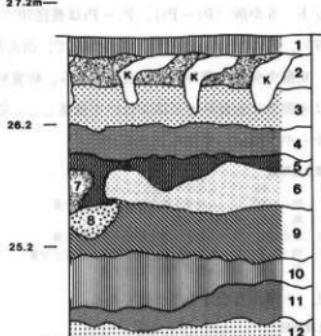
第3層は、30~40cmの厚さで、褐色をしたハードローム層である。

第4層は、20~26cmの厚さで、明褐色をしたハードローム層である。白色粘土粒子中量とスコリア粒子微量を含んでいる。

第5層は、10~40cmの厚さで、黄褐色をしたハードローム層である。白色粘土粒子・鹿沼バミス中量を含んでいる。

第6層は、10~40cmの厚さで、黄褐色をしたハードローム層である。鹿沼バミス少量を含んでいる。

第7層は、30cmほどの厚さで、黄褐色をしたハードローム層である。白色粘土粒子・鹿沼バミス少量を含んで



第4図 南小割遺跡基本土層図

でいる。

第8層は、30cmほどの厚さで、褐色をしたハードローム層である。砂粒・黒色粒子微量を含んでいる。

第9層は、16~40cmの厚さで、褐色をしたハードローム層である。砂粒・小礫・黒色粒子微量を含んでいる。

第10層は、10~30cmの厚さで、褐色をした粘土層への漸移層である。砂粒・黒色粒子微量を含んでいる。

第11層は、10~20cmの厚さで、褐色をした粘土層への漸移層である。白色粘土小ブロック・褐色土中ブロック中量と黒色粒子微量を含んでいる。

第12層は、10~20cmの厚さで、明褐色をした粘土層である。灰褐色粘土小ブロック中量と砂粒・小礫少量を含んでいる。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 壊穴住居跡

今回の調査では、縄文時代の壊穴住居跡20軒、古墳時代の壊穴住居跡158軒、平安時代の壊穴住居跡14軒、

時期不明1軒を確認した。以下、確認した193軒の壊穴住居跡と出土した遺物について記載する。

##### 第1号住居跡（第5図）

位置 調査区北部、B3ds区。

規模と平面形 長軸5.70m、短軸5.20mの方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は38~50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 全体に平坦で、出入り口部が踏み固められている。

ピット 5か所（P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>）。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径50~78cm、短径45~65cmの楕円形、深さ62~80cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径24cmの円形、深さ24cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に45cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ130cm、幅100cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、赤変硬化している。煙道部は火床面からやや傾斜して立ち上がる。

##### 竈土層解説

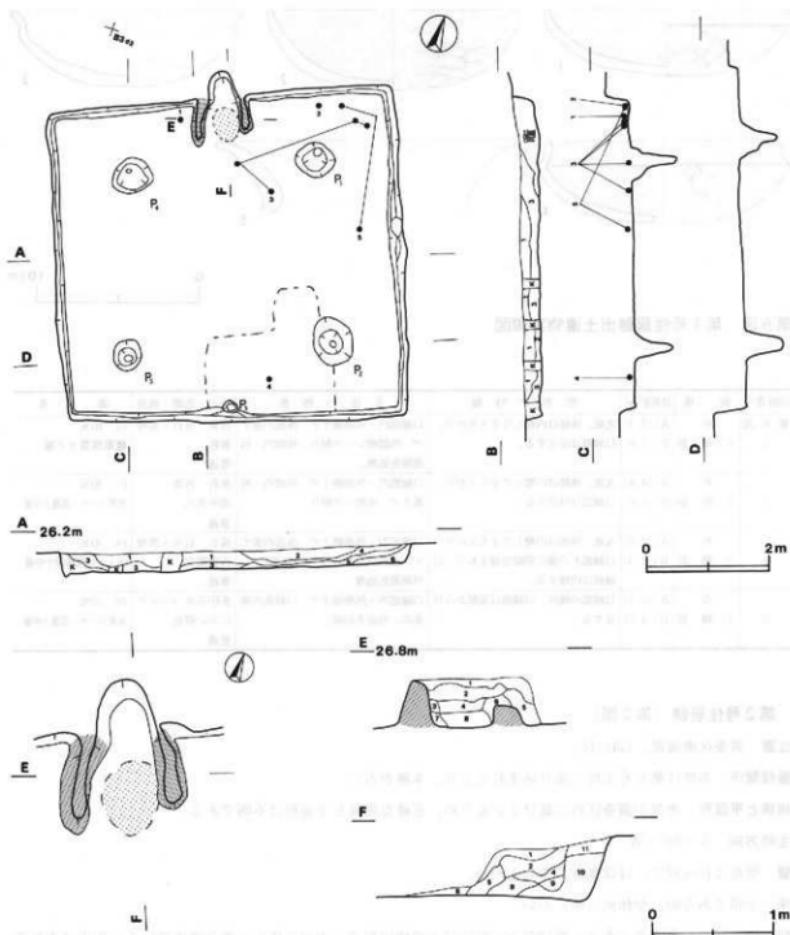
|   |       |                    |    |       |                |
|---|-------|--------------------|----|-------|----------------|
| 1 | 褐 色   | ローム粒子・焼土粒子少量       | 7  | 赤 褐 色 | 焼土粒子少量         |
| 2 | 褐 色   | ローム粒子・焼土粒子・砂粒子少量   | 8  | 赤 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子中量   |
| 3 | 褐 色   | 焼土粒子少量             | 9  | 赤 褐 色 | 焼土粒子多量、ローム粒子中量 |
| 4 | 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  | 10 | 褐 色   | ローム粒子・焼土粒子中量   |
| 5 | 明 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・砂粒子少量 | 11 | 褐 色   | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 6 | 褐 色   | ローム粒子・焼土粒子少量       |    |       |                |

覆土 6層からなる自然堆積である。

##### 土層解説

|   |       |                   |   |     |         |
|---|-------|-------------------|---|-----|---------|
| 1 | 褐 色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 | 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 褐 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量    | 5 | 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 3 | 褐 黑褐色 | ローム粒子中量           | 6 | 褐 色 | ローム粒子少量 |

遺物 主に竈周辺から土器部が少量出土している。1の壺は竈西側の覆土下層から、2の壺は竈東側の覆土下層から、3の壺及び5の壺は北東コーナー部の覆土中層から、4の壺は出入り口部東側の覆土中層から出土している。

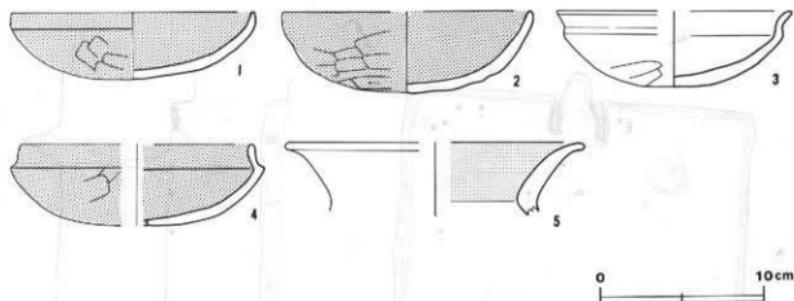


第5図 第1号住居跡実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第1号住居跡出土遺物観察表

| 国版番号     | 器種  | 計測値(m)          | 器形の特徴                     | 手法の特徴                                    | 地土・色調・焼成               | 備考                     |
|----------|-----|-----------------|---------------------------|--|------------------------|------------------------|
| 第6国<br>1 | 坏土器 | A 14.9<br>B 4.0 | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は直立する。 | 口縁部内・外縁ナダ。体部内・外縁ナダ。底部ヘラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。 | 長石・石英・スコリア<br>黑色<br>普通 | P1 90% PL40<br>竪西側覆土下層 |



第6図 第1号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号     | 器種       | 計測値(cm)             | 器形の特徴                                    | 手法の特徴                                   | 粘土・色調・焼成                  | 備考                    |
|----------|----------|---------------------|--|---|---------------------------|-----------------------|
| 第6図<br>2 | 环<br>土師器 | A [15.4]<br>B 5.0   | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は直立する。                | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面輕いヘラ削り。体部内・外面黒色処理。  | 石英・長石・雲母<br>黒色<br>普通      | F2 40%<br>北東側覆土下層     |
| 3        | 环<br>土師器 | A [14.4]<br>B 4.6   | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外反する。                | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り。             | 長石・石英<br>暗灰黄色<br>普通       | F3 30%<br>北東コーナー基層土中層 |
| 4        | 环<br>上師器 | A [14.0]<br>B (5.0) | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な棱をもつ。口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。底部ヘラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>灰黃褐色<br>普通    | F4 30%<br>出入り口東側覆土中層  |
| 5        | 壺<br>土師器 | A [18.4]<br>B (4.2) | 口縁部の破片。口縁部は頸部から外反する。                     | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面赤茶、外面赤彩痕。               | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通 | F5 10%<br>北東コーナー基層土中層 |

### 第2号住居跡（第7図）

位置 調査区南端部、G4e:区。

重複関係 本跡は第6号土坑に掘り込まれておらず、本跡が古い。

規模と平面形 南部が調査区外に延びているため、正確な規模と平面形は不明である。

主軸方向 N-36°-W

壁 壁高は15cm程度で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

炉 中央部から東寄りにあり、長径65cm、短径35cmの橢円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け僅かに赤変している。

覆土 3層からなる自然堆積である。

#### 土層解説

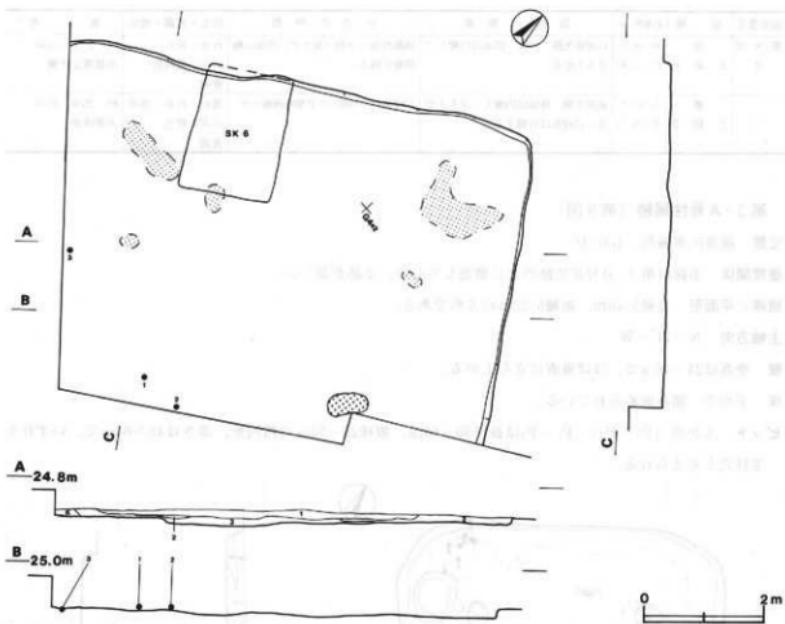
1 黒褐色 炭化物・炭化粒子中量、燒土粒子・ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

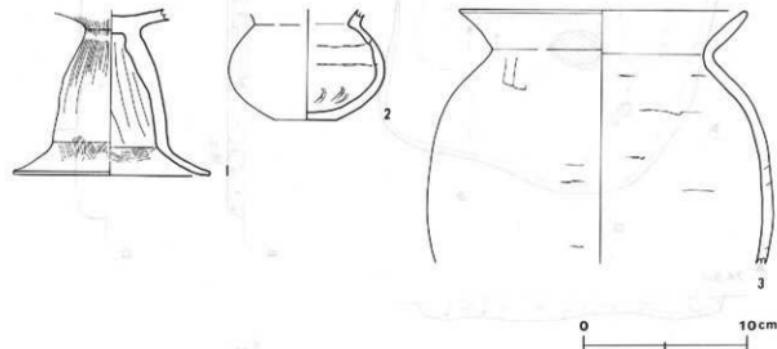
3 明褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器の壺片を主体に少量出土している。1の高壺、2の壺は南部の覆土下層から、3の壺は床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期と思われる。



第7図 第2号住居跡実測図



第8図 第2号住居跡出土遺物実測図

#### 第2号住居跡出土遺物実測

| 国版番号     | 器種                    | 計測値(cm)                    | 器形の特徴                             | 手法の特徴                                   | 胎土・色調・焼成                        | 備考 |
|----------|-----------------------|----------------------------|-----------------------------------|---|---------------------------------|----|
| 第8図<br>1 | 高<br>土<br>師<br>壺<br>番 | B(10.1)<br>D 12.1<br>E 8.9 | 壺部欠損。脚部はラバ状に開き。<br>壺部は水平方向に大きく開く。 | 脚部内ヘラ削り、外面縦位のハケ目整形。壺部内・外面ハケ目整形後<br>焼ナゲ。 | P6 40%<br>に赤い褐色<br>南部覆土下層<br>普通 |    |

| 図版番号     | 器種          | 計測値(cm)            | 器形の特徴                       | 手法の特徴                  | 胎土・色調・焼成                | 備考                    |
|----------|-------------|--------------------|-----------------------------|------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 第8図<br>2 | 埴<br>土<br>器 | B (6.5)<br>C (3.8) | 口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。      | 体部外面ヘラ削り後ナダ。内面に輪積痕が残る。 | 石英・長石<br>にぶい黄褐色<br>普通   | P7 40% PL40<br>南部覆土下層 |
| 3        | 壺<br>土<br>器 | A 17.7<br>B (15.5) | 底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ハケ目整形後横ナダ。      | 長石・石英・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | P8 25% PL40<br>南部床面   |

### 第3-A号住居跡（第9図）

位置 調査区南端部、G3e<sup>o</sup>区。

重複関係 本跡は第3-B号住居跡の上に構築しており、本跡が新しい。

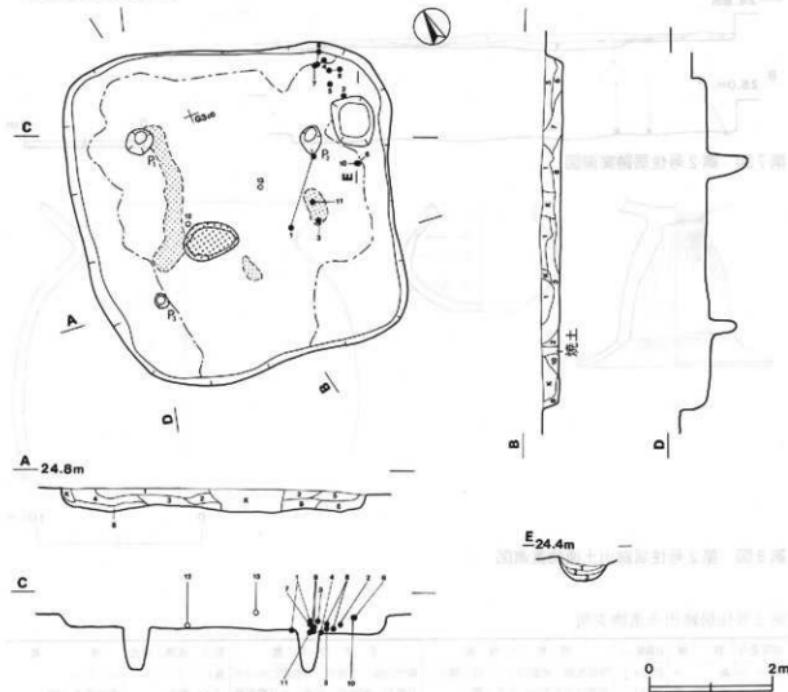
規模と平面形 長軸5.48m、短軸5.22mの方形である。

主軸方向 N-71°-W

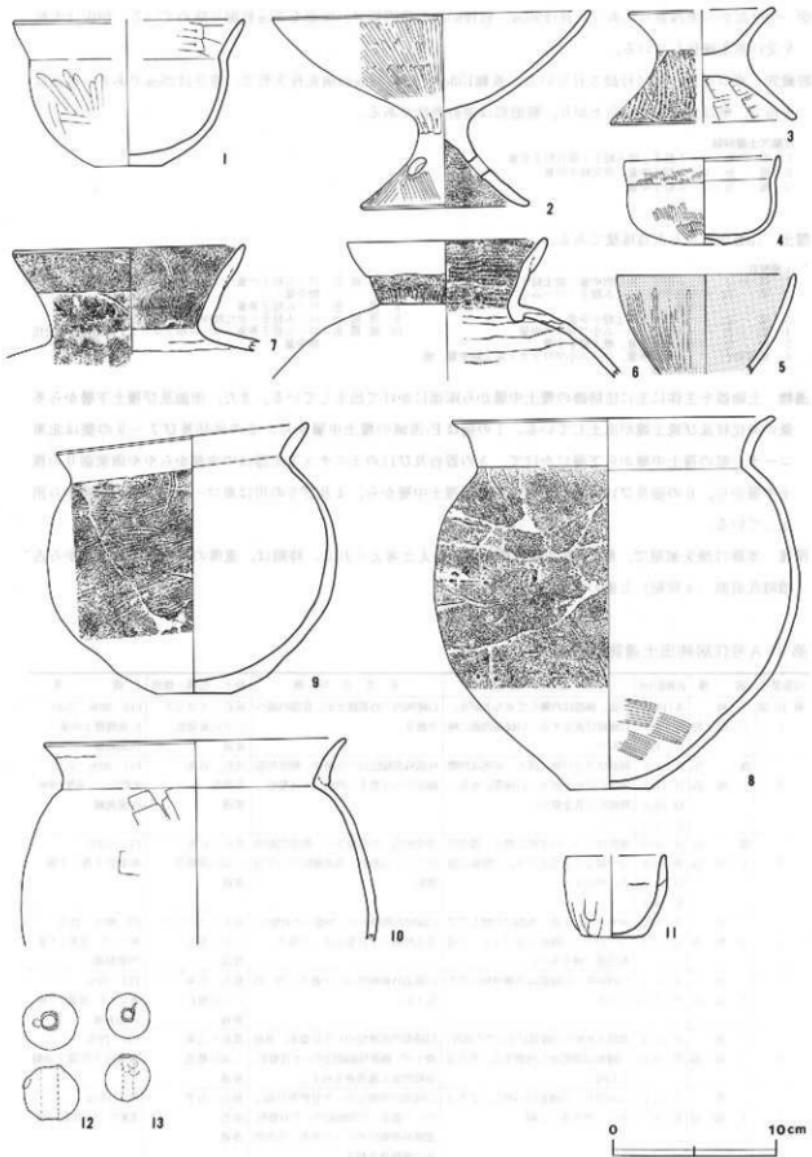
壁 壁高は24-46cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 3か所 (P<sub>1</sub>-P<sub>3</sub>)。P<sub>1</sub>-P<sub>3</sub>は長径30-60cm、短径25-52cmの楕円形、深さは45-64cmで、いずれも主柱穴と考えられる。



第9図 第3-A号住居跡実測図



第10図 第3-A号住居跡出土遺物出測図

炉 中央部から南西寄りにあり、長径90cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸103cm、短軸85cmの隅丸長方形で、深さは25cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯土 10層からなる人為堆積である。

| 土層解説 |      |                               |    |     |                             |
|------|------|-------------------------------|----|-----|-----------------------------|
| 1    | 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量             | 7  | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 2    | 褐色   | ローム粒子中量、炭化粒子少量                | 8  | 褐色  | ローム粒子多量                     |
| 3    | 褐色   | ローム粒子中量                       | 9  | 褐色  | ローム粒子中量                     |
| 4    | 褐色   | ローム粒子・ローム小ブロック中量              | 10 | 褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物中量 |
| 5    | 褐色   | ローム粒子少量                       |    |     |                             |
| 6    | 板暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化物中量、燒土粒子少量 |    |     |                             |

遺物 土器器を主体に主に住居跡の覆土中層から床面にかけて出土している。また、床面及び覆土下層から多量の炭化材及び焼土塊が出土している。1の碗はP1南側の覆土中層から、2の高杯及び7~9の壺は東北東コーナー部の覆土中層から下層にかけて、3の器台及び11のミニチュア土器は中央部からやや南東寄りの覆土中層から、6の壺及び10の壺は東壁中央部の覆土中層から、4及び5の壺は東コーナー部覆土下層から出土している。

所見 本跡は焼失家屋で、第3-B号住居跡の建て替えと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

#### 第3-A号住居跡出土遺物観察表

| 団番号  | 器種                | 計画面(cm)                                   | 器形の特徴  | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成                           | 備考                                  |
|------|-------------------|---|--|--|------------------------------------|-------------------------------------|
| 第10回 | 1 土器              | A(14.3)<br>B 8.9<br>C 4.1                 | 平底。体部は内凹して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に擦をもつ。           | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側にヘラ磨き。                                      | 長石・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通            | P10 30% PL40<br>P1南側覆土中層<br>内面削離    |
|      | 2 土器              | A 19.5<br>B 11.9<br>D 10.4<br>E 5.0       | 脚部はラッパ状に聞く。脚部は内凹気味に立ち上がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。      | 脚部外表面位のヘラ磨き。脚部外表面位のヘラ磨き。内面ハケ目整形。                           | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通                 | P11 90% PL40<br>東北コーナー部覆土中層<br>内面削離 |
|      | 3 土器              | A (9.0)<br>B 6.9<br>D (11.5)<br>E 4.5     | 脚部は「ハ」の字状に聞く。器底部は外傾して立ち上がり。口縁部は僅かに外反する。        | 器底部内・外表面横ナデ。脚部内表面位のハケ目整形、外表面位のハケ目整形。                       | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通              | P12 40%<br>東南寄り覆土中層                 |
| 4 土器 | A 9.6<br>B 5.3    | 中央が四むき底。体部は内凹して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に擦をもつ。 | 口縁部内表面横ナデ。外表面ハケ目整形。体部外表面ハケ目整形後ヘラ磨き。            | 長石・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通                                     | P9 80% PL40<br>東北コーナー部覆土下層<br>内面削離 |                                     |
|      | 5 土器              | A 11.1<br>B (6.1)                         | 口縁部分。口縁部は内凹気味に立ち上がる。                           | 口縁部外表面位のヘラ磨き。内・外表面赤。                                       | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通               | P13 30%<br>東北コーナー部覆土下層<br>内面削離      |
| 6 土器 | A 12.4<br>B (8.6) | 体部上半から口縁部にかけての破片。口縁部は脚部から外傾する。折り返し口縫。     | 口縁部内表面位のハケ目整形、外表面横ナデ。脚部外表面位のハケ目整形。体部内面に輪積痕を残す。 | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通                                       | P17 20%<br>東壁中央部覆土中層               |                                     |
|      | 7 土器              | A 14.4<br>B (6.5)                         | 口縁部分。口縁部は外傾して立ち上がる。折り返し口縫。                     | 口縁部内表面位のハケ目整形後複数のヘラ磨き。外表面位のハケ目整形。脚部外表面位のハケ目整形。脚部内面に輪積痕を残す。 | 長石・石英<br>赤色<br>普通                  | P18 20%<br>東北コーナー部覆土下層              |

| 図版番号      | 器種      | 計測値(cm) | 器形の特徴                       | 手法の特徴                      | 粘土・色調・焼成               | 備考                                     |
|-----------|---------|---------|-----------------------------|----------------------------|------------------------|--|
| 第10図<br>8 | 土器      | A 19.9  | 平底。体部は球状で最大径を中位に            | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面横位のハケ目整形。 | 長石・スコリア<br>赤褐色<br>普通   | P14 90% PL40<br>北東コーナー部覆土下層<br>体部外面保付着 |
|           |         | B 22.8  | もつ。口縁部は緩く外反する。              |                            |                        |  |
|           |         | C 5.0   |                             |                            |                        |  |
| 9         | 土器      | A 15.7  | 平底。体部は球状で最大径を中位に            | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のハケ目整形。   | 長石・スコリア<br>赤褐色<br>普通   | P15 90% PL40<br>北東コーナー部覆土下層<br>二火焼成    |
|           |         | B 15.6  | もつ。口縁部は頸部から外傾する。            |                            |                        |  |
|           |         | C 4.6   |                             |                            |                        |  |
| 10        | 土器      | A 18.5  | 体部上半から口縁部にかけての破片。           | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。       | 長石・石英<br>明黄色<br>普通     | P16 30%<br>東壁中央部覆土中層<br>体部外面保付着        |
|           |         | B(12.0) | 口縁部は「く」の字状に外反する。            |                            |                        |  |
|           |         | C       |                             |                            |                        |  |
| 11        | ミニチュア土器 | A(6.1)  | 碗形。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部に至る。 | 体部外表面のヘラ磨き。                | 長石・スコリア<br>にぼい褐色<br>普通 | P19 60%<br>南東部覆土中層                     |
|           |         | B 5.0   |                             |                            |                        |  |
|           |         | C 3.9   |                             |                            |                        |  |

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点 | 備考        |
|--------|----|--------|-------|--------|--------|-------|------|-----------|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |      |           |
| 第10図12 | 土玉 | 3.3    | 3.3   | —      | 1.0    | 34.4  | 覆土下層 | DP1 PL100 |
| 13     | 土玉 | 2.9    | 2.7   | —      | 0.8    | 20.4  | 覆土中層 | DP2 PL100 |

### 第3-B号住居跡

位置 調査区南端部, G3ce区。

重複関係 本跡は第3-A号住居跡の下に構築しており、本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺4.00m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-71°W

床 平坦で、踏み固められている。

炉 中央部から南西寄りにあり、長径90cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 第3-A号住居跡の貼床を確認できたが、堆積状況は不明である。

遺物 土器片が少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡は第3-A号住居跡の建て替え前の住居跡と考えられ、時期は遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

### 第4号住居跡（第11図）

位置 調査区南東部, F4ii区。

規模と平面形 長軸4.14m、短軸3.92mの方形である。

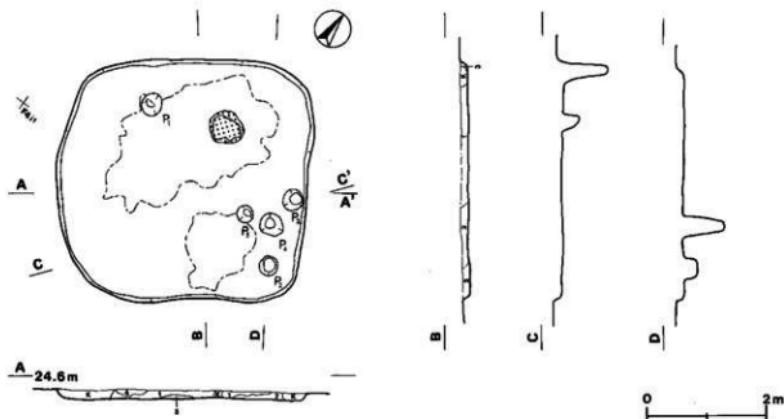
主軸方向 N-34°W

壁 壁高は9~16cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。南東壁中央部付近は一段高い硬化面である。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P3は長径35cm程の円形、深さは57~71cm、P3~P5は径30cm程の円形、深さ20~30cmで、いずれも補助柱穴と考えられる。

炉 中央部から北寄りにあり、長径50cm、短径30cmの不整精円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第11図 第4号住居跡実測図

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒 色 ローム粒子中量        | 4 暗 暗 色 ローム粒子・後土粒子少量 |
| 2 暗 暗 色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 黒 暗 色 ローム粒子少量      |
| 3 にいし褐色 ローム粒子中量      |                      |

遺物 土師器の壺片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第5号住居跡（第12図）

位置 調査区南端部、G3a<sub>9</sub>区。

規模と平面形 長軸6.06m、短軸5.16mの長方形である。

主軸方向 N-32°-E

壁 壁高は14~25cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

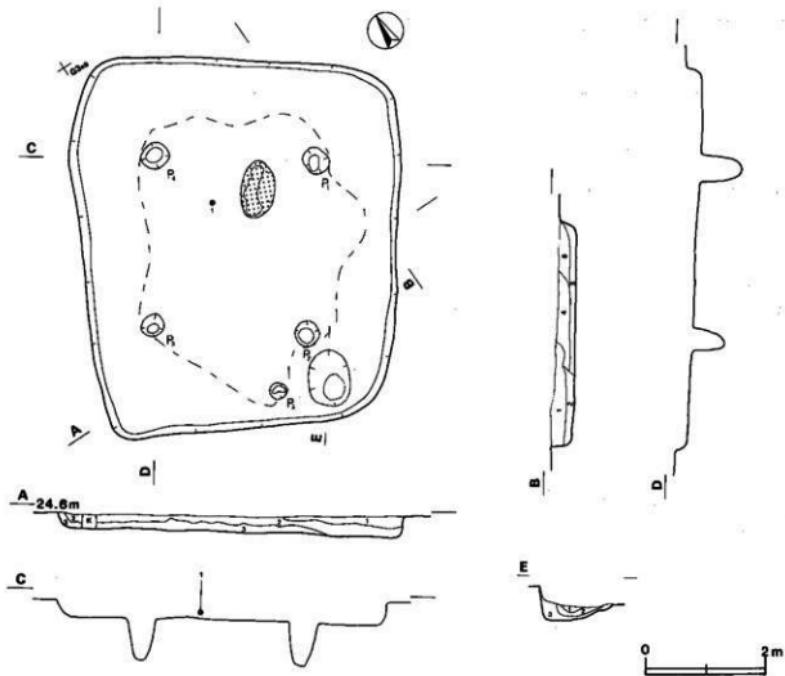
ピット 5か所（P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>）。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径40~48cm、短径36~42cmのほぼ円形、深さ52~76cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径28cmの円形、深さ35cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部からやや北東寄りにあり、長径96cm、短径55cmの楕円形で、床面を5~10cm掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸94cm、短軸67cmの隅丸長方形で、深さは28cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- |                 |
|-----------------|
| 1 黒 暗 色 ローム粒子少量 |
| 2 暗 色 ローム粒子中量   |
| 3 明 暗 色 ローム粒子多量 |



第12図 第5号住居跡実測図

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

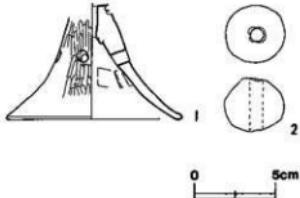
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小プロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 棕褐色 ローム粒子・ローム小プロック中量
- 6 棕褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器の壺片を主体に少量出土している。1の器台は押西側の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第5号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種 | 計測値(cm)          | 器形の特徴                         | 手法の特徴                  | 胎土・色調・焼成                | 備考                 |
|-----------|----|------------------|-------------------------------|------------------------|-------------------------|--------------------|
| 第13図<br>1 | 器台 | D 10.6<br>E(7.2) | 器部欠損。脚部はラッパ状に開く。<br>脚部に4孔を有す。 | 脚部内面横位のヘラナデ、外面部位のヘラ晒さ。 | 長石・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P20 70%<br>押西側覆土中層 |



第13図 第5号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号  | 種別 | 計面積    |       |        |        | 出土地点 | 備考                |
|-------|----|--------|-------|--------|--------|------|-------------------|
|       |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |      |                   |
| 第13図2 | 土玉 | 3.3    | 3.6   | —      | 0.8    | 42.1 | 覆土中層<br>DP3 PL100 |

### 第6号住居跡（第14図）

位置 調査区南端部, G3c区。

規模と平面形 南西部が調査区外に延びているため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺6.40m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は24~32cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 2か所 (P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>)。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は長径40

~53cm、短径38~48cmの円形、深さ64~72cm

で、いずれも主柱穴と考えられる。

覆土 4層からなる人為堆積である。

| 土層解説 |                            |
|------|----------------------------|
| 1    | 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化物少量  |
| 2    | 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量 |
| 3    | 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・鐵土粒子少量 |
| 4    | 褐色 ローム粒子多量                 |

遺物 土師器の毫片が少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。



第14図 第6号住居跡実測図

### 第7号住居跡（第15図）

位置 調査区南東部, G4c区。

重複関係 本跡は南西壁を第5号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

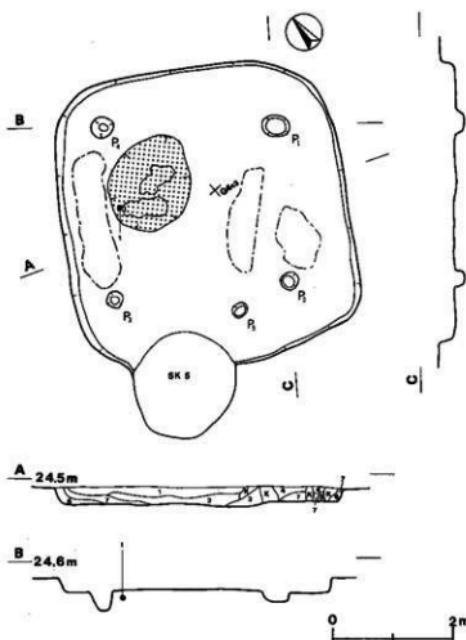
規模と平面形 長軸4.94m、短軸4.70mの方形である。

主軸方向 N-33°-E

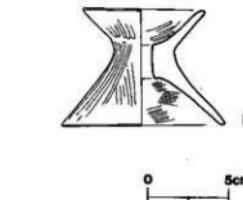
壁 壁高は22~27cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径30~47cm、短径30~35cmの円形あるいは梢円形、深さ15~33cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径25cmの円形、深さ30cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第15図 第7号住居跡実測図



第16図 第7号住居跡出土遺物実測図

**炉** 中央部から北西寄りにあり、長径160cm、短径130cmの梢円形で、床面を5cm程掘り立てている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

**覆土** 7層からなる人為堆積である。

| 土層解説 |     | 5 緙褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子中量、炭化物少量 |                              |
|------|-----|-----------------------------------|------------------------------|
| 1    | 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量                |                              |
| 2    | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量                  |                              |
| 3    | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量     | 6 緙褐色 ローム粒子中量、炭化物少量          |
| 4    | 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量                       | 7 緙褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量 |

**遺物** 炉周辺と壁際から土師器片が少量出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の器台は炉西側の覆土下層から出土している。

**所見** 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

#### 第7号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種  | 直径値(cm)                           | 器形の特徴   | 手法の特徴                            | 胎土・色調・焼成          | 備考                      |
|------|-----|-----------------------------------|---|----------------------------------|-------------------|-------------------------|
| 第16図 | 器台  | A 7.4<br>B 7.4<br>D 10.0<br>E 4.7 | 脚部はラップ状に高く。器受部は外<br>横位して立ち上がる。器受部中央に貫<br>通孔を穿つ。 | 器受部内面<br>横位のハケ目整形、外表面位のヘラ<br>磨き。 | 長石・石英<br>褐色<br>普通 | P21 80% PL40<br>炉西側覆土下層 |
| 1    | 土師器 |                                   |   |                                  |                   |                         |

### 第8号住居跡（第17図）

位置 植査区南東部, G4a; 区。

重複関係 本跡は南部を第3号土坑に  
掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 北西壁が耕作による搅  
乱を受け、南部が第3号土坑と重複  
しているため正確な規模や平面形は  
不明であるが、長軸4.10m、短軸  
3.90m程度の方形と推定される。

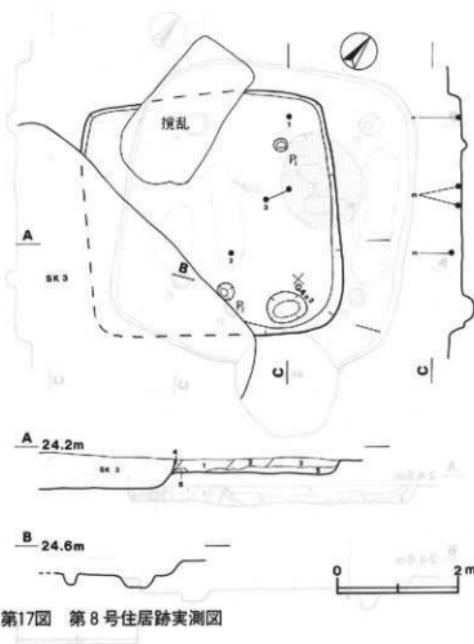
主軸方向 N-51°-W

壁 壁高は50~62cmで、ほぼ垂直に立  
ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

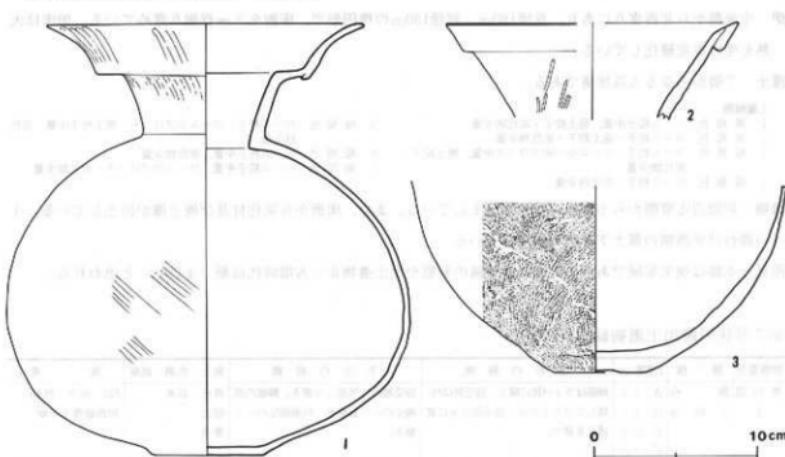
ピット 2か所（P<sub>1</sub>, P<sub>2</sub>）。P<sub>1</sub>は径  
22cm程の円形、深さ10~20cmで、規  
模や位置から主柱穴、P<sub>2</sub>は径28cm  
程の円形、深さ18cmで、出入り口施  
設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー付近に付設されて  
いる。長軸65cm、短軸50cmの隅丸長  
方形で、深さは22cmである。底面は  
平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第17図 第8号住居跡実測図

図版寄稿者会員で構成図



第18図 第8号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

|       |                         |       |                          |
|-------|-------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック・焼土粒子少量 | 4 黄褐色 | ローム粒子中量、ローム小・ブロック少量      |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量            | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量              |
| 3 浅褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量            | 6 浅褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・炭化物少量 |

遺物 住居跡の床面から土器器の壺や甕を主体に出土している。1の有段口縁の壺は北コーナー部の床面からほぼ正位の状態で、2の壺はほぼ中央部の覆土中層から、3の甕は1の壺の南東側床面から潰れた状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

第8号住居跡出土遺物観察表

| 国版番号     | 器種  | 計測値(m)                    | 器形の特徴  | 手法の特徴                                      | 胎土・色調・焼成                   | 備考                                   |
|----------|-----|---------------------------|--|--|----------------------------|--------------------------------------|
| 1<br>18回 | 壺   | A 19.6<br>B 26.4<br>C 6.9 | A突出した平底、体部は偏平な球状で、最大径を下位にもつ。颈部は垂直に立ち上がる。口縁部は腹部から水平に開き、外反する。有段口縁。 | 口縁部内・外面ハケ目整形後ヘラ磨き。頸部及び体部外表面窓位と斜位のハケ目整形後ナダ。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | F22 90% PL40<br>北コーナー部床面<br>体内部・外表面窓 |
|          | 壺   | A(17.8)<br>B(6.0)         | 口縁部片。口縁部は外傾して開く。折り返し口縫。  | 口縁部内・外面ハケ目整形後ナダ。頸部外表面窓位のヘラ磨き。              | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通  | F23 10%<br>中央部中層                     |
|          | 甕   | B(11.4)<br>C 5.6          | 体部下半から底部にかけての破片。<br>平底。体部は内反して立ち上がる。                             | 体部外表面窓位と斜位のハケ目整形。<br>底部と体部との接觸位のヘラ削り。      | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | F24 10%<br>北コーナー部床面<br>F22の南東側       |
| 2<br>19回 | 土器器 |                           |  |  |                            |                                      |

第9号住居跡（第19図）

位置 調査区南東部、F4bs区。

規模と平面形 北東部が調査区外に延びているため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺3.40m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-33°-W

壁 壁高は18cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径30cm、短径20cmの梢円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け僅かに赤変化している。

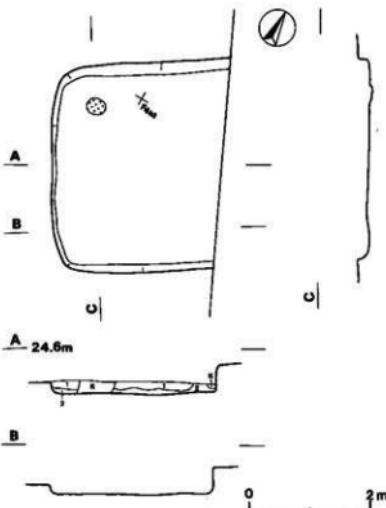
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック中量            |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、ローム大ブロック少量 |

遺物 南東部から土器器片が少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。



第19図 第9号住居跡実測図

### 第10号住居跡（第20図）

位置 調査区南部, F3ds区。

規模と平面形 長軸5.46m, 短軸5.26mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は14-18cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径90cm、短径65cmの梢円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯藏穴 南西コーナー部に付設されている。長軸136cm、短軸110cmの隅丸長方形で、深さは15cmである。南部に径45cm程の円形で、深さ55cmの掘り込みがある。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は長方形状である。

#### 貯藏穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子、炭化物少量

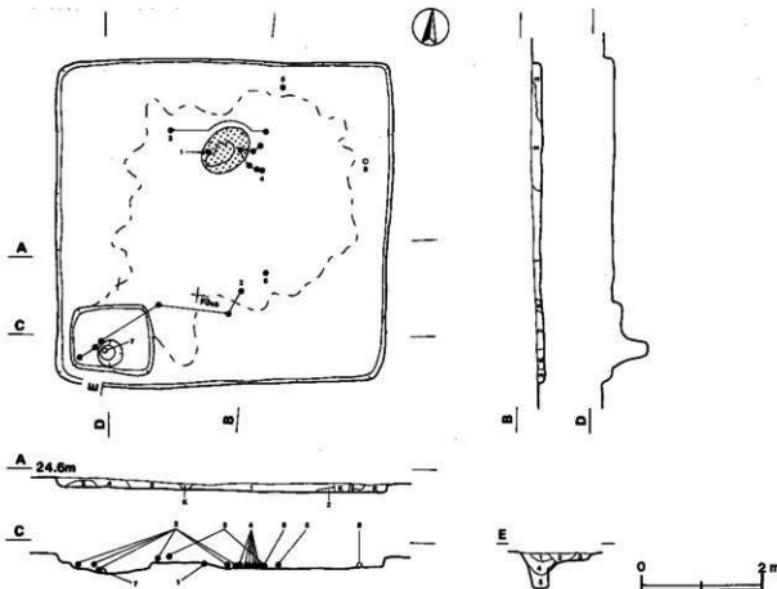
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黄褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

覆土 4層からなる人為堆積である。

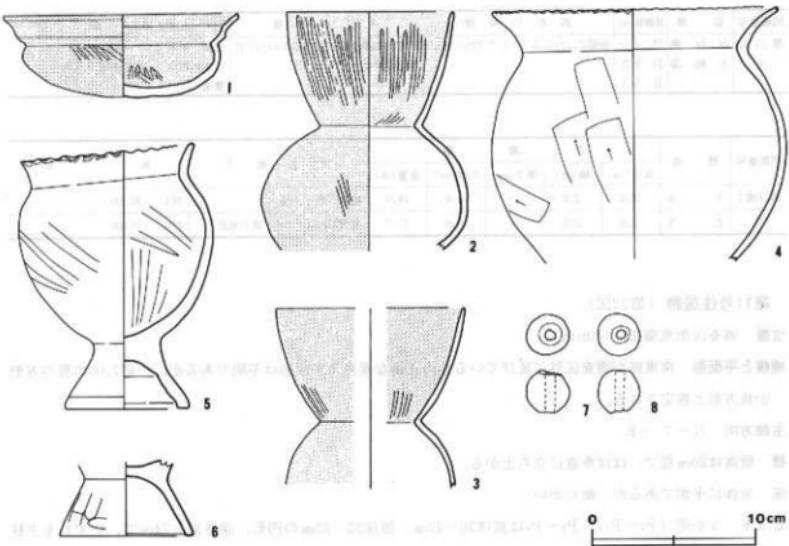
#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子、ローム小ブロック中量

- 3 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量



第20図 第10号住居跡実測図



第21図 第10号住居跡出土遺物実測図

遺物 住居跡の床面から壺片を主体に土師器片が出土している。1の鉢、3の壺及び4の壺は炉周囲の床面から、2の壺は貯蔵穴の覆土上層から、5の台付壺は北壁寄りの床面から横位の状態で、6の台付壺は中央部よりやや南寄りの床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第10号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種  | 計測値(cm)                            | 器形の特徴   | 手法の特徴                                       | 胎土・色調・焼成               | 備考                            |
|-----------|-----|------------------------------------|---|---|------------------------|-------------------------------|
| 第21図<br>1 | 土師器 | A 14.7<br>B 5.1<br>C 1.8           | 中央がやや凹む平底。体部は内厚しで立ち上がる。口縁部は内厚気味に立ち上がり、上位で外反する。口縁部下位に接をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面裏位のヘラ磨き。内・外面赤彩。            | 長石・石英・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P25 90% PL41<br>炉周囲床面         |
| 2         | 土師器 | A 10.3<br>B (14.7)                 | 底部欠損。口縁部は内厚気味に立ち上がる。                                      | 口縁部内・外面裏位のヘラ磨き。体部外面裏位のヘラ磨き。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。 | 長石・石英<br>赤色<br>普通      | P26 60% PL41<br>貯蔵穴覆土上層       |
| 3         | 土師器 | A (11.8)<br>B (11.0)               | 口縁部片。口縁部は内厚気味に立ち上がる。                                      | 口縁部内・外面裏位のヘラ磨き。体部外面裏位のヘラ磨き。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。 | 長石・石英<br>赤色<br>普通      | P27 20%<br>炉周囲床面              |
| 4         | 土師器 | A 17.4<br>B (15.5)                 | 底部欠損。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。                            | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。                      | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通  | P28 60% PL41<br>炉周囲床面<br>二次焼成 |
| 5         | 台付壺 | A 10.7<br>B 16.2<br>D 7.6<br>E 4.0 | 台部は「ハ」の字状に開く。体部は球形状で最大径を上位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縫。   | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。                      | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通  | P29 95% PL41<br>北壁寄り床面        |

| 図版番号      | 器種        | 計測値(cm)                  | 器形の特徴         | 手法の特徴                      | 貼土・色調・焼成             | 備考               |
|-----------|-----------|--------------------------|---------------|----------------------------|----------------------|------------------|
| 第21図<br>6 | 台付<br>土師器 | B(4.5)<br>D 8.2<br>E 3.3 | 台部は「ハ」の字状に開く。 | 脚部内面横ナデ、外面継粒のハケ目<br>整形後ナデ。 | 長石・石英<br>におい橙色<br>普通 | F30 30%<br>南寄り床面 |

| 図版番号      | 種別 | 計測値    |       |        |        | 出土地點 | 備考                         |
|-----------|----|--------|-------|--------|--------|------|----------------------------|
|           |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |      |                            |
| 第21図<br>7 | 土玉 | 2.6    | 2.6   | —      | 0.6    | 16.0 | 野戸穴覆土下層<br>DF4 PL100       |
| 8         | 土玉 | 2.6    | 2.6   | —      | 0.6    | 17.0 | 東壁附北東コーナー寄り床面<br>DF5 PL100 |

### 第11号住居跡（第22図）

位置 調査区南東端部, G4b5区。

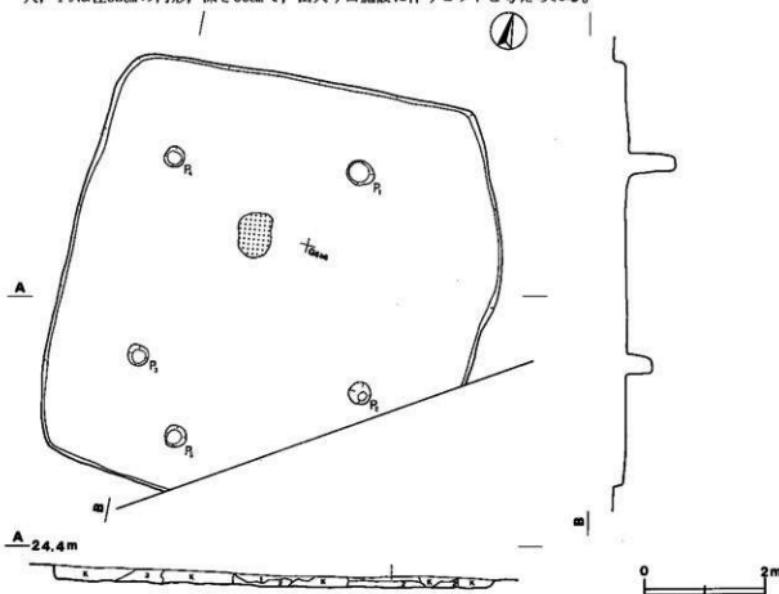
規模と平面形 南東部が調査区外に延びているため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺7.00m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N - 7° - E

壁 壁高は20cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦であるが、軟らかい。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径36~45cm, 短径32~42cmの円形, 深さ38~74cmで、いずれも主柱穴, P<sub>5</sub>は径32cmの円形, 深さ38cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第22図 第11号住居跡実測図

**炉** 中央部からやや北西寄りにあり、長径74cm、短径55cmの梢円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

**覆土** 3層からなる人為堆積である。

土層解説

1 灰褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
2 楢色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

**遺物** 土器の片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

**第12号住居跡（第23図）**

**位置** 調査区南東端部、F4j7区。

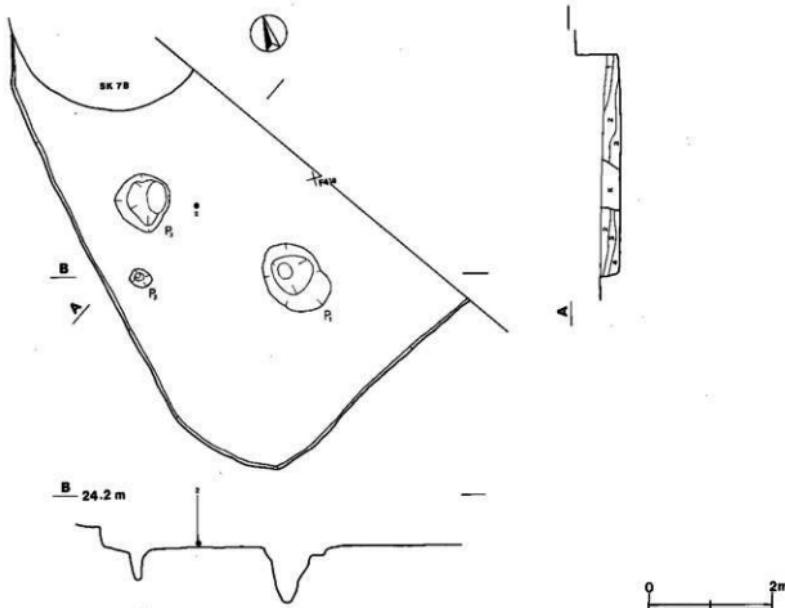
**重複関係** 本跡は北西部を第7-B号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

**規模と平面形** 北西部が調査区外に延び、西部が第7-B号土坑に掘り込まれているため正確な規模や平面形は不明であるが、一辺7.70m程の方形か長方形と推定される。

**主軸方向** N-60'-E

**壁** 壁高は40~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

**床** 全体に平坦であるが、軟らかい。

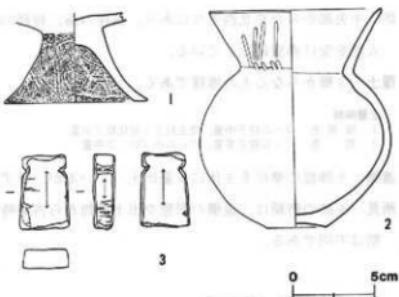


第23図 第12号住居跡実測図

**ピット** 3か所 ( $P_1 \sim P_3$ )。 $P_1$ は長径128cm、短径94cmの梢円形、深さ88cmで、規模や配置から主柱穴。 $P_2$ は長径33cm、短径27cmの円形、深さ56cmで、出入り口施設に伴うピット。 $P_3$ は長径84cm、短径82cmの梢円形、深さ50cmで、補助柱穴と考えられる。

**覆土** 4層からなる自然堆積である。

| 土層解説 |                       |
|------|-----------------------|
| 1    | 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2    | 暗褐色 ローム粒子中量           |
| 3    | 暗褐色 ローム粒子少量           |
| 4    | 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量       |



第24図 第12号住居跡出土遺物実測図

**遺物** 主に住居跡中央部の覆土下層から少量の土師器が出土している。1の高壙は中央部からやや東寄りの覆土下層から、2の壺は中央部の覆土下層から横位の状態で出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

#### 第12号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号                                 | 器種              | 計測値(cm)                   | 器形の特徴                          | 手法の特徴                      | 胎土・色調・焼成                  | 備考                       |
|--------------------------------------|-----------------|---------------------------|--------------------------------|----------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 第24図 高<br>1<br>土 壺<br>D 8.8<br>E 4.5 | 壺               | B(5.5)                    | 脚部はラバ状に開く。                     | 脚部内面横位のハケ目整形、外面縦位のハケ目整形。   | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通     | P31 40%<br>東寄り覆土下層       |
|                                      | 壺               | A 10.4<br>B 13.5<br>C 3.6 | 中央が凹む底。体部は球状で、口縁部は頸部から大きく外反する。 | 口縁部内面横ナデ、外面縦位のヘラ磨き。体部外面ナゲ。 | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P32 100% PL41<br>中央部覆土下層 |
| 第24図 3<br>紙 石                        | 計測値             | 石質                        | 出土地點                           | 備考                         |                           |                          |
|                                      | 長さ(cm)<br>(4.7) | 幅(cm)<br>3.1              | 厚さ(cm)<br>1.4                  | 重量(g)<br>(27.8)            | 基床 岩 覆土中                  | Q2 PL101                 |

#### 第13号住居跡（第25図）

**位置** 調査区南東部、F4gs区。

**重複関係** 本跡は北部を第2A・2B及び第9号土坑に掘り込まれており、本跡が最も古い。

**規模と平面形** 長軸7.50m、短軸6.00mの長方形である。

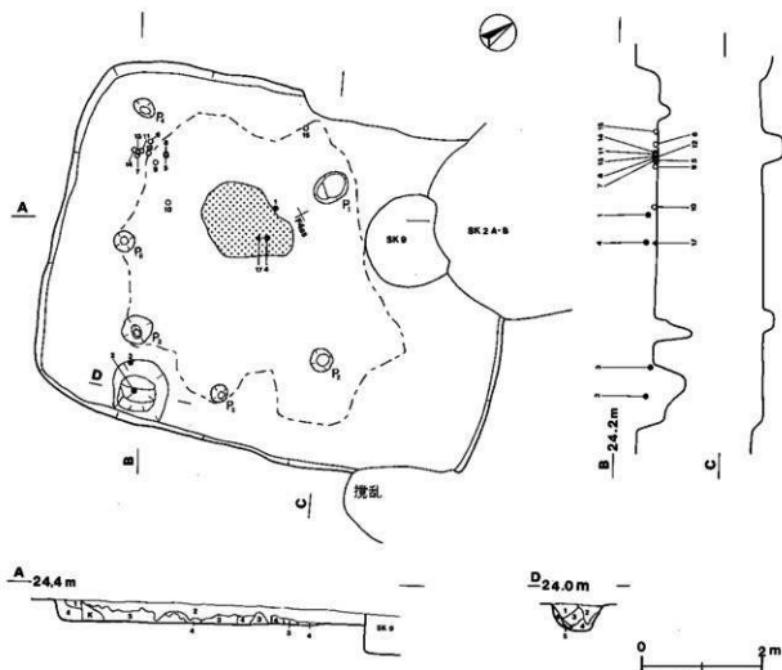
**主軸方向** N-47°-W

**壁** 壁高は32~38cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。

**ピット** 6か所 ( $P_1 \sim P_6$ )。 $P_1 \sim P_4$ は長径30~62cm、短径25~45cmの梢円形、深さ62~80cmで、いずれも主柱穴。 $P_5$ は径26cmの円形、深さ32cmで、出入り口施設に伴うピット。 $P_6$ は径35cmの円形、深さ37cmで、補助柱穴と考えられる。

**炉** 中央部から南西寄りにあり、長径160cm、短径100cmの不整梢円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第25図 第13号住居跡実測図

貯蔵穴 南西壁下南コーナー寄りに付設されている。長軸92cm、短軸85cmの隅丸方形で、深さは53cmである。

底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

|       |                         |       |                                 |
|-------|-------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック中量      | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中・大ブロック少量            |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量        | 5 褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロッ<br>ク中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量、燒土粒子少量 |       |                                 |

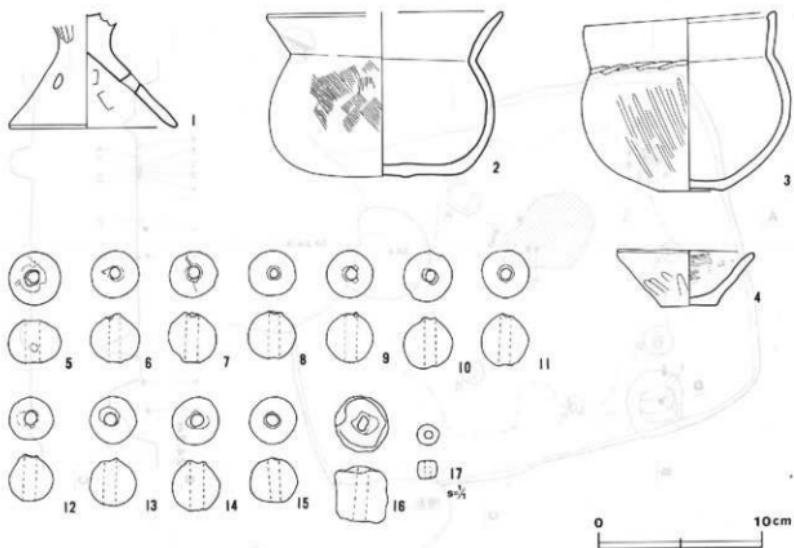
覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

|       |                                 |       |                                   |
|-------|---------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・ローム中ブロッ<br>ク少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子・<br>炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小・中ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少<br>量   | 4 黑褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量                      |

遺物 住居跡の床面全体から土器器片が散在した状態で出土している。1の器台、4のミニチュア土器及び17のガラス玉は炉の中層から、2及び3の壺は貯蔵穴の覆土上層から、5~14の土玉は西コーナー付近の床面から集中した状態で、16の管状土錐は炉北西の床面から出土している。15の土玉は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。



第26図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種            | 計測値(cm)   | 器形の特徴   | 手法の特徴                        | 胎土・色調・焼成                   | 備考                       |
|-----------|---------------|---|---|------------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 第26図<br>1 | 器<br>土器       | 台 B(7.0)<br>脚部。脚部は「ハ」の字状に開く。<br>D 10.4<br>E 5.5 |   | 脚部外面上位縫合のヘラ磨き。               | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通  | F36 50%<br>炉の中層<br>二次焼成  |
| 2         | 壺<br>土器       | A [14.5]<br>B 10.0<br>C 3.1                     | 中央がやや凹む平底。体部は偏平な<br>球状で、口輪部は頸部から大きく外<br>反して立ち上がる。 | 口縁部内・外面磨ナダ。体部外面斜<br>位のハケ目彫形。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P33 70%<br>貯蔵穴覆土上層       |
| 3         | 壺<br>土器       | A 11.7<br>B 10.7<br>C 3.8                       | 中央が凹む平底。体部は球状で、口<br>縁部はほぼ直立する。口縁部内削ぎ。             | 口縁部内・外面磨ナダ。体部外面斜<br>位のヘラ磨き。  | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通       | P34 100% PL41<br>貯蔵穴覆土上層 |
| 4         | ミニチュア土器<br>土器 | A 8.3<br>B 3.6<br>C 3.4                         | 鉢形。平底。体部は外傾して立ち上<br>り、口縁部に凹み、口縁部に溝がある。            | 体部内面ハケ目彫形後ナダ。外面へ<br>ラ磨き。     | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P35 60%<br>炉の中層          |

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点     | 備考         |
|--------|----|--------|-------|--------|--------|-------|----------|------------|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |          |            |
| 第26図 5 | 土玉 | 2.6    | 3.2   | —      | 0.9    | 26.6  | 西コーナー部床面 | DP6 PL100  |
| 6      | 土玉 | 3.0    | 3.0   | —      | 0.6    | 22.1  | 西コーナー部床面 | DP7 PL100  |
| 7      | 土玉 | 3.1    | 2.9   | —      | 0.7    | 20.8  | 西コーナー部床面 | DP8 PL100  |
| 8      | 土玉 | 2.8    | 2.9   | —      | 0.6    | 20.6  | 西コーナー部床面 | DP9 PL100  |
| 9      | 土玉 | 3.0    | 2.9   | —      | 0.7    | 21.3  | 西コーナー部床面 | DP10 PL100 |
| 10     | 土玉 | 3.1    | 2.9   | —      | 0.6    | 23.3  | 西コーナー部床面 | DP11 PL100 |
| 11     | 土玉 | 3.2    | 2.9   | —      | 0.6    | 23.1  | 西コーナー部床面 | DP12 PL100 |
| 12     | 土玉 | 2.7    | 2.7   | —      | 0.8    | 17.0  | 西コーナー部床面 | DP13 PL100 |

| 図版番号   | 種別   | 計測値    |       |        |        | 出土地点 | 備考                  |
|--------|------|--------|-------|--------|--------|------|---------------------|
|        |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |      |                     |
| 第26図13 | 土玉   | 3.1    | 2.8   | —      | 0.8    | 23.8 | 西コーナー部床面 DP14 PL100 |
| 14     | 土玉   | 2.9    | 2.8   | —      | 0.7    | 20.8 | 西コーナー部床面 DP15 PL100 |
| 15     | 土玉   | 2.6    | 2.9   | —      | 0.7    | 19.9 | 覆土中 DP17 PL100      |
| 16     | 管状土錐 | 3.3    | 3.2   | —      | 0.8    | 40.6 | 炉北西側床面 DP16         |

| 図版番号   | 種別   | 計測値    |       |        |        | 石質  | 出土地点 | 備考      |
|--------|------|--------|-------|--------|--------|-----|------|---------|
|        |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |     |      |         |
| 第26図17 | ガラス玉 | 0.4    | 0.4   | —      | 0.1    | 0.1 | ガラス  | 炉の中層 Q3 |

#### 第14号住居跡（第27図）

位置 調査区南東部、F4e1区。

重複関係 本跡は南西壁を第15号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸8.61m、短軸8.16mの方形である。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は24~31cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺と出入り口部付近が踏み固められている。

ピット 5か所（P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>）。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径20~35cm、短径15~30cmの円形、深さ37~45cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径30cmの円形、深さ23cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり、長径145cm、短径100cmの不整梢円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火炎を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南西壁下の南コーナー寄りに付設されている。一辺100cm程の隅丸方形で、深さは20cm程である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。貯蔵穴2は西コーナー一部に付設されている。長径120cm、短径100cmの梢円形で、深さは20cm程である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

##### 貯蔵穴1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・炭化物中量

##### 貯蔵穴2 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小・中ブロック・炭化粒子少量
- 3 純褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・炭化粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック少量

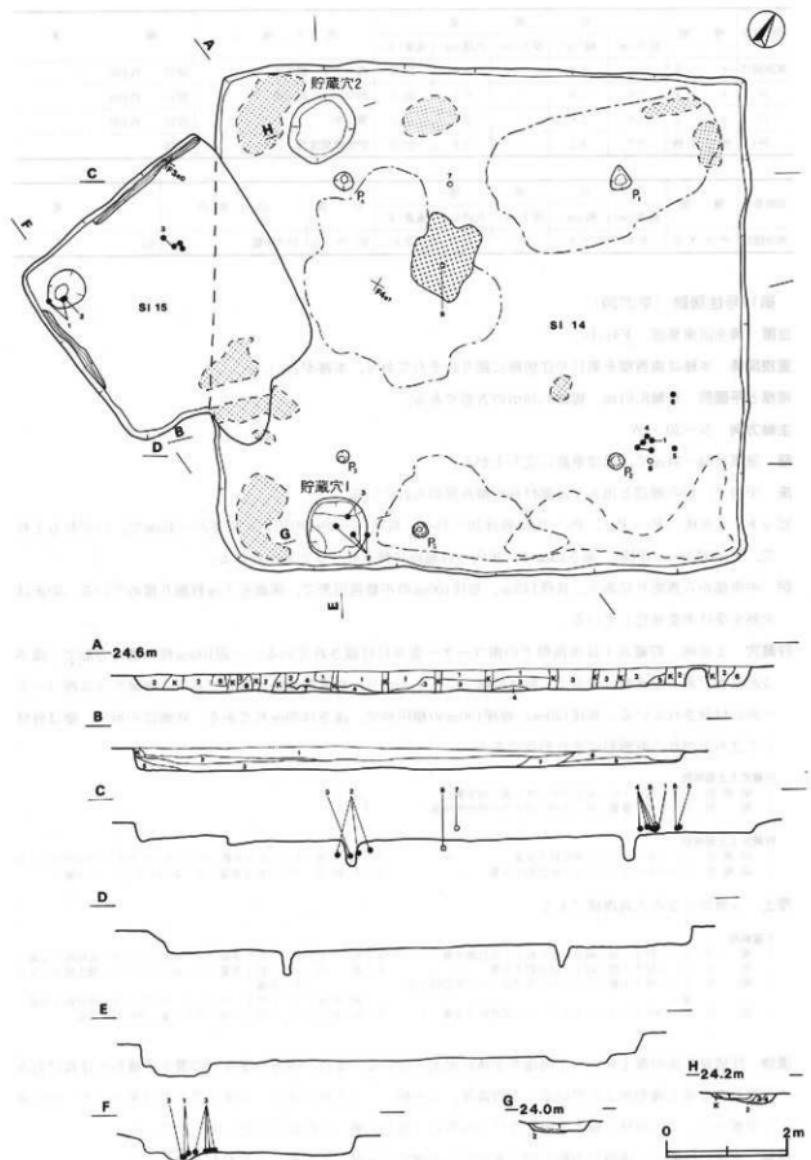
覆土 8層からなる人為堆積である。

##### 土層解説

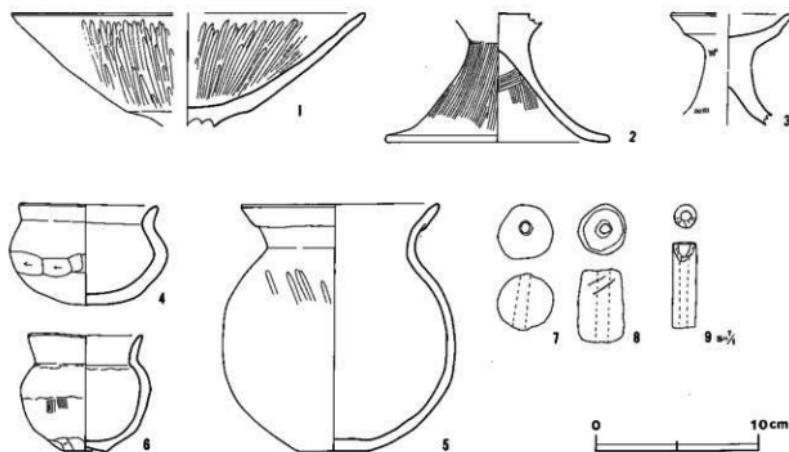
- |                                 |                                    |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量     | 5 純褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量      |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量         | 6 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量      |
| 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量     | 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量、炭化粒子少量     |

遺物 住居跡全体の覆土中から土師器を主体に出土している。また、四方の壁寄りの覆土中層からは投げ込みと思われる焼土塊が出土している。1の高杯、4の椀、5の壺及び6のミニチュア土器は東コーナー部の覆土中層から、2の高杯（覆土上層）及び3の器台（覆土下層）は貯蔵穴1から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。



第27図 第14・15号住居跡実測図



第28図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種      | 計測値(cm)                     | 器形の特徴                               | 手法の特徴                              | 胎土・色調・焼成                  | 備考                            |
|-----------|---------|-----------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|---------------------------|-------------------------------|
| 第28図<br>1 | 高 坯     | A(21.8)<br>B(7.0)           | 壺部。壺部は大きく外傾して立ち上がり、口縁部に至る。          | 口縁部内・外面横位のハラ磨き。                    | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P37 50%<br>東コーナー部覆土中層<br>二次焼成 |
| 2         | 高 坯     | B(7.9)<br>D(13.8)<br>E(6.0) | 脚部片。脚部はラッパ状に開く。                     | 脚部内面横位のハケ目整形、外面横位のハケ目整形。脚部内・外面横ナデ。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通         | P38 40%<br>貯藏穴1覆土上層           |
| 3         | 器 台     | A(7.5)<br>B(6.8)<br>E(4.6)  | 脚部欠損。器部は外傾して立ち上がり、外腹中位に棱をもつ。        | 器部内・外面横ナデ。脚部外表面位のハケ目整形後ナデ。         | 長石・石英・スコリア<br>褐色<br>普通    | P40 50%<br>貯藏穴1覆土下層           |
| 4         | 土 鋸 器   | A 8.6<br>B 6.2              | 丸底。体部は外傾して立ち上がり、中位で内傾する。口縁部は燃く外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外表面位のハラ削り後ナデ。         | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通    | P39 95% PL41<br>東コーナー部覆土中層    |
| 5         | 変 形     | A 12.2<br>C 4.4             | 平底。体部は球状で最大径を中位にとむ。口縁部は外反する。折り返し口縁。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外表面位のハラ磨き。            | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P42 60% PL41<br>東コーナー部覆土中層    |
| 6         | ミニチュア土器 | A 7.1<br>B 7.2<br>C 2.7     | 変形。中央が凹む平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。   | 口縁部内・外面横ナデ。体部外表面位のハケ目整形後ナデ。        | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P41 95% PL41<br>東コーナー部覆土中層    |

| 図版番号  | 種別      | 計 測 値  |       |        |        | 出 土 地 点 | 備 考        |
|-------|---------|--------|-------|--------|--------|---------|------------|
|       |         | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |         |            |
| 第28図7 | 土 玉     | 3.5    | 3.4   | —      | 0.7    | 32.1    | 炉北側覆土中層    |
| 8     | 管 状 土 球 | 4.4    | 2.9   | —      | 0.7    | 46.4    | 東コーナー部覆土中層 |

| 図版番号  | 種別  | 計 測 値  |       |        |       | 石 質 | 出 土 地 点 | 備 考      |
|-------|-----|--------|-------|--------|-------|-----|---------|----------|
|       |     | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |     |         |          |
| 第28図9 | 管 玉 | 1.7    | 0.5   | 0.5    | 0.7   | 蛇紋岩 | 炉床      | 04 PL101 |

### 第15号住居跡（第27図）

位置 調査区南東部, F3es区。

重複関係 本跡は北東部が第14号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.92m, 短軸3.52mの長方形である。

主軸方向 N-115°-E

壁 壁高は28cm程度で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南西壁下と北西壁下の一部に確認され、上幅10~15cm, 深さ7cm程度で、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固められている。

窓 南東壁中央部付近に、赤変化した火床部の一部と構築材の粘土が痕跡程度に残っている。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長軸70cm, 短軸60cmの隅丸長方形で、深さは20cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

覆土 耕作による擾乱と重複のため堆積状況は不明である。

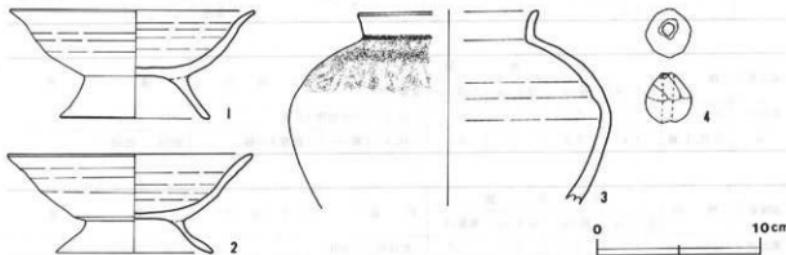
遺物 土器の壺片を主体に少量出土している。1及び2の高台付壺は貯蔵穴の覆土中層から、また、流れ込みと思われる3の須恵器の短頸壺は中央部からやや北西寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代（10世紀後半）と思われる。

### 第15号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種          | 計測値(cm)                           | 器形の特徴                                    | 手法の特徴                     | 粘土・色調・焼成                    | 備考                      |
|-----------|-------------|-----------------------------------|--|---------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| 第29図<br>1 | 高台付壺<br>土師器 | A 15.1<br>B 6.7<br>C 9.2<br>D 2.5 | 「ハ」の字形に開く足高の高台が付く。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 口縁部及び体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。 | 長石・石英・スコリア<br>に混入した橙色<br>普通 | P43 80% PL41<br>貯蔵穴覆土中層 |
|           | 高台付壺<br>土師器 | A 14.9<br>B 6.0<br>C 9.6<br>D 2.0 | 「ハ」の字形に開く足高の高台が付く。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 口縁部及び体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。 | 長石・石英・スコリア<br>に混入した橙色<br>普通 | P44 70% PL41<br>貯蔵穴覆土中層 |
|           | 短頸壺<br>須恵器  | A (11.2)<br>B (12.0)              | 口縁部から体部上位の稜片。口縁部は短く僅かに外反する。              | 体部外面上位に自然な凹凸。             | 長石<br>灰黄色<br>普通             | P45 20%<br>北西寄り覆土下層     |
|           |             |                                   |  |                           |                             |                         |

| 図版番号      | 種別 | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点 | 備考         |
|-----------|----|--------|-------|--------|--------|-------|------|------------|
|           |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |      |            |
| 第29図<br>2 | 土玉 | 3.0    | 2.8   | —      | 0.7    | 18.7  | 覆土中  | BP20 PL100 |



第29図 第15号住居跡出土遺物実測図

## 第16号住居跡（第30図）

位置 調査区南部、F3b区。

規模と平面形 長軸6.73m、短軸6.01mの長方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は56~70cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅12~16cm、深さ6~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 5か所（P1~P5）。P1~P4は長径38~50cm、短径35~43cmの円形、深さ96~104cmで、いずれも

主柱穴、P5は径36cmの円形、深さ16cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

窓 北西壁中央部を壁外に130cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ262cm、幅100cmである。

袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。

煙道部は長さ80cm程で、火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

### 竪土層解説

|   |       |                             |    |       |                            |
|---|-------|-----------------------------|----|-------|----------------------------|
| 1 | 黒褐色   | ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量           | 7  | 黒褐色   | 焼土粒子、焼土小ブロック少量             |
| 2 | 黒褐色   | ローム粒子、焼土粒子少量                | 8  | 暗赤褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量        |
| 3 | 褐色    | 焼土粒子、炭化粒子、炭化物少量             | 9  | 褐色赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量             |
| 4 | 褐色赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子、焼土小ブロック少量      | 10 | 暗赤褐色  | ローム粒子、ローム小ブロック、焼土粒子、炭化粒子少量 |
| 5 | 褐色赤褐色 | 焼土粒子、焼土小ブロック少量              | 11 | 褐色    | ローム粒子、焼土粒子少量               |
| 6 | 暗赤褐色  | 焼土粒子中量、ローム粒子、焼土小ブロック、炭化粒子少量 |    |       |                            |

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径65cm程の円形で、深さは100cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は長方形状である。

### 貯蔵穴土層解説

|   |     |                            |   |     |                             |
|---|-----|----------------------------|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック、焼土粒子少量    | 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量        |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子、ローム小ブロック、焼土粒子、炭化粒子少量 | 5 | 褐色  | ローム粒子、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子、ローム小・中ブロック中量         | 6 | 褐色  | ローム粒子少量                     |

覆土 5層からなる人為堆積である。

### 土層解説

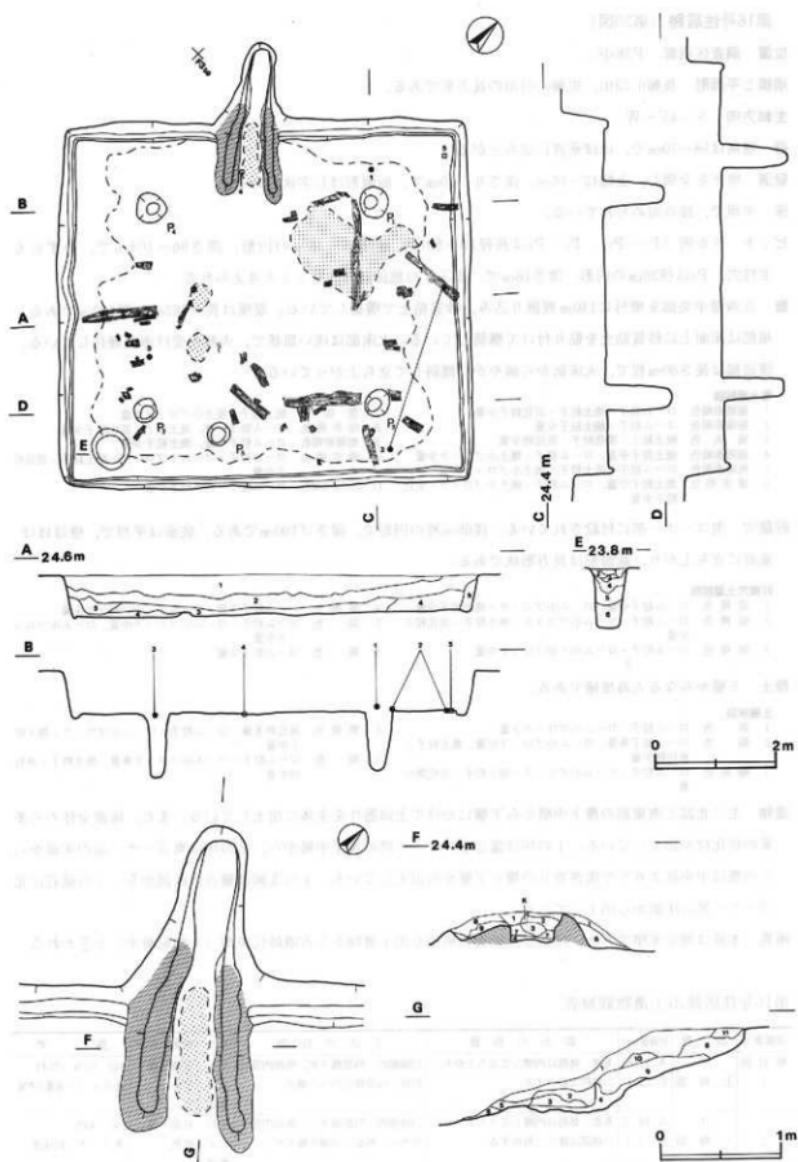
|   |     |                               |   |     |                             |
|---|-----|-------------------------------|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子、ローム小ブロック少量              | 4 | 黒褐色 | 炭化物多量、ローム粒子、ローム小ブロック、焼土粒子中量 |
| 2 | 褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子、炭化物少量 | 5 | 褐色  | ローム粒子、ローム中ブロック多量、焼土粒子、炭化物中量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子、ローム小ブロック、焼土粒子、炭化物中量     |   |     |                             |

遺物 主に北部と南東部の覆土中層から下層にかけて土器器片を主体に出土している。また、床面全体から大量の炭化材が出土している。1の壺は窓と北コーナー間の覆土中層から、2の壺は東コーナー部の床面から、3の甕は中央部よりやや南西寄りの覆土下層から出土している。4の支脚は窓の火床部から、5の砥石は北コーナー部の床面から出土している。

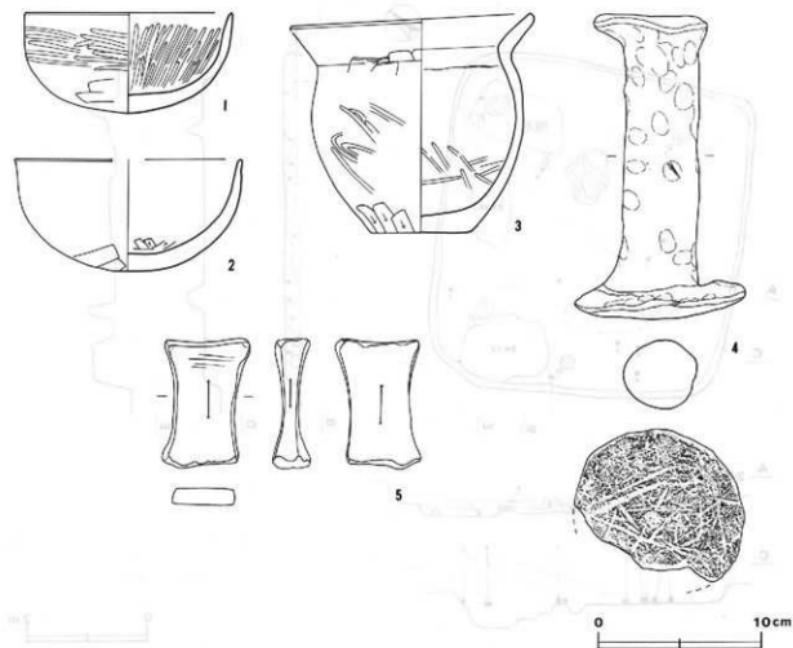
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

## 第16号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種      | 計画値(cm)          | 器形の特徴   | 手法の特徴   | 胎土・色調・焼成                | 備考                           |
|-----------|---------|------------------|---|---|-------------------------|------------------------------|
| 第31図<br>1 | 壺<br>土器 | A 12.8<br>B 6.1  | A丸底。体部は内凹して立ち上がり、口縁部は直立する。<br>B丸底。体部は内凹して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状、外側横位のヘラ磨き。<br>口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、外側ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・輝石<br>にぶい橙色<br>普通 | P46 90% PL41<br>窓・北コーナー部覆土中層 |
| 2         | 壺<br>土器 | A(14.0)<br>B 6.8 | 丸底。体部は内凹して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。                                | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、外側ヘラ削り後ナデ。                                  | 長石・石英・輝石<br>にぶい橙色<br>普通 | P47 40%<br>東コーナー部床面          |



第30図 第16号住居跡実測図



第31図 第16号住居跡出土遺物実測図

国境実測図書行館 圖版部

0 10 cm

| 図版番号      | 器種  | 計測値(cm) | 器形の特徴                     | 手法の特徴                       | 釉土・色調・焼成       | 備考            |
|-----------|-----|---------|---------------------------|-----------------------------|----------------|---------------|
| 第31図<br>3 | 甕   | A 15.0  | 平底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 口縁部内・外縁横ナデ。体部内・外縁ヘラ削り後ハク磨き。 | 長石・石英<br>にぶい橙色 | P48 100% PL42 |
|           | 土師甕 | B 13.5  |                           |                             |                | 南西寄り覆土下層      |
|           |     | C 6.0   |                           |                             |                | 普通            |

| 図版番号  | 種別 | 計測値    |       |        |        | 出土地點  | 備考              |
|-------|----|--------|-------|--------|--------|-------|-----------------|
|       |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |       |                 |
| 第31図4 | 支脚 | 18.7   | 10.5  | 4.2    | —      | 673.7 | 竈火床部 DP132 PL99 |

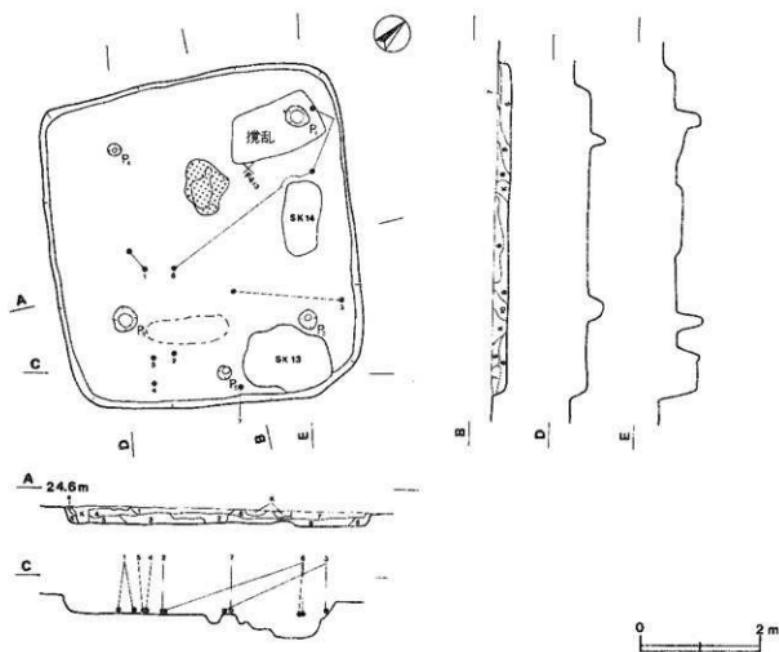
| 図版番号  | 種別 | 計測値    |       |        |       | 石質 | 出土地點     | 備考       |
|-------|----|--------|-------|--------|-------|----|----------|----------|
|       |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |    |          |          |
| 第31図5 | 砥石 | 8.0    | 5.3   | 2.4    | 93.7  | 砂岩 | 北コーナー部床面 | Q5 PL101 |

第17号住居跡（第32図）

位置 調査区南東部, F4i 3区。

重複関係 本跡は東コーナー部を第13号土坑に, P<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>間を第14号土坑に掘り込まれており, 本跡が最も古い。また, 床面全体に後世に掘り込まれたものと思われるピットが13か所ある。

規模と平面形 長軸5.40m, 短軸5.10mの方形である。



第32図 第17号住居跡実測図

主軸方向 N-51°-W

壁 高さは22~27cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径20~40cm、短径30~40cmの楕円形、深さ30~44cmで、いずれも主柱穴、P5は径20cmの円形、深さ24cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

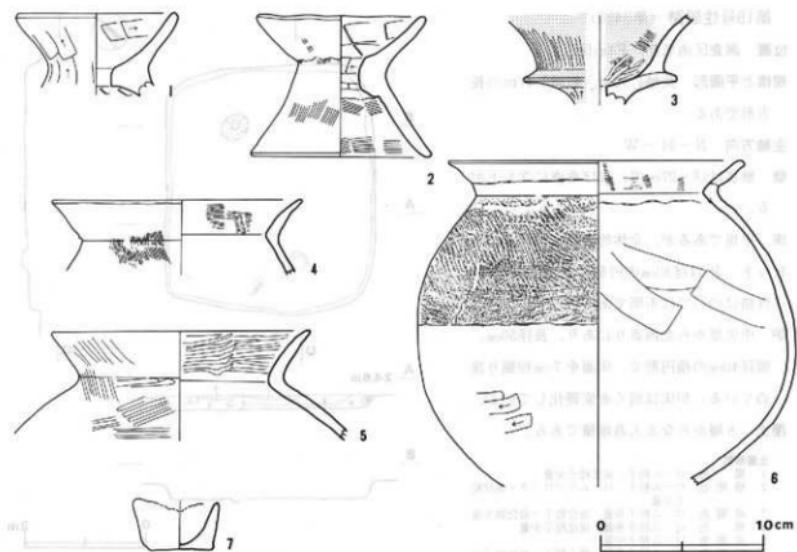
炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径90cm、短径74cmの不整楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 10層からなる人為堆積である。

| 土層解説 | 色                                    | 特徴 |
|------|--------------------------------------|----|
| 1 白  | ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量        |    |
| 2 黒  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                   |    |
| 3 喰  | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、燒土粒子・炭化物少量        |    |
| 4 褐  | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量        |    |
| 5 喰  | ローム粒子、ローム小ブロック中量                     |    |
| 6 線  | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量                   |    |
| 7 黒  | ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック、燒土粒子・炭化物少量 |    |
| 8 線  | ローム粒子・ローム小ブロック中量、燒土粒子・炭化物少量          |    |
| 9 線  | ローム粒子・ローム小ブロック、燒土粒子中量                |    |
| 10 線 | ローム小・中ブロック多量、ローム粒子中量                 |    |

遺物 西コーナー部を除く覆土下層から土器片を主体に出土している。1の器台はP3・P4間、2の器台及び7のミニチュア土器は出入り口部周辺、3の装飾器台は東コーナー部から散在した状態で、4及び5の壺は南コーナー部、6の壺は北コーナー部のいずれも覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。



第33図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種             | 計測値(cm)                            | 器形の特徴   | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成                   | 備考                                 |
|-----------|----------------|------------------------------------|---|--|----------------------------|------------------------------------|
| 第33図<br>1 | 器台<br>土師器      | A 10.0<br>B(5.1)                   | 脚部欠損。器受部は外傾して立ち上がる。器受部中央に貫通孔を穿つ。<br>口縁部外削ぎ。       | 器受部外面継位のヘラ削り。                                      | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P49 50% PL42<br>P3-P4間覆土下層<br>二次焼成 |
| 2         | 器台<br>土師器      | A 10.4<br>B 8.7<br>D 11.1<br>E 5.8 | 脚部は「人」の字状に開く。器受部は内脇気味に立ち上がる。器受部中央に<br>先に貫通孔を穿つ。   | 器受部及び体部内面横位。外部継位<br>のハケ目整形後ヘラナダ。                   | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通  | P50 90% PL42<br>出入り口部周辺覆土下層        |
| 3         | 装飾器台<br>土師器    | B(5.4)                             | 器受部。器受部は下位に段をもち、外反して立ち上がる。器受部中央に<br>貫通孔を穿つ。       | 器受部内・外側ハケ目整形後ヘラ削<br>き。内・外面赤彩。                      | 長石・石英<br>橙色<br>普通          | P54 20%<br>東コーナー部覆土下層              |
| 4         | 壺<br>土師器       | A 15.4<br>B(4.6)                   | 口縁部。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。                          | 口縁部内横位のハケ目整形。外面<br>継位のハケ目整形後横ナダ。頸部外<br>面継位のハケ目整形。  | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通       | P51 10%<br>南コーナー部覆土下層              |
| 5         | 壺<br>土師器       | A 15.8<br>B(6.7)                   | 口縁部。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。                          | 口縁部内面横位のハケ目整形。外面<br>継位のハケ目整形後横ナダ。頸部外<br>面継位のハケ目整形。 | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通       | P52 10%<br>南コーナー部覆土下層              |
| 6         | 壺<br>土師器       | A 18.1<br>B(19.9)                  | 底部欠損。体部は球状で中位に最大<br>径をもつ。口縁部は頸部から「く」<br>の字状に外反する。 | 口縁部内・外側横位のハケ目整形後<br>横ナダ。体部内面ヘラナダ。外面斜<br>位のハケ目整形。   | 長石・石英<br>黒色<br>普通          | P53 60% PL42<br>北コーナー部覆土下層         |
| 7         | ミニチュア土器<br>土師器 | A 5.3<br>B 3.2<br>C 3.9            | 鉢形。平底。体部はやや外傾して立<br>ち上がり。口縁部に至る。                  | 口縁部内・外側横位。   | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P55 70% PL41<br>出入り口部周辺覆土下層        |

### 第18号住居跡（第34図）

位置 調査区南東部, F4g:区。

規模と平面形 長軸4.10m, 短軸3.47mの長

方形である。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は18~27cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

ピット P<sub>1</sub>は径30cmの円形、深さ12cmである。

性格については不明である。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径50cm,

短径40cmの楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は弱く赤変硬化している。

覆土 8層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

|   |     |                       |
|---|-----|-----------------------|
| 1 | 褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量          |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子・炭化物少量    |
| 4 | 褐色  | ローム粒子多量、炭化粒子少量        |
| 5 | 黒褐色 | ローム粒子中量               |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子少量   |
| 7 | 褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量    |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量      |

遺物 土師器の瓦片が少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

### 第19号住居跡（第35図）

位置 調査区南部, F3i:区。

規模と平面形 長軸4.95m, 短軸4.78mの方形である。

主軸方向 N-48°-W

壁 壁高は24~31cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺がよく踏み固められている。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径30~40cm, 短径30~35cmの円形、深さ16~54cmで、いずれも主柱

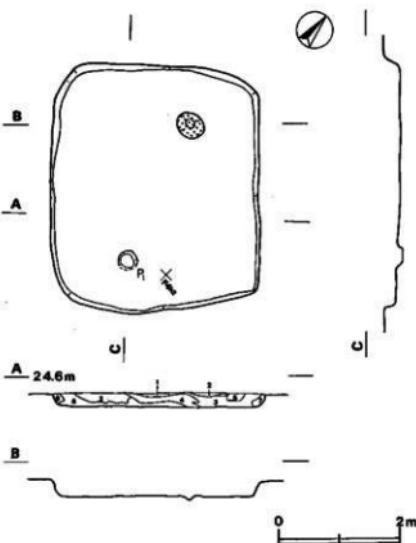
穴、P<sub>5</sub>は径30cmの円形、深さ10cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径88cm、短径60cmの楕円形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

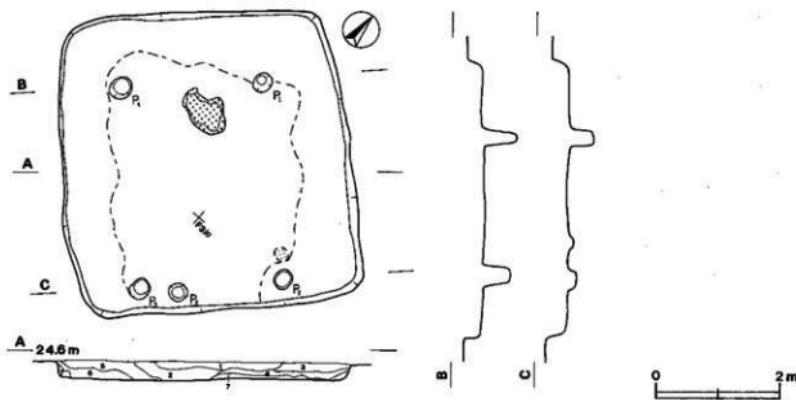
覆土 7層からなる自然堆積である。

#### 土層解説

|   |     |                    |
|---|-----|--------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量   |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量   |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量       |
| 5 | 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量     |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量       |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量            |



第34図 第18号住居跡実測図



第35図 第19号住居跡実測図

遺物 土器器の麥片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

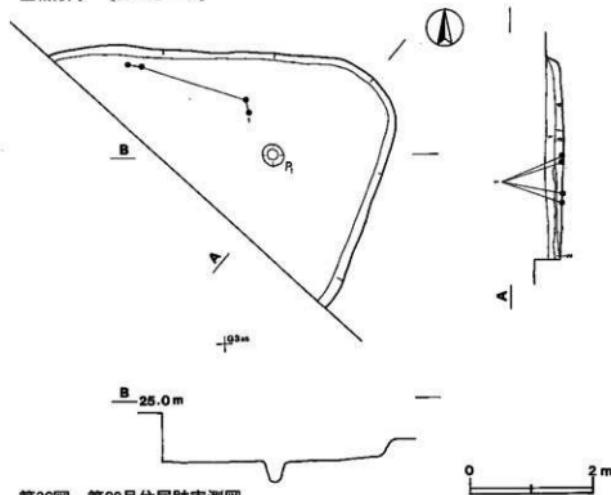
所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

#### 第20号住居跡（第36図）

位置 調査区南端部、G3as区。

規模と平面形 南西部が調査区外に延びているため正確な規模や平面形は不明である。

主軸方向 [N - 72° - W]



第36図 第20号住居跡実測図

壁 壁高は29cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦であるが、踏み固めは弱い。

ピット  $P_1$ は径36cmの円形、深さ35cmで、規模や配置  
から主柱穴と考えられる。

覆土 4層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

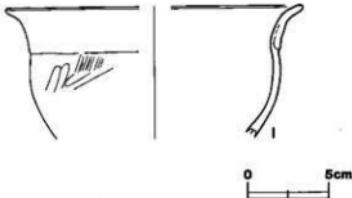
|   |       |   |
|---|-------|---|
| 1 | 褐 色   | ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼<br>土粒子・炭化粒子・炭化物少量              |
| 2 | 暗 褐 色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒<br>子・炭化物中量                     |
| 3 | 黒 褐 色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼<br>土粒子・炭化粒子少量                  |
| 4 | 褐 色   | ローム粒子・ローム小ブロック中量、ロ<br>ーム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・<br>炭化物少量 |

遺物 北壁寄りの床面から甕片を主体とする土師器片が少量出土している。1の甕は北壁中央部付近の床面か  
ら出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第20号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号   | 器 種   | 計測値(cm) | 器 形 の 特 徴        | 手 法 の 特 徵                       | 胎 土・色調・模様  | 備 考                  |
|--------|-------|---------|------------------|---------------------------------|------------|----------------------|
| 第 37 図 | 更     | A(18.1) | 口縁部片。口縁部は頭部から外反す | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面脛<br>位のハケ目整形後ナデ。 | 長石・石英・スコリア | P56 10% PL42         |
| 1      | 土 師 器 | B(8.2)  | る。               |                                 | 黒色<br>普通   | 北壁中央部付近床面<br>体部外面塗付着 |



第37図 第20号住居跡出土遺物実測図

#### 第21号住居跡（第38図）

位置 調査区南部、F3b区。

重複関係 本跡は北コーナー部が第23号住居跡を、西コーナー部が第27号住居跡を掘り込んでおり、本跡が最  
も新しい。

規模と平面形 長軸8.88m、短軸8.77mの方形である。

主軸方向 N-49°-W

壁 壁高は20~32cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が特に踏み固められている。

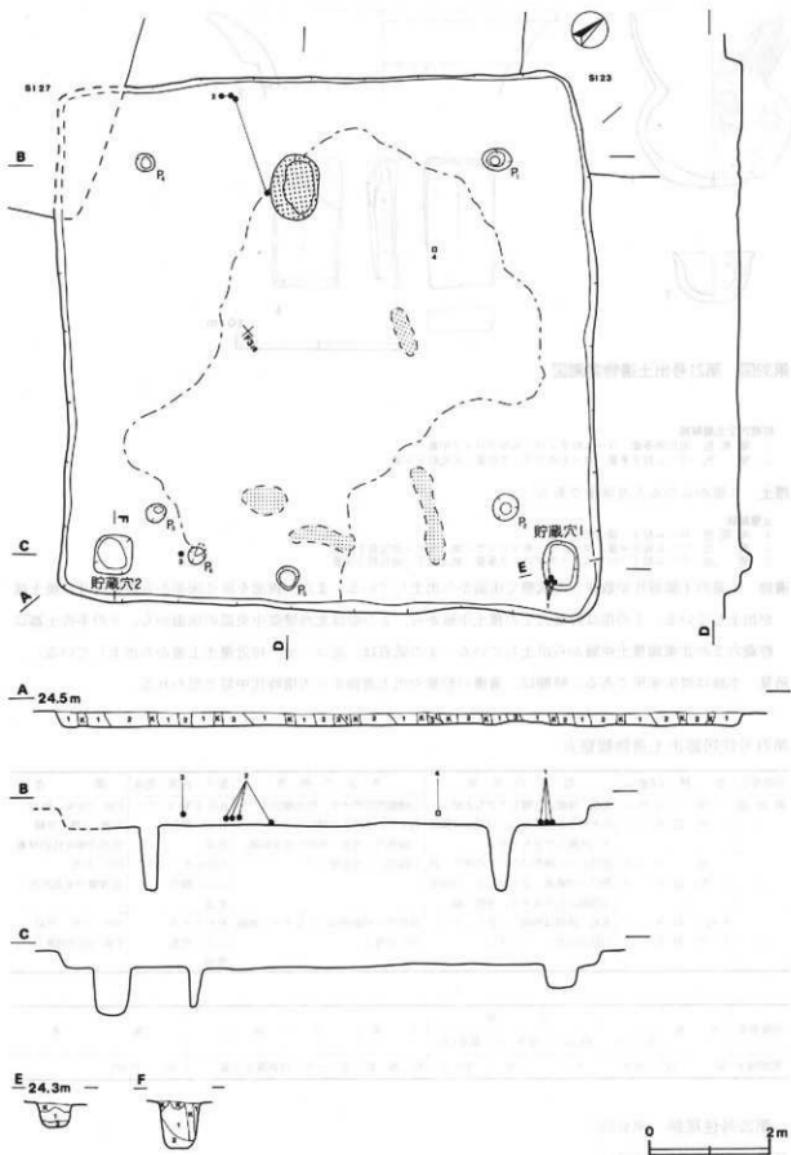
ピット 6か所 ( $P_1$ ~ $P_6$ )。 $P_1$ ~ $P_4$ は長径30~50cm、短径30~40cmの円形ないし稍円形、深さ95~105cmで、  
いずれも主柱穴、 $P_5$ は径38cmの円形、深さ24cmで、出入り口施設に伴うピット、 $P_6$ は径38cmの円形、深さ65  
cmで、補助柱穴と考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径107cm、短径78cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火  
熱を受け赤変色化している。

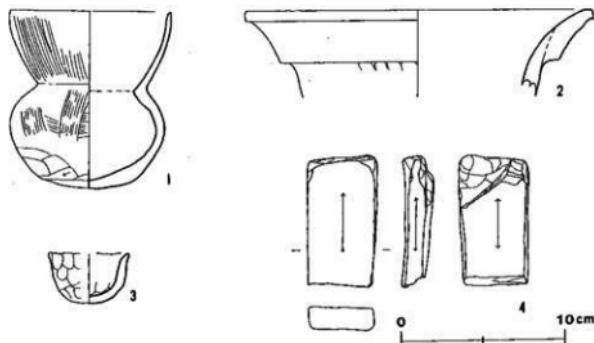
貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は東コーナー部に付設されている。長軸76cm、短軸56cmの隅丸長方形で、深さは40  
cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形状は逆台形状である。貯蔵穴2は南コーナー部に  
付設されている。一辺64cm程の隅丸方形で、深さは75cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、  
断面形状は長方形状である。

#### 貯蔵穴1 土層解説

|   |       |                           |
|---|-------|---------------------------|
| 1 | 暗 褐 色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量、炭化粒子少量   |
| 2 | 褐 色   | ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、炭化粒子少量 |



第38図 第21号住居跡実測図



第39図 第21号出土遺物実測図

貯蔵穴2土層解説

1 線 極 色 泥化物多量、ローム粒子・ローム中ブロック中量  
2 線 色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

1 線 極 色 ローム粒子・焼土粒子少量  
2 線 色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
3 線 色 ローム粒子・ローム中・中ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 少量の土器片が散在した状態で床面から出土している。また、西部を除く床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の壺は貯蔵穴1の覆土中層から、2の壺は北西壁際中央部の床面から、3の手捏土器は貯蔵穴2の北東側覆土中層から出土している。4の砥石は、北コーナー付近覆土上層から出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期と思われる。

第21号住居跡出土遺物観察表

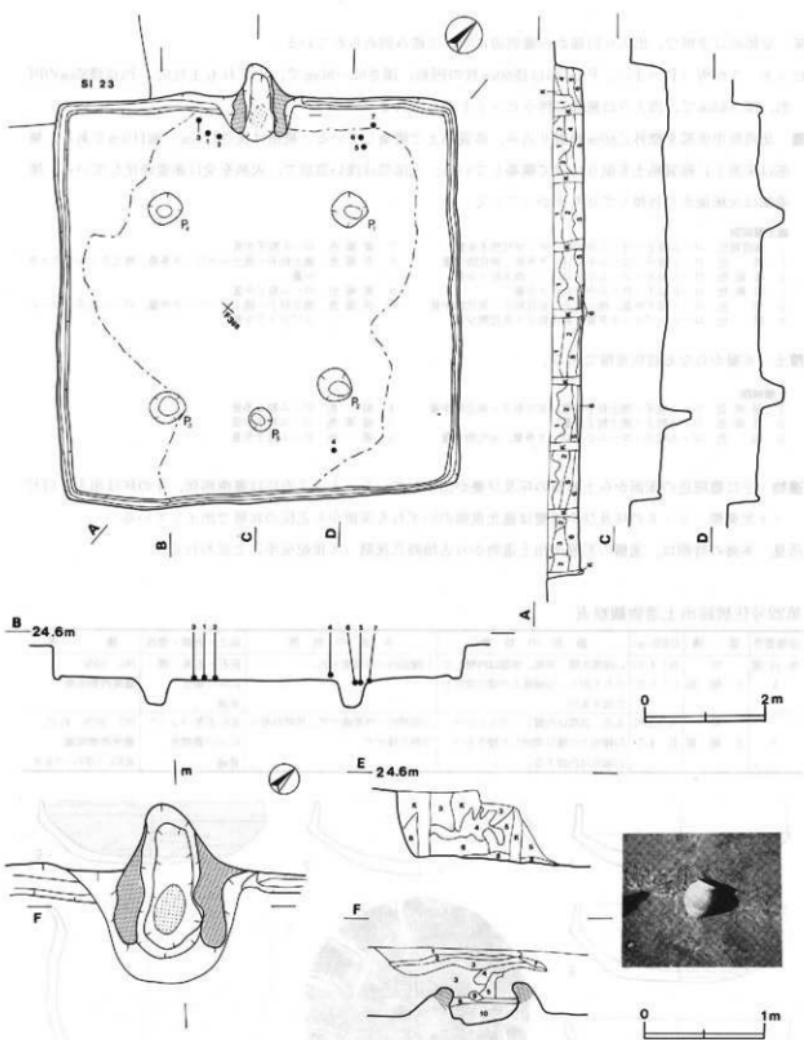
| 図版番号                | 器種   | 剖面図(cm)           | 器形の特徴   | 手法の特徴   | 胎土・色調・焼成                  | 備考                                     |
|---------------------|------|-------------------|---|---|---------------------------|--|
| 第39図<br>1<br>土<br>器 | 壺    | A 10.0<br>B 11.0  | 丸底。体部は内側して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は頸部から内側して立ち上がる。    | 口縁部内側横ナデ、外縁継続のハケ<br>目並形。体部下半横位のハナナ。<br>口縁部内・外混、体部外面赤彩痕。 | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P59 100% PL42<br>貯蔵穴1覆土中層<br>体部内面炭化物付着 |
| 2<br>上<br>土<br>器    | 壺    | A 21.8<br>B (5.3) | 頭部から口縁部にかけての破片。頭部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部は頸部から外反する。有段口縁。 | 口縁部内・外面横ナデ。   | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P58 10%<br>北西壁際中央部床面                   |
| 3<br>手<br>土<br>器    | 手捏土器 | A (5.1)<br>B 3.1  | 丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。                    | 体部内・外面指頭によるナデ。指痕<br>圧痕が残る。                              | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P60 80% PL41<br>貯蔵穴2北東側覆土中層            |

| 図版番号  | 種別 | 計測値    |       |        |       | 石質  | 出土地点        | 備考       |
|-------|----|--------|-------|--------|-------|-----|-------------|----------|
|       |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |     |             |          |
| 第39図4 | 砥石 | (8.0)  | 4.3   | 1.9    | 103.1 | 粘板岩 | 北コーナー付近覆土上層 | Q7 PL101 |

第22号住居跡（第40図）

位置 調査区南部, F3fs区。

重複関係 本跡は西コーナー部が第23号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。



第40図 第22号住跡実測図

規模と平面形 長軸6.72m、短軸6.56mの方形である。

主軸方向 N-41°-W

壁 壁高は47~56cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10~15cm、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、出入り口部から竈周辺にかけて踏み固められている。

ピット 5か所 ( $P_1 \sim P_5$ )。 $P_1 \sim P_4$ は径60cm程の円形、深さ62~80cmで、いずれも主柱穴、 $P_5$ は径35cmの円形、深さ48cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部を壁外に60cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ125cm、幅110cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

|        |                         |        |                                 |
|--------|-------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子少量   | 7 黄褐色  | ローム粒子少量                         |
| 2 黒褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック多量、炭化物少量  | 8 赤褐色  | 焼土粒子・焼土小ブロック多量、焼土中・大ブロック中量      |
| 3 暗褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量   | 9 黄褐色  | ローム粒子少量                         |
| 4 暗褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック少量        | 10 暗褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック中量、ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 黑褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量 |        |                                 |
| 6 紫褐色  | ローム小ブロック多量、炭化粒子・炭化物少量   |        |                                 |

覆土 6層からなる自然堆積である。

#### 土層解説

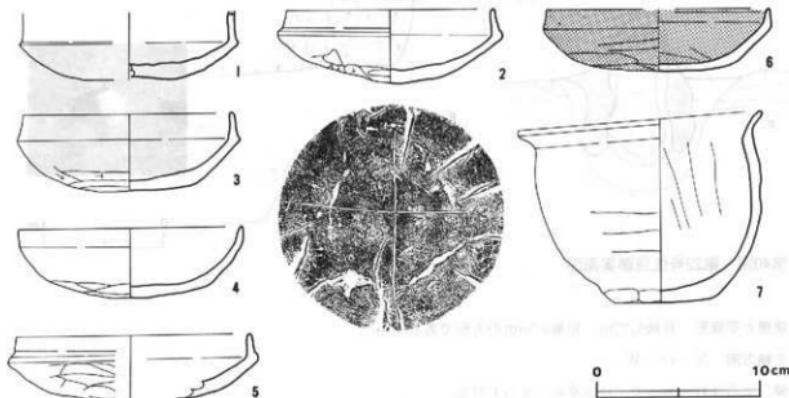
|       |                         |       |         |
|-------|-------------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・炭化物少量 | 4 紫褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 黑褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量            | 5 塔褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 紫褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量、炭化物中量  | 6 紫褐色 | ローム粒子多量 |

遺物 主に竈周辺の床面から土師器の壊及び甕が出土している。1~3の壊は竈南西側、4の壊は出入り口ビット北東側、5・6の甕及び7の甕は竈北東側のいずれも床面から正位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第22号住居跡出土遺物観察表

| 国版番号           | 器種 | 計測値(cm)          | 器形の特徴   | 手法の特徴                       | 胎土・色調・焼成                   | 備考                                  |
|----------------|----|------------------|---|-----------------------------|----------------------------|-------------------------------------|
| 第41 国<br>1 土師器 | 环  | B(4.1)           | 口縁部欠損。平底。体部は内側して立上がり。口縁部との境に突出した粒をもつ。         | 口縁部内・外面横ナデ。                 | 長石・石英・鐵<br>にぶい褐色<br>普通     | P61 40%<br>竈南西側床面                   |
| 2 土師器          | 坏  | A[12.8]<br>B 4.5 | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部との境に突出した粒をもつ。<br>口縁部は内縮する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ<br>テ削り後ナデ。 | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P65 90% PL42<br>竈南西側床面<br>底部に十字のヘラ印 |



第41図 第22号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号      | 器種         | 計測値(cm)                   | 器形の特徴   | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成                 | 備考                             |
|-----------|------------|---------------------------|---|--|--------------------------|--------------------------------|
| 第41図<br>3 | 坏<br>土 鏡 器 | A(12.9)<br>B 4.9          | 丸底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部との境に棱をもつ。口縁部は<br>やや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナダ。体部外面へ<br>ラ削り後ナダ。                    | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通    | P65 90% PL42<br>竈西南側床面         |
|           | 坏<br>土 鏡 器 | A 13.6<br>B 4.3           | 口縁部は直立する。                                       | 口縁部内・外面横ナダ。体部下半部<br>ヘラ削り。                      | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通    | P62 70% PL42<br>出入り口ピット北東側床面   |
| 5         | 坏<br>土 鏡 器 | A 14.4<br>B(4.0)          | 底部欠損。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部との境に棱をもつ。口縁部は<br>内傾する。 | 口縁部内・外面横ナダ。体部外縁へ<br>ラ削り。                       | 長石・石英・スコリア<br>浅黄褐色<br>普通 | P63 60% PL42<br>竈北東側床面         |
|           | 坏<br>土 鏡 器 | A(13.7)<br>B 3.8          | 丸底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部との境に棱をもつ。口縁部は<br>直立する。   | 口縁部内・外面横ナダ。体部外縁へ<br>ラ削りナダ。内・外面黒色処理。<br>輪積痕が残る。 | 長石・石英<br>黒色<br>普通        | P64 90% PL43<br>竈北東側床面         |
| 7         | 坏<br>土 鏡 器 | A 14.9<br>B 11.5<br>C 5.3 | 平底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部は外反する。                   | 口縁部内・外面横ナダ。体部外縁へ<br>ラ削り。                       | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通     | P67 90% PL42<br>竈北東側床面<br>二次焼成 |

### 第23号住居跡（第42図）

位置 調査区南部, F3f区。

重複関係 本跡は北部を第24号住居跡に、東コーナー部を第22号住居跡に、南部を第21号住居跡にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸6.10m、短軸4.48mの長方形である。

主軸方向 N-40°-E

壁 壁高は10~18cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦であるが、軟らかい。

ピット P1は径37cmの円形、深さ27cmで、主柱穴と考えられる。

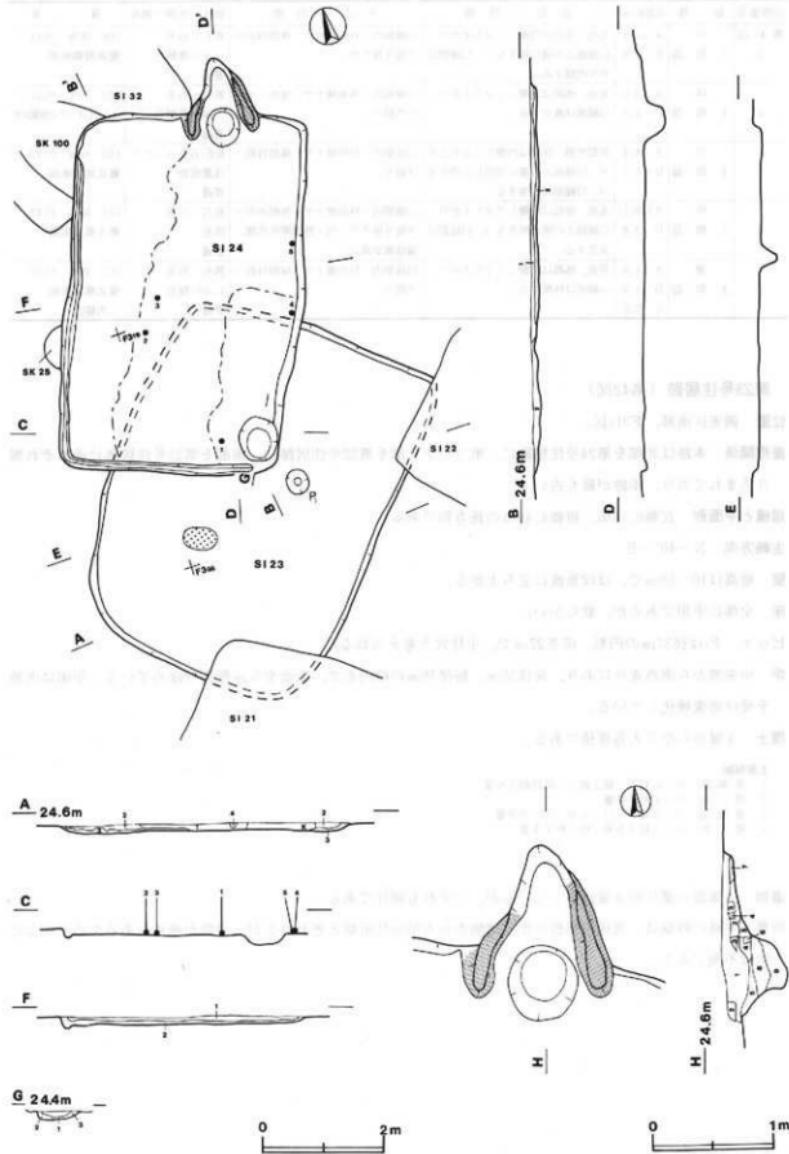
炉 中央部から南西寄りにあり、長径55cm、短径38cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火然を受け赤変硬化している。

覆土 4層からなる人為堆積である。

| 土層解説 |                       |
|------|-----------------------|
| 1    | 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2    | 褐色 ローム粒子多量            |
| 3    | 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量  |
| 4    | 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量     |

遺物 土器部の壺片が少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。



第42図 第23・24号住居跡実測図

#### 第24号住居跡（第42図）

位置 調査区南部, F3e1区。

重複関係 本跡は第25・100号土坑の上に構築し、北部が第32号住居跡を、南部が第23号住居跡を掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸5.84m、短軸3.88mの長方形である。

主軸方向 N-20°-E

壁 壁高は6-16cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南及び西壁下に確認され、上幅12cm程、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 北西壁中央部を壁外に90cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ125cm、幅125cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状をしている。煙道部は火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

##### 竈土層解説

|   |     |                            |   |       |                                 |
|---|-----|----------------------------|---|-------|---------------------------------|
| 1 | 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量        | 6 | 黒 極 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量               |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・焼土中・ブロック少量      | 7 | 暗赤褐色  | 焼土粒子・焼土小ブロック多量、焼土中・大ブロック中量      |
| 3 | 暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土中・ブロック少量          | 8 | 暗赤褐色  | 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量     |
| 4 | 灰褐色 | 焼土粒子中量、焼土中・大ブロック少量、ローム粒子少量 | 9 | 暗赤褐色  | 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化材中量、ローム粒子少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |   |       |                                 |

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長軸72cm、短軸65cmの隅丸長方形で、深さは18cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

##### 貯蔵穴土層解説

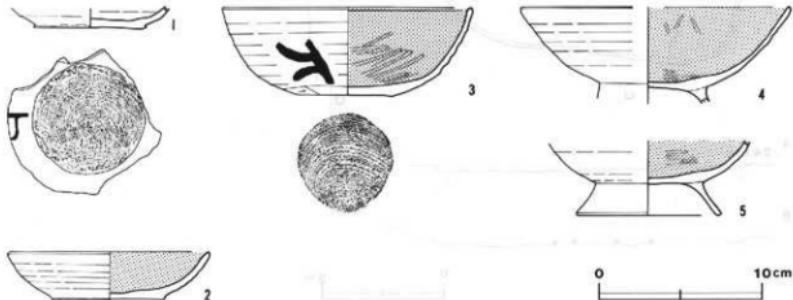
|   |     |                         |   |     |                |
|---|-----|-------------------------|---|-----|----------------|
| 1 | 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量       | 3 | 褐 色 | ローム粒子中量・炭化粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子少量 |   |     |                |

覆土 2層からなる人為堆積である。

##### 土層解説

|   |     |                    |
|---|-----|--------------------|
| 1 | 褐 色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量   |
| 2 | 褐 色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック少量 |

遺物 住居跡の床面全体から土師器片が散在した状態で出土している。1の壺は貯蔵穴西側の床面から、2及び3の壺は中央部の床面から、4及び5の高台付壺は南東壁際中央部の床面から正位の状態で出土している。



第43図 第24号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第24号住居跡出土遺物観察表

| 団版番号      | 跡種            | 計測値(m)                      | 跡形の特徴                                 | 手法の特徴                                | 黏土・色調・焼成                   | 備考                                |
|-----------|---------------|-----------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 第43図<br>1 | 環<br>土 部 器    | B(1.4)<br>C 6.8             | 口縁部欠損。平底。体部は内側して立ち上がる。                | 体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。                   | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通     | P68 30% PL42<br>貯蔵穴西側床面<br>墨書き「丁」 |
| 2         | 環<br>土 部 器    | A 12.4<br>B 3.0<br>C 6.9    | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。               | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面黒色処理。底部回転糸切り。         | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通  | P69 100% PL43<br>中央部床面            |
| 3         | 環<br>土 部 器    | A 15.4<br>B 5.5<br>C 5.8    | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。               | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面黒色の過ぎ。内面黒色処理。底部回転糸切り。 | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P70 80% PL43<br>中央部床面<br>墨書き「x」   |
| 4         | 高台付環<br>土 部 器 | A(16.6)<br>B(5.9)<br>E(1.1) | 高台一部欠損。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外側する。         | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面黒き。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。  | 長石・石英・スコリア<br>明黄褐色<br>普通   | P71 40% PL43<br>南東壁際中央部床面         |
| 5         | 高台付环<br>土 部 器 | B(4.6)<br>D 8.9<br>E 2.0    | 口縁部欠損。「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部は内側して立ち上がる。 | 体部内面黒き。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。             | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通  | P72 30%<br>南東壁際中央部床面              |

第25号住居跡（第44図）

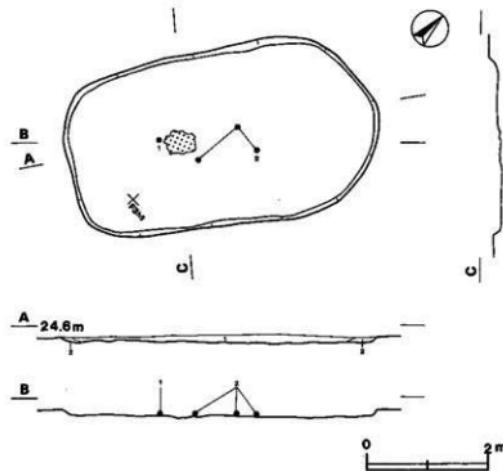
位置 調査区南部, F3gs区。

規模と平面形 長軸5.04m, 短軸2.72mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-125°-W

壁 壁高は14cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。



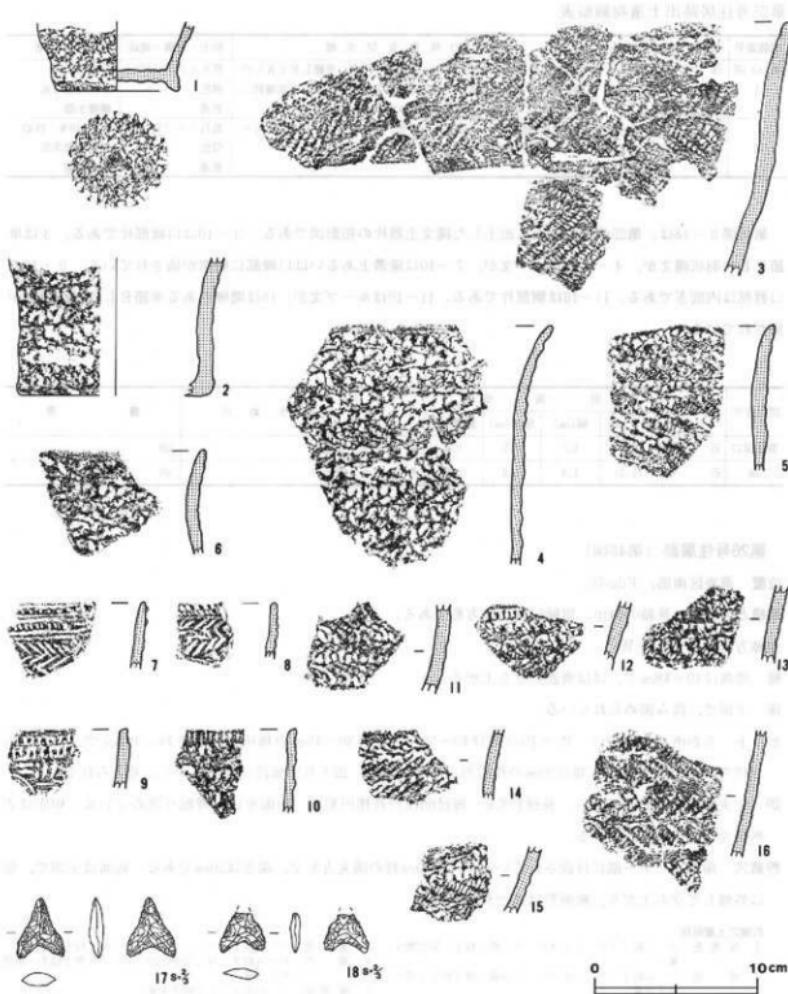
第44図 第25号住居跡実測図

炉 中央部から南西寄りにあり、長径55cm、短径40cmの不整円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 2層からなる人為堆積である。

#### 土壤解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム中・大ブロック少量
- 2 黑色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・純土粒子少量



第45図 第25号住居跡出土遺物実測・拓影図

遺物 繩文土器の深鉢片や石器に伴って、チャート剝片185点及びメノウ剝片8点が床面全体から出土している。1及び2の深鉢片は、1が炉南西側、2は炉北東側の床面から、17及び18の石器は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（二ツ木式期）と思われる。

第25号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種        | 直従(m)             | 器形の特徴及び文様  | 地質・色調・焼成            | 備考                             |
|-----------|-----------|-------------------|--|---------------------|--------------------------------|
| 第45図<br>1 | 縄文土器<br>鉢 | B(4.3)<br>C 7.5   | 底部から胴部にかけての鉢片。上げ底の平底。単節LRとRLの末端をループさせた部分で羽状繩文が施されている。底部端部には単節RLで一周した繩文が施されている。 | 長石・スコリア<br>橙色<br>普通 | P73 10%<br>炉南西側床面<br>繩文土器      |
|           |           | B(8.5)<br>C(12.0) | 底部から胴部にかけての鉢片。平底。単節LRとRLの末端をループさせた部分で羽状繩文が施されている。                              | 長石・スコリア<br>橙色<br>普通 | P74 10% PL43<br>炉北東側床面<br>繩文土器 |
| 2         | 縄文土器<br>鉢 | B(8.5)<br>C(12.0) | 底部から胴部にかけての鉢片。平底。単節LRとRLの末端をループさせた部分で羽状繩文が施されている。                              | 長石・スコリア<br>橙色<br>普通 | P74 10% PL43<br>炉北東側床面<br>繩文土器 |

第45図3～16は、第25号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。3～10は口縁部片である。3は單節RLの羽状繩文が、4～6はループ文が、7～10は陰帯上あるいは口縁部に刺突が施されている。9・10の口唇部は内削ぎである。11～16は胴部片である。11～15はループ文が、16は間隔のある単節RLの羽状繩文が施されている。

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        | 石質    | 出土地点 | 備考  |    |
|--------|----|--------|-------|--------|-------|------|-----|----|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) |       |      |     |    |
| 第45図17 | 石器 | 1.8    | 1.5   | 0.5    | 0.6   | チャート | 覆土中 | 08 |
| 18     | 石器 | (1.2)  | 1.4   | 0.3    | (0.3) | チャート | 覆土中 | 09 |

### 第26号住居跡（第46図）

位置 調査区南部、F2gs区。

規模と平面形 長軸6.84m、短軸6.58mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は40～48cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

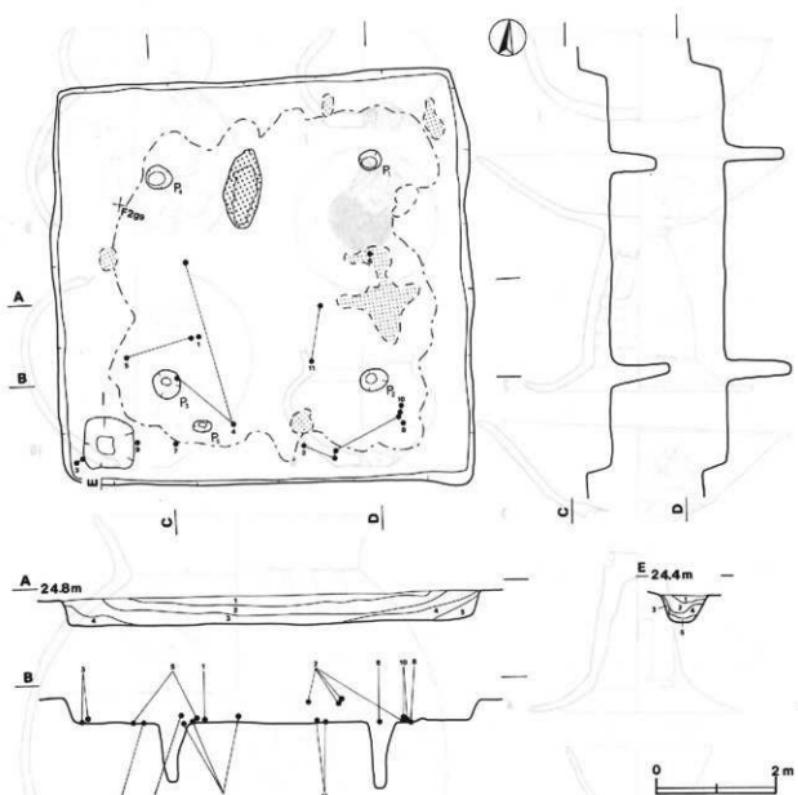
ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は長径40～50cm、短径30～45cmの楕円形、深さ78～107cmで、いずれも主柱穴、P5は長径30cm、短径20cmの楕円形、深さ47cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北寄りにあり、長径128cm、短径60cmの長楕円形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。一边80cm程の隅丸方形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層辨別

|   |     |                             |   |    |                             |
|---|-----|-----------------------------|---|----|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量   | 3 | 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量       |
| 2 | 褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック中量・焼土粒子・炭化物少量 | 4 | 褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化物少量 |



第46図 第26号住居跡実測図

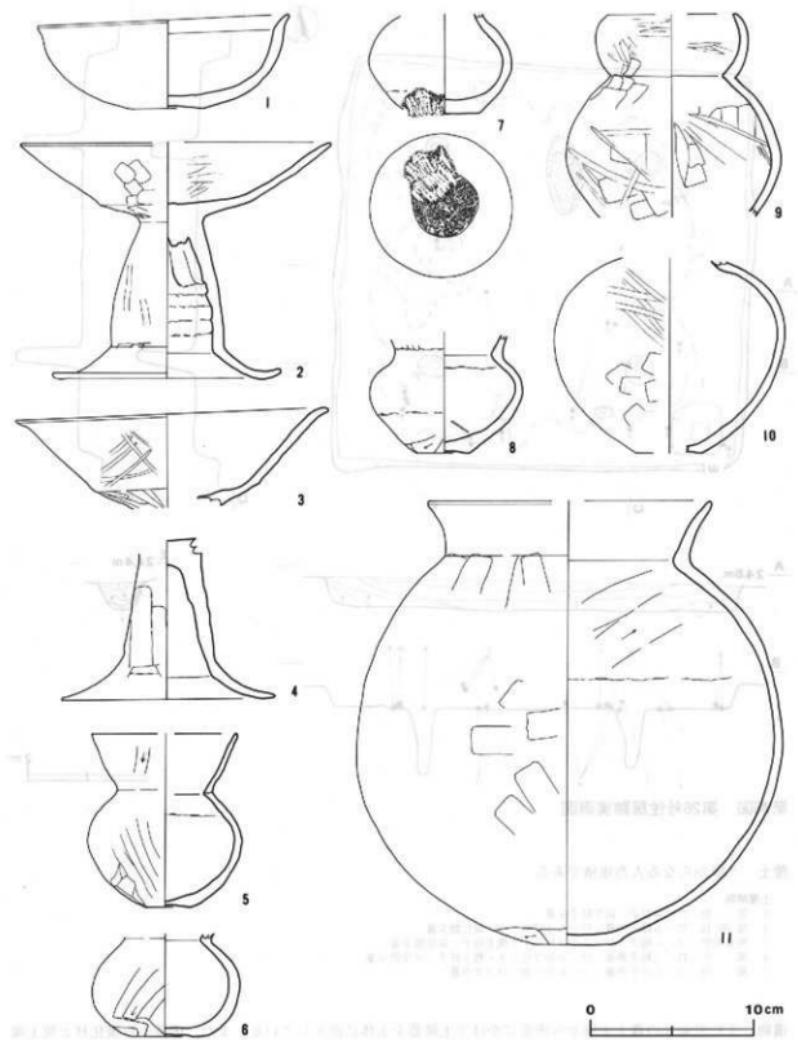
覆土 5層からなる人为堆積である。

土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・燒土粒子・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・燒土粒子・炭化物少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック少量

遺物 主に南東部の覆土中層から床面にかけて土師器を主体に出土している。また、床面から炭化材と焼土塊が出土している。1の壺、4の高壺及び5の壺はP<sub>3</sub>周辺の覆土下層から、2の高壺は南西壁中央部の覆土上層から、3の高壺は南西コーナー部の覆土下層から、6の壺はP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>間の床面から、7の壺は貯蔵穴東側の覆土中層から、9の壺は貯蔵穴東側の床面から、8の壺及び10の壺は南東コーナー部の床面から、11の壺は中央部の床面から出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀中葉）と思われる。



第47図 第26号住居跡出土遺物実測図

本図は、第26号住居跡から出土した遺物の実測図である。図中の各部は、次の如きである。  
 1. 楕円形の底面を有する大口縁付鉢。内側に斜線が施されている。  
 2. 鉢の底面と、その他の部分。  
 3. 鉢の底面と、その他の部分。  
 4. 鉢の底面と、その他の部分。  
 5. 鉢の底面と、その他の部分。  
 6. 鉢の底面と、その他の部分。  
 7. 圓形の底面。  
 8. 鉢の底面と、その他の部分。  
 9. 鉢の底面と、その他の部分。  
 10. 鉢の底面と、その他の部分。  
 11. 大きな圓形の底面。

第26号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種  | 計測値(cm) | 器形の特徴                                    | 手法の特徴                         | 胎土・色調・焼成             | 備考  |
|-----------|-----|---------|--|-------------------------------|----------------------|---|
| 第47図<br>1 | 壺   | A 15.6  | 中央がやや凹む平底。体部は内側で立ち上がり、口縁部は外反する。          | 口縁部内・外面横ナデ。                   | 長石・石英・スコリア<br>褐色     | P75 60% PL43<br>P <sub>3</sub> 周辺覆土下層         |
|           | 土師器 | B 5.7   | C 4.4                                    | 口縁部内面に縫をもつ。                   | 普通                   |   |
|           |     |         |  |                               |                      |   |
| 2         | 壺   | A(19.1) | 脚部はラッパ状に開く。壺部は外傾して立ち上がる。壺部外腹下半に縫をもつ。     | 口縁部内面へラ磨き、外腹へラナデ。脚部外腹下半に縫をもつ。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色      | P76 70% PL43<br>南西壁中央部覆土上層                    |
|           | 土師器 | B 14.6  | D 14.1                                   |                               | 普通                   |   |
|           |     | E 9.7   |  |                               |                      |   |
| 3         | 壺   | A 19.2  | 脚部欠損。壺部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。壺部外腹下半に縫をもつ。  | 口縁部内・外面横ナデ。壺部外腹へラ磨き、下半へラ削り。   | 長石・石英<br>にぶい赤褐色      | P77 40%<br>南西コーナー部覆土下層                        |
|           | 土師器 | B(6.0)  |  |                               | 普通                   |   |
| 4         | 壺   | D 13.1  | 壺部欠損。脚部はラッパ状に開く。                         | 脚部外腹縫位。内面横ナデのヘラナデ。            | 長石・石英<br>にぶい黄褐色      | P78 40%<br>P <sub>3</sub> 周辺覆土下層              |
|           | 土師器 | E 9.9   |  | 脚部内・外面横ナデ。                    | 普通                   |   |
|           |     |         |  |                               |                      |   |
| 5         | 壺   | A(9.0)  | 中央がやや凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外腹縫位のヘラ削り後へラナデ。  | 長石・石英<br>にぶい黄褐色      | P79 70% PL43<br>P <sub>3</sub> 周辺覆土下層         |
|           | 土師器 | 10.7    | C 2.8                                    |                               | 普通                   |   |
|           |     |         |  |                               |                      |   |
| 6         | 壺   | B(6.3)  | 口縁部欠損。壺部は丸底であるが中央がやや凹む。体部は球状で最大径を下位にもつ。  | 体部外腹縫位のヘラ削り後へラナデ。             | 長石・石英・スコリア<br>褐色     | P80 80%<br>P <sub>1</sub> ・P <sub>2</sub> 間床面 |
|           | 土師器 | C 4.6   |  |                               | 普通                   |   |
|           |     |         |  |                               |                      |   |
| 7         | 壺   | B(6.1)  | 口縁部欠損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。                | 体部外腹縫位のヘラ削り後へラナデ。             | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色  | P81 70%<br>防護穴東側覆土中層                          |
|           | 土師器 | C 4.2   |  |                               | 普通                   |   |
|           |     |         |  |                               |                      |   |
| 8         | 壺   | B(7.2)  | 口縁部欠損。平底。体部は球状で最大径を上位にもつ。                | 体部外腹へラ削り後へラナデ。                | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色 | P82 70% PL43<br>南東コーナー部床面                     |
|           | 土師器 | C 3.3   |  |                               | 普通                   |   |
|           |     |         |  |                               |                      |   |
| 9         | 壺   | A(8.0)  | 底部欠損。体部は内側で立ち上がる。口縁部は底部から内側で立ち上がる。       | 口縁部内・外腹へラ磨き。体部外腹縫位のヘラナデ後へラ磨き。 | 長石・石英<br>浅黃褐色        | P83 80% PL43<br>防護穴東側床面                       |
|           | 土師器 | B(12.4) |  |                               | 普通                   |   |
| 10        | 壺   | B(12.0) | 口縁部欠損。体部は内側で立ち上がる。                       | 体部外腹下半縫位のヘラ削り後へラナデ。上半へラ磨き。    | 長石・石英<br>にぶい橙色       | P84 70% PL43<br>南東コーナー部床面                     |
|           | 土師器 | C(4.0)  | がる。                                      |                               | 普通                   |   |
|           |     |         |  |                               |                      |   |
| 11        | 甕   | A(17.5) | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は底部から「く」の状に外反する。   | 口縁部内・外面横ナデ。体部外腹縫位のヘラ削り後へラナデ。  | 長石・石英<br>にぶい褐色       | P85 65% PL43<br>中央部床面                         |
|           | 土師器 | B 27.3  |  |                               | 普通                   |   |
|           |     | C 5.0   |  |                               |                      |   |

## 第27号住居跡（第48図）

位置 調査区南端部, F3i4区。

重複関係 本跡は東コーナー部を第21号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.04m, 短軸5.76mの方形である。

主軸方向 N-34°-W

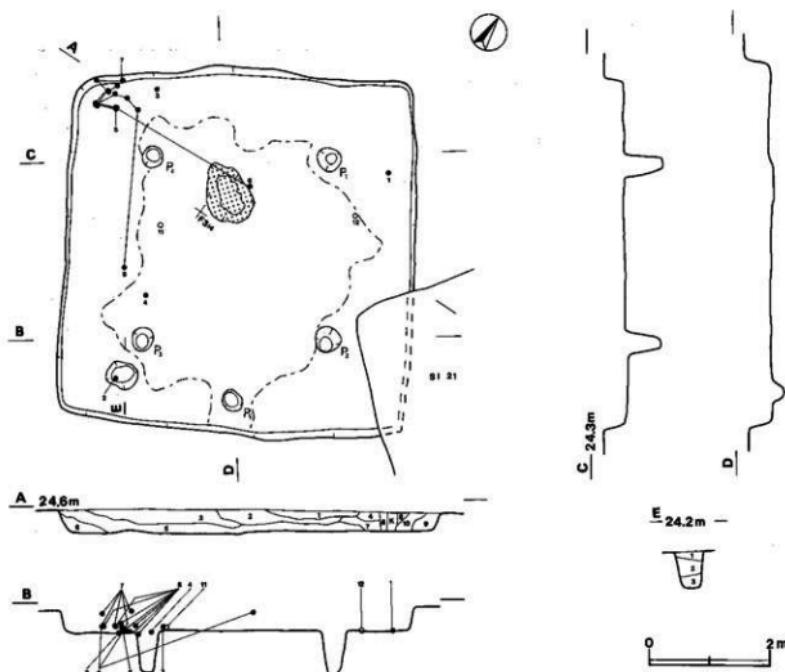
壁 壁高は36~41cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は径40cm程の円形、深さ55~70cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径32cmの円形、深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径105cm、短径70cmの不整梢円形で、床面を8cm程掘り進めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸55cm、短軸40cmの隅丸長方形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は長方形状である。



第48図 第27号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 緑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
2 緑褐色 ローム粒子中量。ローム小ブロック・炭化粒子少量

3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量。炭化粒子少量

覆土 10層からなる人為堆積である。

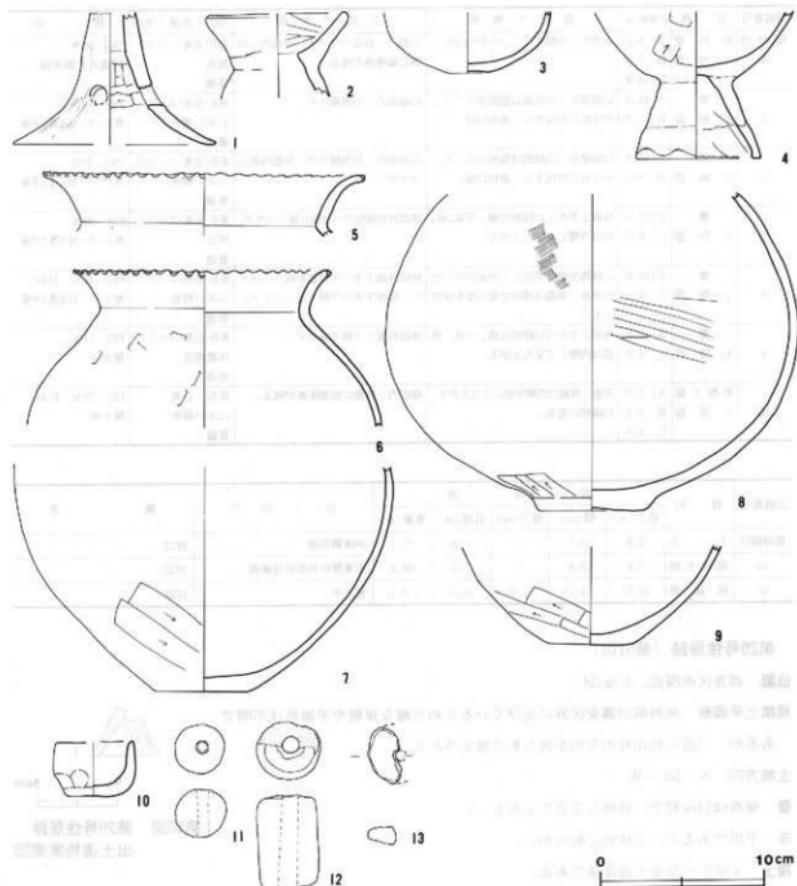
土層解説

- |   |     |                                |    |     |                               |
|---|-----|--------------------------------|----|-----|-------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量              | 6  | 褐色  | ローム粒子中量。ローム小ブロック少量            |
| 2 | 褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量                   | 7  | 褐色  | ローム粒子多量。ローム小ブロック中量。ローム中ブロック少量 |
| 3 | 褐色  | ローム粒子中量。ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8  | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量             |
| 4 | 褐色  | ローム粒子中量。ローム小ブロック少量             | 9  | 褐色  | ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量              |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量     | 10 | 褐色  | ローム粒子多量。炭化物中量。ローム小ブロック・焼土粒子少量 |

遺物 東コーナー部を除いた覆土中層から床面にかけて土器類を主体に出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の器台は北コーナー付近の床面から、2の器台は南コーナー付近の床面から出土している。3の壺及び5~8の甕は西コーナー付近からで、3は床面から、5~8は破片で覆土中層から、4の台付甕は貯蔵穴北側の床面から出土している。9の甕及び10の手捏土器は覆土中から出土している。

11の土玉と12の管状土錐は、11が炉南側、12は北東壁中央部寄りの床面から、それぞれ出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。



第49図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種        | 計測値(cm)           | 器形の特徴                                   | 手法の特徴                            | 胎土・色調・焼成                    | 備考                           |
|-----------|-----------|-------------------|---|----------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 第49図<br>1 | 器台<br>土師器 | D(12.4)<br>E(8.0) | 脚部はラッパ状に開く。器受部欠損。<br>脚部に3孔を穿つ。          | 脚部外表面のヘラ磨き、内面ヘラナダ。<br>器部内・外面横ナダ。 | 長石・石英、雪花<br>北コーナー付近床面<br>普通 | P87 40%                      |
| 2         | 器台<br>土師器 | A(8.8)<br>B(5.2)  | 脚部欠損。器受部は外側して立ち上<br>がる。器受部中央に貫通孔を穿つ。    | 口縁内部ヘラナダ。                        | 長石・石英<br>に赤褐色<br>普通         | P86 40%<br>南コーナー付近床面<br>二次焼成 |
| 3         | 堆土<br>土師器 | B(3.8)            | 体部上半から口縁部欠損。丸底であるが中央がやや凹む。体部は内側して立ち上がる。 | 内・外表面離のため整形不明。                   | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通         | P86 30%<br>西コーナー付近床面<br>二次焼成 |

| 図版番号      | 器種   | 計測値(cm)                   | 器形の特徴                                | 手法の特徴                            | 胎土・色調・焼成                  | 備考                          |
|-----------|------|---------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 第49図<br>4 | 台付 瓢 | B (9.1)                   | 台部片。台部は「ハ」の字状に開く。                    | 台部内・外側へラナデ。台部内・外側に輪積痕が残る。        | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P94 30%<br>防護穴北側床面          |
| 5         | 甕    | A 19.8<br>D 7.6<br>E 4.8  | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。       | 口縁部内・外側へラナデ。                     | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P89 10%<br>西コーナー付近覆土中層      |
| 6         | 土師器  | B (3.7)                   |                                      |                                  |                           |                             |
| 7         | 甕    | A 15.9<br>C 6.0           | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。       | 口縁部内・外側へラナデ。体部外側へラナデ。            | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P90 30%<br>西コーナー付近覆土中層      |
| 8         | 土師器  | B (13.9)<br>C 6.0         | 体部上半から口縁部欠損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。      | 体部外側横位のヘラ削り後へラナデ。                | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P91 30%<br>西コーナー付近覆土中層      |
| 9         | 甕    | B (19.6)<br>C 6.0         | 口縁部欠損。突出して中央がやや凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。 | 体部外側上半ハケ目整形後、ヘラナデ。体部下半へラ削り後へラナデ。 | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P92 40% PL44<br>西コーナー付近覆土中層 |
| 10        | 手捏土器 | A (4.7)<br>B 3.4<br>C 3.3 | 平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部に至る。             | 体部内・外側に指削痕痕が残る。                  | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P93 15%<br>覆土中              |
|           |      |                           |                                      |                                  |                           | P95 70% PL43<br>覆土中         |

| 図版番号   | 種別   | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点       | 備考   |
|--------|------|--------|-------|--------|--------|-------|------------|------|
|        |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |            |      |
| 第49図11 | 土玉   | 2.9    | 3.1   | —      | 0.8    | 25.1  | 炉南側床面      | DP22 |
| 12     | 管状土錐 | 5.8    | 3.6   | —      | 1.0    | 69.5  | 東東壁中央部付近床面 | DP23 |
| 13     | 纺錐車  | (3.5)  | (1.7) | 1.0    | (0.7)  | (6.1) | 覆土中        | DP24 |

### 第28号住居跡（第51図）

位置 調査区南端部、F3gs区。

規模と平面形 南西部が調査区外に延びているため正確な規模や平面形は不明で

あるが、一辺3.40m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-50°-W

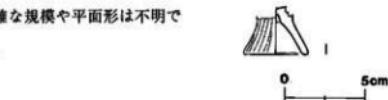
壁 壁高は14cm程で、外傾して立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

覆土 4層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 燃土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子少量



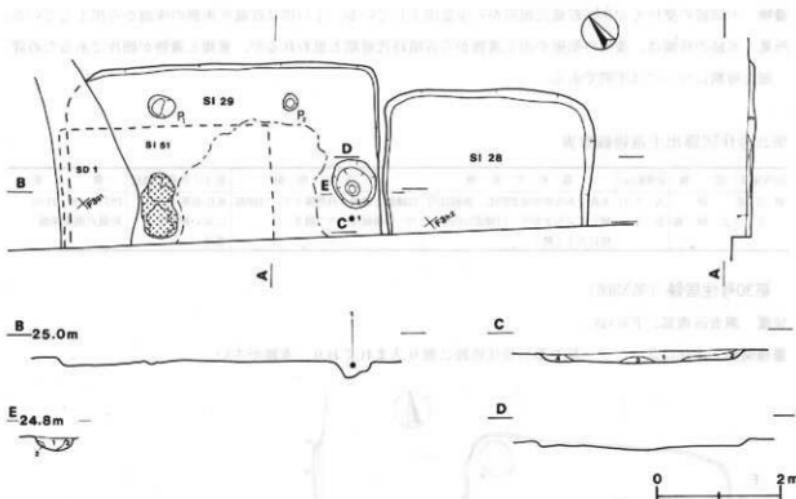
第50図 第28号住居跡  
出土遺物実測図

遺物 土師器の細片が少量出土している。1のミニチュア土器は中央部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

### 第28号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種      | 計測値(cm)        | 器形の特徴                 | 手法の特徴        | 胎土・色調・焼成              | 備考             |
|-----------|---------|----------------|-----------------------|--------------|-----------------------|----------------|
| 第50図<br>1 | ミニチュア土器 | B (3.0)        | 台付甕の台部片。脚部は「ハ」の字状に開く。 | 台部外側横位のヘラナデ。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P96 40%<br>覆土中 |
|           | 土師器     | D 4.0<br>E 2.2 |                       |              |                       |                |



第51図 第28・29号住居跡実測図

#### 第29号住居跡（第51図）

位置 調査区南端部, F3g:区。

重複関係 本跡は第51号住居跡の貼床の下に構築され、北西壁を第1号溝に掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 重複や南西部が調査区外に伸びているため正確な規模や平面形は不明であるが、長軸5.00m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は14cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

ピット 2か所 (P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>)。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は長径30~45cm、短径25~35cmの楕円形、深さ30cm程で、規模や配置から主柱穴と考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径105cm、短径55cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

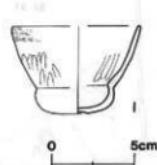
貯蔵穴 東コーナー寄りの南東壁際に付設されている。長径80cm、短径65cmの楕円形で、深さは30cmである。

底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字形である。

貯蔵穴土層解説  
1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量  
2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

覆土 2層からなるが堆積状況は不明である。第1層は第51号住居跡の貼床部で、締まりが強い。

土層解説  
1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量  
2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第52図 第29号住居跡  
出土遺物実測図

**遺物** 土師器の壺片を主体に貯藏穴周辺から少量出土している。1の壺は貯藏穴南側の床面から出土している。  
**所見** 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、重複と遺物が細片であるため詳細な時期については不明である。

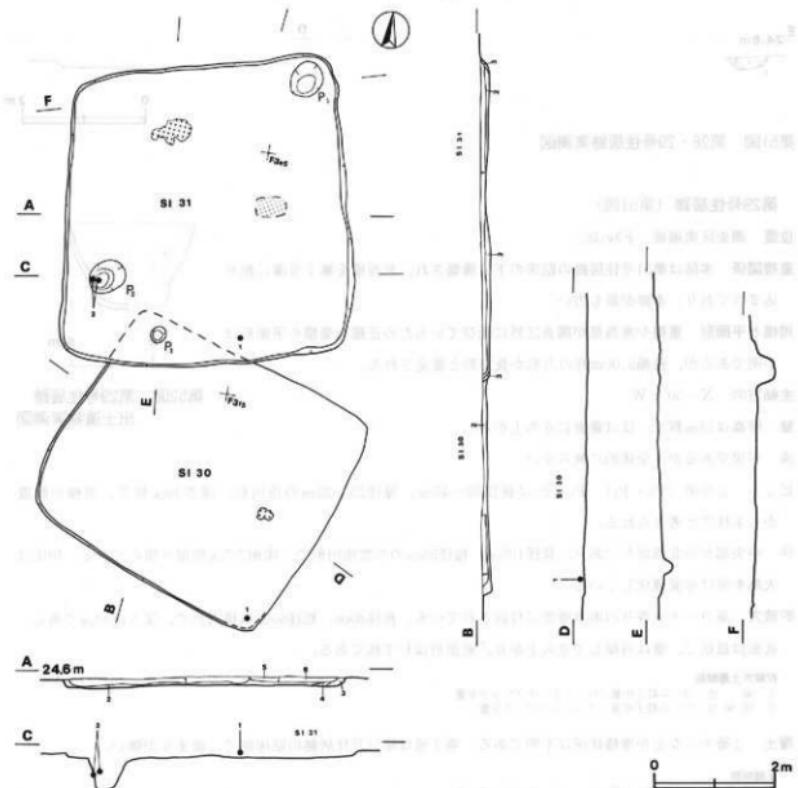
第29号住居跡出土遺物観察表

| 団査番号        | 器種    | 計測値(cm)     | 器形の特徴  | 手法の特徴                            | 胎土・色調・焼成                    | 備考                      |
|-------------|-------|-------------|--|----------------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| 第 52 団<br>1 | 土 師 器 | A( 7.9) 5.3 | A( 7.9) 丸底であるが中央が凹む。体部は内<br>壁して立ち上がり、口縁部は内凹気<br>味に大きく開く。 | 口縁部上端内・外面横ナデ。口縁部<br>内・外面假位のヘラ磨き。 | 長石・石英・スコリア<br>に混じる黄褐色<br>普通 | P97 70% FL43<br>貯藏穴南側床面 |

第30号住居跡（第53図）

位置 調査区南部, F3f4区。

重複関係 本跡は北コーナー部を第31号住居跡に埋り込まれており、本跡が古い。



第53図 第30・31号住居跡実測図

規模と平面形 長軸4.52m、短軸3.96mの長方形である。

主軸方向 N-108°-E

壁 壁高は4cm程度で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

炉 中央部から南東寄りにあり、長径25cm、短径20cmの不整楕円形

で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は僅かに赤変している。

覆土 2層からなるが堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、桃土粒子・炭化粒子少量

2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・桃土粒子少量



第54図 第30号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片が少量出土している。1の高杯は南東コーナー付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

#### 第30号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種  | 計画値(cm) | 器形の特徴                       | 手法の特徴                             | 胎土・色調・焼成               | 備考                     |
|------|-----|---------|-----------------------------|-----------------------------------|------------------------|------------------------|
| 第54図 | 高杯  | B(3.8)  | 壺部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部に4孔を穿つ。 | 脚部内面横ナデ。外面横位のヘラ磨き。壺部外表面及び脚部外表面赤変。 | 良石・石英・スコリア<br>赤色<br>普通 | P98 20%<br>南東コーナー付近層下層 |
| 1    | 土師器 | D(7.3)  |                             |                                   |                        |                        |
|      |     | E 3.0   |                             |                                   |                        |                        |

#### 第31号住居跡（第53図）

位置 調査区南部、F3e4区。

重複関係 本跡は南壁が第30号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.77m、短軸4.56mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は4~10cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

ピット 3か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>3</sub>)。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は長径60cm、短径50cmの楕円形、深さ32~54cmで、規模や配置から主柱穴。P<sub>3</sub>は径25cmの円形、深さ17cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径65cm、短径40cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

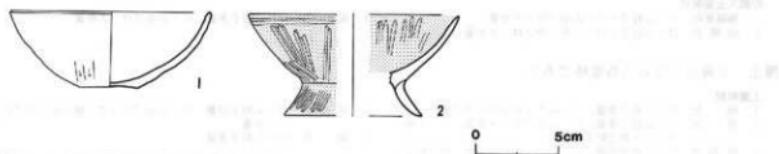
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量

2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・桃土粒子・炭化粒子少量

3 褐色 ローム粒子中量、桃土粒子・炭化粒子少量



第55図 第31号住居跡出土遺物実測図

**遺物** 土師器の壺片を主体に少量出土している。1の壺は南壁際南東コーナー寄りの覆土下層から、2の脚付壺は南西コーナー部のピット(Ps)中からで、その覆土中層から出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第31号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号        | 器種  | 計測値(cm) | 器形の特徴                             | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成               | 備考                           |
|-------------|-----|---------|-----------------------------------|--|------------------------|------------------------------|
| 第 55 図<br>1 | 壺   | A(12.2) | 上げ底丸味の平底。体部は内側して口縁部に至る。           | 口縁部内・外面鏡ナダ。体部外面縦・横位のヘラナダ。                      | 長石・石英・スコリア<br>赤色<br>普通 | P99 80% PL44<br>南西コーナー寄り覆土下層 |
|             | 土師器 | B 4.6   | 立ち上がり、口縁部に至る。                     |  |                        |                              |
|             |     | C 3.5   |                                   |  |                        |                              |
| 第 56 図<br>2 | 器 台 | A(12.0) | 脚部は「ハ」の字形に開く。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部内・外面鏡ナダ。体部内・外面及び脚部外面縦位のヘラ磨き。体部内・外面及び脚部外面赤色。 | 長石・石英・スコリア<br>赤色<br>普通 | P100 30%<br>Ps内覆土中層          |
|             | 土師器 | B 6.2   |                                   |  |                        |                              |
|             |     | D [7.7] |                                   |  |                        |                              |
|             |     | E 2.0   |                                   |  |                        |                              |

### 第32号住居跡（第56図）

**位置** 調査区南部、F3ds区。

**重複関係** 本跡は第100号土坑の上に構築し、南東部を第24号住居跡に掘り込まれていることから、第100号土坑より新しく、第24号住居跡より古い。

**規模と平面形** 長軸3.46m、短軸3.43mの方形である。

**主軸方向** N-21°-W

**壁** 壁高は32~38cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

**壁溝** 南西壁下に確認され、上幅5~10cm、深さ5cm程度で、断面形はU字状である。

**床** 平坦で、踏み固められている。

**炉** 中央部から北西寄りにあり、長径36cm、

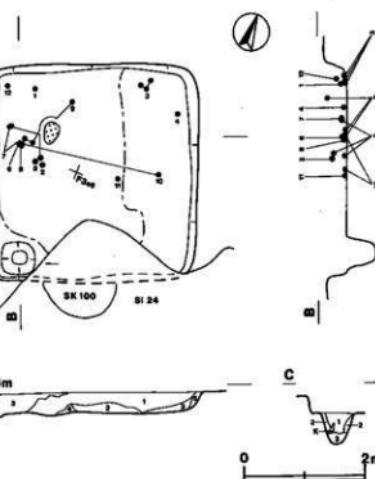
短径25cmの梢円形で、床面を5cm程掘り

窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長軸55cm、短軸50cmの隅丸方形で、深さは49cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- 1 塗珪褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量  
2 塗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量

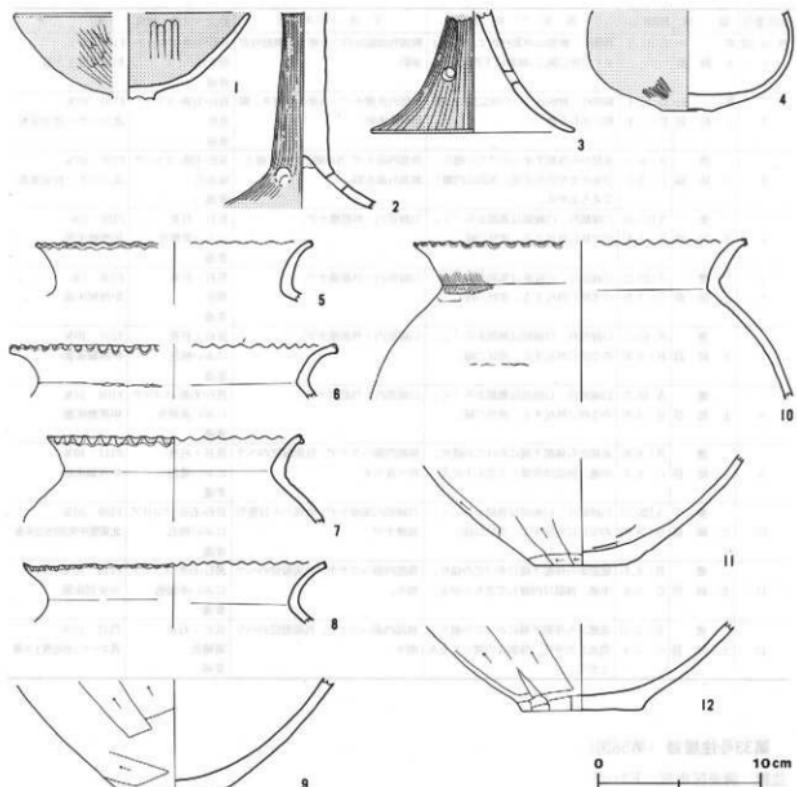


第56図 第32号住居跡実測図

**覆土** 5層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                                      |       |                              |
|-------|--------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 塗褐色 | ローム粒子多量、ローム小・中ブロック少量                 | 3 塗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量           |
| 2 塗褐色 | ローム粒子多量、ローム小・中ブロック中量、ローム中ブロック、炭化粒子少量 | 4 塗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土小・中ブロック少量 |
| 3 塗褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・焼土粒子、炭化粒子少量       | 5 塗褐色 | ローム粒子多量                      |



第57図 第32号住居跡出土遺物実測図

遺物 東コーナー付近を除いた覆土上層から床面にかけて土師器を主体に出土している。1の高坏及び12の甕は西コーナー付近の覆土下層と中層から、2の高坏は炉の南側の覆土上層から、3の器台及び4の甕は北コーナー付近の床面から、5～9の甕は炉の西側の床面から、10の甕は北東壁中央部付近の床面から、11の甕はほぼ中央部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

#### 第32号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号             | 器種                        | 直径(㎝)                     | 器形の特徴                              | 手法の特徴                  | 胎土・色調・焼成                        | 備考 |
|------------------|---------------------------|---------------------------|------------------------------------|------------------------|---------------------------------|----|
| 第57図<br>1<br>土師器 | 高坏<br>A (14.5)<br>B (5.3) | 脚部欠損。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部内・外側横ナデ。坏部内・外側縦位のへら磨き。坏部内・外側赤彩。 | 良石・石英・スコリア<br>赤色<br>普通 | P101 50%<br>西コーナー付近覆土下層<br>内面削離 |    |

| 国版番号        | 器種                    | 計測値(m)               | 器形の特徴  | 手法の特徴                        | 胎土・色調・焼成                   | 備考                     |
|-------------|-----------------------|----------------------|--|------------------------------|----------------------------|------------------------|
| 第 57 国<br>2 | 高<br>土<br>部<br>器      | E (11.9)             | 脚部。脚部は中実柱状で、裾部はラッパ状に開く。裾部に3孔を穿つ。             | 脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面赤彩。          | 長石・石英・スコリア<br>暗赤色<br>普通    | P102 30%<br>炉南側覆土上層    |
| 3           | 器<br>台<br>土<br>部<br>器 | D 12.4<br>E ( 7.4)   | 脚部。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔を穿つ。                      | 脚部外面横ナデ、外面ヘラ磨き。脚部外面赤彩。       | 長石・石英・スコリア<br>赤色<br>普通     | P103 40%<br>北コーナー付近床面  |
| 4           | 壺<br>土<br>部<br>器      | B ( 6.1)<br>C 3.1    | 底部から体部下半にかけての破片。<br>中央が凹やむ平底。体部は内擣して立ち上がる。   | 体部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。<br>体部外面赤彩。 | 長石・石英・スコリア<br>暗赤色<br>普通    | P104 40%<br>北コーナー付近床面  |
| 5           | 甕<br>土<br>部<br>器      | A (17.0)<br>B ( 3.8) | 口縁部。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。                | 口縁部内・外面横ナデ。                  | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P105 5%<br>炉西側床面       |
| 6           | 甕<br>土<br>部<br>器      | A (20.2)<br>B ( 3.2) | 口縁部。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。                | 口縁部内・外面横ナデ。                  | 長石・石英<br>褐色<br>普通          | P106 5%<br>炉西側床面       |
| 7           | 甕<br>土<br>部<br>器      | A 15.7<br>B ( 5.3)   | 口縁部。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。                | 口縁部内・外面横ナデ。                  | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通       | P107 10%<br>炉西側床面      |
| 8           | 甕<br>土<br>部<br>器      | A 18.7<br>B ( 3.8)   | 口縁部。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。                | 口縁部内・外面横ナデ。                  | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P108 10%<br>炉西側床面      |
| 9           | 甕<br>土<br>部<br>器      | B ( 6.8)<br>C 6.3    | 底部から体部下端にかけての破片。<br>平底。体部は内擣して立ち上がる。         | 体部内面ヘラナデ。外面縦位のヘラ<br>削り後横ナデ。  | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通       | P111 10%<br>炉西側床面      |
| 10          | 甕<br>土<br>部<br>器      | A (20.5)<br>B ( 9.8) | 口縁部。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。                | 口縁部内面横ナデ。外面ハケ目整形<br>削り後横ナデ。  | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通  | P109 20%<br>北東壁中央部付近床面 |
| 11          | 甕<br>土<br>部<br>器      | B ( 6.7)<br>C 5.8    | 底部から体部下端にかけての破片。<br>平底。体部は内擣して立ち上がる。         | 体部内面ヘラナデ。外面縦位のヘラ<br>削り。      | 長石・石英・スコリア<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P110 10%<br>中央部床面      |
| 12          | 甕<br>土<br>部<br>器      | B ( 5.3)<br>C 7.4    | 底部から体部下端にかけての破片。<br>突出した平底。体部は内擣して立ち<br>上がる。 | 体部内面ヘラナデ。外面縦位のヘラ<br>削り。      | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通         | P112 10%<br>西コーナー付近土中層 |

### 第33号住居跡（第58図）

位置 調査区南部、E3j-e区。

規模と平面形 長軸5.20m、短軸5.10mの方形である。

主軸方向 N~9°~W

壁 壁高は14~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固められている。南壁中央から住居跡中央に向かって延びる溝を確認した。長さ1.08m、上幅10cm程、深さ10~15cmで、断面形はU字状である。

ピット P1は径36cmの円形、深さ31cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

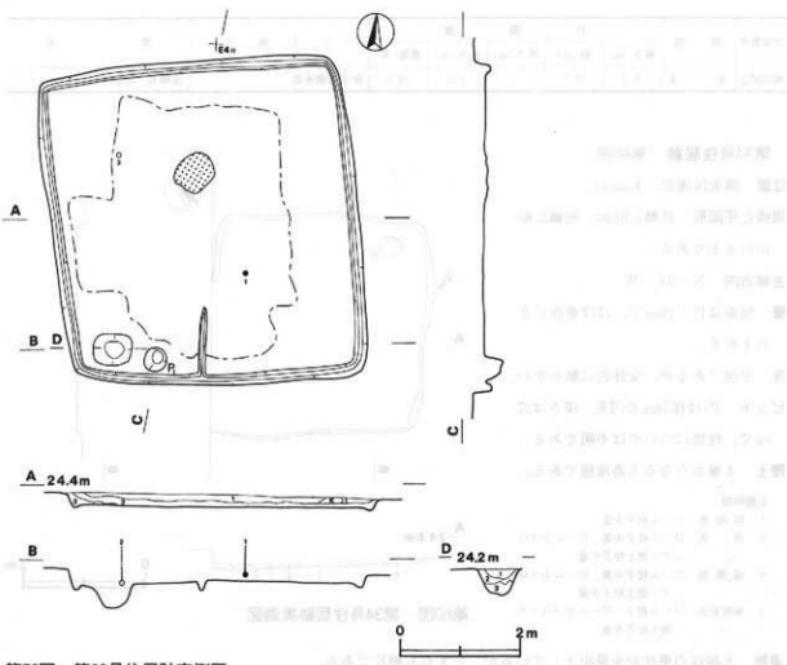
炉 中央部から北寄りにあり、長径65cm、短径55cmの不整楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長軸65cm、短軸50cmの隅丸長方形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

- 3 暗褐色 ローム粒子中量



第58図 第33号住居跡実測図

「遺跡の構造」である。本跡は北西側に壁を有する、南北に長い形態を有する。土塁は、表土層と裏土層とに分かれ、裏土層は3層からなる人為堆積である。

#### 土壌解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、燒土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土器部の壺片を主体に少量出土している。1の壺の口

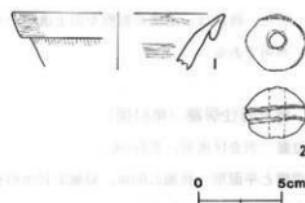
縁部片は中央部からやや南東寄りの覆土中層から、2の土

王は炉の北西側の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第33号住居跡出土遺物観察表

| 回収番号        | 器種         | 計測値(m)            | 器 形 の 特 故             | 手 法 の 特 故                        | 胎土・色調・焼成                | 備 考                  |
|-------------|------------|-------------------|-----------------------|----------------------------------|-------------------------|----------------------|
| 第 59 図<br>1 | 壺<br>土 壴 壺 | A(13.0)<br>B(3.4) | 口縁部片。口縁部は外傾する。折り返し口縁。 | 口縁部内面横位のヘラ巻き、外面横ナデ。腹部外面壁位のハケ目整形。 | 長石・石英・スコリア<br>赤褐色<br>普通 | P113 10%<br>南東寄り覆土中層 |



第59図 第33号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号  | 種別 | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点   | 備考       |
|-------|----|--------|-------|--------|--------|-------|--------|----------|
|       |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |        |          |
| 第59図2 | 土玉 | 3.2    | 3.7   | —      | 1.0    | 34.6  | 芦北西側床面 | 沈澱有 DP25 |

### 第34号住居跡（第60図）

位置 調査区南部, E3he区。

規模と平面形 長軸3.65m, 短軸3.60

mの方形である。

主軸方向 N-39°-W

壁 壁高は10~16cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

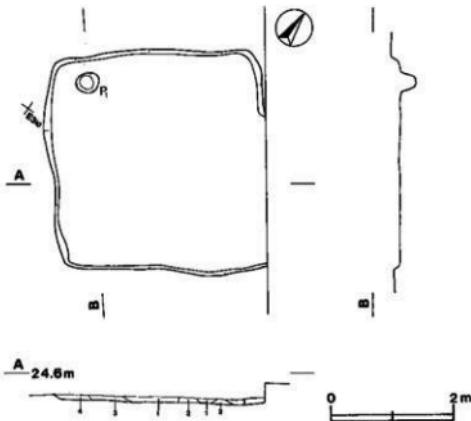
床 平坦であるが, 全体的に軟らかい。

ピット P<sub>1</sub>は径34cmの円形, 深さは27cmで, 性格については不明である。

覆土 4層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 桂色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 4 桂暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量



第60図 第34号住居跡実測図

遺物 土師器の裏片が少量出土しているが, いずれも細片である。

所見 本跡は, 炉, 主柱穴等が確認されなかったが, 床面と少量の土師器片が出土していることから住居跡とした。時期は, 造構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが, 遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

### 第35号住居跡（第61図）

位置 調査区南部, E3is区。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.10mの長方形である。

主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は36~42cmで, ほぼ垂直に立ち上げる。

床 平坦で, 踏み固められている。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径30~65cm, 短径25~55cmの楕円形, 深さ17~32cmで, いずれも主柱穴, P<sub>5</sub>は径25cmの円形, 深さ25cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり, 長径70cm, 短径40cmの不整楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており, 中央部には壺の体部片が付設されている。

覆土 7層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小・中ブロック中量

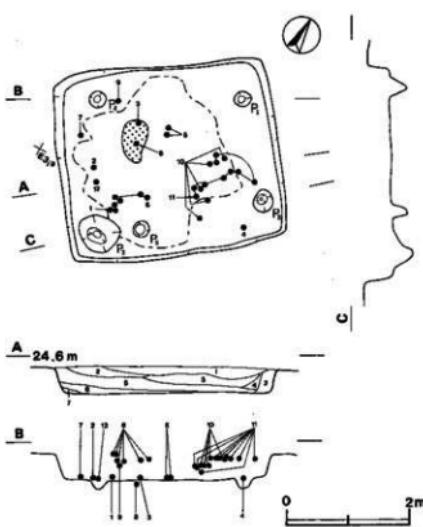
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中プロック中量。炭化物少量  
 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小プロック中量。ローム中プロック少量  
 5 褐色 ローム粒子・ローム中・大プロック多量  
 6 塗褐色 ローム粒子中量、ローム中プロック少量  
 7 褐色 ローム粒子・ローム中プロック中量。ローム大プロック少量

**遺物** 炉及び貯蔵穴周辺の覆土上層から床面にかけて土器等を主体に出土している。1の高壙、6の壺及び12の瓶は貯蔵穴北側の覆土下層から、2の器台は炉南西側の覆土中層から、3の器台は炉北側の床面から、4の壺は東コーナー付近の床面から、5の壺は炉北東側の床面から、7の壺は炉西側の床面から、9の壺は炉北西側の覆土上層から、10及び11の壺はP1・P2間の覆土中層から出土している。また、8の壺は炉床の中央部に下半部が埋められた状態（炉の長径に対して直交し、壺の内面が北西側に向けて埋め込まれている）で出土している。

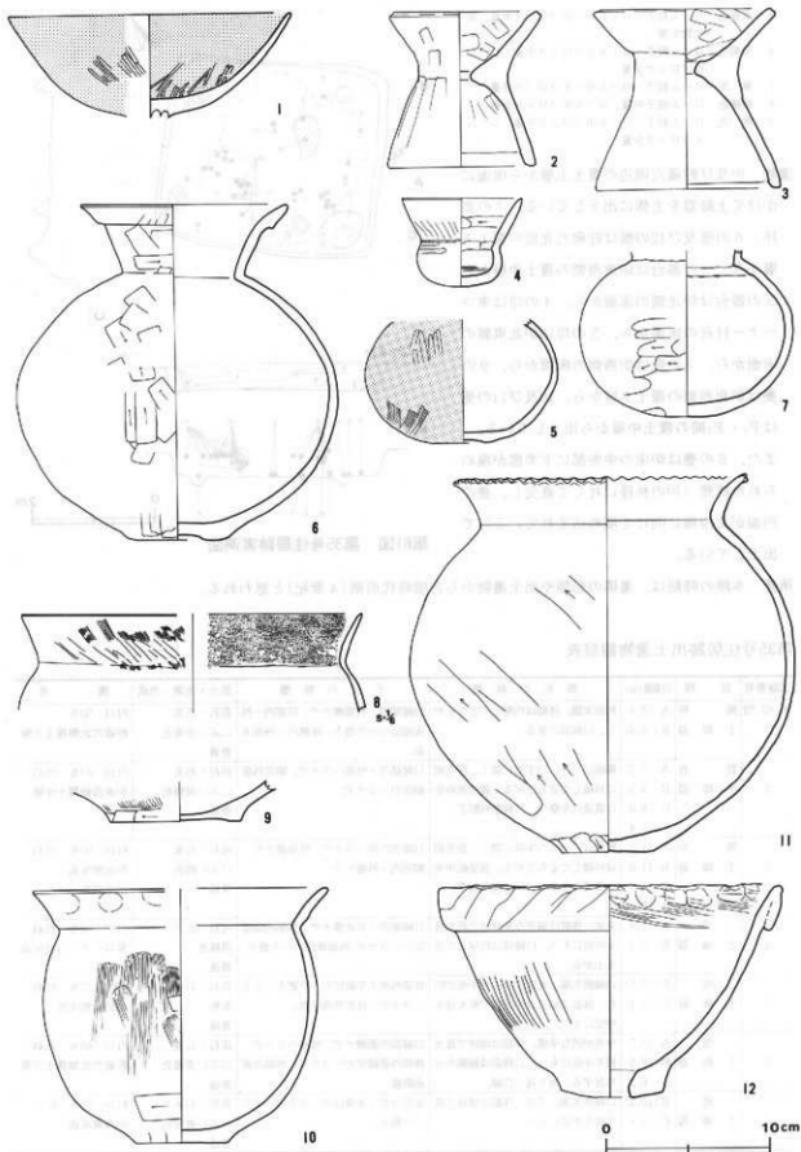
**所見** 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

第35号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号   | 器種  | 計測値(m)                              | 器形の特徴   | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成              | 備考                             |
|--------|-----|-------------------------------------|---|--|-----------------------|--------------------------------|
| 第 62 図 | 高 壙 | A 17.4<br>B (6.3)                   | 脚部欠損。体部は内傾して立ち上がり、口縁部に歪る。                       | 口縁部内・外側横ナデ。坏部内・外側横位のヘラ巻き。坏部内・外側赤彩。           | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P114 50%<br>貯蔵穴北側覆土下層          |
| 1      | 土 器 |                                     |   |  |                       |                                |
| 2      | 器 台 | A 9.3<br>B 9.5<br>C 9.0<br>D 5.4    | 脚部は「ハ」の字形に開く。器受部は外傾して立ち上がる。器受部中央に貫通孔を穿つ。口縁部外削ぎ。 | 口縁部内・外側ヘラナデ。脚部外側横位のヘラナデ。                     | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P115 80% PL45<br>炉南西側覆土中層      |
| 3      | 土 器 | A 11.2<br>B 11.0<br>C 11.4<br>E 7.1 | 脚部は「ハ」の字形に開く。器受部は外傾して立ち上がる。器受部中央に貫通孔を穿つ。口縁部外削ぎ。 | 口縁部内面ヘラナデ、外側横ナデ。脚部内・外側ナデ。                    | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P116 90% PL44<br>炉北側床面<br>二次焼成 |
| 4      | 壺   | A 7.4<br>B 5.4                      | 丸底。体部は圓平な半球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。           | 口縁部欠損。体部は外傾横ナデ。体部内面横位のヘラナデ、外側横位のヘラ巻き。下半ヘラナデ。 | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P117 90% PL44<br>東コーナー付近床面     |
| 5      | 土 器 | B (7.5)<br>C 3.1                    | 口縁部欠損。丸底であるが中央が凹む。体部は偏平な半球状で最大径を中位にもつ。          | 体部外面上半横位のヘラ巻き、下半ヘラナデ。体部外側赤彩。                 | 長石・石英<br>赤色<br>普通     | P118 70% PL45<br>炉北側床面         |
| 6      | 壺   | A 12.7<br>B 20.5<br>C 6.2           | 中央が凹心平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は圓錐から外反する。折り返し口縁。    | 口縁部内面横ナデ、外側ヘラナデ。体部外側横位のヘラナデ。体部外側赤彩。          | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P119 60% PL44<br>貯蔵穴北側覆土下層     |
| 7      | 土 器 | B (10.2)<br>C 3.4                   | 口縁部欠損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。                       | 体部外面上半横位のヘラナデ、下半ヘラ削り。                        | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P120 80% PL45<br>炉西側床面         |



第61図 第35号住居跡実測図



第62図 第35号住居跡出土遺物実測図

| 団版番号        | 器種         | 計測値(cm)                    | 器形の特徴                                  | 手法の特徴   | 胎土・色調・焼成              | 備考   |
|-------------|------------|----------------------------|--|---|-----------------------|--|
| 第 62 図<br>8 | 甕<br>土 鋸 器 | A(42.1)<br>B(12.1)         | 口縁部片。口縁部は腹部から外傾する。                     | 口縁部内面横模様のハケ目整形、外面斜位のハケ目整形後上半横ナデ、下半斜位のハラナデ。              | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P121 10%<br>炉床   |
| 9           | 甕<br>土 鋸 器 | B(2.5)<br>C 8.2            | 底部片。突出した平底。                            | 体部外面ハケ目整形。底部ヘラ削り後ナデ。                                    | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P122 10%<br>炉西側覆土上層  |
| 10          | 甕<br>土 鋸 器 | A(18.2)<br>B 15.6<br>C 5.6 | 突出した平底。体部は内擣して立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。   | 口縁部内面横ナデ。外面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形後ヘラナデ。口縁部外側に指頭压痕を残す。       | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P124 40%<br>P <sub>1</sub> ・P <sub>2</sub> 間覆土中層                 |
| 11          | 甕<br>土 鋸 器 | A 18.2<br>B 23.1<br>C 5.6  | 平底。体部は球状で中位に最大径をもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。    | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。                               | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P125 70% PL44<br>P <sub>1</sub> ・P <sub>2</sub> 間覆土中層<br>体部外面焼付層 |
| 12          | 甕<br>土 鋸 器 | A 21.2<br>B 12.9<br>C 6.3  | 突出した平底。体部は内擣して立ち上がる。底部中央に単孔を穿つ。折り返し口縁。 | 口縁部内面ハケ目整形後横ナデ。外面横ナデ。体部外面縦位のハケ目整形後ヘラナデ。口縁部内・外面に指頭压痕を残す。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P126 95% PL44<br>貯藏穴北側覆土下層                                       |

### 第36号住居跡（第63図）

位置 調査区南部、F2hs区。

規模と平面形 長軸5.70m、短軸2.70mの隅丸長方形である。

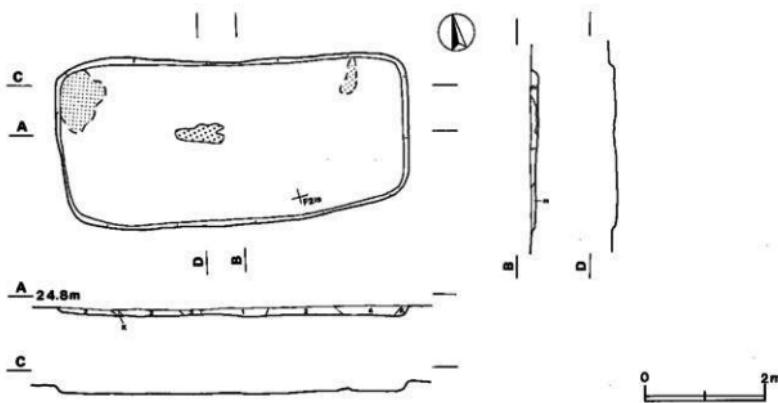
主軸方向 N-79°-W

壁 壁高は10cm程度、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径80cm、短径30cmの不整長椭円形で、床面を僅かに掘り窪めている。

火床は僅かに赤変している。



第63図 第36号住居跡実測図

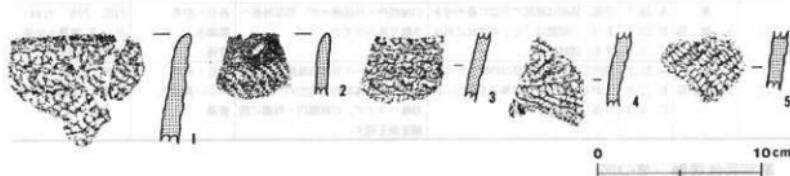
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量      | 3 暗赤褐色 焼土小ブロック中量   |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物 繩文土器の深鉢片39点、チャート剝片8点及び焼けた石14点が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（ツツ木式期）と思われるが、遺物が少量で細片のため詳細な時期は不明である。



第64図 第36号住居跡出土遺物拓影図

第64図1～5は、第36号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1・2は口縁部片である。1はループ文が施されている。2は片口状の口縁で単節R Lの羽状縄文が施されている。3～5は胴部片である。3はループ文が、4・5は羽状縄文が施されている。

第37号住居跡（第65図）

位置 調査区南部、E37区。

重複関係 本跡は西コーナー部が第38号住居跡を、北コーナー部が第40号住居跡を掘り込み、北部の床面を第32号土坑に、東部の床を第35号土坑に、竪を第38号土坑にそれぞれ掘り込まれていることから、第38・40号住居跡より新しく、第32・35及び38号土坑より古い。

規模と平面形 長軸3.35m、短軸2.60mの長方形である。

主軸方向 N-122°-E

壁 壁高は15～32cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西壁の一部を除く壁下に確認され、上幅15cm程、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、出入り口部と思われる北西壁の中央部付近が踏み固められている。

竪 南東壁中央部を壁外に75cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ90cm、幅95cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状をしている。煙道部は火床面からやや傾斜して立ち上がっている。

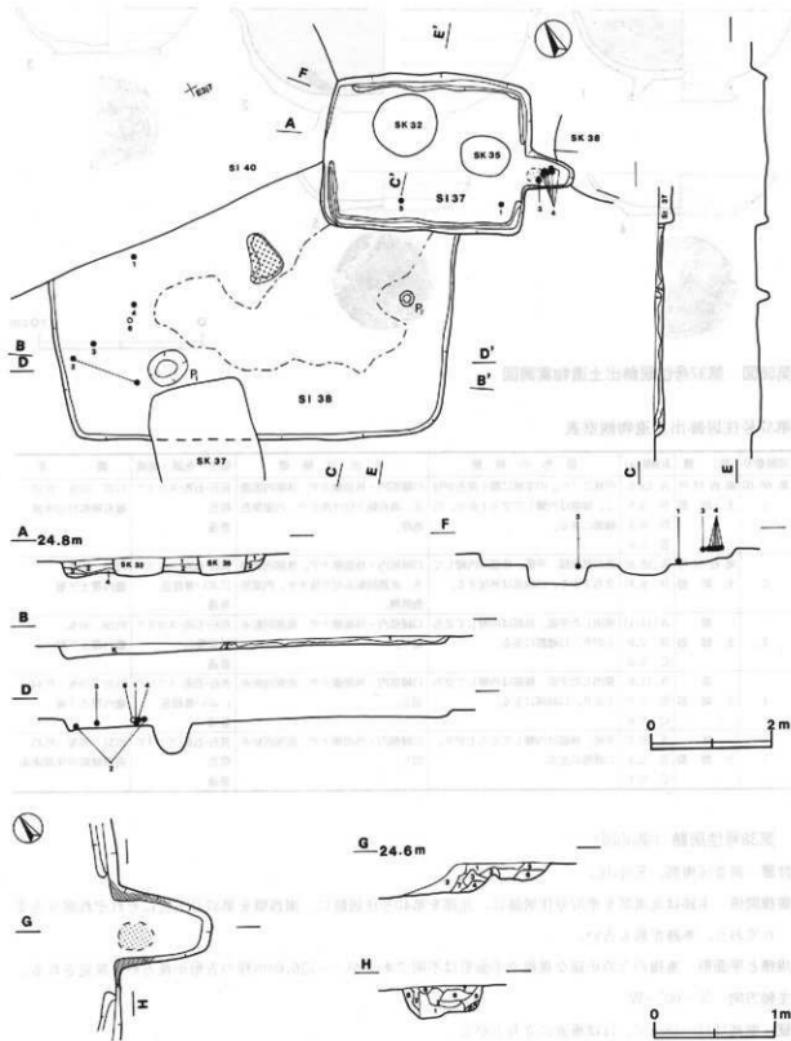
土層解説

- |                                  |                                      |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量         | 5 暗赤褐色 烧土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量        |
| 2 黒褐色 烧土粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック少量    | 6 暗赤褐色 烧土粒子中量、ローム粒子・焼土小・中ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量          |
| 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量       | 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量              |

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

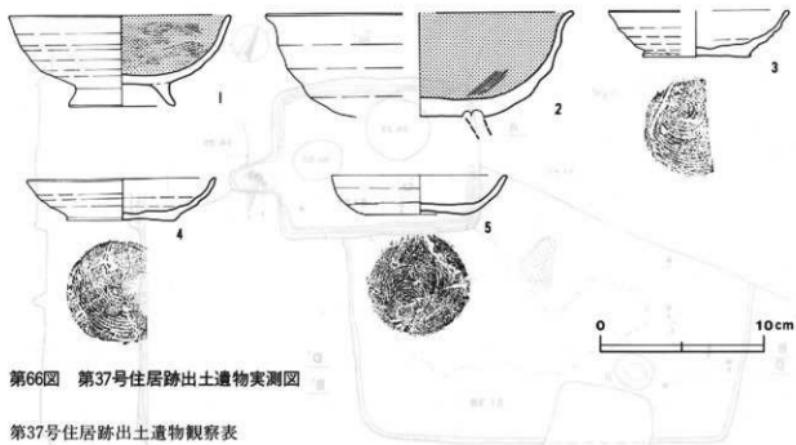
- |                                |                        |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、炭化物少量 | 3 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量     | 4 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量 |



第65図 第37・38号住居跡実測図

遺物 窓内及び周辺から土師器が少量出土している。1の高台付壙は窓右袖部付近の床面から、2の高台付壙及び3・4の皿は窓内の覆土下層から、5の皿は南西壁際中央部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代（10世紀後半）と思われる。



第66図 第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表

| 回収番号      | 器種          | 計測値(cm)                           | 器形の特徴                                  | 手法の特徴                                | 粘土・色調・焼成                   | 備考                         |
|-----------|-------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 第66図<br>1 | 高台付壺<br>土師器 | A 13.6<br>B 5.5<br>C 6.4<br>D 1.4 | 平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。  | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通     | P127 95% PL45<br>竈右側部付近床面  |
| 2         | 高台付壺<br>土師器 | A (18.8)<br>B (6.4)               | 高台部欠損。平底。体部は内側して立ち上がる。口縁部は外反する。        | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き。底部削除糸切り後ナデ。内面黒色処理。 | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P128 50%<br>竈内覆土下層         |
| 3         | 壺<br>土師器    | A (11.1)<br>B 2.9<br>C 6.6        | 突出した平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。            | 口縁部内・外面横ナデ。底部削除糸切り。                  | 長石・石英・スコリア<br>浅黄褐色<br>普通   | P129 50%<br>竈内覆土下層         |
| 4         | 壺<br>土師器    | A 11.6<br>B 2.7<br>C 6.6          | 突出した平底。体部は内側して立ち上がり。口縁部に至る。            | 口縁部内・外面横ナデ。底部削除糸切り。                  | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P130 70% PL44<br>竈内覆土下層    |
| 5         | 壺<br>土師器    | A 10.7<br>B 2.4<br>C 6.1          | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。                | 口縁部内・外面横ナデ。底部削除糸切り。                  | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通     | P131 95% PL45<br>南西壁際中央部床面 |

第38号住居跡（第65図）

位置 調査区南部, E3js区。

重複関係 本跡は北東部を第37号住居跡に、北部を第40号住居跡に、南西壁を第37号土坑にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、一辺6.60m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N - 60° - W

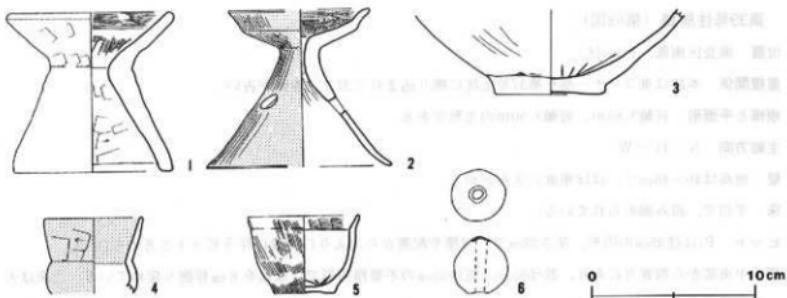
壁 壁高は11~18cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径65cm、短径55cmの楕円形、深さ47cmで、規模や配置から主柱穴、P2は直径24cmの円形、深さ22cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 ほぼ中央部になるものと思われる。長径80cm、短径50cmの不整楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。

炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第67図 第38号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量

遺物 土師器の甕片を主体に少量出土している。1の器台は炉と北西壁との間の床面から、2の器台、3の甕及び4のミニチュア土器は西コーナー付近の覆土下層から、5のミニチュア土器は覆土中から出土している。

6の土玉は、北西壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀)と思われる。

第38号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種      | 計測値(cm)                                    | 器形の特徴   | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成                | 備考                          |
|------|---------|--|---|--|-------------------------|-----------------------------|
| 第67図 | 器台      | A 10.5<br>B 9.8<br>C 9.9<br>D 9.9<br>E 6.3 | 脚部は「ハ」の字状に開く。器部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。器部中央に貫通孔を穿つ。口縁部外削ぎ。               | 口縁部内面ハケ目彫形、外側面ラナダ。脚部外側面観位のヘラナダ。                        | 長石・石英・雲母<br>褐色<br>普通    | P132 80% PL45<br>炉・北西壁間床面   |
| 1    | 土師器     |  |   |  |                         |                             |
| 2    | 器台      | A 8.9<br>B 9.7<br>C D [11.6]<br>E 7.2      | 脚部はラッパ状に開く。器部は内側で立ち上がり、口縁部とその境に梗をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔。器部中央に貫通孔を穿つ。 | 器部内・外側及び脚部外側ハラ塔<br>あ、脚部内面ハラナダ。器部内面梗をもつ。器部外・外側及び脚部外觀赤色。 | 長石・石英・スコリア<br>暗赤色<br>普通 | P133 60% PL45<br>西コーナー付近土下層 |
| 3    | 甕       | B ( 5.2 )<br>C 6.8                         | 底部から体部下端にかけての破片。<br>突出した底平。                                     | 体部内・外側ハラナダ。  | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通  | P134 10%<br>西コーナー付近土下層      |
| 4    | ミニチュア土器 | A 6.0<br>B ( 4.6 )                         | 底部欠損。体部上半から口縁部にかけての破片。口縁部は外傾する。                                 | 口縁部内・外側横ナダ。口縁部内・外側・体部外觀赤色。                             | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通   | P135 40%<br>西コーナー付近土下層      |
| 5    | ミニチュア土器 | A 7.0<br>B 4.7<br>C 3.8                    | 平底。体部は内側で立ち上がり、口縁部は外傾する。  | 口縁部内・外側及び体部外側ハケ目彫形。                                    | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通   | P136 50% PL44<br>覆土中        |

| 図版番号  | 種別 | 計測値    |       |        |        | 出土地点 | 備考        |      |
|-------|----|--------|-------|--------|--------|------|-----------|------|
|       |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |      |           |      |
| 第67図6 | 土玉 | 3.6    | 3.3   | —      | 0.7    | 29.4 | 北西壁寄り覆土中層 | DP26 |

第39号住居跡（第68図）

位置 調査区南部, F3as区。

重複関係 本跡は東コーナー部を第37号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.65m, 短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N-41°-W

壁 壁高は40~46cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット P: 直径35cmの円形、深さ23cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり、長径65cm、短径55cmの不整円形で、床面を8cm程掘り盛っている。火床は火熱を受け赤変化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径48cm、短径42cmの楕円形で、深さは41cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量  
2 暗褐色 焼土粒子多量

- 3 赤褐色 炭化物中量、焼土粒子少量  
4 黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

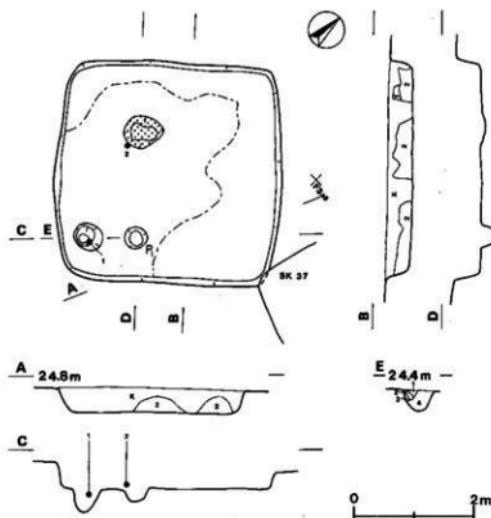
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

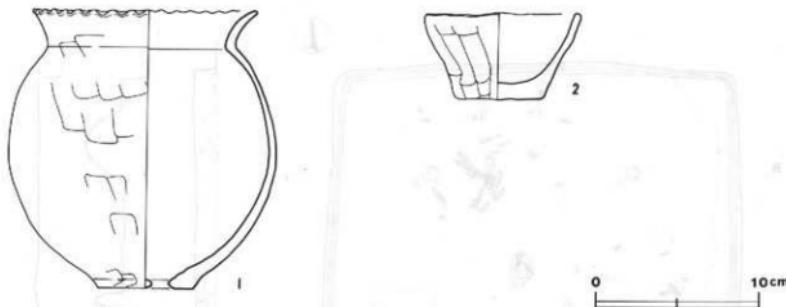
- 1 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
2 黑褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化材少量

遺物 土師器の壺片を主体に少量出土している。1の壺は貯蔵穴の覆土上層から、2のミニチュア土器は炉南側の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀)と思われる。



第68図 第39号住居跡実測図



第69図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

| 回収番号             | 器種     | 計測値(cm)                   | 器形の特徴   | 手法の特徴                          | 胎土・色調・焼成              | 備考                               |
|------------------|--------|---------------------------|---|--------------------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 1<br>第39号<br>土師器 | 甕      | A 13.8<br>B 17.0<br>C 5.8 | 平底。体部は球状で最大径を中位に<br>もつ。口縁部は頸部から「く」の字<br>状に外反する。底部に外側からの貫<br>通孔を有す。波状口縁。 | 口縁部内・外削りナデ。体部外表面<br>位のヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P138 95% PL45<br>貯藏穴覆土上層<br>二次焼成 |
|                  | ミニチュア器 | A 9.3<br>B 5.4<br>C 5.6   | 鉢形。平底。体部は外傾して立ち上<br>り、口縁部に至る。   | 体部内面ヘラナデ、外表面位のヘラ<br>削り後ヘラナデ。   | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P137 100% PL45<br>炉南側床面          |
|                  | 土師器    |                           |   |                                |                       |                                  |

第40号住居跡（第70図）

位置 調査区南部、E3i区。

重複関係 本跡は南壁が第38号住居跡を掘り込み、南東コーナー部を第37号住居跡に掘り込まれていることか  
ら、第38号住居跡より新しく、第37号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸6.85m、短軸6.80mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は40~46cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅5~10cm、深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で踏み固められ、炉から出入り口部は非常に硬い。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は径25cm程の円形、深さは52~72cmで、いずれも主柱穴。P5は径25cmの  
円形、深さは44cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

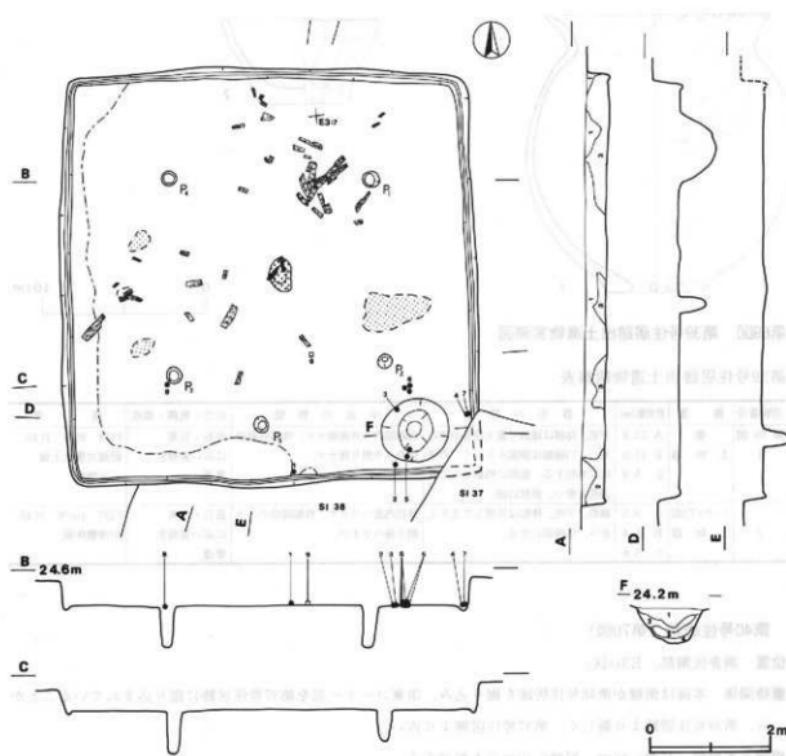
炉 中央部にあり、長径55cm、短径35cmの不整楕円形で、床面を8cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤  
変硬化している。

貯藏穴 南東コーナー部に付設されている。長径115cm、短径105cmの円形で、深さは59cmである。底面は皿状  
で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

#### 貯藏穴土層解説

|                                       |                                      |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量          | 3 細砂褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物中量、焼土少<br>量 |
| 2 墓褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロッ<br>ク中量 | 4 黄褐色 ローム粒子多量                        |

覆土 3層からなる人為堆積である。



第70図 第40号住居跡実測図

土層解説

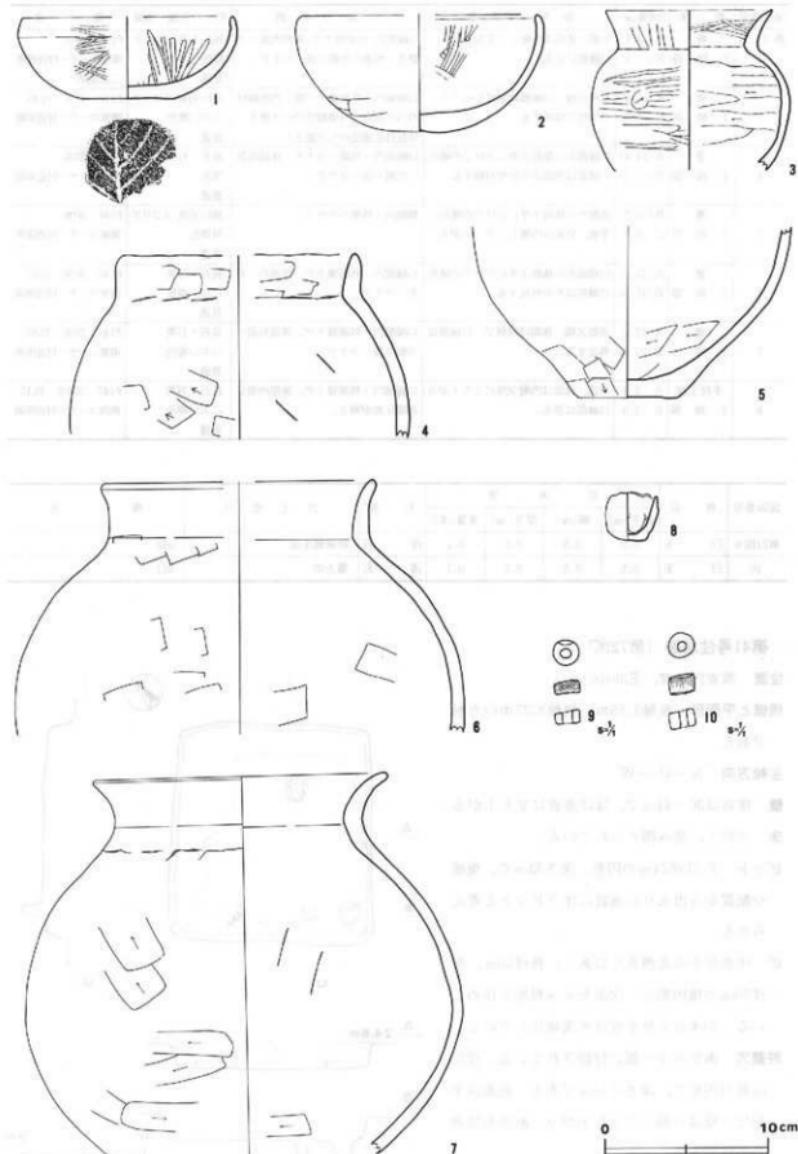
- |                                |                               |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 茶褐色 ローム小ブロック少量               | 3 桂暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化材少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化物少量 |                               |

遺物 主に南部の床面から土器類の壺片を主体に出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の壺は南壁際中央部の床面から、2の椀及び3~7の壺は南東コーナー付近の床面から、8の手握土器は南西コーナー付近の床面から、9・10の白玉は、9が炉の南側の床面から、10は覆土中から出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀後半)と思われる。

第40号住居跡出土遺物観察表

| 国版番号      | 器種      | 計画値(m)                     | 器形の特徴                       | 手法の特徴  | 粘土・色調・塊成               | 備考                   |
|-----------|---------|----------------------------|-----------------------------|--|------------------------|----------------------|
| 第71図<br>I | 壺<br>土器 | A (13.0)<br>B 5.0<br>C 5.8 | 平底。体部は内凹して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナタ後外面へラブキ。<br>体部内面横ナタ後ヘラブキ。底部木葉柄。<br>面ヘラ削り後ヘラブキ。 | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通 | P140 30%<br>南壁際中央部床面 |



第71図 第40号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号      | 器種   | 計測値(cm)                     | 器 形 の 特 故                            | 手 法 の 特 故                          | 胎土・色調・焼成                  | 備 考                            |
|-----------|------|-----------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------|--------------------------------|
| 第71図<br>2 | 土師器  | A(14.7)<br>B(7.1)<br>C(3.0) | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。              | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。外面ヘラ削り後ヘラナデ。   | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通    | P141 40%<br>南東コーナー付近床面<br>二次焼成 |
| 3         | 土師器  | A 10.4<br>B(9.8)            | 底部欠損。口縁部は底部から「く」の字状に外反する。            | 口縁部内・外面横ナデ後。内面横位のヘラ磨き。体部外面横位のヘラ磨き。 | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通 | P142 60% PL45<br>南東コーナー付近床面    |
| 4         | 土師器  | A(14.4)<br>B(11.3)          | 口縁部から体部上半にかけての破片。<br>口縁部は底部からやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。          | 長石・石英<br>黒色<br>普通         | P143 20%<br>南東コーナー付近床面         |
| 5         | 土師器  | B(10.5)<br>C 6.0            | 底部から体部下半にかけての破片。<br>平底。体部は内側して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外<br>面ヘラナデ。         | 長石・石英・スコリア<br>黒褐色<br>普通   | P144 30%<br>南東コーナー付近床面         |
| 6         | 土師器  | A(17.0)<br>B(15.5)          | 口縁部から体部上半にかけての破片。<br>口縁部はやや外反する。     | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外<br>面ヘラナデ。         | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通      | P145 30% PL45<br>南東コーナー付近床面    |
| 7         | 土師器  | A 18.2<br>B(23.4)           | 底部欠損。体部は球状で、口縁部は外反する。                | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。          | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通      | P146 70% PL45<br>南東コーナー付近床面    |
| 8         | 手捏土器 | A 2.8<br>B 3.0              | 平底。体部は内側気味に立ち上がり<br>口縁部に至る。          | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面に<br>指頭痕が残る。        | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P147 100% PL45<br>南西コーナー付近床面   |

| 図版番号   | 種別 | 計測 値   |       |        |       | 石 质 | 出 土 地 点 | 備 考 |
|--------|----|--------|-------|--------|-------|-----|---------|-----|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |     |         |     |
| 第71図 9 | 臼  | 玉 0.3  | 0.5   | 0.5    | 0.1   | 滑 石 | 伊南御床面   | Q10 |
| 10     | 臼  | 玉 0.5  | 0.5   | 0.5    | 0.1   | 滑 石 | 覆土中     | Q11 |

#### 第41号住居跡（第72図）

位置 調査区南部, E3ha区。

規模と平面形 長軸3.55m, 短軸3.27mの方形

である。

主軸方向 N-41°-W

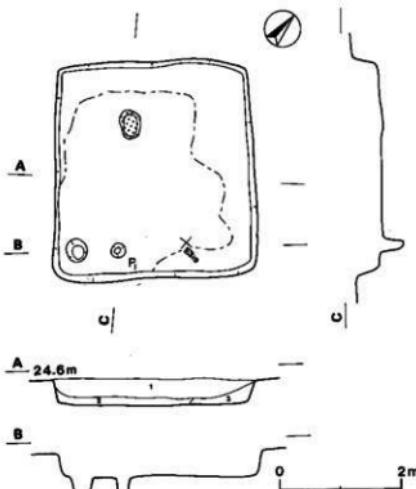
壁 壁高は36~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット P1は径24cmの円形、深さ33cmで、規模  
や配置から出入り口施設に伴うピットと考え  
られる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径50cm、短  
径30cmの楕円形で、床面を6cm掘り窪めて  
いる。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径35  
cm程の円形で、深さは34cmである。底面は平  
坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆  
台形状である。



第72図 第41号住居跡実測図

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量。ローム小・中・大ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量。ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 土器器の壺片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第42号住居跡（第73図）

位置 調査区南部、E3g+区。

重複関係 本跡は北西壁を第131号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 北東部が調査区外に延びているため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺4.30m程の方角か長方形と推定される。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は20cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット P<sub>1</sub>は径35cm程の円形、深さ25cmで、性格については不明である。

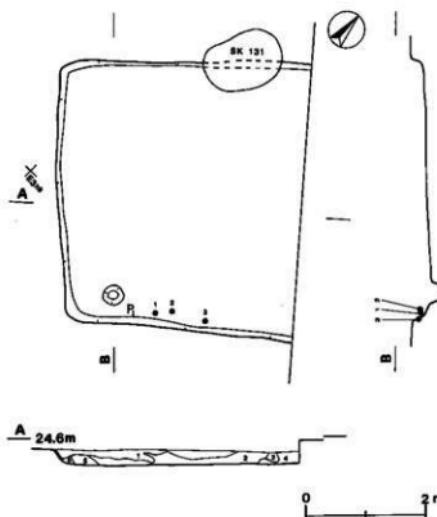
覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

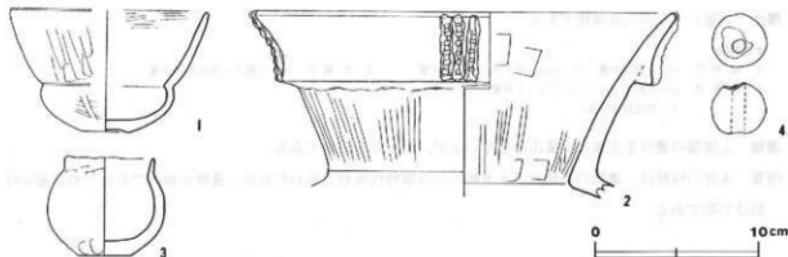
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 3 黒褐色 ローム中・大ブロック中量、ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 5 細暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量

遺物 南東壁際の床面から壺片を主体に少量出土している。1の壺、2の壺及び3のミニチュア土器は南東壁際南コーナー寄りの床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第73図 第42号住居跡実測図



第74図 第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種                   | 計測値(cm)                    | 器形の特徴   | 手法の特徴                       | 胎土・色調・焼成                  | 備考                             |
|-----------|----------------------|----------------------------|---|-----------------------------|---------------------------|--------------------------------|
| 第74図<br>1 | 壺<br>土師器             | A [12.3]<br>B 7.5<br>C 3.0 | 平底であるが中央が凹む。体部は内<br>口縁部内面横位。外面部のヘラ痕<br>に開く。     | 口縁部内面横位。外面部のヘラ痕<br>に開く。     | 長石・スコリア<br>に混入する褐色<br>普通  | P148 40%                       |
|           | 壺<br>土師器             | A 26.2<br>B [11.3]         | 口縁部は頭部から外接する。口縁部<br>外面に3本一対の棒状浮文を4所<br>施す。有段口縁。 | 口縁部内・外面、頭部外縁位のヘラ<br>痕。      | 石英・長石・雲母<br>に混入する褐色<br>普通 | P149 40% PL46<br>東側壁面コーナー寄り付箇  |
|           | ミニチュア土器<br>上部<br>土師器 | A 5.5<br>B 6.0<br>C 3.2    | 平底。体部は内増して立ち上がり、<br>口縁部は頭部直立する。                 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外ハケ<br>目整形後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>褐色<br>普通      | P150 100% PL46<br>東側壁面コーナー寄り付箇 |
| 第74図<br>2 | 壺<br>土師器             | A 26.2<br>B [11.3]         | 口縁部は頭部から外接する。口縁部<br>外面に3本一対の棒状浮文を4所<br>施す。有段口縁。 | 口縁部内・外面、頭部外縁位のヘラ<br>痕。      | 石英・長石・雲母<br>に混入する褐色<br>普通 | P149 40% PL46<br>東側壁面コーナー寄り付箇  |
|           | 壺<br>土師器             | A 5.5<br>B 6.0<br>C 3.2    | 平底。体部は内増して立ち上がり、<br>口縁部は頭部直立する。                 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外ハケ<br>目整形後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>褐色<br>普通      | P150 100% PL46<br>東側壁面コーナー寄り付箇 |

| 図版番号      | 種別 | 計測値    |       |        |        | 出土地点 | 備考  |
|-----------|----|--------|-------|--------|--------|------|-----|
|           |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |      |     |
| 第74図<br>2 | 土玉 | 3.2    | 3.4   | —      | 0.8    | 28.3 | 覆土中 |

第43号住居跡（第75図）

位置 調査区南部, F3b:区。

重複関係 本跡は第45号土坑の上に構築しており、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.70m, 短軸3.19mの長方形である。

主軸方向 N-19°W

壁 壁高は11~16cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径28~50cm, 短径25~38cmの楕円形、深さ17~42cmで、いずれも主柱穴、P5は長径55cm, 短径45cmの不整楕円形、深さ29cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 ほぼ中央部にあり、長径45cm, 短径30cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

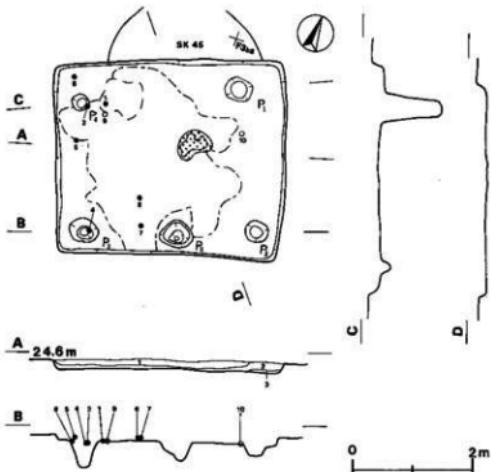
覆土 3層からなる人為堆積である。

#### 土壤解説

- 1 塗褐色 ローム粒子、ローム小プロック、焼土粒子少量
- 2 塗褐色 ローム粒子、ローム小プロック、炭化物少量

- 3 塗褐色 ローム粒子、ローム小プロック、焼土粒子少量

遺物 壺、壺を主体とした土師器及び手捏土器4点が北西コーナー部及び南西コーナー部の床面から出土している。1・2の壺及び3の手捏土器は北西コーナー部の床面から、3の壺は出入り口部北西側の床面から、



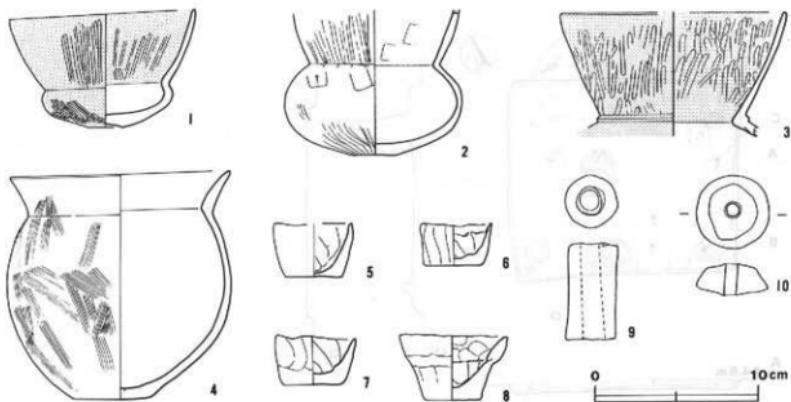
第75図 第43号住居跡実測図

4の甕は南西コーナー部の床面から、5の手捏土器は北西コーナー寄りの覆土中層から、6・7の手捏土器は南西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

#### 第43号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号        | 器種               | 計測値(cm)                     | 器 形 の 特 徴                           | 手 法 の 特 徴                         | 地土・色調・焼成                  | 備 考                                  |
|-------------|------------------|-----------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|--------------------------------------|
| 第 76 図<br>1 | 土 部 器            | A 11.6<br>B 7.3             | 丸底であるが中央が凹む。体部は内側して立ち上がり、口縁部は大きく開く。 | 口縁部内・外張。体部内外張ヘラ巻き。内・外面部赤。         | 長石・石英・雲母<br>赤褐色<br>普通     | P151 90% PL46<br>北西コーナー部床面           |
| 2           | 土 部 器            | B( 8.9)<br>C 2.5            | 口縁部上位欠損。平底。体部は偏平な球状で最大径を中位にもつ。      | 口縁部内面ヘラナナ。外張巻きのヘラ巻き。体部外張巻きのハケ目整形。 | 長石・石英・雲母<br>に赤褐色<br>普通    | P152 70% PL46<br>北西コーナー部床面<br>体部外張付着 |
| 3           | 土 部 器            | A [14.0]<br>B ( 7.6 )       | 口縁部片。口縁部は内側気味に立ち上がる。腹部との境に熱土絆を施す。   | 口縁部内・外張巻きのヘラ巻き。口縁内・外面部赤。          | 砂粒・長石・石英・雲母<br>に赤褐色<br>普通 | P153 10%<br>出入り口部北西壁下面               |
| 4           | 土 部 器            | A 13.6<br>B 14.0<br>C 4.8   | 平底。体部は球状で最大径を中位に持つ。口縁部は腹部から外傾する。    | 口縁部内・外張横ナゲ。体部外張ハケ目整形。             | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通       | P154 90% PL46<br>南西コーナー部床面<br>体部外張付着 |
| 5           | 手 捏 土 器<br>土 部 器 | A ( 4.7 )<br>B 3.3<br>C 3.5 | 平底。体部は器厚を減じながら内側氣味に立ち上がり、口縁部に至る。    | 体部内・外張ナゲ。                         | 長石・石英・スコリア<br>に褐色<br>普通   | P155 60%<br>北西コーナー寄り覆土中層             |
| 6           | 手 捏 土 器<br>土 部 器 | A 4.3<br>B 2.5<br>C 3.6     | 平底。体部は器厚を減じながらやや外傾して立ち上がり、口縁部に至る。   | 体部内・外張によるナゲ。指頭圧痕が残る。              | 長石・石英・雲母<br>褐色<br>普通      | P156 100% PL46<br>南西コーナー寄り覆土下層       |
| 7           | 手 捏 土 器<br>土 部 器 | A 4.8<br>B 3.1<br>C 3.6     | 平底。体部は器厚を減じながらやや外傾して立ち上がり、口縁部に至る。   | 体部内・外張によるナゲ。指頭圧痕が残る。              | 長石・石英・雲母<br>に赤褐色<br>普通    | P157 80% PL46<br>南西コーナー寄り覆土下層        |



第76図 第43号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号      | 器種   | 計測値(cm)                 | 器形の特徴                            | 手法の特徴                                      | 粘土・色調・焼成           | 備考                               |
|-----------|------|-------------------------|----------------------------------|--|--------------------|----------------------------------|
| 第76図<br>8 | 手捏土器 | A 6.6<br>B 4.0<br>C 3.4 | 平底。体部は外傾して立ち上がり。<br>口縁部は僅かに外傾する。 | 体部内・外面折頸によるナデ。内面<br>に輪積み痕、内・外面に指擦痕が残<br>る。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい黄褐色 | P158 90% PL46<br>北西コーナー部床面<br>普通 |

| 図版番号      | 種別   | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点       | 備考        |
|-----------|------|--------|-------|--------|--------|-------|------------|-----------|
|           |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |            |           |
| 第76図<br>9 | 管状土錐 | 5.9    | 3.3   | —      | 1.2    | 65.3  | 北西コーナー付造床面 | DP28 PL98 |
| 10        | 紡錘車  | 1.9    | 4.6   | —      | 0.8    | 33.4  | 東北側床面      | DP29      |

#### 第44号住居跡（第77図）

位置 調査区南部, F3c区。

規模と平面形 長軸5.15m, 短軸4.00mの長方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は14~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

炉 中央部から北寄りにあり、長径50cm、短径40cmの不整梢円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長軸100cm、短軸60cmの隅丸長方形で、深さは18cmである。底面はやや凹凸の皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

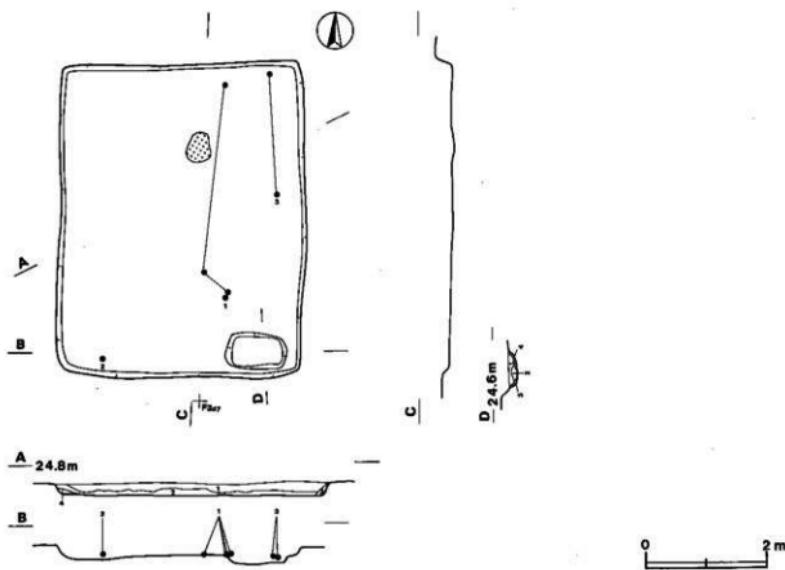
##### 貯蔵穴土層解説

1 黄色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・燒土粒子少量 3 黄色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量  
2 黄色 ローム粒子多量、燒土粒子少量 4 黄色 ローム粒子多量、燒土粒子少量

覆土 4層からなる人為堆積である。

##### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量  
2 黄色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

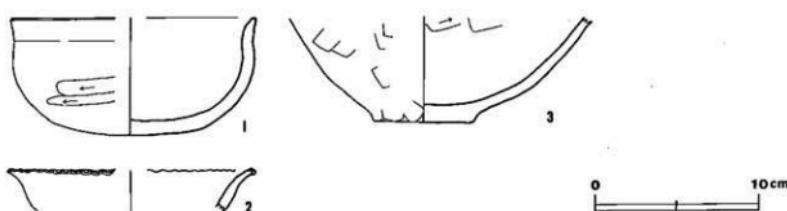


第77図 第44号住居跡実測図

3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・焼土粒子少量  
 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量

遺物 土師器の壺片を主体に少量出土している。1の鉢は貯蔵穴北側の床面から、2の壺は南西コーナー部の覆土下層から、3の壺は北東コーナー部の床面から出土している。2は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀後半)と思われる。



第78図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種       | 計測値(m)           | 器形の特徴                           | 手法の特徴                    | 胎土・色調・焼成             | 備考                       |
|-----------|----------|------------------|---------------------------------|--------------------------|----------------------|--------------------------|
| 第78図<br>1 | 鉢<br>土師器 | A(15.1)<br>B 7.2 | 丸底。体部は内擱して立ち上がり。<br>口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外表面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナギ。 | 砂粒・長石・石英<br>褐色<br>普通 | P159 60% PL46<br>貯蔵穴北側床面 |

| 図版番号      | 器種  | 計測値(m)            | 器形の特徴  | 手法の特徴                   | 胎土・色調・焼成              | 備考                               |
|-----------|-----|-------------------|--|-------------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 第78図<br>2 | 甕   | A(15.2)<br>B(2.6) | 口縁部が外反する。流状<br>口縁。                           | 口縁部内・外面横ナデ。             | 石英・長石・雲母<br>褐色<br>普通  | P160 5%<br>南西コーナー部底土下層<br>(流れ込み) |
|           | 土師器 | C 6.1             | 体部下半から底部にかけての破片。<br>突出した平底。体部は内側して立ち<br>上がる。 | 体部外面へラ削り後ナデ。内面へラ<br>ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黒褐色<br>普通 | P161 20%<br>北東コーナー部床面            |

#### 第45号住居跡（第79図）

位置 調査区南部、F3cs区。

規模と平面形 長軸3.30m、短軸2.91mの

長方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は20cm程度、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に柔らかい。

ピット 5か所 (P1-P5)。P1-P4は径35cm程の円形、深さ18-26cmで、いずれも主柱穴、P5は径32cmの円形、深さ20cmで、出入り施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径60cm、短径45cmの梢円形で、床面を僅かに握り産めている。炉床は火熱を受け僅かに赤変硬化している。

覆土 3層からなる人為堆積である。

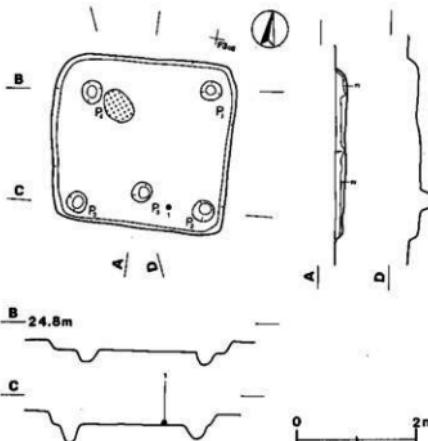
##### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

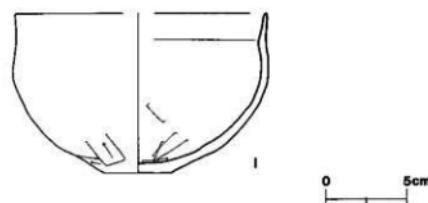
遺物 土師器の壺片を主体に少量出土している。炉の周囲から少量の土師器片と火熱を受けた4点の粘土塊が出土している。

1の鉢は南東コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第79図 第45号住居跡実測図



第80図 第45号住居跡出土遺物実測図

#### 第45号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種 | 計測値(m)                    | 器形の特徴                                | 手法の特徴                   | 胎土・色調・焼成             | 備考                    |
|-----------|----|---------------------------|--------------------------------------|-------------------------|----------------------|-----------------------|
| 第80図<br>1 | 鉢  | A(15.5)<br>B 9.8<br>C 4.1 | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に後をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。 | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通 | P162 40%<br>南東コーナー部床面 |

第46号住居跡（第81図）

位置 調査区南西部、F2f4区。

重複関係 本跡は南西壁が第4号地点貝塚を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸7.31m、短軸7.21mの方形である。

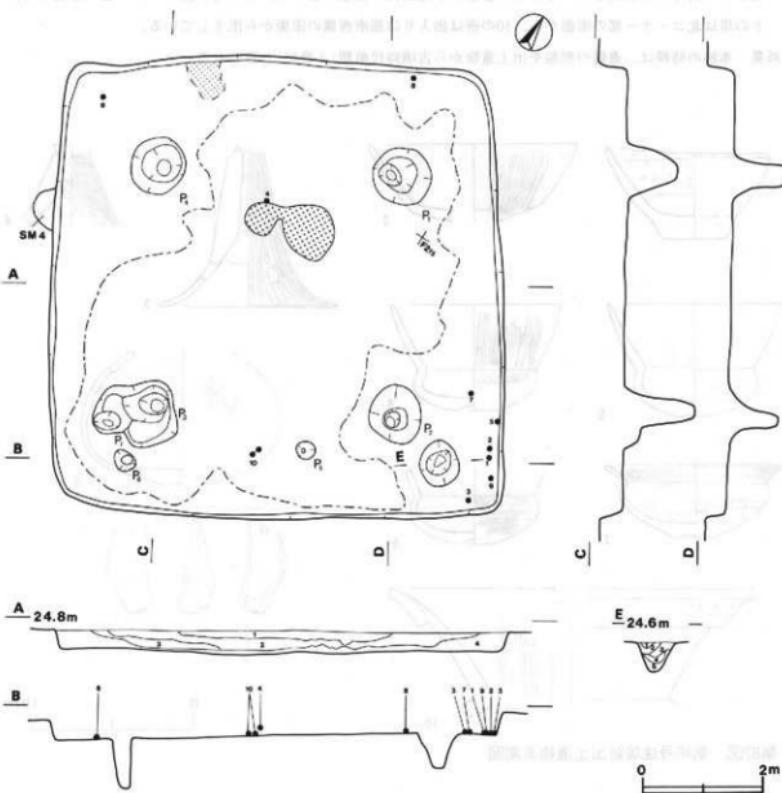
主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は22~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 7か所 ( $P_1$ ~ $P_7$ )。 $P_1$ ~ $P_4$ は長径95~105cm、短径80~95cmの楕円形、深さ80~115cmで、いずれも主柱穴。 $P_5$ は長径35cm、短径30cmの楕円形、深さ39cmで、出入り口施設に伴うピット。 $P_6$ ・ $P_7$ は長径30~45cm、短径30cmの楕円形、深さ49~79cmで、補助柱穴と考えられる。

炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径150cm、短径95cmの不定形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は



第81図 第46号住居跡実測図

火然を受け赤変硬化している。

図12号一層留置井跡

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径72cm、短径65cmの円形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- |                               |                                       |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| 1 楠色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量       | 4 黒褐色 焙土粒子中量、ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物少量     |
| 2 喜褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・燒土粒子少量 | 5 楠色 ローム粒子・ローム中ブロック中量、ローム大ブロック中ブロック少量 |

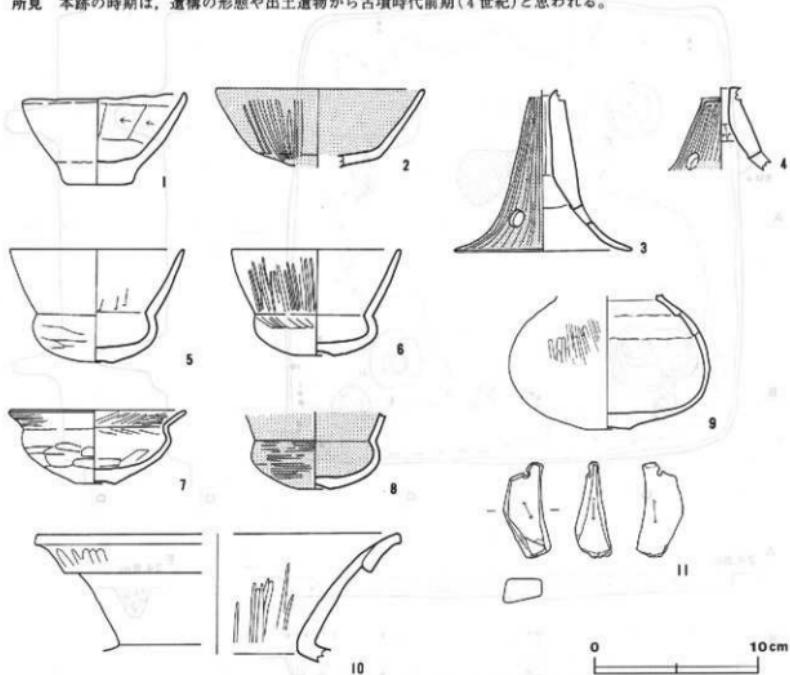
覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- |                          |                               |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量            | 3 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 喜褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 4 楠色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量  |

遺物 主に各コーナー付近の覆土中層から床面にかけて土器器を主体に出土している。東コーナー部の北東壁際から南東壁際にかけての床面からは6点の土器器(北側から順に7・5の壺、2の高杯、1の桶、9の盃及び3の高杯)が出土している。4の器台は炉北西側の覆土中層から、6の壺は西コーナー部の床面から、8の壺は北コーナー部の床面から、10の盃は出入り口部南西側の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀)と思われる。



第82図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種               | 計測値(cm)                    | 器形の特徴   | 手法の特徴                                      | 胎土・色調・焼成               | 備考                                  |
|-----------|------------------|----------------------------|---|--|------------------------|-------------------------------------|
| 第82図<br>1 | 鉢                | A. 9.8<br>B. 5.8<br>C. 4.1 | 平底。体部は器底を減じながら内壁<br>気味に立ち上がり、口縁部に至る。          | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ<br>削り、外面ヘラ削り後ナデ。         | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通  | P163 95% PL46<br>東コーナー部床面<br>底部内面剥離 |
|           | 高<br>土<br>師<br>器 | A 13.0<br>B( 4.9)          | 脚部欠損。脚部は外傾して立ち上<br>がる。坏部外面下位に縫をもつ。            | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面縦位<br>のヘラ磨き。坏部内・外面赤影。       | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通    | P164 40%<br>東コーナー部床面<br>坏部内面剥離      |
|           | 高<br>土<br>師<br>器 | D 11.0<br>E( 9.9)          | 脚部欠損。脚部はラッパ状に開く。<br>脚部に孔を穿つ。                  | 脚部外縦位のヘラ磨き、内面横ナ<br>デ。脚部外面赤影。               | 長石・石英<br>赤色<br>普通      | P165 50%<br>東コーナー部床面                |
| 4         | 器<br>台           | B( 5.1)                    | 脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。<br>脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を<br>穿つ。  | 脚部外縦位のヘラ磨き、内面横ナ<br>デ。器受部内面、脚部外面赤影。         | 長石・石英<br>赤色<br>普通      | P167 30%<br>炉北西側土中幅                 |
|           | 土<br>師<br>器      | A 10.8<br>B 7.0            | 丸底であるが中央がやや凹む。体部<br>は内擱して立ち上がり、口縁部は大<br>きく開く。 | 口縁部内ヘラナデ、外面ナデ。体部<br>外削ヘラナデ。                | 長石・石英<br>浅黄褐色<br>普通    | P168 95% PL46<br>東コーナー部床面<br>二次焼成   |
| 6         | 壇                | A 10.4<br>B 6.6            | 丸底であるが中央がやや凹む。体部<br>は内擱して立ち上がり、口縁部は大<br>きく開く。 | 口縁部内面横ナデ。外面縦位のヘラ<br>磨き。                    | 長石・石英、雲母<br>浅黄褐色<br>普通 | P169 100%<br>西コーナー部床面<br>二次焼成       |
|           | 土<br>師<br>器      | A 10.9<br>B 4.5<br>C 2.5   | 中央がやや凹む平底。体部は内擱し<br>て立ち上がり、口縁部は短く外傾す<br>る。    | 口縁部内面横ナデ後ヘラ磨き、外<br>面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナ<br>デ。 | 長石・石英、雲母<br>橙色<br>普通   | P171 100% PL46<br>東コーナー部床面          |
| 8         | 壇                | B( 4.8)                    | 口縁部欠損。中央がやや凹む丸底。<br>体部は内擱して立ち上がる。             | 体部外縦位のヘラ磨き。体部内・<br>外面赤影。                   | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通  | P173 50% PL46<br>北コーナー部床面           |
|           | 土<br>師<br>器      | B( 8.2)<br>C 2.7           | 口縁部欠損。中央がやや凹む平底。<br>体部は盤平な球状で最大径を下位に<br>もつ。   | 体部外縦位のヘラ磨き。                                | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通  | P172 60%<br>東コーナー部床面                |
| 10        | 壇                | A(22.5)<br>B( 8.0)         | 口縁部片。口縁部は腹部から「く」<br>の字状に外反する。折り返し口縁。          | 口縁部内・外縦位ナデ。腹部内面縦<br>位のヘラ磨き。                | 長石・石英<br>橙色<br>普通      | P174 20%<br>出入り口部南側床面               |

| 図版番号   | 種別  | 計画面積   |       |        |        | 石質    | 出土地点 | 備考  |
|--------|-----|--------|-------|--------|--------|-------|------|-----|
|        |     | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g)  |       |      |     |
| 第82図11 | 底 石 | (5.9)  | 2.4   | 1.9    | (29.3) | 粘 壤 岩 | 底土中  | Q12 |

第47号住居跡（第83図）

位置 調査区南西端部。F2f区。

重複関係 本跡は南東壁を第23号土坑に、炉の西部を第24号土坑に掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸5.23m、短軸5.06mの方形である。

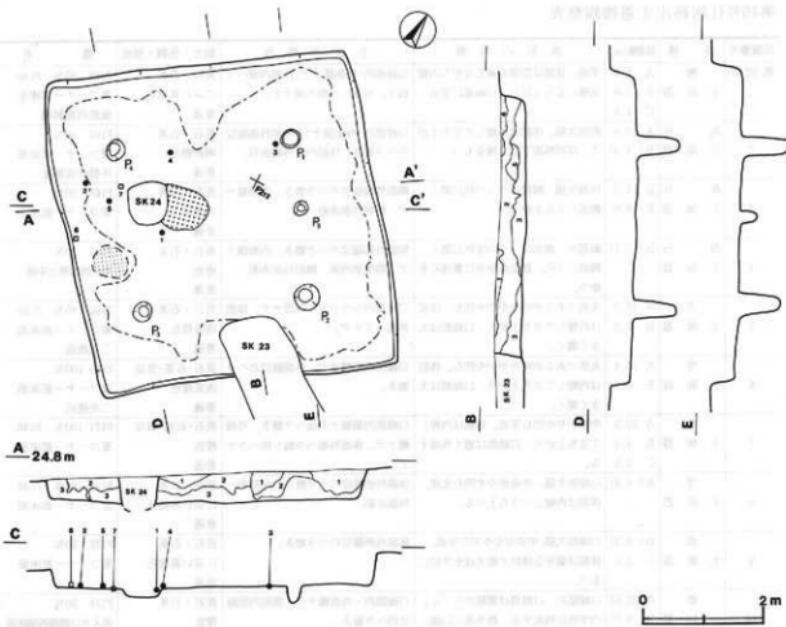
主軸方向 N-123°-W

壁 壁高は32~56cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径32~44cm、短径28~40cmの楕円形、深さ68~77cmで、いずれも主柱穴、P5は径22cmの円形、深さ27cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部からやや西寄りにあり、短径65cm程の楕円形と推定される。床面を10cm程掘り盛めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第83図 第47号住居跡実測図

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

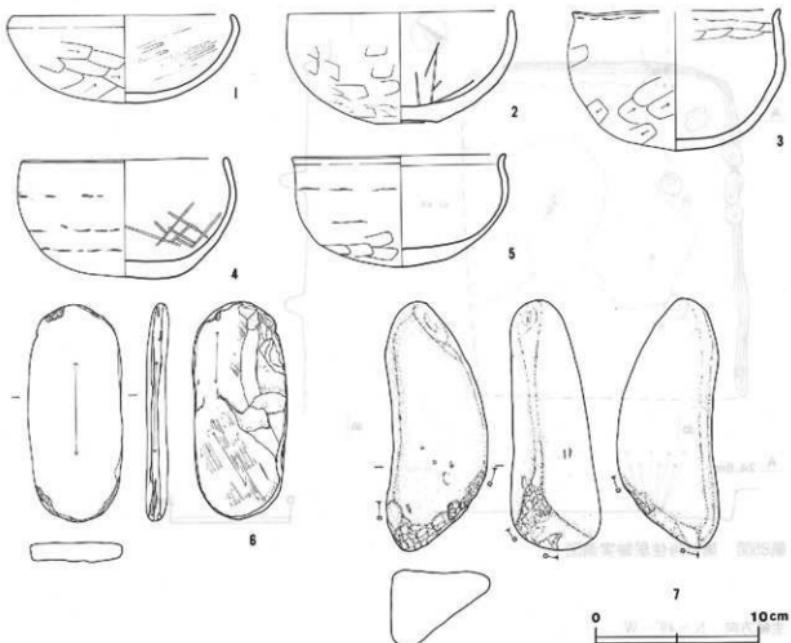
- 1 黄色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒色 ローム粒子少量
- 3 黄色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
- 4 黄色 ローム粒子多量、ローム小・中・大ブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 主に炉を中心とする住居跡西部の床面から土器片を主体に出土している。1の壺は炉南側から、2の壺及び5の椀は炉西側から正位の状態で、3の椀はP1南西側から、4の椀は炉北側のいずれも床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀後半)と思われる。

第47号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号      | 器種      | 計画図(cm)         | 器形の特徴                       | 手法の特徴                            | 胎土・色調・焼成               | 備考                     |
|-----------|---------|-----------------|-----------------------------|----------------------------------|------------------------|------------------------|
| 第84図<br>1 | 壺<br>土器 | A 13.5<br>B 5.4 | 丸底。体部は内唇して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り後ヘラナデ。 | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通 | P175 95% PL47<br>炉南側床面 |
|           |         | C 3.8           | 平底。体部は内唇して立ち上がり、口縁部は直立する。   | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り後ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通   | P176 95% PL47<br>炉西側床面 |



第84図 第47号住居跡出土遺物実測図

このうち第47号住居跡の調査記録は、既述の如く、本跡の構造は不明である。

| 図版番号      | 器種  | 計測値(cm) | 器形の特徴                        | 手法の特徴                                  | 胎土・色調・焼成               | 備考                      |
|-----------|-----|---------|------------------------------|--|------------------------|-------------------------|
| 第84図<br>3 | 椀   | A(12.4) | 丸底。体部は内彌して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外縁横ナデ。体部外面へラ削り。                   | 砂粒・長石・石英<br>浅黄褐色<br>普通 | P177 50% PL46<br>炉南西側床面 |
|           | 土師器 | B 8.5   |                              |  |                        |                         |
| 4         | 椀   | A 12.6  | 丸底。体部は内彌して立ち上がり、口縁部は内傾する。    | 口縁部内・外縁横ナデ。体部外面へラ削り後ハナナデ。体部外面に輪積み痕が残る。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通  | P178 95% PL46<br>炉北側床面  |
|           | 土師器 | B 7.3   |                              |  |                        |                         |
| 5         | 椀   | A 13.2  | 丸底。体部は内彌して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外縁横ナデ。体部外面へラ削り後ハナナデ。体部外面に輪積み痕が残る。 | 長石・石英・雲母<br>褐色<br>普通   | P179 100% PL47<br>炉西側床面 |
|           | 土師器 | B 6.8   |                              |  |                        |                         |

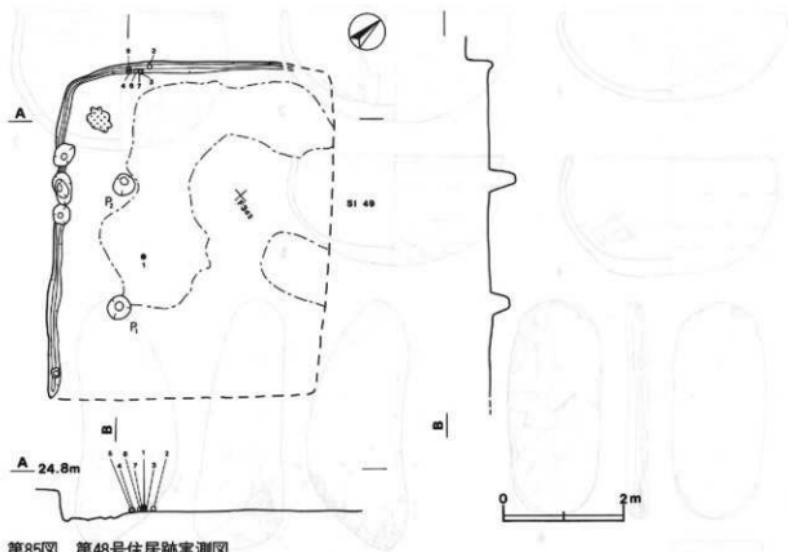
| 図版番号   | 種別  | 計測値    |       |        | 石質    | 出土地点 | 備考           |     |
|--------|-----|--------|-------|--------|-------|------|--------------|-----|
|        |     | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) |       |      |              |     |
| 第84図 6 | 紙 石 | 13.4   | 5.7   | 1.3    | 176.2 | 粘板岩  | 南西壁中央部床面     | Q13 |
| 7      | 瓶 石 | 15.3   | 6.3   | 5.6    | 551.4 | 砂 岩  | 南西壁西コーナー寄り床面 | Q14 |

第48号住居跡（第85図）

位置 調査区南部。F3d:区。

重複関係 本跡は第49号住居跡の下に構築されており、本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、一辺5.60m程の方形か長方形と推定される。



第85図 第48号住居跡実測図

主軸方向 N - 49° - W

壁 壁高は50cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

図85実測図

壁溝 南西壁下と北西壁下に確認され、上幅13cm程、下幅6cm程で、断面形はU字状である。

床 全体に平坦で、踏み固められている。

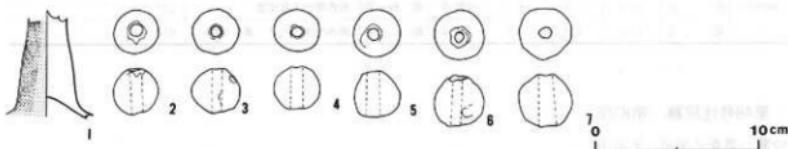
ピット 2か所 (P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>)。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は径38cm程の円形、深さ31~47cmで、性格は不明である。

炉 西コーナー寄りにあり、長径45cm、短径35cmの不定形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 第49号住居跡の貼床の下に確認したため、堆積状況は不明である。

遺物 土師器の瓦片を主体に少量出土している。1の高壙の脚はP<sub>1</sub>北東側の覆土下層から、2~7の6点の土玉は西コーナー部北西壁際の床面から集中して出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第86図 第48号住居跡出土遺物実測図

### 第48号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号        | 器種             | 計測値(cm)  | 器形の特徴        | 手法の特徴               | 胎土・色調・焼成             | 備考                     |
|-------------|----------------|----------|--------------|---------------------|----------------------|------------------------|
| 第 86 図<br>1 | 高 壁 壺<br>土 部 器 | B( 6.5 ) | 脚部片。脚部は中実柱状。 | 脚部外表面のヘラ磨き。脚部外表面赤彩。 | 長石・石英・粘土<br>赤色<br>普通 | P180 10%<br>P, 北京鉄器土下層 |

| 図版番号  | 種別  | 計測値    |       |        |        | 出土地點 | 備考                 |
|-------|-----|--------|-------|--------|--------|------|--------------------|
|       |     | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |      |                    |
| 第86図2 | 土 玉 | 2.8    | 2.7   | —      | 0.8    | 17.9 | 北西壁際西コーナー寄り床面 DP30 |
| 3     | 土 玉 | 2.7    | 2.9   | —      | 0.6    | 17.6 | 北西壁際西コーナー寄り床面 DP31 |
| 4     | 土 玉 | 2.6    | 2.8   | —      | 0.7    | 19.0 | 北西壁際西コーナー寄り床面 DP32 |
| 5     | 土 玉 | 2.8    | 2.9   | —      | 0.8    | 21.5 | 北西壁際西コーナー寄り床面 DP33 |
| 6     | 土 玉 | 3.0    | 3.1   | —      | 0.6    | 25.3 | 北西壁際西コーナー寄り床面 DP34 |
| 7     | 土 玉 | 3.2    | 3.2   | —      | 0.8    | 27.7 | 北西壁際西コーナー寄り床面 DP35 |

### 第49号住居跡（第87図）

位置 調査区南部, F3ds区。

重複関係 本跡は第48号住居跡の上に構築しており、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸6.94m, 短軸6.86mの方形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は28~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径40~55cm, 短径35~50cmの円形あるいは梢円形、深さ79~90cmで、いずれも主柱穴、P5は径38cmの円形、深さ47cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径150cm、短径100cmの不整梢円形で、床面を10cm程掘り窪めている。

炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径60cmの円形で、深さは88cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- |   |      |                                 |   |      |                  |
|---|------|---------------------------------|---|------|------------------|
| 1 | 暗褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロ<br>ック少量 | 2 | 暗褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック中量 |
| 3 | 極端褐色 | ローム粒子少量                         | 3 | 極端褐色 | ローム粒子少量          |

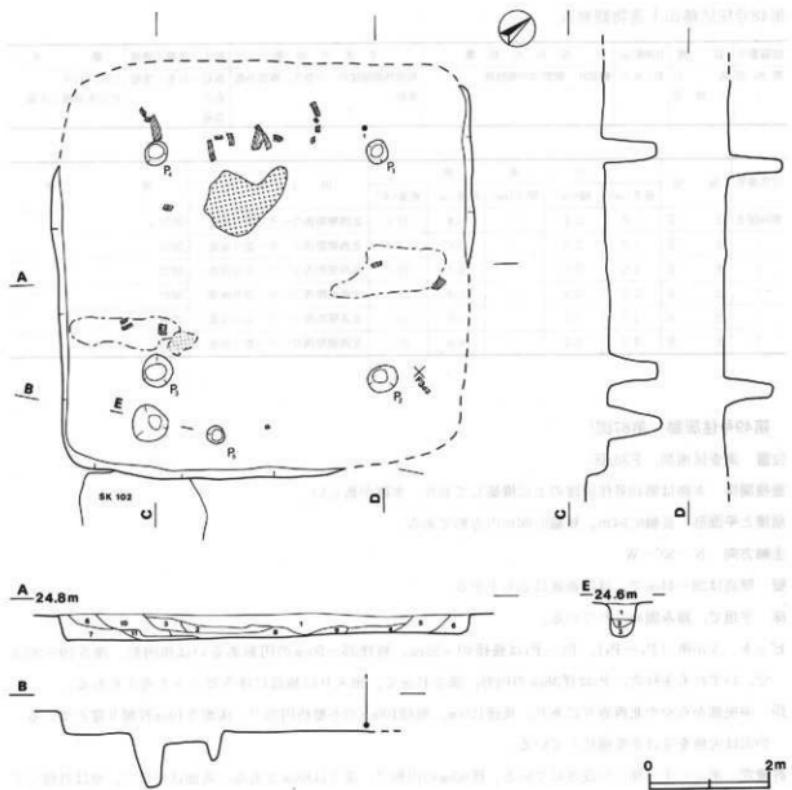
覆土 11層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

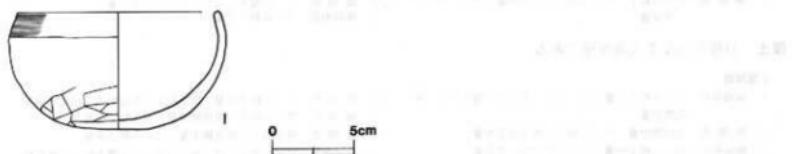
- |   |      |                                |    |      |                                 |
|---|------|--------------------------------|----|------|---------------------------------|
| 1 | 極端褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量    | 6  | 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物粒子・炭化物少量        |
| 2 | 黒褐色  | 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量             | 7  | 暗褐色  | ローム粒子・炭化物中量、焼土粒子少量              |
| 3 | 極端褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量             | 8  | 暗褐色  | 焼土粒子・炭化物中量、ローム粒子少量              |
| 4 | 黒褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量             | 9  | 極端褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物<br>粒子少量 |
| 5 | 暗褐色  | ローム粒子多量、炭化物中量、焼土粒子・炭化物粒子<br>少量 | 10 | 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量                    |
|   |      |                                | 11 | 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物粒子・炭化物少量        |

遺物 土器器の壺片を主体に少量出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の焼は炉と北コーナー間の覆土下層から正位の状態で出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。



第87図 第49号住居跡実測図



第88図 第49号住居跡出土遺物実測図

#### 第49号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号        | 器種         | 計測値(cm)         | 器形の特徴                         | 手法の特徴                     | 胎土・色調・焼成                 | 備考                                       |
|-------------|------------|-----------------|-------------------------------|---------------------------|--------------------------|--|
| 第 88 図<br>1 | 瓶<br>上 部 器 | A 12.3<br>B 7.2 | 丸底。体部は内縫して立ち上がり。<br>口縁部は内縫する。 | 口縫部内・外縫接ナダ。体部外面へ<br>テラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P181 100% PL46<br>伊北コーナー貝覆土下層<br>体部外面媒付着 |

第50号住居跡（第89図）

位置 調査区南部, F3cs区。

重複関係 本跡は北部を第52号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.40m, 短軸5.32mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

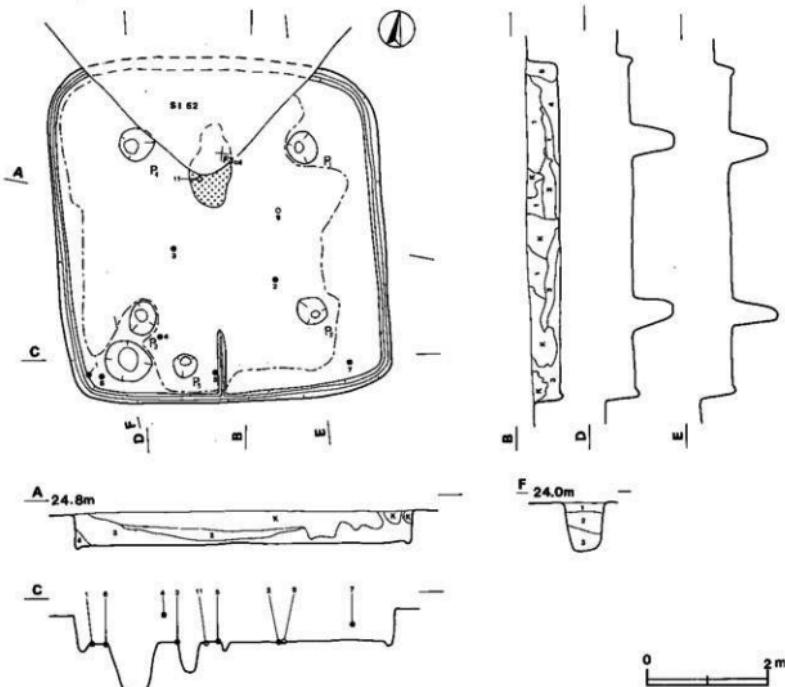
壁 壁高は48~54cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周してあり、上幅10~15cm, 深さ8cm程で、断面形はU字状である。

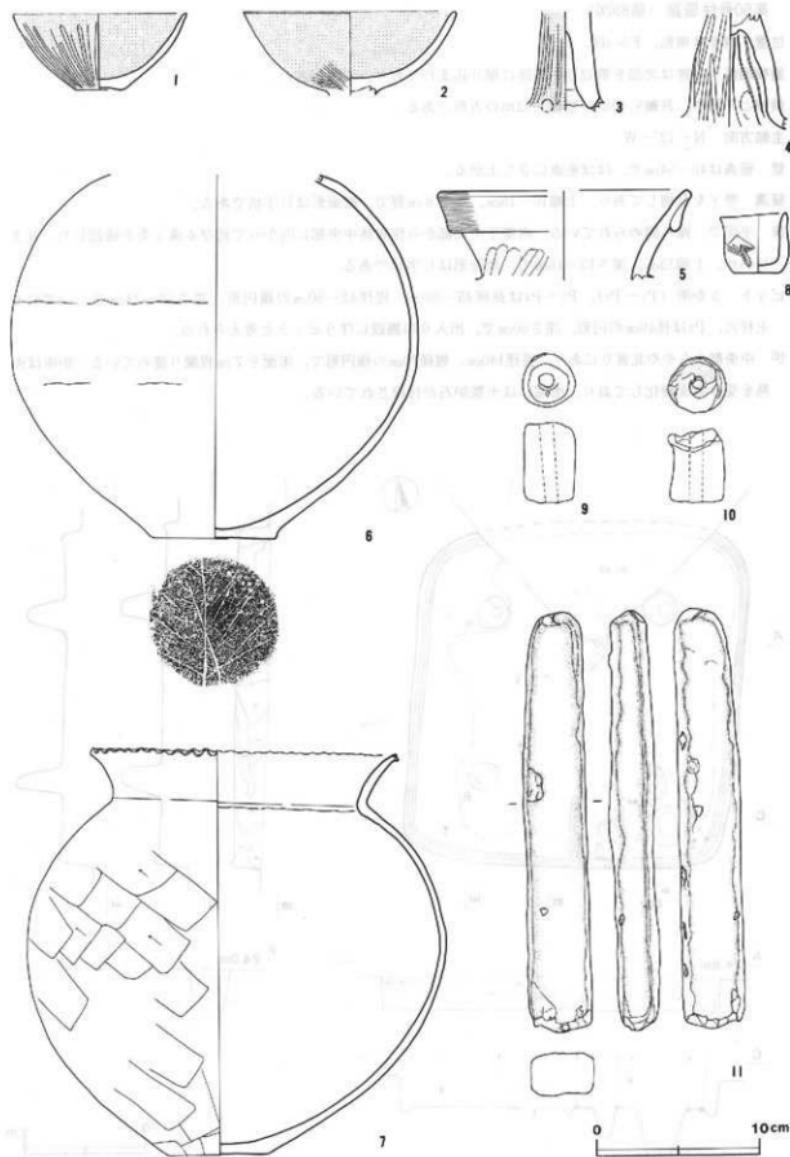
床 平坦で、踏み固められている。南壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝1条を確認した。長さ1.05m, 上幅13cm, 深さ10~16cmで、断面形はU字状である。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径45~60cm, 短径42~50cmの楕円形、深さ60~74cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径40cmの円形、深さ60cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部からやや北寄りにあり、長径140cm, 短径70cmの楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、南部には土製炉石が付設されている。



第89図 第50号住居跡実測図



第90図 第50号住居跡出土遺物実測図

貯藏穴 南西コーナー部に付設されている。長径80cm、短径65cmの梢円形で、深さは80cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯藏穴土層解説

- |   |     |                   |   |    |                    |
|---|-----|-------------------|---|----|--------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 2 | 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子少量    |   |    |                    |

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- |   |     |                  |   |     |                    |
|---|-----|------------------|---|-----|--------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック中量、炭化材少量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量   |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量   | 5 | 褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 3 | 褐色  | ローム粒子・ローム大ブロック少量 |   |     |                    |

遺物 炉周辺や住居跡南部の床面から土器器の壺片を主体に出土している。1の碗及び6の壺は南西コーナー部の床面から、2の高杯は中央部の床面から、3の高杯は炉南側の床面から、4の高杯はP<sub>3</sub>北側の覆土上層から、7の甕は南東コーナー部の覆土中層から、8の手握土器は中央部の覆土中層から出土している。炉床の南部からは11の土製炉石が炉の長径に対して直交した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第50号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 |   | 器種          | 計画値(cm)                   | 器形の特徴  | 手法の特徴   | 胎土・色調・焼成               | 備考                                 |
|------|---|-------------|---------------------------|--|---|------------------------|------------------------------------|
| 第90図 | 1 | 碗<br>土師器    | A 10.7<br>B 4.6<br>C 3.0  | 平底。体部は器厚を減じながら内斜<br>傾いて立ち上がり、口縁部に至る。             | 口縁部外表面横ナデ後縦位のヘラ磨き。<br>体部外表面位のヘラ磨き。内・外斜赤彩。         | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通     | P182 95% PL47<br>南西コーナー部床面<br>内斜赤彩 |
|      | 2 | 高杯<br>土師器   | A 13.1<br>B(4.9)          | 壺部片。壺部は器厚を減じながら内<br>斜傾いて立ち上がり、口縁部に至る。            | 口縁部内・外表面横ナデ後縦位のヘラ<br>磨き。壺部外表面位のヘラ磨き。壺<br>部内・外斜赤彩。 | 長石・雲母<br>赤褐色<br>普通     | P183 50% PL47<br>中央部床面             |
|      | 3 | 高杯<br>土師器   | B(6.0)                    | 脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。<br>脚部に3孔を穿つ。                   | 脚部外表面位のヘラ磨き。脚部外<br>面赤彩。                           | 長石・石英<br>赤色<br>普通      | P184 20%<br>炉南側床面                  |
|      | 4 | 高杯<br>土師器   | B(7.0)                    | 脚部片。脚部は中空で「ハ」の字状<br>に開く。                         | 脚部外表面位のヘラ磨き。                                      | 長石・石英・スコリア<br>褐色<br>普通 | P185 30%<br>P <sub>3</sub> 北側覆土上層  |
|      | 5 | 壺<br>土師器    | A(15.6)<br>B(5.5)         | 口縁部片。口縁部は外反して立ち上<br>がる。折り返し口縁。                   | 口縁部内・外表面横ナデ。                                      | 長石・石英<br>褐色<br>普通      | P186 10%<br>出入り口部北側床面              |
|      | 6 | 壺<br>土師器    | B(22.4)<br>C 7.6          | 口縁部欠損。平底。体部は球状で截<br>大径を中空にもつ。                    | 体部外表面ヘラ削り後ナデ。底部に木<br>柴痕が残る。                       | 長石・石英・雲母<br>黒褐色<br>普通  | P188 40% PL47<br>南西コーナー部床面         |
|      | 7 | 甕<br>土師器    | A 19.0<br>B 25.0<br>C 6.0 | 平底。体部は球状で最大径を中位に<br>もつ。口縁部は「く」の字状に外反<br>する。波状口縁。 | 口縁部内・外表面横ナデ。体部外表面ヘ<br>ラ削り後ヘラナデ。                   | 長石・石英<br>褐色<br>普通      | P189 90% PL47<br>南東コーナー部覆土中層       |
|      | 8 | 手握土器<br>土師器 | A 4.1<br>B 3.7<br>C 3.0   | 平底。体部はほぼ直立し、口縁部は<br>僅かに外反する。                     | 口縁部内・外表面横ナデ。体部内・外<br>面に指圧痕痕が残る。                   | 長石・石英<br>にぼい褐色<br>普通   | P190 90% PL47<br>中央部覆土中層           |

| 図版番号  | 種別   | 計測値    |       |        |        | 出土地点  | 備考    |
|-------|------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|
|       |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |       |       |
| 第90図9 | 管状土錐 | 5.0    | 3.2   | —      | 0.9    | 54.2  | 中央部床面 |
| 10    | 管状土錐 | 4.5    | 3.6   | —      | 0.8    | 51.1  | 覆土中   |
| 11    | 土製炉石 | 25.7   | 3.8   | 2.7    | —      | 343.0 | 炉床南部  |

### 第51号住居跡（第50図）

位置 調査区南部, F3g:区。

重複関係 本跡は第29号住居跡の上に構築しており、本跡が新しい。

規模と平面形 南西部が調査区外に延びているため、正確な規模と平面形は不明である。

床 平坦で、踏み固められている。

所見 本跡は床面のみの確認である。重複関係から第29号住居跡より新しい時期であるが、詳細な時期は不明である。

### 第52号住居跡（第91図）

位置 調査区南部, F3b:区。

重複関係 本跡は南コーナー部が第50号住居跡を掘り込み、北東壁を第53号住居跡に掘り込まれていることから、第50号住居跡より新しく、第53号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸5.71m、短軸5.46mの方形である。

主軸方向 N-51°-W

壁 壁高は26~34cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東壁下を除いた壁下に確認され、上幅12cm程、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、炉の周囲が特に踏み固められている。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径50~60cm、短径45~50cmの楕円形、深さ57~115cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径45cmの円形、深さ52cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり、長径90cm、短径80cmの楕円形で、床面を10cm程掘り盛めている。炉床は火熱を受け強く赤変硬化している。

覆土 4層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック中量、炭化物少量  
2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

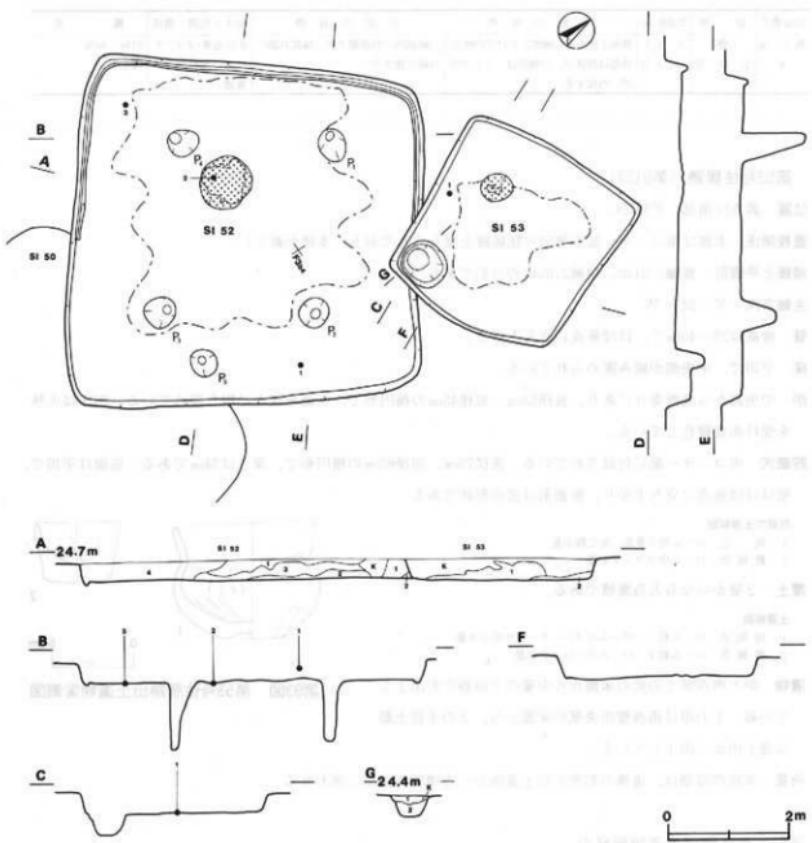
3 暗褐色 ローム粒子・ローム大ブロック少量  
4 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量

遺物 主に東・西コーナー付近と炉床から土器類の壺片を主体に少量出土している。1の高坏は東コーナー部の覆土上層から、2の高坏は炉床から、3の小形壺は西コーナー部の床面から、4の壺は覆土中から散在した状態で出土している。

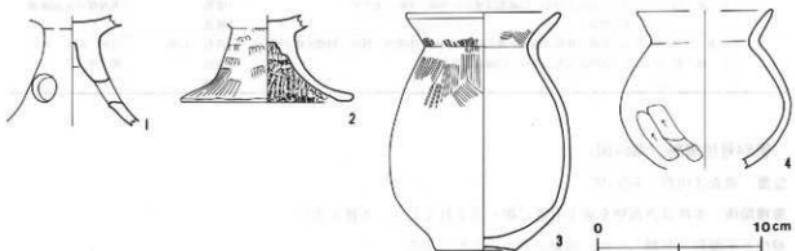
所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

### 第52号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種  | 計測値(cm) | 器形の特徴                         | 手法の特徴             | 胎土・色調・焼成                   | 備考                        |
|------|-----|---------|-------------------------------|-------------------|----------------------------|---------------------------|
| 第52図 | 高坏  | B(6.7)  | 脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部外部縫合のヘラ磨き。 |                   | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P191 30%<br>東コーナー部覆土上層    |
| 1    | 土器  | E(5.6)  | 脚部に3孔を穿つ。                     |                   |                            |                           |
| 2    | 高坏  | B(5.4)  | 脚部片。脚部はラバガ状に開く。               | 脚部内・外面ハケ目整形。      | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P192 40%<br>炉床<br>二次焼成    |
|      | 土器  | D       |                               |                   |                            |                           |
|      |     | E       |                               |                   |                            |                           |
|      |     | 4.3     |                               |                   |                            |                           |
| 3    | 小形壺 | A 9.5   | 平底。体部は縦長の球状で底大径を              | 口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。 | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P193 95% PL47<br>西コーナー部床面 |
|      | 土器  | B 14.6  | 下位にもつ。口縁部は「く」の字状              | 体部外縫合のハケ目整形後ナデ。   |                            |                           |
|      |     | C 5.2   | に外反する。                        |                   |                            |                           |



第91図 第52・53号住居跡実測図



第92図 第52号住居跡出土遺物実測図

| 国版番号       | 器種         | 計測値(cm)          | 器形の特徴  | 手法の特徴                       | 粘土・色調・焼成                   | 備考              |
|------------|------------|------------------|--|-----------------------------|----------------------------|-----------------|
| 第92 国<br>4 | 壺<br>上 鈎 器 | A 8.4<br>B (9.7) | 体部上位から口縁部にかけての破片。<br>体部は球状で、口縁部は「く」の字<br>状に外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側へ<br>ヲ削り抜ナデ。 | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P194 40%<br>覆土中 |

### 第53号住居跡（第91図）

位置 調査区南部, F3a4区。

重複関係 本跡は南コーナー部が第52号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.01m, 短軸2.95mの方形である。

主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は28-40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径53cm, 短径45cmの梢円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径75cm, 短径65cmの梢円形で、深さは34cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物少量
- 2 黄褐色 ローム中ブロック中量

覆土 2層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 炉と南西壁との間の床面から少量の土師器片が出土し

ている。1の堆は南西壁中央部の床面から、2の手握土器

は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

### 第53号住居跡出土遺物観察表

| 国版番号       | 器種               | 計測値(cm)                   | 器形の特徴                                       | 手法の特徴                       | 粘土・色調・焼成          | 備考                         |
|------------|------------------|---------------------------|---|-----------------------------|-------------------|----------------------------|
| 第93 国<br>1 | 壺<br>上 鈎 器       | A 8.8<br>B 7.3<br>C 3.8   | 中央がやや凹む平底。体部は内側し<br>て立ち上がり、口縁部は僅かに外傾<br>する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側へ<br>ヲ削り抜ナデ。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通 | P195 100% PL47<br>南西壁中央部床面 |
| 2          | 手 握 土 器<br>土 師 器 | A [5.1]<br>B 3.7<br>C 4.0 | 平底。体部は厚唇を減じながら内唇<br>気味に立ち上がり、口縁部に至る。        | 体部内・外面に指頭圧痕が残る。             | 長石・石英<br>橙色<br>普通 | P196 60% PL47<br>覆土中       |



第93図 第53号住居跡出土遺物実測図

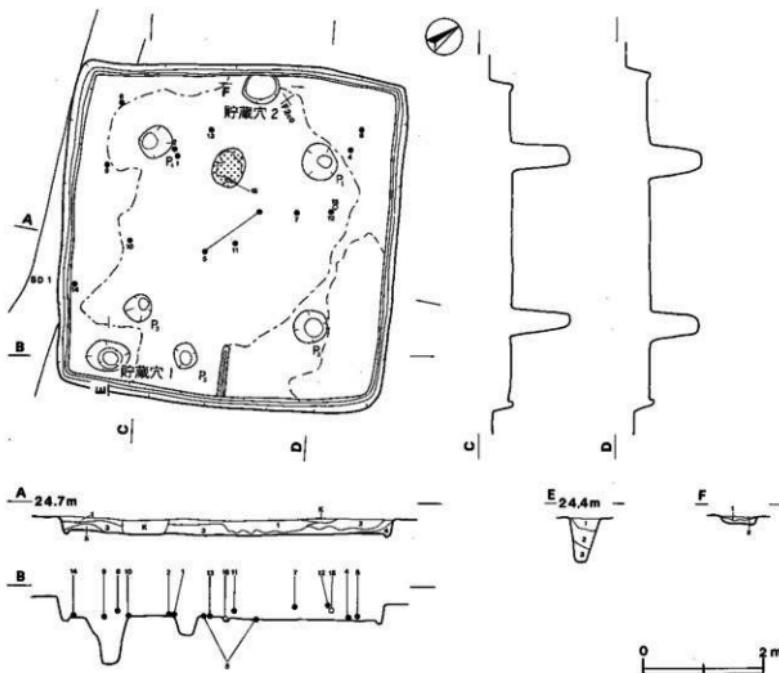
### 第54号住居跡（第94図）

位置 調査区南部, F2c4区。

重複関係 本跡は南西壁を第1号溝に掘り込まれておらず、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.60m, 短軸5.50mの方形である。

主軸方向 N-51°-W



第94図 第54号住居跡実測図

壁 壁高は26~42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅7~15cm、深さ5cm程度で、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が特に踏み固められている。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径46~62cm、短径40~55cmの楕円形、深さ76~95cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径38cmの円形、深さ30cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径65cm、短径52cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、南東部には土製炉石が付設されている。

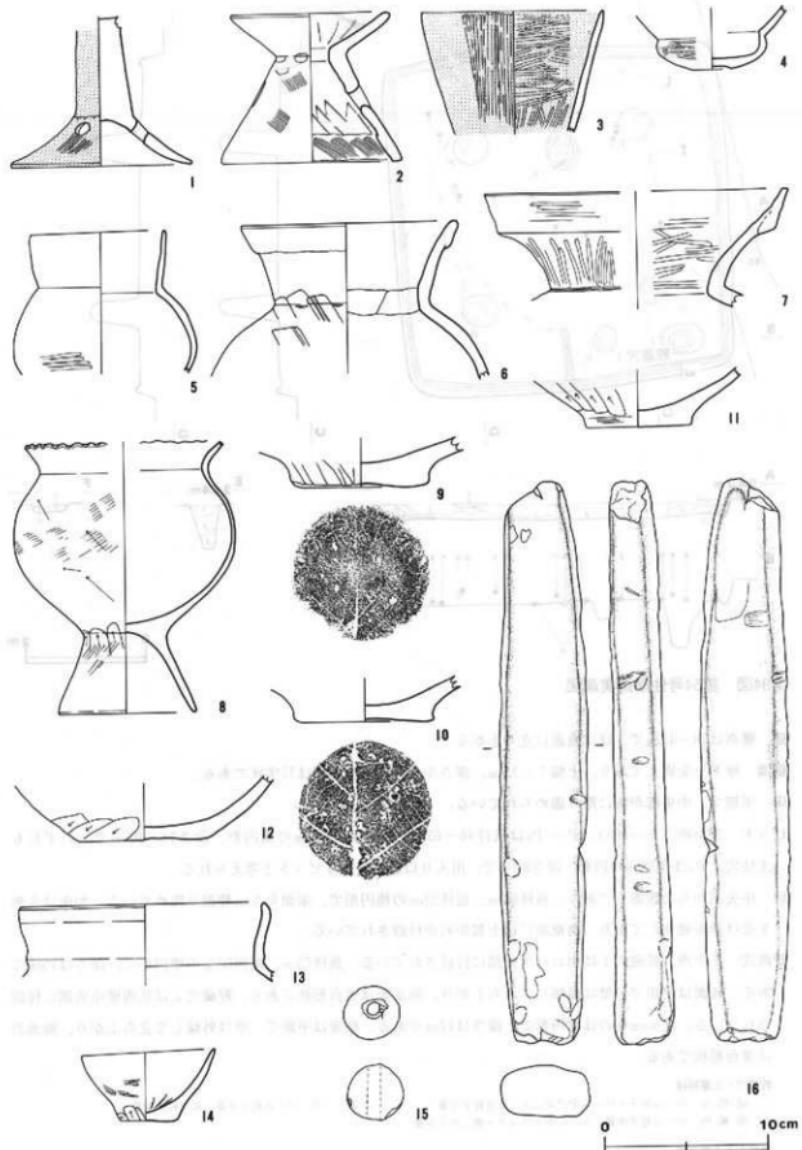
貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されている。長径70cm、短径50cmの楕円形で、深さは75cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。貯蔵穴2は北西壁中央部に付設されている。径60cm程度のはば円形で、深さは17cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴1 土層解説

- |                               |                      |
|-------------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子少量   | 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量 |                      |

#### 貯蔵穴2 土層解説

- |  |                                |
|--|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小・中ブロック・炭化物中量、ローム粒子・ローム中ブロック少量 | 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、炭化物少量 |
|--|--------------------------------|



第95図 第54号住居跡出土遺物実測図

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

|   |       |                      |   |       |                    |
|---|-------|----------------------|---|-------|--------------------|
| 1 | 褐 色   | ローム粒子多量。ローム中・大ブロック少量 | 4 | 褐暗褐色  | ローム粒子・炭化物中量。焼土粒子少量 |
| 2 | 褐 色   | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量   | 5 | 暗 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量  |
| 3 | 暗 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量     |   |       |                    |

遺物 主に炉周辺及び南・北コーナー付近の覆土中層から床面にかけて土師器を主体に出土している。また、出入り口周辺を除く四方の壁寄りの床面から炭化材と焼土塊が出土している。1の高壙及び2の器台は炉南西側の床面から、3の壙は覆土中から、4の壙は北コーナー部の床面から、5の壙は炉東側の床面から、6の壙は西コーナー部の覆土下層から、7の壙及び12の壙はP1南東側の覆土中層から、8の台付壙は北コーナー部の覆土下層から、9の壙は南西壁際西コーナー寄りの床面から、10・11の壙は中央部の床面と覆土中層から、13の壙は炉西側の床面から、14のミニチュア土器は南西壁際南コーナー寄りの床面から正位の状態で出土している。炉床の南西部からは16の土製炉石が炉の長径に対してほぼ直交した状態で出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第54号住居跡出土遺物観察表

| 団版番号        | 器種    | 計測値(cm)                                       | 器形の特徴  | 手法の特徴   | 胎土・色調・焼成                   | 備考                            |
|-------------|-------|---|--|---|----------------------------|-------------------------------|
| 第 95 図<br>1 | 土 師 器 | B ( 9.2 )<br>D 11.3<br>E 8.4                  | 壙Bは中実柱状で、裾部はラッパ状に開く。裾部に3孔を穿つ。                          | 脚・裾部外表面横位のヘラ磨き、内面横ナダ。脚・裾部外面部赤彩。                       | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通      | P198 40%<br>炉南西側床面            |
| 2           | 土 師 器 | A 9.8<br>B 9.2<br>D 11.2<br>E 6.5             | 脚部は「ハ」の字状に開く。器部は外傾して立ち上がる。脚部に2孔。器部中央に直通孔を穿つ。器部外口縁部外側削。 | 器部内面横位のヘラナダ。外表面横ナダ。脚部外側ハケ目整形後ナダ。内面横位のヘラナダ。下瀬横位のハケ目整形。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通          | P200 95% PL48<br>炉南西側床面       |
| 3           | 壙     | A 11.4<br>B ( 7.5 )                           | 口縁部。口縁部は外傾する。  | 口縁部内面綻びと横位のヘラ磨き、外表面綻びのヘラ磨き。内・外面部赤彩。                   | 長石・石英<br>暗赤褐色<br>普通        | P202 40%<br>覆土中               |
| 4           | 土 師 器 | B ( 3.8 )                                     | 丸底であるが中央がやや凹む。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は大きく聞く。                  | 体部外表面横位のヘラ磨き。   | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P201 60%<br>北コーナー部床面          |
| 5           | 土 師 器 | A 8.4<br>B ( 8.7 )                            | 体部上半から口縁部にかけての破片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。                      | 口縁部内・外表面横ナダ。体部外表面横位のヘラ磨き。                             | 長石・石英<br>赤色<br>普通          | P203 30%<br>炉東側床面<br>体部外表面削付塗 |
| 6           | 土 師 器 | A 13.3<br>B ( 9.2 )                           | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頭部から「く」の字状に外反する。折り返し口縁。           | 口縁部内・外表面横ナダ。体部外表面横位のヘラナダ。                             | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P209 20% PL48<br>西コーナー部覆土下層   |
| 7           | 土 師 器 | A [18.6]<br>B ( 7.1 )                         | 口縁部。口縁部は頭部から外反する。有段口縁。                                 | 口縁部内面及び外面上位横位のヘラ磨き。頭部外表面綻びのヘラ磨き。                      | 長石<br>橙色<br>普通             | P211 10%<br>P1南西側覆土中層         |
| 8           | 台 付 壙 | A [12.2]<br>B 16.6<br>C 8.4<br>D 8.4<br>E 5.0 | 台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。液状口縁。     | 口縁部内・外表面横ナダ。体部外表面ハケ目整形後ヘラ削り・ヘラナダ。台部下位内・外表面横ナダ。        | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P204 60% PL48<br>北コーナー部覆土下層   |
| 9           | 土 師 器 | B ( 3.0 )                                     | 底部片。突出した平底で中央がやや凹む。                                    | 底部に木炭痕が残る。  | 長石・石英・雲母<br>にぶい黄褐色<br>普通   | P205 10%<br>南西側西コーナーまき土       |
| 10          | 土 師 器 | B ( 2.7 )<br>C 8.5                            | 底部片。突出した平底で中央がやや凹む。                                    | 底部に木炭痕が残る。  | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色<br>普通    | P206 10%<br>中央部床面             |
| 11          | 壙     | B ( 3.5 )<br>C 6.6                            | 体部下位から底部にかけての破片。突出した平底。                                | 体部下位外表面綻びのヘラ磨り。                                       | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通  | P207 10%<br>中央部覆土中層           |

| 図版番号       |         | 器種      | 計測値(cm)                 | 器形の特徴          | 手法の特徴            | 胎土・色調・焼成               | 備考            |
|------------|---------|---------|-------------------------|----------------|------------------|------------------------|---------------|
| 第95図<br>12 | 甕       | B (3.7) | 体部下位から底部にかけての縁片。        | 体部下位外縁斜位のヘラ削り。 | 長石・石英            | P208 10%               |               |
|            | 土器      | C 8.0   | 平底。                     |                | 橙色<br>普通         | P <sub>1</sub> 南東側覆土中層 |               |
| 13         | 甕       | A 15.4  | 口縁部片。                   | 口縁部下位はやや外傾し    | 口縁部内・外面横ナダ。      | 長石                     | P210 10%      |
|            | 土器      | B (4.8) | 上位は内凹する。口縁部下位に不明瞭な様をもつ。 |                | にぶい黄褐色<br>普通     | 炉西側床面                  |               |
| 14         | ミニチュア土器 | A 8.2   | 平底。                     | 口縁部は器厚を減じながら内凹 | 口縁部内・外面横ナダ。体部外縁横 | 長石・石英                  | P197 80% PL47 |
|            | 土器      | B 4.4   | 気味に立ち上がり、口縁部に至る。        | 位のヘラ削き。        | にぶい褐色<br>普通      | 南西壁脇コーナーより床面           |               |
|            |         | C 3.5   |                         |                |                  |                        |               |

| 図版番号   | 種別   | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点       | 備考   |
|--------|------|--------|-------|--------|--------|-------|------------|------|
|        |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |            |      |
| 第95図15 | 土玉   | 3.5    | 3.5   | —      | 0.8    | 29.7  | 中央部北寄り覆土中層 | DP39 |
| 16     | 土製炉石 | 34.5   | 5.5   | 3.2    | —      | 775.8 | 御床南西部      | DP40 |

### 第55号住居跡（第96図）

位置 調査区南部、F2e<sub>2</sub>区。

重複関係 本跡は第57号住居跡の上に構築し、北東部が第56号住居跡を掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.30mの長方形である。

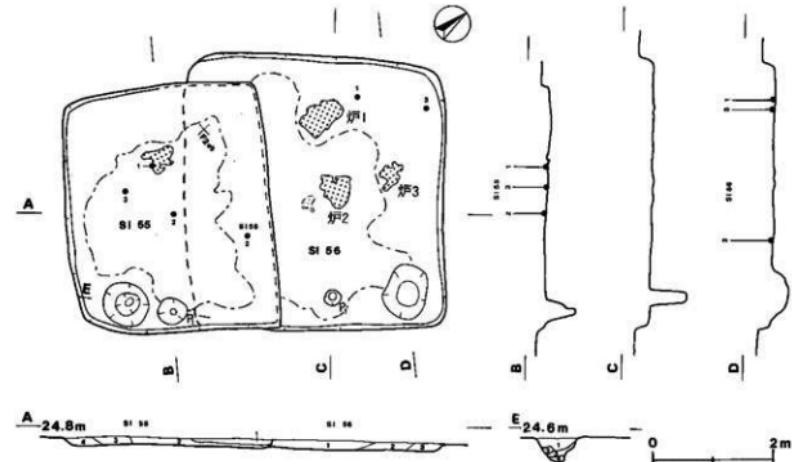
主軸方向 N-52°-W

壁 壁高は14cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

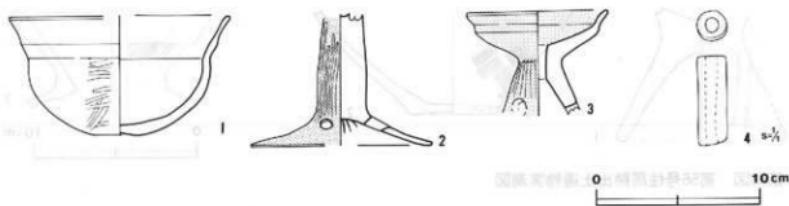
床 平坦で、踏み固められている。

ピット P<sub>1</sub>は径46cmの円形、深さ49cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径55cm、短径35cmの不整椭円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第96図 第55・56号住居跡実測図



第97図 第55号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径75cm、短径68cmの楕円形で、深さは44cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説  
1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量  
3 極暗褐色 ローム粒子少量  
4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説  
1 極暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
3 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量  
4 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量

遺物 炉周辺の床面から土器が少量出土している。1の鉢は炉床から、2の高杯及び3の器台は炉の南東側と南側の床面からそれぞれ出土している。また、4の滑石製管玉は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第55号住居跡出土遺物観察表

| 団版番号 | 器種      | 計測値(cm) | 器形の特徴                                    | 手法の特徴                        | 胎土・色調・焼成             | 備考                      |
|------|---------|---------|--|------------------------------|----------------------|-------------------------|
| 第97図 | 鉢       | A(13.7) | 平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部下面に3孔を穿つ。    | 口縁部内・外面横ナド。体部外面へラ磨き。         | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通 | P212 50% PL48<br>炉床     |
|      | 土加器     | B 7.3   |  |                              |                      |                         |
|      | C 3.0   |         |  |                              |                      |                         |
| 2    | 高杯      | D(11.1) | 脚部欠損。脚部は中実柱状で、底部は大きく開く。底部に3孔を穿つ。         | 脚部外表面のヘラ磨き。底部外表面のヘラ磨き、内面横ナド。 | 長石・雲母<br>赤褐色<br>普通   | P213 40% PL48<br>炉南東側床面 |
|      | 土加器     | E 8.1   |  |                              |                      |                         |
| 3    | 器台      | A 8.6   | 脚部下半欠損。器受部は内縫気味に立ち上がる。口縁部は外反し、外表面に3孔を穿つ。 | 器受部内・外表面横のヘラ磨き。              | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通  | P214 50% PL48<br>炉南側床面  |
|      | 土加器     | B( 6.1) |  |                              |                      |                         |
|      | C( 3.1) |         |  |                              |                      |                         |

| 団版番号  | 種別 | 計測値    |       |        |       | 石質 | 出土地点 | 備考        |
|-------|----|--------|-------|--------|-------|----|------|-----------|
|       |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |    |      |           |
| 第97図4 | 管玉 | 1.8    | 0.6   | —      | 0.8   | 滑石 | 覆土中  | Q15 PL101 |

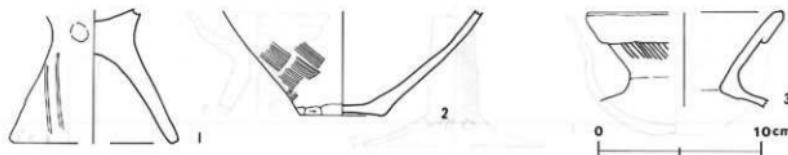
第56号住居跡（第96図）

位置 調査区南部、F2ds区。

重複関係 本跡は第57号住居跡の上に構築し、南西部を第55号住居跡に掘り込まれていることから、第57号住居より新しく、第55号住居より古い。

規模と平面形 長軸4.50m、短軸4.30mの方形である。

主軸方向 N-48°W



第98図 第56号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は18~25cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット P:は径26cmの円形、深さ60cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 3か所。炉1は中央部から北西寄りにあり、長径68cm、短径45cmの不整規円形、炉2は中央部にあり、長径65cm、短径60cmの不定形、炉3は炉2の北東にあり、長径48cm、短径30cmの不定形である。いずれも床面を僅かに掘り窪め、火床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径84cm、短径70cmの不整規円形で、深さは29cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

覆土 3層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

1 枝暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量

2 墓褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量

3 墓褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量

遺物 土師器の瓦片を主体に床面から少量出土している。1の台付壺及び3の壺は北コーナー部、2の壺は東コーナー部のいずれも床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第56号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号             | 器種 | 計測値(cm)                    | 器形の特徴                         | 手法の特徴                          | 胎土・色調・焼成              | 備考                   |
|------------------|----|----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------|----------------------|
| 第98図<br>1<br>土師器 | 壺  | B(8.2)<br>D(10.4)<br>E 7.5 | 台部は「ハ」の字状に開く。台部外側ハケ目整形後ナデ。    |                                | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P216 20%<br>北コーナー部床面 |
|                  | 壺  | B(6.5)<br>C 5.2            | 体部下半から底部にかけての被片。体部は内側して立ち上がる。 | 体部外側ハケ目整形。                     | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P215 20%<br>東コーナー部床面 |
|                  | 壺  | A(12.0)<br>B(5.9)          | 口縁部片。口縁部は外傾する。折り返し口縁。         | 口縁部内面及び外面上位横位。外面上位横位のハケ目整形後ナデ。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P217 10%<br>北コーナー部床面 |

第57号住居跡（第99図）

位置 調査区南部、F2e区。  
重複関係 本跡は第55・56号住居跡の下に構築しており、本跡が最も古い。  
規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺3.60m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-52°-W

壁 壁高は20cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

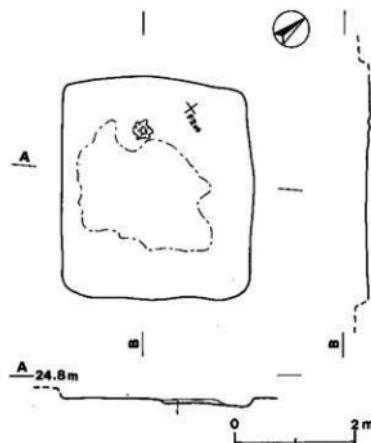
床 平坦で、踏み固められている。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径35cm、短径30cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 重複のため堆積状況は不明である。確認した第1層は第55号住居跡の貼床部である。

遺物 土器器の壺片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。



第99図 第57号住居跡実測図

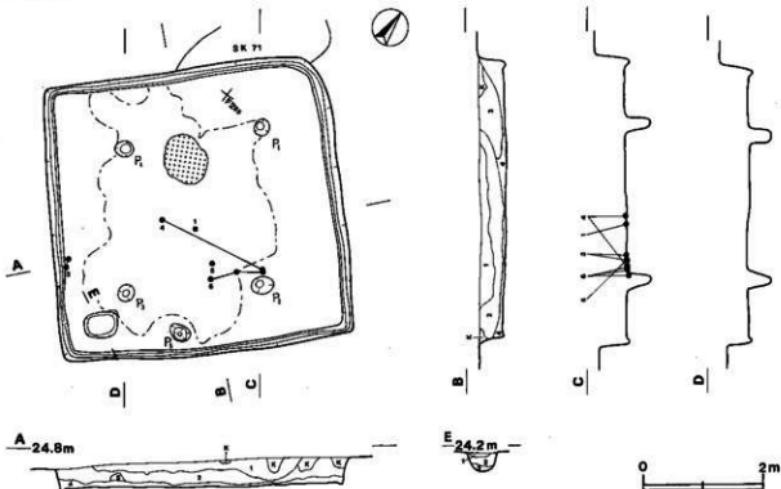
#### 第58号住居跡（第100図）

位置 調査区南西部、F2gs区。

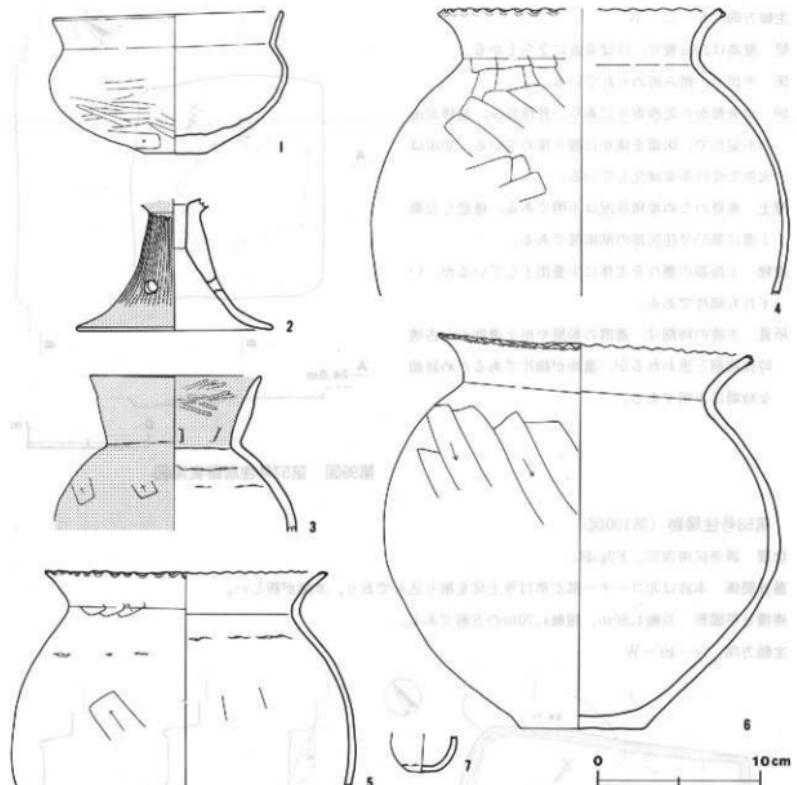
重複関係 本跡は北コーナー部が第71号土坑を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.80m、短軸4.70mの方形である。

主軸方向 N-40°-W



第100図 第58号住居跡実測図



第101図 第58号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は38~52cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅8~14cm、深さ4~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で踏み固められ、特に炉から出入り口部は非常に固められている。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は径25~37cmの円形、深さ37~40cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は長径38cm、短径26cmの楕円形、深さ22cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径80cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸55cm、短軸43cmの隅丸長方形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 1 赤褐色 烟土粒子多量、炭化物少量    | 3 暗赤褐色 烟土粒子・炭化物少量 |
| 2 墨赤褐色 烟土粒子多量、ローム粒子少量 |                   |

覆土 5層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

|         |  |       |                           |
|---------|--|-------|---------------------------|
| 1 黒 色   | ローム粒子・炭化粒子中量、炭化物少量                     | 4 黒 色 | 炭化粒子・炭化物多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗 黄 色 | ローム粒子多量、ローム大ブロック・炭化粒子少量                | 5 暗 色 | ローム中ブロック・炭化粒子少量           |
| 3 灰 色   | ローム粒子・ローム大ブロック多量、ローム中ブロック<br>中量、炭化粒子少量 |       |                           |

遺物 主に中央部の床面から土器類を主体に出土している。また、床面からは炭化材及び焼土塊が出土している。1の鉢及び4~6の壺は中央部の床面から、2の器台及び3の壺は南西コーナー部の床面から、7の手捏土器は覆土中から出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

#### 第58号住居跡出土遺物観察表

| 国版番号  | 器種   | 直進値(cm)  | 器形の特徴              | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成             | 備考                                   |
|-------|------|----------|--------------------|--|----------------------|--------------------------------------|
| 第101図 | 鉢    | A 14.2   | 平底。体部は内側して立ち上がり。   | 口縁部内・外面横ナデ。体部外縁位のへら磨き。                           | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色 | P218 90% PL48                        |
|       |      | B 8.7    | 口縁部はやや外傾する。        |  | 普通                   | 中央部床面<br>内・外側制離                      |
|       |      | C 3.6    |                    |  |                      |                                      |
| 2     | 器台   | B (8.0)  | 器受部欠損。脚部はラツノ字状に開く。 | 脚部外表面位のへら磨き、内面横ナデ。外面赤形。                          | 長石・石英<br>黒褐色         | P219 40%<br>南西コーナー部床面<br>内・外側制離      |
|       |      | D 12.1   | 脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を   |  |                      |                                      |
|       |      | E 7.1    | 穿つ。                |  |                      |                                      |
| 3     | 土器   | A 10.4   | 体部上半から口縁部にかけての破片。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外縁位のへら磨き。体部外縁位のへら磨き。口縁部内・外縁、体部外面赤形。 | 長石・石英<br>明赤褐色        | P220 50% PL48<br>南西コーナー部床面<br>内・外側制離 |
|       |      | B (9.5)  | 口縁部はやや外反する。        |  | 普通                   |                                      |
| 4     | 壺    | A (17.8) | 体部上半から口縁部にかけての破片。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外縁位へラ削り後ヘラナダ。                       | 長石・石英<br>黒褐色         | P221 30% PL48<br>中央部床面<br>外側端付着      |
|       |      | B (17.5) | 口縁部は「く」の字状に外反する。   |  |                      |                                      |
| 5     | 土器   | A 17.4   | 体部上半から口縁部にかけての破片。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外縁へラ削り後ヘラナダ。                        | 長石・石英<br>黒褐色         | P222 50% PL48<br>中央部床面<br>外側端付着      |
|       |      | B (13.2) | 口縁部は「く」の字状に外反する。   |  |                      |                                      |
| 6     | 土器   | A 19.4   | 平底。体部は球状で最大径を中位に   | 口縁部内・外面横ナデ。体部外縁へラ削り後ヘラナダ。                        | 長石・石英<br>黒褐色         | P223 70% PL48<br>中央部床面<br>外側端付着      |
|       |      | B 22.9   | もつ。口縁部は「く」の字状に外反   |  |                      |                                      |
| 7     | 手捏土器 | C 7.6    | する。液状口縁。           |  |                      |                                      |
|       |      | B (2.3)  | 平底。体部は内側して立ち上がる。   | 休部内・外面ナダ。  | 長石・石英<br>灰褐色         | P224 50%<br>覆土中                      |
|       |      | C 2.0    |                    |  | 普通                   |                                      |

#### 第59号住居跡（第102図）

位置 調査区南部、E3f区。

規模と平面形 長軸6.60m、短軸6.45mの方形である。

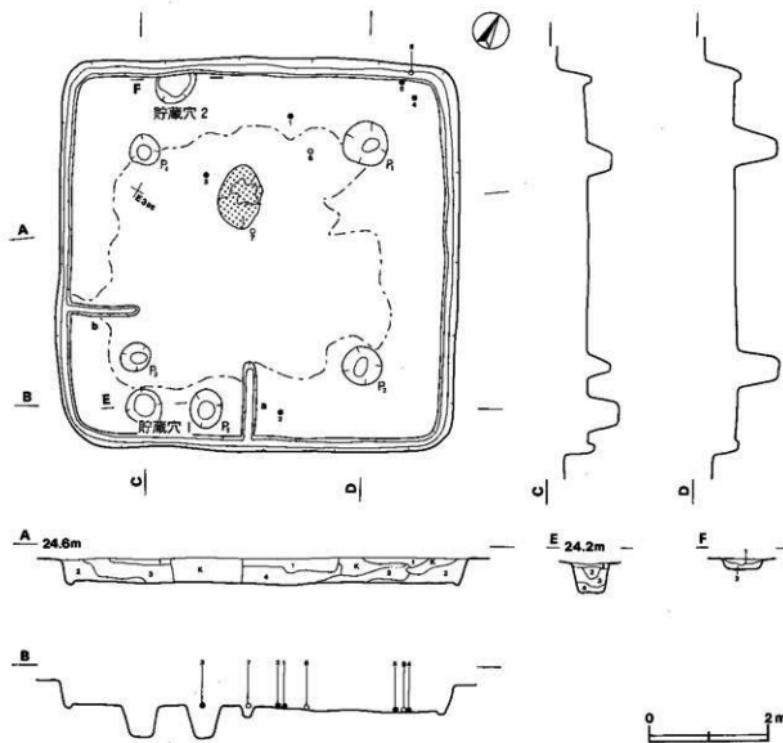
主軸方向 N-28°W

壁 壁高は27~46cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10~15cm、深さ10~25cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝(a)と南西壁下南コーナー寄りの部分から住居跡中央部に向かって延びる溝(b)を確認した。溝a・bは長さ1.25m、上幅16~20cm、下幅7~14cm、深さ8~16cmで、断面形はU字状である。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径50~75cm、短径46~70cmの楕円形、深さ39~70cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径60cmの円形、深さ54cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第102図 第59号住居跡実測図

炉 中央部から北西寄りにあり、長径105cm、短径70cmの梢円形で、床面を7cm程掘り立てている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されている。長径120cm、短径100cmの梢円形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。貯蔵穴2は北西壁際の西コーナー寄りに付設されている。長径70cm、短径45cmの半円形で、深さは22cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

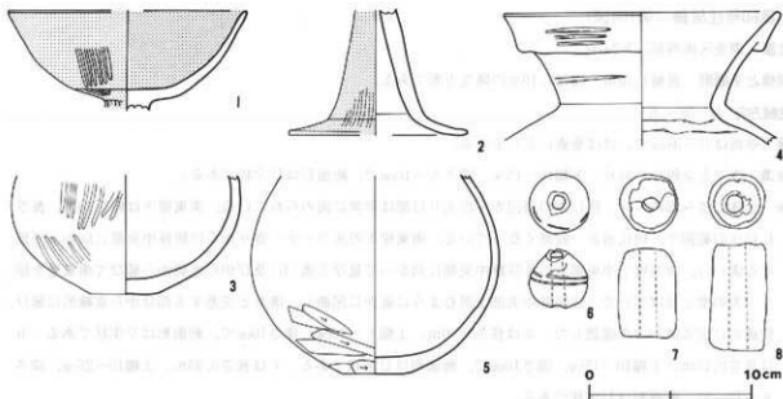
#### 貯蔵穴1土層解説

- |                          |                                  |
|--------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量   | 3 黄色 ローム粒子・ローム中ブロック多量、ローム大ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量                    |

#### 貯蔵穴2土層解説

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 塗土粒子・焼土粒子・焼土小ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量        |

覆土 4層からなる人為堆積である。



第103図 第59号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量

遺物 東・西コーナー部を除く床面から土器がまばらに出土している。1の高壺は炉の北側、2の高壺は南東壁際中央部、3の壺は炉の西側、4・5の壺は北コーナー部のいずれも床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期と思われる。

第59号住居跡出土遺物観察表

| 国版番号       | 器種       | 許容量(cm)             | 器形の特徴                                     | 手法の特徴                  | 胎土・色調・焼成                  | 備考                                    |
|------------|----------|---------------------|---|------------------------|---------------------------|---------------------------------------|
| 第103図<br>1 | 高壺<br>土器 | A [14.8]<br>B (6.2) | 脚部欠損。脚部は内壁気味に立ち上がり。口縁部に至る。坏部外下面に不明瞭な擦をもつ。 | 坏部内・外面へラ磨き。坏部内・外赤色。    | 長石<br>赤褐色<br>普通           | P225 30%<br>炉北側床面                     |
| 2          | 高壺<br>土器 | D [11.0]<br>E (7.7) | 脚部欠損。脚部はラッパ状に開く。                          | 脚部外表面のヘラ磨き、内面横ナデ。外面赤色。 | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通       | P226 30%<br>南東壁際中央部床面                 |
| 3          | 壺<br>土器  | B (7.2)<br>C 4.2    | 体部下半から底部にかけての破片。平底。体部は内側して立ち上がる。          | 体部外表面へラ磨き。底部へラ削り。      | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通 | P227 30% PL49<br>炉西側床面                |
| 4          | 壺<br>土器  | A 17.2<br>B (8.2)   | 体部上半から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。折り返し口縫。  | 口縁部内・外横ナデ。             | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通      | P228 30% PL49<br>北コーナー部床面<br>口縫部外側煤付着 |
| 5          | 壺<br>土器  | B (12.2)<br>C 4.0   | 体部下半から底部にかけての破片。平底。体部は内側して立ち上がる。          | 体部外表面へラ削り後へラナデ。        | 長石・石英<br>褐灰色<br>普通        | P229 50%<br>北コーナー部床面<br>外側煤付着         |

| 国版番号   | 種別   | 計測値    |       |        |        | 出土地點             | 備考        |
|--------|------|--------|-------|--------|--------|------------------|-----------|
|        |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |                  |           |
| 第103図6 | 土玉   | 3.6    | 3.6   | —      | 0.8    | 38.8<br>炉北側床面    | DP43      |
| 7      | 管状土錐 | 5.5    | 3.6   | —      | 1.0    | 20.0<br>中央部床面    | DP41 PL48 |
| 8      | 管状土錐 | 6.6    | 3.5   | —      | 1.0    | 84.5<br>北コーナー部床面 | DP42 PL48 |

第60号住居跡（第104図）

位置 調査区南西部，F2e<sub>4</sub>区。

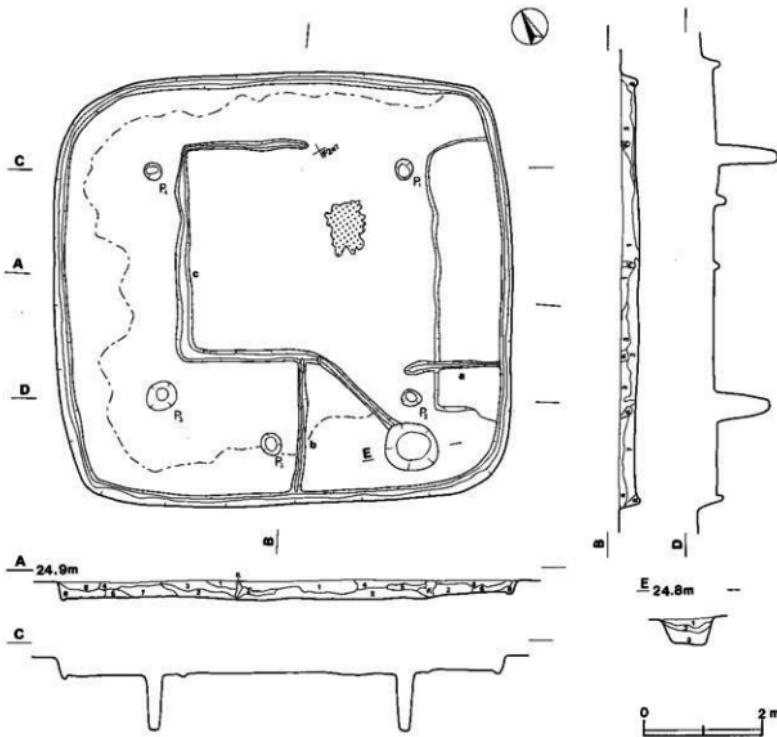
規模と平面形 長軸7.50m，短軸7.10mの隅丸方形である。

主軸方向 N-28°-E

壁 壁高は27~38cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており，上幅10~15cm，深さ5~10cmで，断面形はU字状である。

床 全体に踏み面められ，特に炉の周辺から出入り口部は非常に固められている。南東壁下は幅1.10m，長さ4.45mの範囲で，硬化面が一段高くなっている。南東壁下の南コーナー寄りから住居跡中央部に向かって延びる溝(a)，南西壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝(b)及び炉の北側から延びて南東壁を除く三方の壁とは平行で，住居跡中央部を囲むように直角に屈曲し，溝bと交差する部分から直線的に延び，貯蔵穴に至る溝(c)を確認した。aは長さ1.60m，上幅6~16cm，深さ10cmで，断面形はV字状である。bは長さ2.15m，上幅10~15cm，深さ10cmで，断面形はU字状である。cは長さ0.95m，上幅10~25cm，深さ6~10cmで，断面形はU字状である。



第104図 第60号住居跡実測図

ピット 5か所 ( $P_1 \sim P_5$ )。 $P_1 \sim P_4$ は長径32~50cm、短径24~45cmの楕円形、深さ86~99cmで、いずれも主柱穴。 $P_5$ は径35cmの円形、深さ21cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北東寄りにあり、長径80cm、短径60cmの不整楕円形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径88cm、短径76cmの楕円形で、深さは42cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層解説

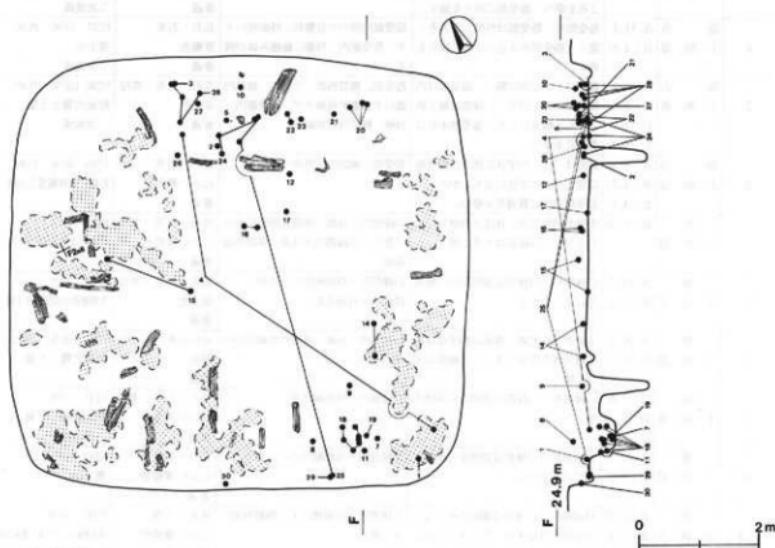
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 炭化物多量、焼土粒子・焼土小・ブロック中量。ローム粒子・ローム小・ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小・ブロック少量

覆土 8層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |  |       |   |
|-------|--|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中・ブロック・焼土粒子・炭化<br>粒子少量      | 5 墓褐色 | ローム粒子・ローム小・ブロック・炭化粒子・炭化物・<br>炭化物少量        |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化物中量、ローム小・ブロック・焼土粒子<br>少量、炭化物少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土小・ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子<br>少量          |
| 3 黄褐色 | ローム粒子多量、ローム小・ブロック中量、炭化粒子少<br>量         | 7 黒褐色 | 炭化物中量、ローム粒子・ローム中・ブロック・焼土粒<br>子・炭化粒子・炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・ブロック・炭化粒子少量                 | 8 黒色  | ローム粒子・焼土小・中・ブロック・炭化粒子少量                   |

遺物 住居跡全体の覆土中から床面にかけて土器器を主体に出土しており、北東壁側からの出土量が特に多い。また、床面から多量の炭化物及び焼土塊が出土している。1の高坏は南コーナー部の床面から、北東壁側からは2の高坏が中央部の床面から、5の器台及び22~28の7点の壺が同じく覆土下層から、10の壺及び21の甕が覆土上層から、20の甕が東コーナー寄りの覆土上層から出土している。3・4の高坏は北コーナー部の



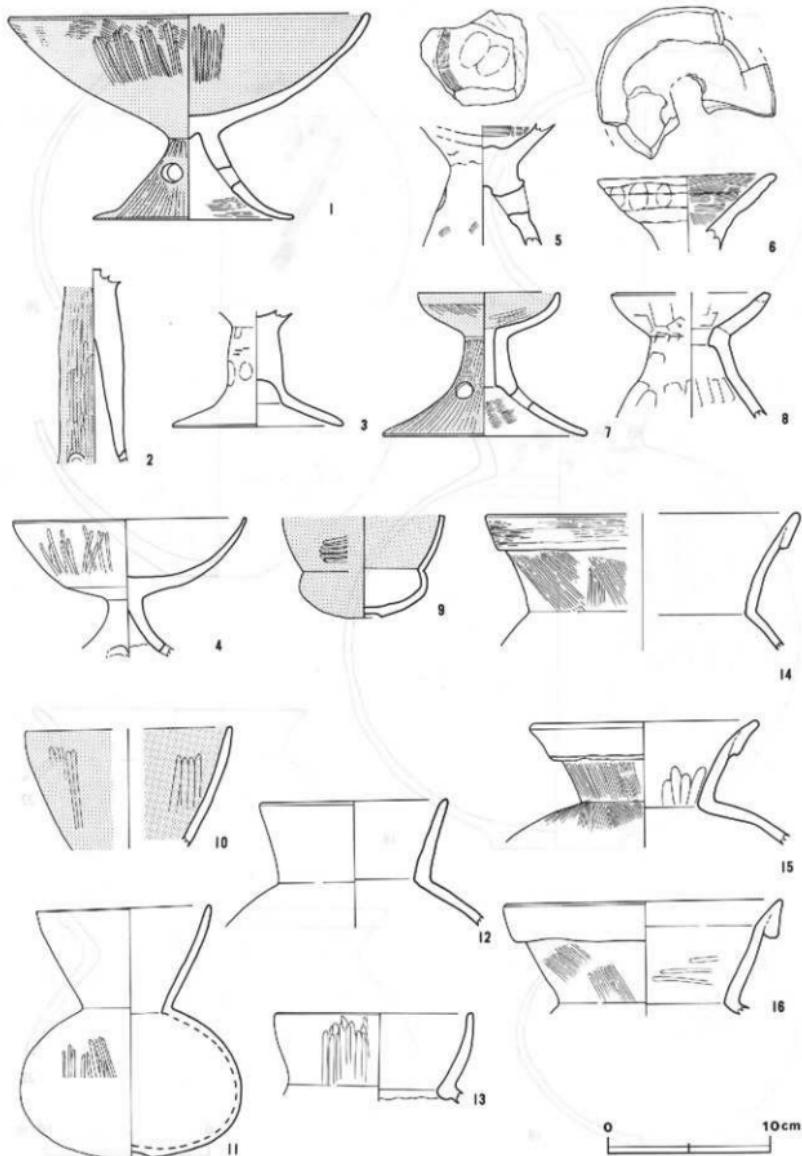
第105図 第60号住居跡遺物出土位置図

覆土下層と床面から、7の器台、11の壺及び18の壺、19の壺は貯蔵穴から、8の器台は貯蔵穴北西側の覆土上層から、9の壺は貯蔵穴北東側の覆土下層から、12の壺は炉北側の覆土下層から、13の壺は覆土中から、14の壺は南東壁塗コーナー寄りの覆土下層から、15~17の壺は中央部の覆土下層から床面にかけて出土している。また、29・30のミニチュア土器は南西壁際の南コーナー寄りの床面と中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。6の器台は覆土中から出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。遺構の形態は当遺跡における同時期の住居跡と比べ平面形及び内部施設に差異が認められる。時期は、出土遺物等から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

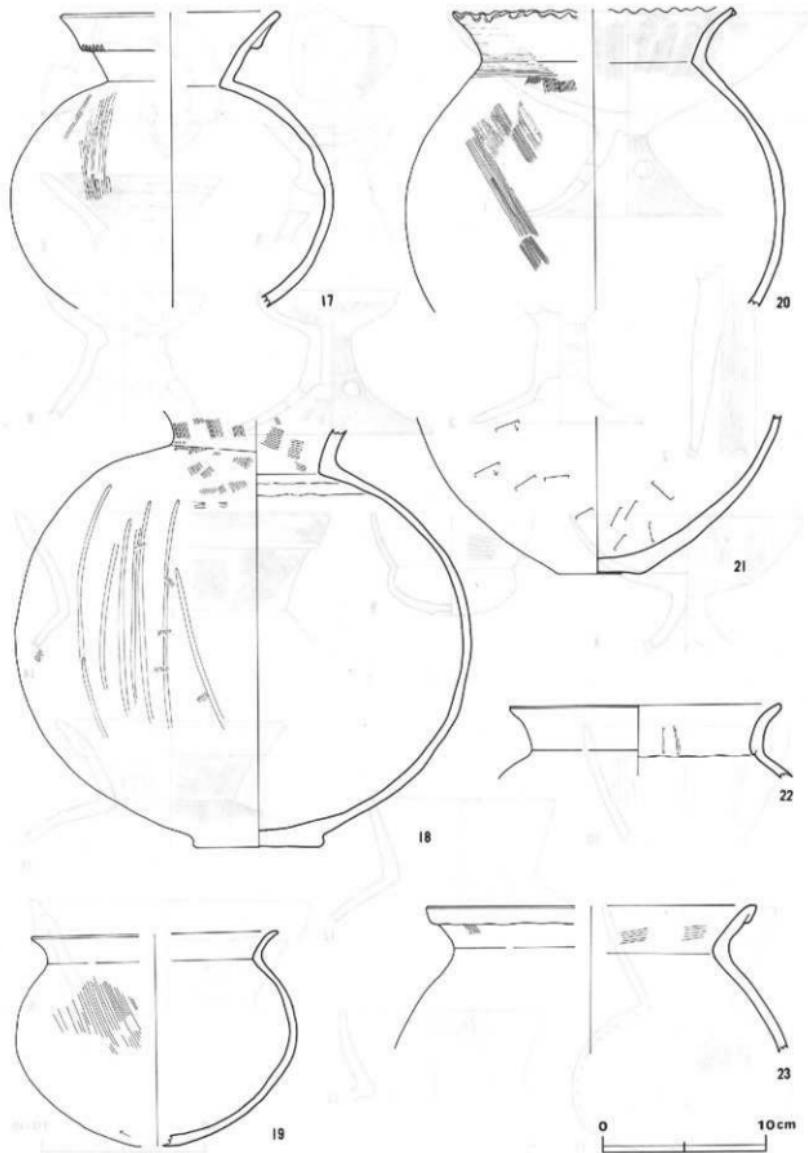
第60号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種    | 計測値(cm)                             | 器形の特徴  | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成                  | 備考   |
|------------|-------|-------------------------------------|--|--|---------------------------|--|
| 第106図<br>1 | 高 壺   | A 22.2<br>B 12.6<br>D 12.3<br>E 5.4 | 脚部はラッパ状に開く。耳部は内側<br>気味に大きく開いて立ち上がり、縫<br>部に至る。脚部に3孔を穿つ。             | 脚部外面ハケ目整形後縫位のヘラ磨<br>き。脚部外面縫位のヘラ磨き。内面<br>ハケ目整形後ナデ。壺部内・外面<br>脚部外面赤彩。 | 長石・石英・スコリア<br>暗赤褐色<br>普通  | P392 100% PL49<br>南コーナー部床面<br>二次焼成<br>内面削離 |
|            | 高 壺   | B (11.9)                            | 脚部部。脚部は3分の1中実柱状。   | 脚部外面縫位のヘラ磨き。脚部外面   | 長石・石英<br>赤色<br>普通         | P232 30%<br>北京壁中央部床面                       |
|            | 土 鍋 器 | E (10.8)                            | 3分の2中空な円柱状。脚部下方に<br>3孔を穿つ。   |  |                           |  |
|            | 高 壺   | B (7.1)                             | 耳部は中実柱状で、脚部  | 脚部、壺部外面ハケ目整形後ナデ。<br>脚部外面に指頭圧痕が残る。                                  | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通 | P233 40%<br>北コーナー部覆土下層                     |
|            | 土 鍋 器 | D 10.6<br>E 6.0                     | はラッパ状に開く。  |  |                           |  |
| 4          | 高 壺   | A 14.4<br>B (8.5)<br>E (3.5)        | 脚部はラッパ状に開く。耳部は内側<br>して立ち上がり、外面下位に縫位をも<br>つ。脚部に3孔を穿つ。               | 口縫部内・外面削離ナデ。耳部外面縫<br>位のヘラ磨き。                                       | 長石・石英・スコリア<br>帶色<br>普通    | P234 70% PL49<br>北コーナー部床面<br>内・外面削離        |
|            | 器 台   | B (7.5)                             | 脚部から器受部に位にかけての縫位。  | 器受部内ハケ目整形。脚部外面削<br>離位。   | 長石・雲母<br>黒褐色<br>普通        | P231 40% PL49<br>北東壁中央部覆土下層                |
|            | 土 鍋 器 | E (5.2)                             | 脚部は「ハ」の字状に開く。脚部に<br>2孔を穿つ。器受部に引きを施す。                               |  |                           | 二次焼成                                       |
| 6          | 器 台   | A 11.1                              | 器受部。器受部は外傾して大きく<br>開く。器受部の4分の1程に引きを<br>施す。                         | 器受部内ハケ目整形。外面削離ナデ。<br>器受部内・外側に輪積み模様が残<br>る。                         | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通        | P237 30% PL50<br>覆土中<br>二次焼成               |
|            | 土 鍋 器 | B (4.6)                             |  |  |                           |  |
| 7          | 器 台   | A 8.7                               | 脚部はラッパ状に開く。器受部は内<br>側で立ち上がり、口縫部は短く直<br>立する。脚部に3孔。器受部中央に<br>貫通孔を穿つ。 | 器受部。脚部外面ハラ磨き。脚部内<br>面ハケ目整形後ナデ。器受部内・<br>外側、脚部外面赤彩。                  | 長石・石英・雲母<br>赤褐色<br>普通     | P236 100% PL49<br>貯蔵穴壁土上層<br>二次焼成          |
|            | 土 鍋 器 | B 8.8<br>D 12.5<br>E 6.1            |  |  |                           |  |
|            | 器 台   | A (9.9)                             | 脚部は「ハ」の字状に開く。器受部<br>は逆「ハ」の字状に立ち上がる。                                | 器受部。脚部内・外側ハラ磨き。  | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通      | P235 60% PL49<br>貯蔵穴北西壁土上層                 |
| 8          | 土 鍋 器 | B (7.7)<br>E (4.7)                  | (E 4.7)は逆「ハ」の字状に立ち上がる。   | 器受部中央に貫通孔を穿つ。  |                           |  |
|            | 壺     | B (6.3)                             | 中央が凹む丸底。体部は内側して立<br>ち上がり、口縫部は大きく開く。                                | 口縫部内・外側、体部外面横位のヘ<br>ラ磨き。口縫部内・外側、体部外面<br>赤彩。                        | 長石・石英・雲母<br>にぶい黄褐色<br>普通  | P238 40%<br>貯蔵穴北東壁土上層                      |
| 10         | 土 鍋 器 | A (12.7)<br>B (7.3)                 | 口縫部片。口縫部は頭部から内側氣<br>味に立ち上がる。                                       | 口縫部内・外側のヘラ磨き。口<br>縫部内・外側赤彩。  | 長石・石英・雲母<br>暗赤色<br>普通     | P239 20%<br>北東壁中央部覆土上層                     |
|            | 壺     | A 10.7<br>B 15.5                    | 中央が凹む丸底。体部は偏平な球状<br>で最大径を位にもつ。口縫部は大<br>きく開く。                       | 口縫部内・外側、体部外面横位のヘ<br>ラ磨き。   | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通    | P240 100% PL49<br>貯蔵穴覆土上層                  |
| 12         | 壺     | A 11.6<br>B (7.7)                   | 口縫部片。口縫部は頭部から外傾す<br>る。   | 口縫部内・外側磨ナデ。  | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色<br>普通   | P241 10%<br>炉北壁土上層<br>二次焼成                 |
|            | 土 鍋 器 | A 12.3<br>B (5.5)                   |  |  |                           |  |
| 13         | 壺     | A (19.5)                            | 口縫部片。口縫部は頭部から内側氣<br>味に外反する。折り返し口縫。                                 | 口縫部内・外側磨ナデ。頭部外面ハ<br>ケ目整形。  | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通     | P242 10%<br>覆土中                            |
|            | 土 鍋 器 | B (8.4)                             |  |  |                           |  |
| 14         | 壺     |                                     |  |  |                           | P243 10%<br>南壁南コーナー部覆土上層<br>体部外面銀付着        |

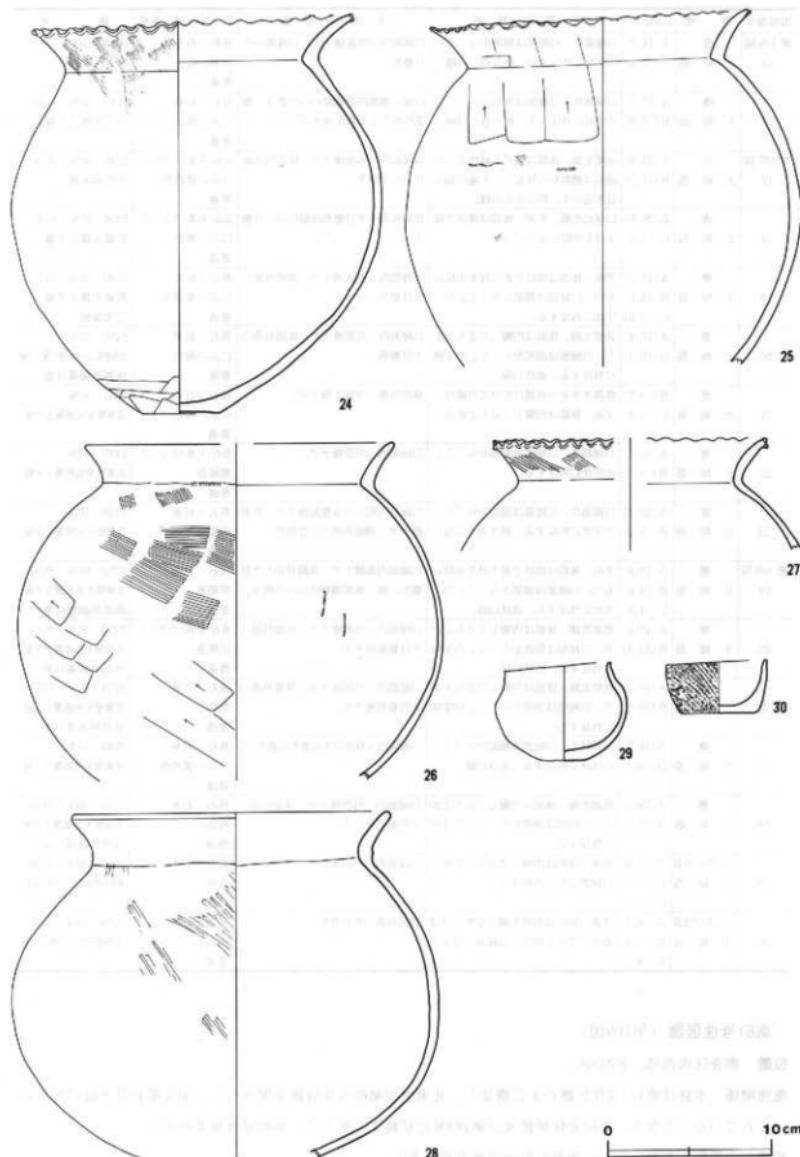


第106図 第60号住居跡出土遺物実測図(1)

○印様 磁器 考古学出土品等の形態・寸法図



第107図 第60号住居跡出土遺物実測図(2)



第108図 第60号住居跡出土遺物実測図(3)

| 図版番号        | 器種             | 目測値(cm)                       | 器形の特徴  | 手法の特徴                                | 胎土・色調・焼成                  | 備考                                     |
|-------------|----------------|-------------------------------|--|--------------------------------------|---------------------------|--|
| 第106図<br>15 | 壺<br>土師器       | A 14.2<br>B(7.6)              | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。折り返し口縁。             | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部ハケ目整形。                 | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P244 10%<br>中央部床面                      |
| 16          | 壺<br>土師器       | A 17.2<br>B(7.0)              | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。折り返し口縁。             | 口縁・頸部内面横位のヘラ磨き。頸部外面ハケ目整形後ナデ。         | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P245 20% PL50<br>中央部覆土下層               |
| 第107図<br>17 | 壺<br>土師器       | A [13.6]<br>B (17.9)          | 底部欠損。体部は偏平な球状で、口縁部は頸部から外反し、下端に丸みをもつ。折り返し口縁。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面部<br>にぶい褐色<br>普通      | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P246 50% PL50<br>中央部床面                 |
| 18          | 壺<br>土師器       | B (26.9)<br>C 8.1             | 口縁部欠損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。                    | 体部外面部ハケ目整形後頸位のヘラ磨き。                  | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P256 70% PL49<br>貯蔵穴覆土中層               |
| 19          | 甕<br>土師器       | A (15.2)<br>B 13.0<br>C (2.6) | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。      | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面部<br>ハケ目整形。           | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P230 50% PL50<br>貯蔵穴覆土下層<br>二次焼成       |
| 20          | 甕<br>土師器       | A (17.4)<br>B (18.3)          | 底部欠損。体部は内側して立ち上がり、口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面部<br>ハケ目整形。           | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P250 20%<br>北東壁コーナー覆土上層<br>体部外面部付着     |
| 21          | 甕<br>土師器       | B (9.7)<br>C 5.4              | 体部下半分は蓋部にかけての破片。<br>平底。体部は内側して立ち上がる。         | 体部外面部ハラ削り後ナデ。                        | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P251 30%<br>北東壁中央部覆土上層                 |
| 22          | 甕<br>土師器       | A 16.8<br>B (4.5)             | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。                    | 口縁部内・外面横ナデ。                          | 長石・石英・スコリア<br>黒褐色<br>普通   | P247 10%<br>北東壁中央部覆土下層                 |
| 23          | 甕<br>土師器       | A (20.4)<br>B (9.2)           | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。折り返し口縁。             | 口縁部内面ハケ目整形後ナデ。外面<br>横ナデ。頸部外面部ハケ目整形。  | 長石・石英<br>灰褐色<br>普通        | P248 10%<br>北東壁中央部覆土下層                 |
| 第108図<br>24 | 甕<br>土師器       | A 19.8<br>B 24.4<br>C 4.6     | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。 | 口縁部内面横ナデ。体部外面部<br>ハケ目整形。体・底部横位のヘラ削り。 | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通        | P252 60% PL50<br>北東壁中央部覆土下層<br>体部外面部付着 |
| 25          | 甕<br>土師器       | A 19.9<br>B (21.8)            | 底部欠損。体部は内側して立ち上がり、口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面部<br>ハケ目整形後ナデ。        | 長石・石英・スコリア<br>赤黒色<br>普通   | P253 50% PL49<br>北東壁中央部覆土下層<br>体部外面部付着 |
| 26          | 甕<br>土師器       | A (19.1)<br>B (20.8)          | 底部欠損。体部は内側して立ち上がり、口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面部<br>ハケ目整形後ナデ。        | 長石・石英<br>黒色<br>普通         | P254 50% PL50<br>北東壁中央部覆土下層<br>体部外面部付着 |
| 27          | 甕<br>土師器       | A (16.8)<br>B (6.9)           | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。               | 口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。                    | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P249 10%<br>北東壁中央部覆土下層                 |
| 28          | 甕<br>土師器       | A 19.6<br>B (21.2)            | 底部欠損。体部は内側して立ち上がり、口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。       | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面部<br>ハケ目整形後ナデ。        | 長石・石英<br>橙色<br>普通         | P255 60% PL50<br>北東壁中央部覆土下層<br>体部外面部付着 |
| 29          | ミニチュア土器<br>土師器 | A 6.4<br>B 6.0<br>C 2.5       | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は短く内側する。                  | 口縁部内・外面横ナデ。                          | 長石・石英<br>赤色<br>普通         | P257 100% PL50<br>南西壁コーナー蓋を家製          |
| 30          | ミニチュア土器<br>土師器 | A 6.1<br>B 3.3<br>C 4.7       | 平底。体部は唇厚を減じながらほぼ垂直に立ち上がり、口縁部に至る。             | 体部外面部ハケ目整形。                          | 長石・石英<br>灰白色<br>普通        | P258 70% PL50<br>南西壁中央部覆土下層            |

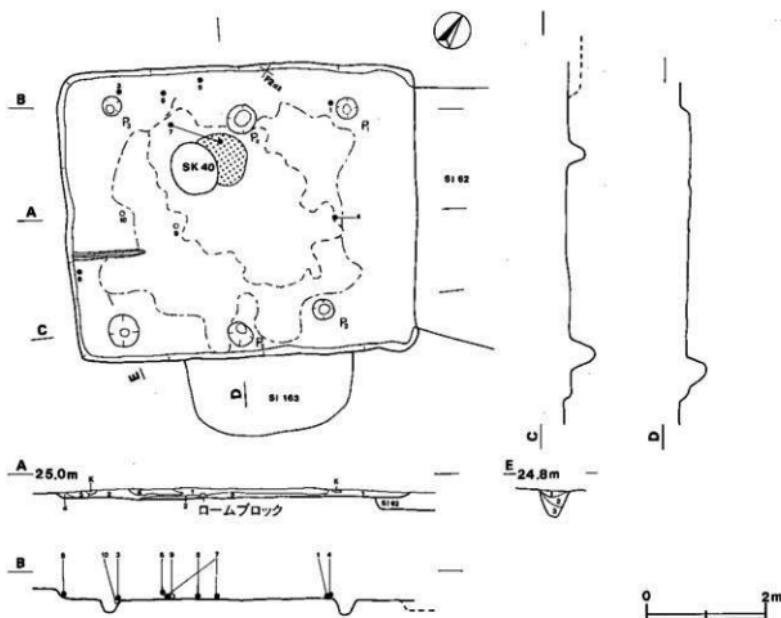
### 第61号住居跡（第109図）

位置 調査区南西部, F2d2区。

重複関係 本跡は第163号住居跡の上に構築し、北東壁が第62号住居跡を掘り込み、炉を第40号土坑に掘り込みまれていることから、第62号住居跡及び第163号住居跡より新しく、第40号土坑より古い。

規模と平面形 長軸5.72m, 短軸4.78mの長方形である。

主軸方向 N -30°- W



第109図 第61号住居跡実測図

壁 高さは14~19cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に踏み固められ、特に炉の周辺は非常に固められている。南西壁下の南コーナー寄りから住居跡中央部に向かって延びる溝を1条確認した。長さ1.20m、上幅8~14cm、深さ12cmで、断面形はU字状である。ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>3</sub>は径30~35cm程の円形、深さ25cm程で、いずれも主柱穴、P<sub>4</sub>は径45cmの円形、深さ30cmで、補助柱穴、P<sub>5</sub>は長径45cm、短径35cmの楕円形、深さ32cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径90cmの不整椭円形と推定される。床面を5cm程掘り窪め、炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径50cmの円形で、深さは45cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- |   |     |                      |
|---|-----|----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量     |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量 |

- |   |     |                  |
|---|-----|------------------|
| 3 | 灰褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 |
|---|-----|------------------|

- |   |    |                         |
|---|----|-------------------------|
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量          |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |

覆土 4層からなる人為堆積である。

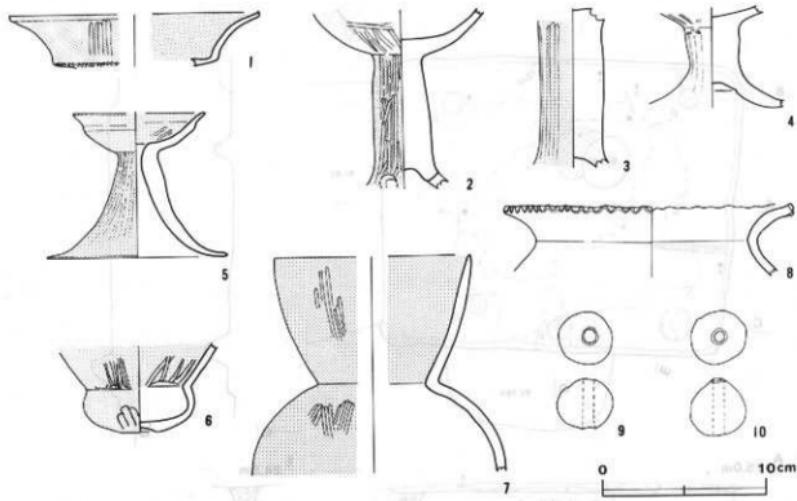
#### 土層解説

- |   |     |                     |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量         |

- |   |     |                |
|---|-----|----------------|
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
|---|-----|----------------|

- |   |    |                         |
|---|----|-------------------------|
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
|---|----|-------------------------|

遺物 主に北西壁側の覆土下層から床面にかけて土器師の壺片等が出土している。1の高坏は北コーナー北西壁際の床面から、2の高坏は覆土中から、3の高坏は西コーナー部の床面から、4の高坏はP<sub>1</sub>~P<sub>2</sub>間の覆



第110図 第61号住居跡出土遺物実測図

土下層から、5の器台及び6・7の堀は北西壁際西コーナー寄りの覆土下層と床面から、8の壺は南西壁際南コーナー寄りの床面から出土している。所見。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第61号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種                    | 計測値(cm)                             | 器形の特徴  | 手法の特徴   | 胎土・色調・焼成             | 備考                                    |
|------------|-----------------------|-------------------------------------|--|---|----------------------|---------------------------------------|
| 第110図<br>1 | 高<br>土<br>脚<br>器      | A(15.3)<br>B(3.2)                   | 脚部の口縁部片。口縁部は外反する。<br>口縁部下位に割目を施した後をもつ。                                     | 環外部縫合のヘラ磨き。環部内・<br>外表面赤彩。                             | 長石・石英<br>暗赤褐色<br>普通  | P259 5%<br>北コーナー北西壁際床面                |
| 2          | 高<br>土<br>脚<br>器      | B(10.8)<br>E(8.2)                   | 脚部片。脚部は中実柱状で、下方に<br>3孔を穿つ。   | 環外部面へ磨き。脚部外縫合の<br>ヘラ磨き。脚部外表面赤彩。                       | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通  | P260 20%<br>覆土中                       |
| 3          | 高<br>土<br>脚<br>器      | E(9.6)                              | 脚部片。脚部は中実柱状。   | 脚部外縫合のヘラ磨き。脚部外表面<br>赤彩。                               | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通   | P261 20%<br>西コーナー部床面                  |
| 4          | 高<br>土<br>脚<br>器      | B(6.1)<br>E(4.9)                    | 脚部片。脚部は低い中実柱状で、概<br>部はツバッ状に開く。   | 脚部外縫合のヘラナダ。   | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通 | P262 40%<br>P1-P3間覆土下層                |
| 5          | 器<br>土<br>脚<br>台<br>器 | A(8.1)<br>B(8.9)<br>D 11.1<br>E 6.5 | 脚部はラック状に開く。器受部は内<br>側にして立ち上がり。口縁部は外反す<br>る。口縁部外縫合下位に縫をもつ。器<br>受部中央に貫通孔を穿つ。 | 器受部内・外面。脚部外縫合のヘ<br>ラ磨き。脚部内面横ナダ。器受部内<br>・外面。脚部外表面赤彩。   | 長石・石英<br>暗赤褐色<br>普通  | P263 80% PL51<br>北西壁際西コーナー部床面<br>二次焼成 |
| 6          | 堀<br>土<br>脚<br>器      | B(5.5)                              | 中央が凹む丸底。体部は内側して立<br>ち上がり。口縁部は大きく開く。  | 口縁部内・外面。体部外縫合のヘ<br>ラ磨き。口縁部内・外面。体部外表面<br>赤彩。           | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通 | P264 60%<br>北西壁際西コーナー部床面<br>内面削離      |
| 7          | 堀<br>土<br>脚<br>器      | A(12.0)<br>B(13.3)                  | 体部上半から口縁部にかけての破片。<br>口縁部は頸部から内焼気味に立ち上<br>がる。                               | 口縁部内面横ナダ。外縫合のヘラ磨<br>き。体部外縫合のヘラ磨き。口縁<br>部内・外面。体部外表面赤彩。 | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通   | P265 40%<br>北西壁際西コーナー部床面              |

| 国版番号       | 器種         | 計測値(cm)          | 器 形 の 特 殘                      | 手 法 の 特 殘         | 胎土・色調・焼成     | 備 考                     |
|------------|------------|------------------|--------------------------------|-------------------|--------------|-------------------------|
| 第110図<br>8 | 甕<br>土 瓶 器 | A 17.6<br>B(4.5) | 口縁部片。口縁部は瓶部から「く」の字形に外反する。波状口縁。 | 口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。 | 長石・石英にぶい褐色普通 | P266 10%<br>南西壁面コーナー寄り浅 |

| 国版番号       | 種 別 | 計 測 値  |       |        |        |       | 出 土 地 点    | 備 考  |
|------------|-----|--------|-------|--------|--------|-------|------------|------|
|            |     | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 容量(L) |            |      |
| 第110図<br>9 | 土 玉 | 3.0    | 3.3   | —      | 0.7    | 29.9  | 中央部南西寄り床面  | DP44 |
| 10         | 土 玉 | 3.5    | 3.4   | —      | 0.8    | 33.0  | 南西壁中央部付近床面 | DP45 |

### 第62号住居跡（第111図）

位置 調査区南西部、F2cs区。

重複関係 本跡は南西壁を第61号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.22m、短軸4.07mの方形である。

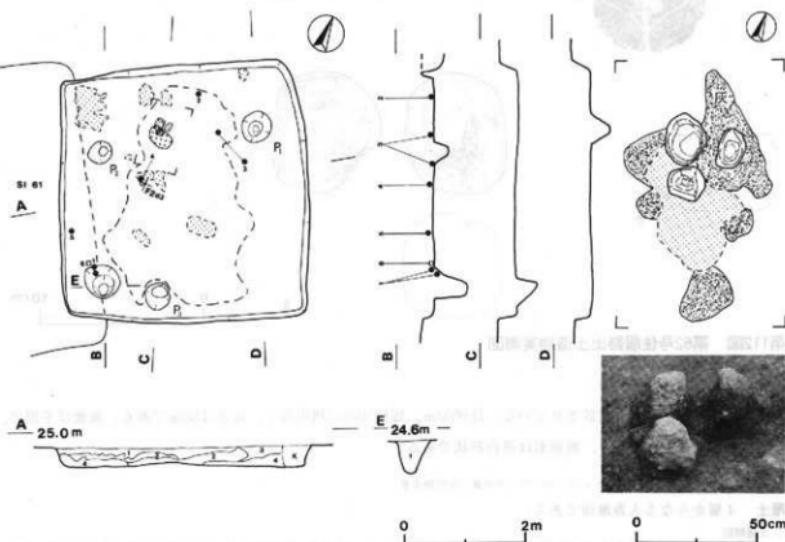
主軸方向 N-26°-W

壁 壁高は19~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

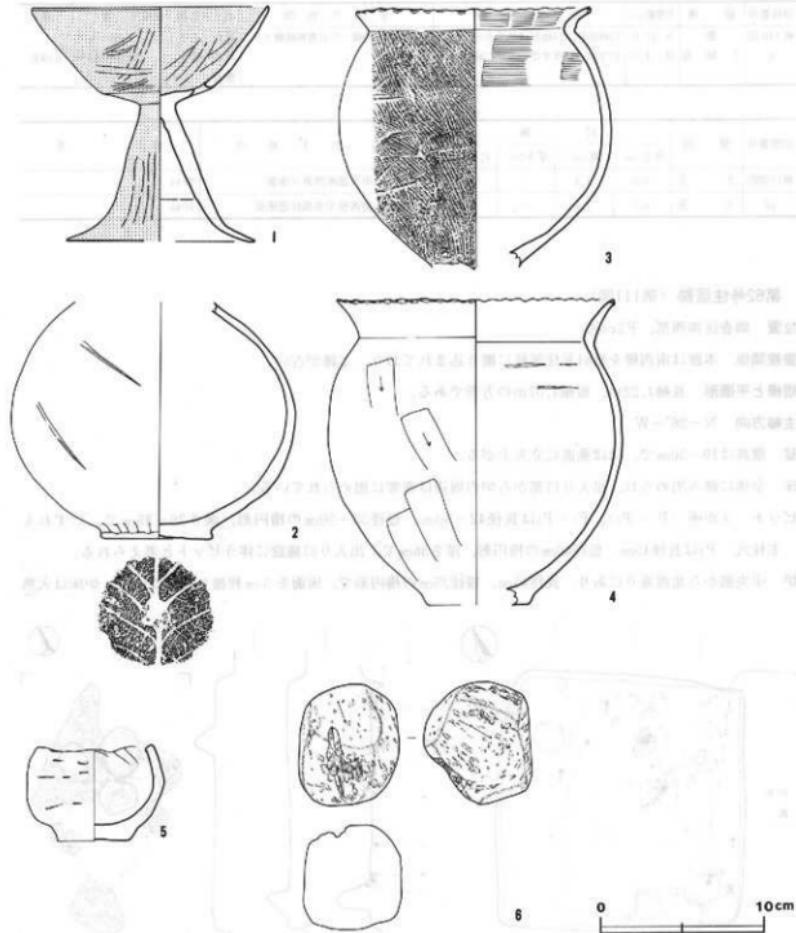
床 全体に踏み固められ、出入り口部から炉の周辺は非常に固められている。

ピット 3か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>3</sub>)。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は長径42~50cm、短径35~50cmの楕円形、深さ26~35cmで、いずれも主柱穴、P<sub>3</sub>は長径45cm、短径40cmの楕円形、深さ36cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径45cm、短径25cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱



第111図 第62号住居跡実測図



第112図 第62号住居跡出土遺物実測図

を受け赤変硬化している。

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長径60cm、短径50cmの梢円形で、深さは56cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴断層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、炭化粒子少量

**覆土** 4層からなる人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子多量、桃粒子・炭化粒子少量

2 緑褐色 桃土小ブロック多量、炭化粒子少量

3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック・桃土粒子少量

4 緑褐色 桃土粒子・炭化物中量、ローム粒子少量

**遺物** 住居跡全体の覆土下層から床面にかけて土器がまばらに出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の高壙は貯蔵穴の覆土上層から、2の壺は北西壁際中央部の床面から、3・4の壺は炉東側の床面と南側の覆土下層から、5のミニチュア土器は南西壁際南コーナー寄りの覆土下層から出土している。また、炉床の北部からは四角錐状の支脚状土製品に伴って、同様な形状の熱を受けた2個の粘土塊が出土している。支脚状土製品と2個の粘土塊は三角形を成す位置関係で出土している。

**所見** 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

#### 第62号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号                 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴                                     | 手法の特徴                                     | 粘土・石質・焼成                  | 備考                                 |
|----------------------|----|---------|---|---|---------------------------|------------------------------------|
| 第112図<br>1<br>土<br>器 | A  | 14.7    | 脚部はラッパ状に開く。肩部は外傾して立ち上がり、下位に棱をもつ。          | 環部内・外面、脚部外表面縦位のヘラ焼き、内面横ナデ。环部内・外面、脚部外表面赤色。 | 長石・石英<br>赤色<br>普通         | P267 80% PL51<br>貯蔵穴覆土上層<br>二次焼成   |
|                      | B  | 14.5    | 脚部下位に穿孔。                                  |   |                           |                                    |
|                      | D  | [11.7]  |   |   |                           |                                    |
|                      | E  | 8.5     |   |   |                           |                                    |
| 2<br>土<br>器          | B  | (14.5)  | 口縁部欠損。突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。             | 体部外表面縦位のヘラナデ。底部に木業痕が残る。                   | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通 | P268 80% PL50<br>北西壁際中央部床面         |
|                      | C  | 6.9     | 球状で最大径を中位にもつ。                             |   |                           |                                    |
| 3<br>土<br>器          | A  | 14.5    | 台部欠損。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。彼口縁。 | 口縁部内・外面ハケ目彫形後、焼ナデ。体部外表面ハケ目彫形。             | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通        | P269 70% PL51<br>炉東側床面<br>体部外表面彫付着 |
|                      | B  | (15.9)  |   |   |                           |                                    |
| 4<br>土<br>器          | A  | 17.2    | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波紋口縁。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外表面縦位のヘラナデ。                  | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通     | P270 80% PL51<br>炉南側覆土下層           |
|                      | B  | 18.8    |   |   |                           |                                    |
|                      | C  | [6.3]   |   |   |                           |                                    |
| 5<br>土<br>器          | A  | 7.1     | 平底。体部内凹して立ち上がり、口縁部に歪る。                    | 体部内面ヘラナデ。体部外表面に輪筋痕が残る。                    | 長石・石英<br>明灰褐色<br>普通       | P271 100% PL50<br>南西壁際南コーナー寄り上層    |
|                      | B  | 5.8     |   |   |                           |                                    |
|                      | C  | 4.3     |   |   |                           |                                    |

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        |       | 石質 | 出土地点    | 備考  |
|--------|----|--------|-------|--------|-------|----|---------|-----|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |    |         |     |
| 第112図6 | 石  | 7.5    | 6.2   | 6.7    | 61.3  | 硅質 | 南コーナー床面 | Q16 |

#### 第63号住居跡（第113図）

**位置** 調査区南西部、F2cs区。

**重複関係** 本跡は北東コーナー部が第64号住居跡を、北西コーナー部が第68号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

**規模と平面形** 長軸4.63m、短軸4.45mの方形である。

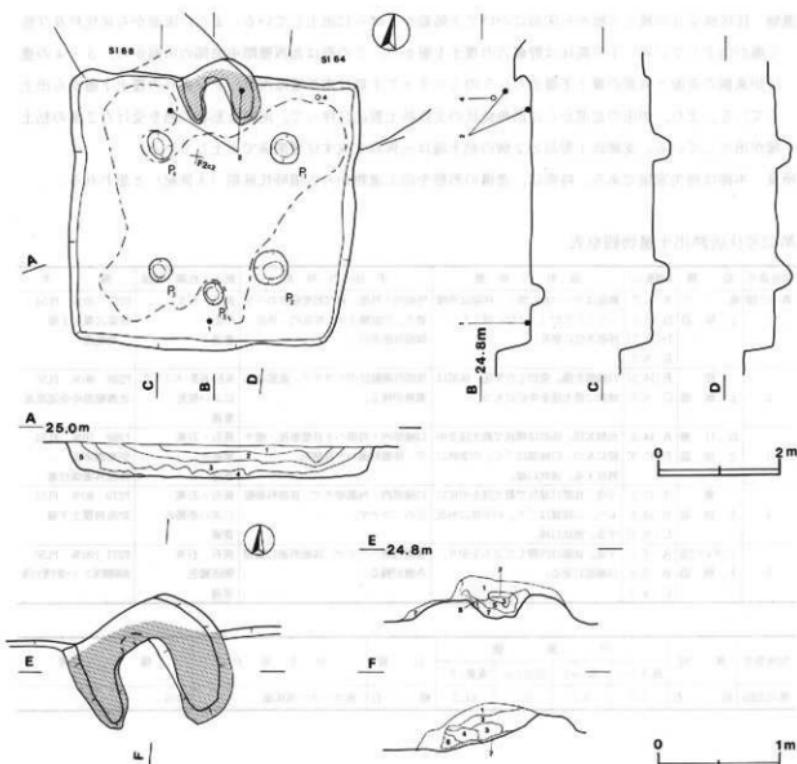
**主軸方向** N-7°W

**壁** 壁高は52~57cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

**床** 全体的に平坦で、出入り口部から窓周辺にかけて踏み固められている。

**ピット** 5か所（P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>）。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径40~58cm、短径35~55cmの楕円形、深さ22~28cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径35cmの円形、深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**窓** 北壁中央部を窓外に30cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ110cm、幅130cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。



第113図 第63号住居跡実測図

■ 土層解説

- |               |                 |                  |                |       |
|---------------|-----------------|------------------|----------------|-------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量 | 燒土粒子・砂粒子少量      | 5 閑色 砂粒子多量       | 燒土粒子・燒土小ブロック中量 | 炭化物少量 |
| 2 増褐色 砂粒子中量   | ローム小ブロック・燒土粒子少量 | 6 黒褐色 燃土粒子・炭化物中量 | 砂粒子少量          |       |
| 3 閑色 ローム粒子中量  | 燒土粒子・砂粒子少量      | 7 閑色 砂粒子多量       | 燒土粒子少量         |       |
| 4 増赤褐色 燃土粒子多量 | 燒土小・中ブロック中量     | 8 閑色 砂粒子多量       | ローム粒子少量        |       |

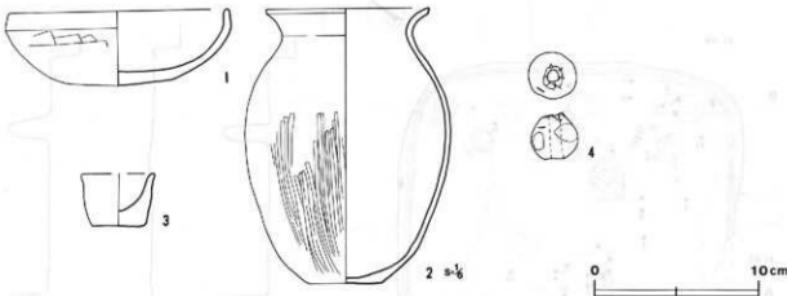
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量      | 4 黒褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 増褐色 ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量      |               |

遺物 窯を中心とする住居跡北部と出入り口部付近から土師器の壺や坏が出土している。1の坏は出入り口部の床面から、2の窯は窯左袖部西側の床面から、3の手捏土器は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期（7世紀前半）と思われる。



第114図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号             | 器種   | 計測値(cm)                   | 器形の特徴  | 手法の特徴                        | 胎土・色調・焼成              | 備考                        |
|------------------|------|---------------------------|--|------------------------------|-----------------------|---------------------------|
| 第114図<br>1<br>土器 | 壺    | A 13.4<br>B 4.5           | A. 丸底。体部は内凹して立ち上がり。<br>口縁部は直く直立する。<br><br>B. 平底。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハラ削り後泥付のヘラ磨き。 | 長石・石英<br>黒色<br>普通     | P273 80% PL51<br>出入り口部床面  |
| 2<br>土器          | 壺    | A 20.0<br>B 33.8<br>C 8.8 | 平底。体部は内凹して立ち上がり。<br>体部上位に最大径をもつ。口縁部は外反する。        | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハラ削り後泥付のヘラ磨き。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P274 80% PL51<br>竈左袖部西側床面 |
| 3<br>土器          | 手捏土器 | A [4.4]<br>B 3.2<br>C 3.3 | 平底。体部は器厚を減じながらやや外傾して立ち上がる。口縁部は僅かに外反する。           | 体部外面に指痕压痕が残る。                | 長石・石英<br>明灰色<br>普通    | P275 60% PL51<br>覆土中      |

| 図版番号         | 種別 | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点        | 備考   |
|--------------|----|--------|-------|--------|--------|-------|-------------|------|
|              |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |             |      |
| 第114図4<br>土玉 |    | 2.8    | 2.9   | —      | 0.6    | 19.7  | 東北コーナー部覆土上層 | BP47 |

第64号住居跡（第115図）

位置 調査区南部, F2b2区。

重複関係 本跡は西コーナー部が第68号住居跡を掘り込み、南西壁を第63号住居跡に掘り込まれていることから、第68号住居跡より新しく、第63号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸5.60m, 短軸5.40mの方形である。

主軸方向 N-49°-W

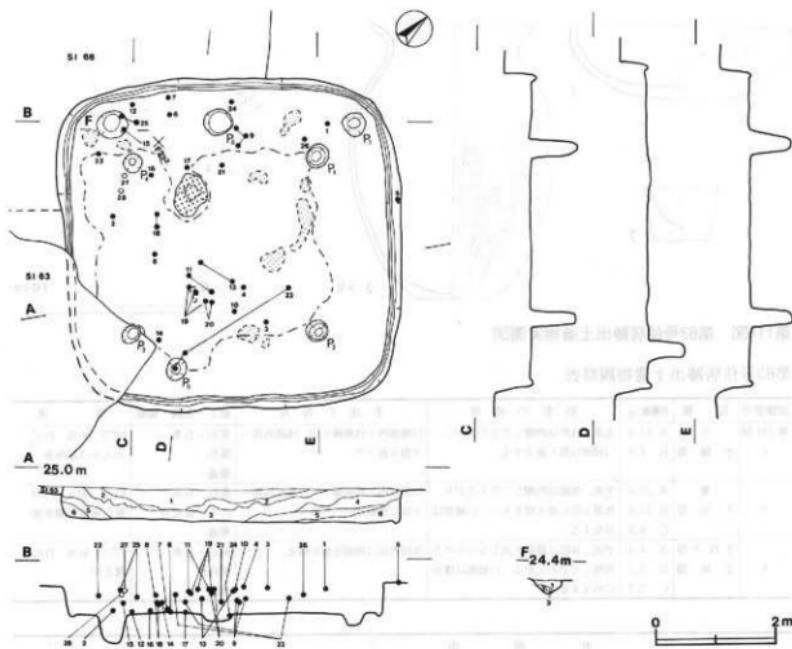
壁 壁高は57cm程度で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅5~10cm, 深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が特に踏み固められている。

ピット 7か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>7</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>は径30~40cmの円形、深さ66~79cmで、いずれも主柱穴、P<sub>6</sub>は径33cmの円形、深さ62cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P<sub>6</sub>~P<sub>7</sub>は径35~45cmの円形、深さ13~25cmで、性格については不明である。

炉 中央部から西寄りにあり、長径70cm、短径50cmの不整椭円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第115図 第64号住居跡実測図

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径50cm、短径45cmの梢円形で、深さは49cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

|                                 |                               |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1 緑 色 ローム中ブロック中量、ローム粒子・ローム小ブロック | 2 黒 紺 色 ローム粒子・ローム小ブロック、焼土粒子少量 |
| タ・焼土粒子少量                        | 3 暗 色 ローム中ブロック多量              |

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

|   |  |
|---|--|
| 1 緑 色 ローム粒子・ローム小・中ブロック、炭化物少量                    | 5 暗 紺 色 ローム小ブロック多量、ローム粒子・ローム中ブロッ<br>ク中量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 2 暗 色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック中量                      | 6 暗 紺 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中・大ブ<br>ロック少量          |
| 3 桃暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・ローム中ブロッ<br>ク・焼土粒子・炭化物少量 |  |
| 4 黄 色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック中量、焼土粒<br>子・炭化物少量       |  |

遺物 覆土及び床面全体から土師器が多量に出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。

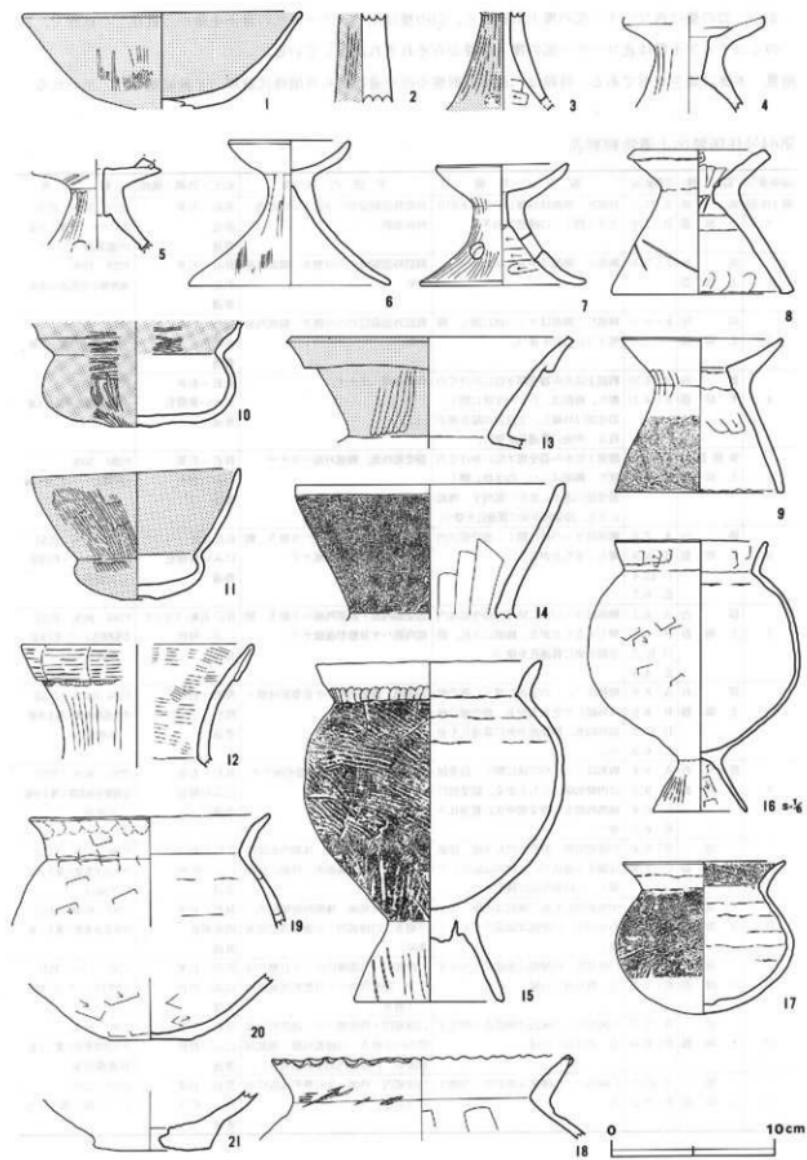
- 1の高壙は北コーナー部の覆土上層から、2の高壙は南西壁中央部寄りの床面から、6・7の器台及び12の壙は北西壁際西コーナー寄りの床面から、3の高壙、4の器台、10・11の壙、13の壙及び19・20の壙は中央部からやや南東寄りの覆土上層から、5の器台は北東壁際北コーナー寄りの覆土上層から、8の器台は中央部からやや南西寄りの覆土中層から、9の器台は北西壁中央部寄りの覆土中層から、14の壙はP<sub>3</sub>・P<sub>5</sub>間の覆土下層から、15の台付壙及び25の壙は貯蔵穴東側の覆土中層から、16の台付壙及び17の小形壙は炉西側と炉北西側の床面から、18の壙及び21の壙は炉の南側と北側の覆土中層から、24の壙は北西壁際中央部の床面

から、22の壺は西コーナー部の覆土上層から、23の壺は南コーナー寄りの覆土中層から散在した状態で、26のミニチュア土器は北コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

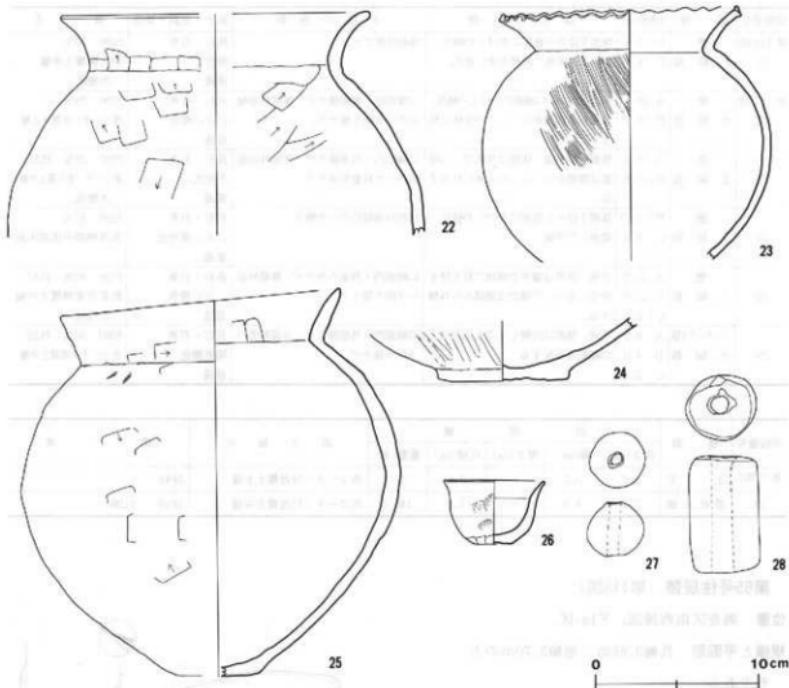
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

#### 第64号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種                    | 計測値(cm)                           | 器形の特徴   | 手法の特徴   | 胎土・色調・焼成                   | 備考                                    |
|------------|-----------------------|-----------------------------------|---|---|----------------------------|---------------------------------------|
| 第116図<br>1 | 高<br>环<br>土<br>師<br>器 | A 17.2<br>B( 5.8)                 | 环部片。环部は外傾して立ち上がり大きく聞く。口縁部外削ぎ。                                       | 环部外面縦位のへら磨き。环部内・外面赤彩。                         | 長石・石英<br>赤色<br>普通          | P277 30% PL51<br>北コーナー部覆土上層<br>内面削離   |
| 2          | 高<br>环<br>土<br>師<br>器 | E( 5.4)                           | 环部片。脚部は中窓柱状。  | 脚部外面縦位のへら磨き。脚部外面赤彩。                           | 長石・石英<br>赤色<br>普通          | P278 10%<br>南西壁中央部寄り床面                |
| 3          | 高<br>环<br>土<br>師<br>器 | E( 6.0)                           | 环部片。脚部はラッパ状に聞く。脚部下方に3孔を穿つ。  | 脚部外面縦位のへら磨き。脚部外面赤彩。                           | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通         | P279 30%<br>中央部南東側覆土上層                |
| 4          | 器<br>台<br>土<br>師<br>器 | B( 6.0)<br>E( 4.1)                | 脚部上位から器受部下位にかけての破片。脚部は「ハ」の字状に聞く。器受部は外傾し、上位部の接合部が残る。中央に貫通孔を穿つ。       | 脚部外表面ヘラナダ。                                    | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P281 40%<br>中央部南東寄り覆土上層               |
| 5          | 黄<br>环<br>土<br>師<br>器 | B( 5.5)<br>E( 3.7)                | 脚部上位から器受部下位にかけての破片。脚部は「ハ」の字状に聞く。器受部は外傾し、脚部を一部残す。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。 | 器受部外面、脚部外表面ヘラナダ。                              | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通       | P280 30%<br>北東壁北コーナー寄り覆土上層            |
| 6          | 器<br>台<br>土<br>師<br>器 | A 7.6<br>B 8.9<br>D 12.4<br>E 6.7 | 脚部はラッパ状に聞く。器受部は内側して立ち上がる。   | 器受部内面・脚部外表面へら磨き。脚部内面ハケ目彫形後横ナダ。                | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P276 90% PL51<br>北東壁西コーナー寄り床面<br>二次焼成 |
| 7          | 器<br>台<br>土<br>師<br>器 | A 8.1<br>B 7.5<br>D 10.2<br>E 4.8 | 脚部はラッパ状に聞く。器受部は内側して立ち上がる。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。                        | 器受部内面・脚部外表面へら磨き。脚部内面ハケ目彫形後横ナダ。                | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通  | P283 90% PL51<br>北東壁西コーナー寄り床面<br>二次焼成 |
| 8          | 器<br>台<br>土<br>師<br>器 | A 8.8<br>B 8.8<br>D 11.2<br>E 6.3 | 脚部は「ハ」の字状に聞く。器受部は外傾して立ち上がる。器受部に縫隙部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。                 | 器受部、脚部内面ハケ目彫形後横ナダ。脚部外表面ナダ。                    | 長石・石英<br>橙色<br>普通          | P284 100% PL52<br>中央部南西寄り覆土上層<br>二次焼成 |
| 9          | 器<br>台<br>土<br>師<br>器 | A 9.8<br>B 9.5<br>D 10.4<br>E 6.6 | 脚部は「ハ」の字状に聞く。器受部は内側気味に立ち上がる。器受部口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。                 | 器受部、脚部外表面ハケ目彫形後ナダ。                            | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通       | P285 80% PL52<br>北東壁中央部寄り覆土上層<br>二次焼成 |
| 10         | 塔<br>土<br>師<br>器      | B( 6.4)<br>C 2.9                  | 口縁部欠損。中央が凹む平底。体部は偏平な球状で、口縁部は屈曲して聞く。口縁部外削ぎに様をもつ。                     | 口縁部内・外面横位。体部外面縦位のへら磨き。口縁部内・外側、体部外面赤彩。         | 長石・石英・スコリア<br>にぶい橙色<br>普通  | P286 40% PL52<br>中央部南東寄り覆土上層<br>二次焼成  |
| 11         | 塔<br>土<br>師<br>器      | A 12.7<br>B 7.9                   | 中央が凹む丸底。体部は内側して立ち上がる。口縁部は腹部から大きくなれる。折り返し口縁。                         | 口縁部内・外側、体部外面縦位のへら磨き。口縁部内・外側、体部外面赤彩。           | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通        | P287 50% PL52<br>中央部南東寄り覆土上層          |
| 12         | 壺<br>土<br>師<br>器      | A(14.2)<br>B( 7.5)                | 口縁部片。口縁部は腹部から外反する。折り返し口縁。   | 口縁部内・外面横位のハケ目彫形後ナダ。脚部外表面ハケ目彫形後縦位のへら磨き。        | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通       | P288 10% PL53<br>北東壁西コーナー寄り床面         |
| 13         | 壺<br>土<br>師<br>器      | A 17.5<br>B( 6.9)                 | 口縁部片。口縁部は腹部から外反する。折り返し口縁。   | 口縁部内・外面横位。脚部外表面のへら磨き。口縁部外側、脚部外表面赤彩。口縁部内赤彩痕有り。 | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通       | P289 10%<br>中央部南東寄り覆土上層<br>外側側付着      |
| 14         | 壺<br>土<br>師<br>器      | A 16.7<br>B( 8.2)                 | 口縁部片。口縁部は腹部から外反する。  | 口縁部内・外面横位のハケ目彫形後縦位のへら磨き。                      | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通       | P290 20%<br>P3・P5向の覆土下層               |



第116図 第64号住居跡出土遺物実測図(1)



第117図 第64号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号        | 器種         | 計測値(cm)                             | 器形の特徴                                      | 手法の特徴                                     | 胎土・色調・焼成              | 備考                                      |
|-------------|------------|-------------------------------------|--|---|-----------------------|---|
| 第116図<br>15 | 台付壺<br>土師器 | A 13.8<br>B 20.9<br>D 9.1<br>E 5.0  | 台部は「ハ」の字形に開く。体部は球状で最大径を中央にもつ。口縁部は頸部から外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部側位のヘラナデ。体部外側ハケ目彫形。台部外側面位のナデ。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通     | P291 90% PL52<br>貯藏穴東側覆土中層<br>二次焼成      |
| 16          | 台付壺<br>土師器 | A 18.9<br>B 33.5<br>D 11.7<br>E 6.2 | 台部は「ハ」の字形に開く。体部は球状で最大径を中央にもつ。口縁部は頸部から外傾する。 | 口縁部内・外面ヘラナデ。体部外側ハケ目彫形後ヘラナデ。台内・外面側位のヘラナデ。  | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P292 90% PL52<br>炉北西側床面<br>二次焼成         |
| 17          | 小形壺<br>土師器 | A 10.0<br>B 9.3                     | 九底。体部は扁平な球状で最大径を中央にもつ。口縁部は頸部から「く」の字形に外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側ハケ目彫形後下平部ナデ。               | 長石・石英<br>橙色<br>普通     | P293 100% PL52<br>炉北西側床面<br>二次焼成        |
| 18          | 壺<br>土師器   | A 18.5<br>B ( 5.1 )                 | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字形に外反する。波状口縁。             | 口縁部内・外面横ナデ。                               | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P294 10%<br>炉南側覆土中層<br>二次焼成             |
| 19          | 壺<br>土師器   | A 14.8<br>B ( 7.0 )                 | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字形に外反する。      | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側面位のヘラ削り後ナデ。                | 長石・石英<br>黒色<br>普通     | P295A 20%<br>中央部南東寄り覆土上層<br>P295B と同一個体 |
| 20          | 壺<br>土師器   | B ( 3.6 )<br>C 4.8                  | 底部片。平底。体部は内擣して立ち上がる。                       | 体部外側面位のヘラ削り後ナデ。                           | 長石・石英<br>黒色<br>普通     | P295B 10%<br>中央部南東寄り覆土上層<br>P295A と同一個体 |

| 国版番号        | 種類               | 計測値(cm)                    | 器形の特徴                                       | 手法の特徴                           | 胎土・色調・焼成              | 備考                                  |
|-------------|------------------|----------------------------|---|---------------------------------|-----------------------|-------------------------------------|
| 第116回<br>21 | 甕<br>土瓶<br>器     | B(3.6)<br>C 7.1            | 体部下位から底部にかけての破片。<br>突出した平底。底部中央に穿孔。         | 体部外面ナデ。                         | 長石・石英<br>褐色<br>普通     | P298 20%<br>伊北側覆土中層<br>二次焼成         |
| 第117回<br>22 | 甕<br>土瓶<br>器     | A(19.1)<br>B(13.7)         | 体部上位から口縁部にかけての破片。<br>口縁部は彫刻から「く」の字状に外反する。   | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面裏<br>位のヘラ削り後ナデ。  | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P296 20%<br>西コーナー新覆土上層              |
| 23          | 甕<br>土瓶<br>器     | A 14.9<br>B(15.6)          | 体部下半欠損。体部は球状で、口縁<br>部は彫刻から「く」の字状に外反す<br>る。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面裏<br>位のハケ目彫形後ナデ。 | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P297 20% PL52<br>青コーナー青覆土中層<br>二次焼成 |
| 24          | 甕<br>土瓶<br>器     | B(3.7)<br>C 8.0            | 体部下位から底部にかけての破片。<br>突出した平底。                 | 体部外面裏位のヘラ削き。                    | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P299 10%<br>北西壁際中央部床面               |
| 25          | 甕<br>土瓶<br>器     | A 17.2<br>B 23.6<br>C(5.0) | 平底。体部は扁平な球状で最大径を<br>中位にもつ。口縁部は彫刻から外傾<br>する。 | 口縁部内・外面ヘラナデ。体部外面<br>ヘラ削り後ナデ。    | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P300 80% PL52<br>防護大東側覆土中層<br>二次焼成  |
| 26          | ミニチュア<br>土瓶<br>器 | A 6.2<br>B 4.0<br>C 2.2    | 平底。体部は外彫して立ち上がり、<br>口縁部は外反する。               | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘ<br>ラ削り後ナデ。     | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通   | P301 80% PL52<br>北コーナー部覆土中層         |

| 国版番号    | 種別   | 計測値    |       |        |        | 出土場所  | 備考                    |
|---------|------|--------|-------|--------|--------|-------|-----------------------|
|         |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |       |                       |
| 第117回27 | 土玉   | 3.4    | 3.5   | —      | 0.6    | 33.7  | 西コーナー付近覆土上層 DP48      |
| 28      | 管状土錐 | 7.2    | 4.3   | —      | 1.1    | 146.0 | 西コーナー付近覆土中層 DP49 PL58 |

### 第65号住居跡（第118図）

位置 調査区南西端部, F1de区。

規模と平面形 長軸3.85m, 短軸3.70mの方  
形である。

主軸方向 N-50°W

壁 壁高は8cm程で、ほぼ直立に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部から南西寄りにあり、長径46cm。

短径35cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪  
めている。炉床は弱く赤変している。

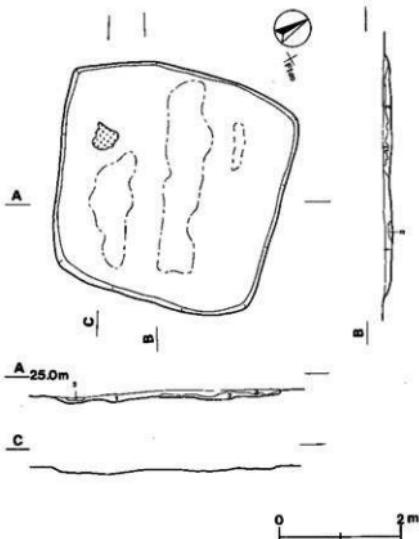
覆土 3層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子、ロ  
ーム小ブロック少量
- 3 黄色 ローム大ブロック多量、ローム粒子中量

遺物 南部から土器片と礫が少量出土して  
いるが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物  
から古墳時代前期と思われるが、遺物が細  
片であるため詳細な時期は不明である。



第118図 第65号住居跡実測図

第66号住居跡（第119図）

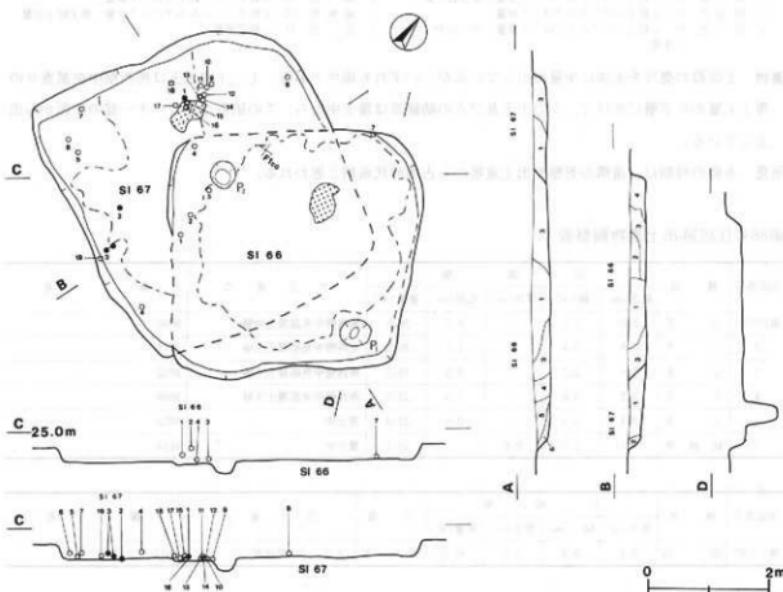
位置 調査区南西部、F1c区。

重複関係 本跡は西部が第67号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

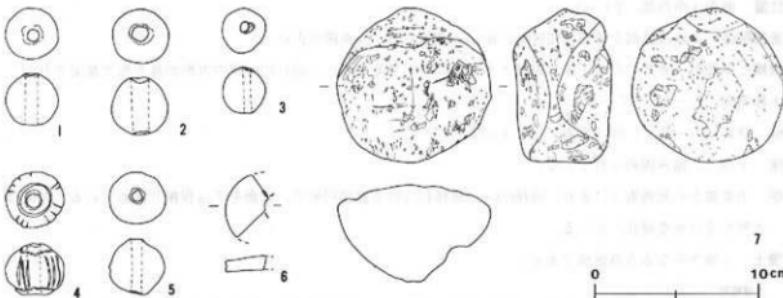
規模と平面形 長軸4.15m、短軸3.90mの方形である。

主軸方向 N-31°W

壁 壁高は22-27cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。



第119図 第66・67号住居跡実測図



第120図 第66号住居跡出土遺物実測図

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 2か所 ( $P_1 + P_2$ )。 $P_1 + P_2$ は長径45~50cm、短径40~42cmの梢円形、深さ22~57cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。

炉 中央部から北寄りにあり、長径68cm、短径40cmの不整梢円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

|       |                             |       |                         |
|-------|-----------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量、炭化物少量      | 4 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量        |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量            | 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量                 |

遺物 土師器の壺片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。1~4の土玉は南西壁中央部寄りの覆土上層から下層にかけて、5の土玉及び6の筋錘車は覆土中から、7の砥石は北コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第66号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号   | 種別  | 計測値    |       |        |        | 出土地點  | 備考         |
|--------|-----|--------|-------|--------|--------|-------|------------|
|        |     | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |       |            |
| 第120図1 | 土玉  | 3.2    | 3.2   | —      | 0.7    | 28.5  | 南西壁中央部覆土中層 |
| 2      | 土玉  | 3.5    | 3.4   | —      | 1.1    | 35.2  | 南西壁中央部覆土上層 |
| 3      | 土玉  | 2.8    | 2.7   | —      | 0.5    | 19.0  | 南西壁中央部覆土下層 |
| 4      | 土玉  | 3.2    | 3.6   | —      | 0.9    | 32.5  | 南西壁中央部覆土下層 |
| 5      | 土玉  | 3.4    | 3.4   | —      | 0.6    | 32.0  | 覆土中        |
| 6      | 筋錘車 | (3.7)  | (2.6) | 0.9    | —      | (8.1) | 覆土中        |

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        |       | 石質 | 出土地點     | 備考  |
|--------|----|--------|-------|--------|-------|----|----------|-----|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |    |          |     |
| 第120図7 | 砥石 | 9.4    | 9.4   | 6.0    | 87.8  | 軽石 | 北コーナー部床面 | Q17 |

第67号住居跡（第119図）

位置 調査区南西部、F1c9区。

重複関係 本跡は東部を第66号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺4.40m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-63°-W

壁 壁高は27cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

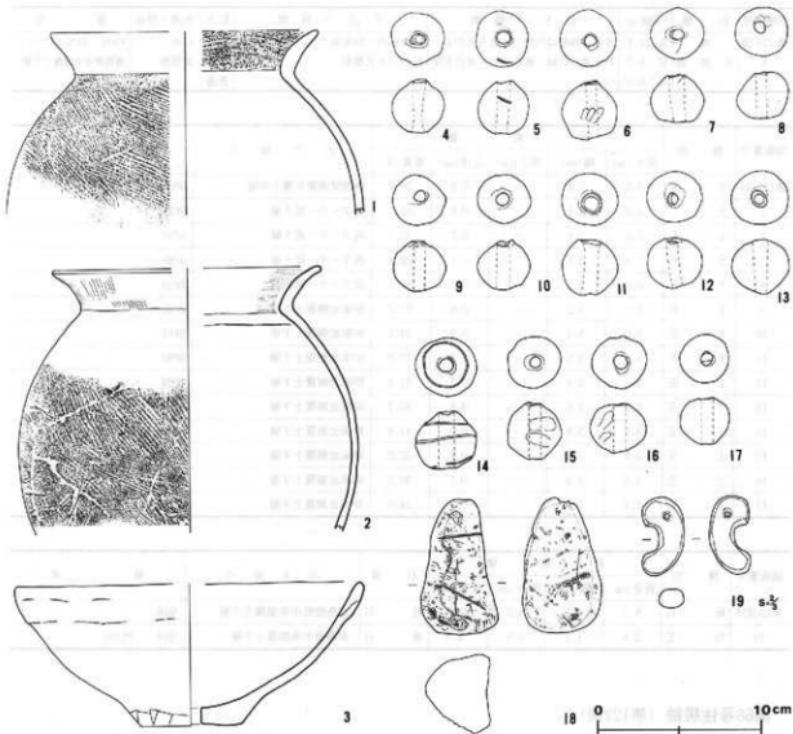
床 平坦で、踏み固められている。

炉 中央部から北寄りにあり、長径60cm、短径40cmの不整梢円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

|       |                         |       |                         |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量          |       |                         |



第121図 第67号住居跡出土遺物実測図

遺物 少量の土師器と14点の土玉が出土している。1の壺は北西壁中央部の覆土下層から、2の壺及び3の瓶は南西壁中央部寄りの床面と覆土下層から出土している。4の土玉は南西壁寄りの覆土中層から、5~7の土玉は西コーナー部の覆土下層から、8の土玉は北コーナー部の床面から、9~17の土玉は炉床北側の覆土下層から集中して、18の砥石は北西壁中央部の覆土下層から、19の石製模造品(勾玉)は南西壁中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第67号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号              | 器種  | 計測値(cm) | 器形の特徴                | 手法の特徴                 | 胎土・色調・焼成              | 備考                                |
|-------------------|-----|---------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------------|
| 第121図<br>1<br>土師器 | 壺   | A(16.4) | 体部上半から口縁部にかけての破片。    | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。 | 長石・石英<br>にぶい黒褐色<br>普通 | F302 10%<br>北西壁中央部覆土下層<br>体部外面様付筆 |
|                   | 土師器 | B(11.3) | 口縁部は壘部から「く」の字状に外反する。 |                       |                       |                                   |
| 2<br>土師器          | 壺   | A(16.5) | 体部上半から口縁部にかけての破片。    | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。 | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | F303 20%<br>南西壁中央部寄り床面<br>二次焼成    |
|                   | 土師器 | B(16.3) | 口縁部は壘部から「く」の字状に外反する。 |                       |                       |                                   |

| 図版番号       | 器種      | 計測値(cm)                    | 器形の特徴                                 | 手法の特徴                    | 胎土・色調・焼成              | 備考                                  |
|------------|---------|----------------------------|---------------------------------------|--------------------------|-----------------------|-------------------------------------|
| 第121図<br>3 | 瓶<br>土器 | A(21.4)<br>B 8.7<br>C(6.0) | 平底。体部は内側して立ち上がる。<br>折り返し線。底部中央に単孔を穿つ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のハケ目整形。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | PS04 30% PL53<br>南西壁中央部覆土下層<br>二次焼成 |

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        |        | 出土地点 | 備考         |
|--------|----|--------|-------|--------|--------|------|------------|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |      |            |
| 第121図4 | 土玉 | 3.3    | 3.3   | —      | 0.8    | 28.9 | 南西壁南寄り覆土中層 |
| 5      | 土玉 | 3.3    | 3.1   | —      | 0.8    | 32.5 | 西コーナー部下層   |
| 6      | 土玉 | 3.6    | 3.4   | —      | 0.7    | 35.3 | 西コーナー部下層   |
| 7      | 土玉 | 2.9    | 3.3   | —      | 0.7    | 29.3 | 西コーナー部下層   |
| 8      | 土玉 | 2.9    | 3.1   | —      | 0.7    | 26.7 | 北コーナー部底面   |
| 9      | 土玉 | 3.1    | 3.2   | —      | 0.6    | 27.2 | 炉床北側覆土下層   |
| 10     | 土玉 | 3.0    | 3.3   | —      | 0.9    | 24.4 | 炉床北側覆土下層   |
| 11     | 土玉 | 3.4    | 3.5   | —      | 1.1    | 33.9 | 炉床北側覆土下層   |
| 12     | 土玉 | 3.1    | 3.4   | —      | 0.7    | 31.1 | 炉床北側覆土下層   |
| 13     | 土玉 | 3.3    | 3.5   | —      | 0.9    | 33.7 | 炉床北側覆土下層   |
| 14     | 土玉 | 3.5    | 3.8   | —      | 0.9    | 41.8 | 炉床北側覆土下層   |
| 15     | 土玉 | 3.5    | 3.4   | —      | 0.7    | 32.2 | 炉床北側覆土下層   |
| 16     | 土玉 | 3.0    | 3.4   | —      | 0.7    | 30.2 | 炉床北側覆土下層   |
| 17     | 土玉 | 2.9    | 3.0   | —      | 0.7    | 24.5 | 炉床北側覆土下層   |

| 図版番号    | 種別 | 計測値    |       |        |       | 石質 | 出土地点        | 備考        |
|---------|----|--------|-------|--------|-------|----|-------------|-----------|
|         |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |    |             |           |
| 第121図18 | 砥石 | 8.3    | 4.7   | 4.9    | 22.7  | 粗石 | 北西壁際中央部覆土下層 | Q18       |
| 19      | 勾玉 | 2.4    | 1.2   | 0.5    | 2.3   | 滑石 | 南西壁中央部覆土下層  | Q19 PL101 |

### 第68号住居跡（第122図）

位置 調査区南西部、F2a1区。

重複関係 本跡は南東部を第63号住居跡に、東部を第64号住居跡に掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、一辺5.30m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-48°-W

壁 壁高は12cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

ピット P1は径50cmの円形、深さ50cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

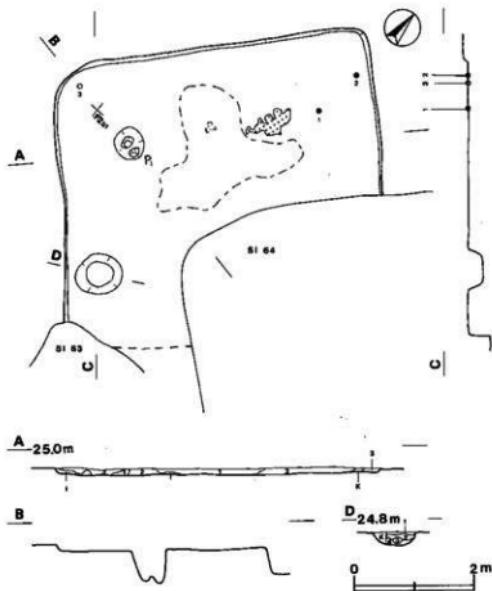
炉 中央部から北寄りにあり、長径70cm、短径40cmの不整梢円形で、床面を8cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー付近に付設されている。長径75cm、短径65cmの梢円形で、深さは24cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量



第122図 第68号住居跡実測図

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

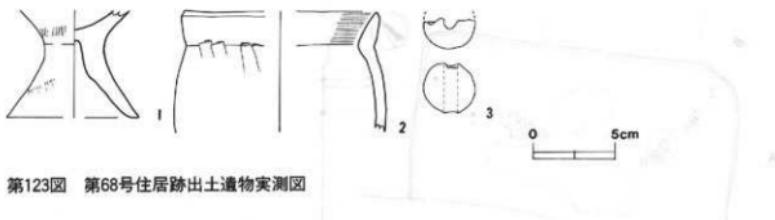
- 1 極 黄 色 ローム粒子多量。ローム小・中ブロック中量。ローム大ブロック少量
- 2 種 黄 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量。焼土粒子・炭化物少量
- 3 黒 黄 色 ローム粒子中量。ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物 北コーナー寄りの床面から土師器の壺片を主体に少量出土している。1の器台は炉北東側の床面から、2の壺は北コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第68号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器 様          | 計画値(m)                    | 器 形 の 特 徴                      | 手 法 の 特 徴                        | 黏 土・色調・焼成            | 備 考                  |
|------------|--------------|---------------------------|--------------------------------|----------------------------------|----------------------|----------------------|
| 第123図<br>1 | 器 台<br>土 師 器 | B(6.5)<br>D(8.1)<br>E 4.9 | 器受部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。            | 器受部外側下位、脚部外側ハケ月整形後ナデ。<br>普通      | 長石・石英<br>にぶい黃褐色      | P305 20%<br>炉北東側床面   |
| 2          | 壺<br>土 師 器   | A(12.2)<br>B(7.3)         | 体部上位から口縁部にかけての被片。<br>口縁部は外傾する。 | 口縁部内面ハケ目整形後ナデ。体部<br>外側底位の粗いヘラナデ。 | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通 | P305 20%<br>北コーナー部床面 |



第123図 第68号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        |        | 出土地點   | 備考      |
|--------|----|--------|-------|--------|--------|--------|---------|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |        |         |
| 第123図3 | 土玉 | 3.0    | (3.2) | —      | 0.8    | (14.6) | 西コーナー床面 |

### 第69号住居跡（第124図）

位置 調査区南西部, F2d4区。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.55

mの方形である。

主軸方向 N-30°-E

壁 壁高は14~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 5か所（P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>）。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径35~53cm, 短径33~40cmの楕円形、深さ25~39cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径15cmの円形、深さ21cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所。炉1はほぼ中央部にあり、長径56cm, 短径32cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉2は炉1の東北側にあり、長径55cm, 短径35cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。いずれの加床も火熱を受け赤変硬化している。

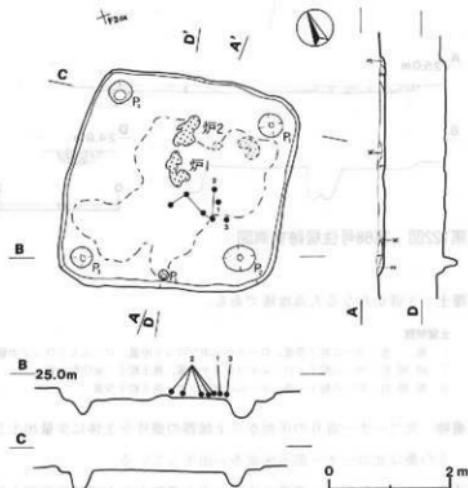
覆土 3層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

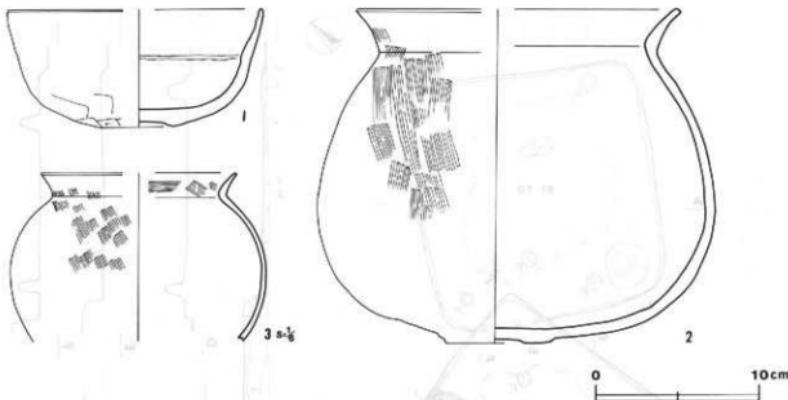
- 1 案塔褐色 ローム粒子・ローム小・大ブロック中量、炭化物少量 3 地色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物 炉周辺の床面から少量の土師器が出土している。1の鉢及び2・3の甌は炉南側の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第124図 第69号住居跡実測図



第125図 第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号              | 器種 | 計測値(cm)                    | 器形の特徴  | 手法の特徴                           | 粘土・色調・焼成              | 備考                       |
|-------------------|----|----------------------------|--|---------------------------------|-----------------------|--------------------------|
| 第125図<br>1<br>土師器 | 鉢  | A(15.7)<br>B 7.1<br>C 4.5  | 中央が凹心平底。体部は内側して立ち上がり、腰部を減じながら口縁部に至る。                 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外表面ヘラ削り後ナデ。        | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P307 60% PL53<br>伊南陶覆土下層 |
|                   | 壺  | A(19.8)<br>B 20.5<br>C 6.8 | 突出した平底で中央が凹む。体部は側面な球状で最大径を下位にもつ。<br>口縁部は「く」の字状に外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外表面報位のハケ目整形。       | 長石・石英<br>灰黃褐色<br>普通   | P308 40%<br>伊南陶覆土下層      |
|                   | 壺  | A(24.0)<br>B(20.6)         | 体部上半から口縁部にかけての破片。                                    | 口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。<br>体部外面ハケ目整形。 | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P309 20%<br>伊南陶覆土下層      |

第70号住居跡（第126図）

位置 調査区南西部、E2j3区。

重複関係 本跡は南東壁を第71号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.05m、短軸3.95mの方形である。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は10~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、出入り口部から炉の周辺が踏み固められている。

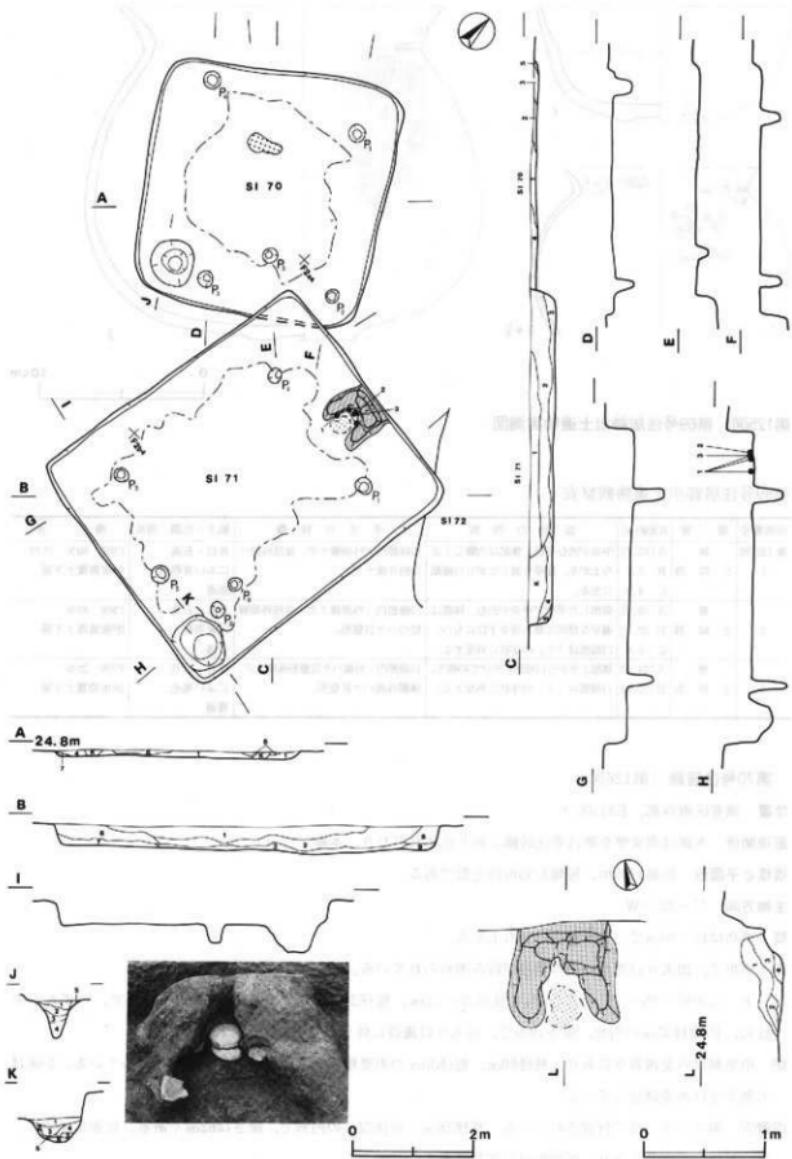
ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径25~32cm、短径22~28cmの円形、深さ30~34cmで、いずれも主

柱穴、P<sub>5</sub>は径25cmの円形、深さ19cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径60cm、短径30cmの不整縁円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径78cm、短径72cmの円形で、深さは62cmである。底面は皿状で、

壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。



第126図 第70・71号住居跡実測図

## 貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量
- 2 暗褐色 燃土粒子・焼土小ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

覆土 7層からなる人為堆積である。

## 土層解説

- 1 棕褐色 ローム大ブロック多量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 3 黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 黄褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 明褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器の裏片を主体に少量出土している。1のミニチュア土器は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

## 第70号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号  | 跡種      | 計測値(m)         | 器形の特徴                           | 手法の特徴 | 地土・色調・焼成       | 備考       |
|-------|---------|----------------|---------------------------------|-------|----------------|----------|
| 第127図 | ミニチュア土器 | A(7.4)         | 平底、底部は内凹して立ち上がり。<br>口縁部内・外面横ナメ。 |       | 長石・石英<br>にぼい褐色 | P310 30% |
| 1     | 土師器     | B 3.6<br>C 4.4 | 口縁部はやや肥厚する。                     |       | 普通             | 覆土中      |

## 第71号住居跡（第126図）

位置 調査区南西部、F2a4区。

重複関係 本跡は北東コーナー部が第72号住居跡を、北西コーナー部が第70号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸5.16m、短軸4.48mの長方形である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は39~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット 6か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>6</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径22~30cm、短径20~25cmの円形あるいは橢円形、深さ44~64cmで、いずれも主柱穴。P<sub>5</sub>は径30cmの円形、深さ32cmで、出入り口施設に伴うピット、P<sub>6</sub>は径25cmの円形、深さ26cmで、補助柱穴と考えられる。

竈 住居跡内の北壁中央部に砂質粘土で構築している。規模は長さ75cm、幅90cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は長さ40cm程度で、火床面から急傾して立ち上がっている。

## 竈土層解説

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 1 黄褐色 砂粒子多量、燃土中ブロック中量、ローム粒子・焼土  | 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量 |
| 2 赤褐色 燃土粒子・焼土小ブロック多量、ローム中ブロック少量 | 4 暗赤褐色 燃土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子中量、焼土中・大ブロック少量    |

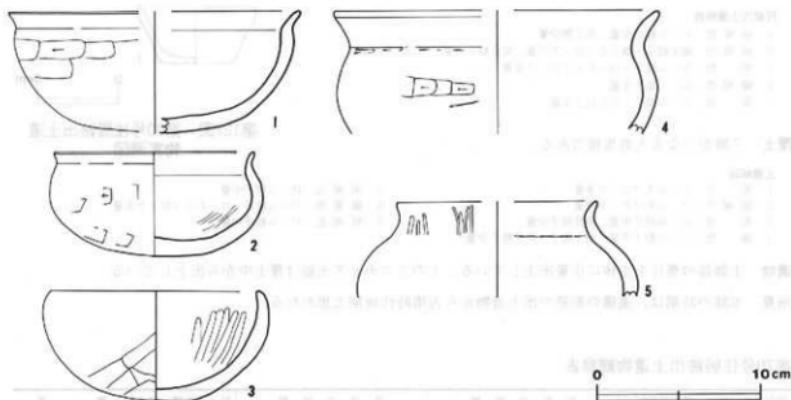
貯蔵穴 東南コーナー部に付設されている。長径90cm、短径80cmの楕円形で、深さは49cmである。底面はやや凹凸で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はほぼ逆台形状である。

## 貯蔵穴土層解説

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・ローム大ブロック・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 燃土粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量   |
| 3 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量      | 6 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量   |



第127図 第70号住居跡出土遺物実測図



第128図 第71号住居跡出土実測図

覆土 9層からなる人為堆積である。

土層解説

- |       |                        |       |                        |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量    | 6 黒色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子・ |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子少量    | 7 暗褐色 | 炭化物少量                  |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量   | 8 暗褐色 | ローム小ブロック中量、燒土粒子少量      |
| 4 褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子・ | 9 黒色  | 炭化物少量                  |
|       | 炭化物少量                  |       |                        |
| 5 明褐色 | ローム粒子・燒土粒子少量           |       |                        |

遺物 少量の土師器の甕片と甕が床面に散在した状態で出土している。窓内からは土師器が出土している。

1の甕及び5の甕は窓の火床部から、2(上)・3(下)の甕は窓内の覆土中層から上下に重なった状態で、4の鉢は窓左袖部先端部の内側から出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀後半)と思われる。

第71号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号              | 器種          | 計画値(cm)     | 器形の特徴  | 手法の特徴                            | 胎土・色調・焼成               | 備考                                      |
|-------------------|-------------|-------------|--|----------------------------------|------------------------|---|
| 第128図<br>1<br>土師器 | 甕<br>A<br>B | 17.8<br>7.4 | A. 9底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外反する。口縁部内面に棱をもつ。<br>B. 丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に不明瞭な棱をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面横位のヘラ削り後ヘラナデ。     | 長石・石英・スコリア<br>赤色<br>普通 | P312 40% PL53<br>窓火床部<br>二次焼成           |
| 2<br>土師器          | 甕<br>A<br>B | 12.2<br>6.4 | A. 9底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に不明瞭な棱をもつ。<br>B. 丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。                | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面へタ焼き、外面ヘラ削り後ヘラナデ。 | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通     | P313 95% PL53<br>窓内覆土中層<br>二次焼成 P314の上  |
| 3<br>土師器          | 甕<br>A<br>B | 12.9<br>6.7 | A. 丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。   | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面へタ焼き、外面ヘラ削り後ヘラナデ。 | 長石・石英<br>赤色<br>普通      | P314 100% PL53<br>窓内覆土中層<br>二次焼成 P313の下 |
| 4<br>土師器          | 鉢<br>A<br>B | 20.0<br>7.5 | 口縁部片。口縁部は頭部から外反する。   | 口縁部内面・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。       | 長石・石英・スコリア<br>橙色<br>普通 | P311 10%<br>窓左袖部内側                      |
| 5<br>土師器          | 甕<br>A<br>B | 12.3<br>5.8 | A. 9底。口縁部片。口縁部は頭部から外反する。   | 口縁部内面横位・外面縦位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。 | 長石・石英<br>暗赤褐色<br>普通    | P315 10%<br>窓火床部                        |

第72号住居跡（第129図）

位置 調査区南西部，E2js区。

重複関係 本跡は南西壁を第71号住居跡に、北東壁を第52・53・54号土坑及び第1号溝に掘り込まれており、

本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸7.10m、短軸6.86mの方形である。

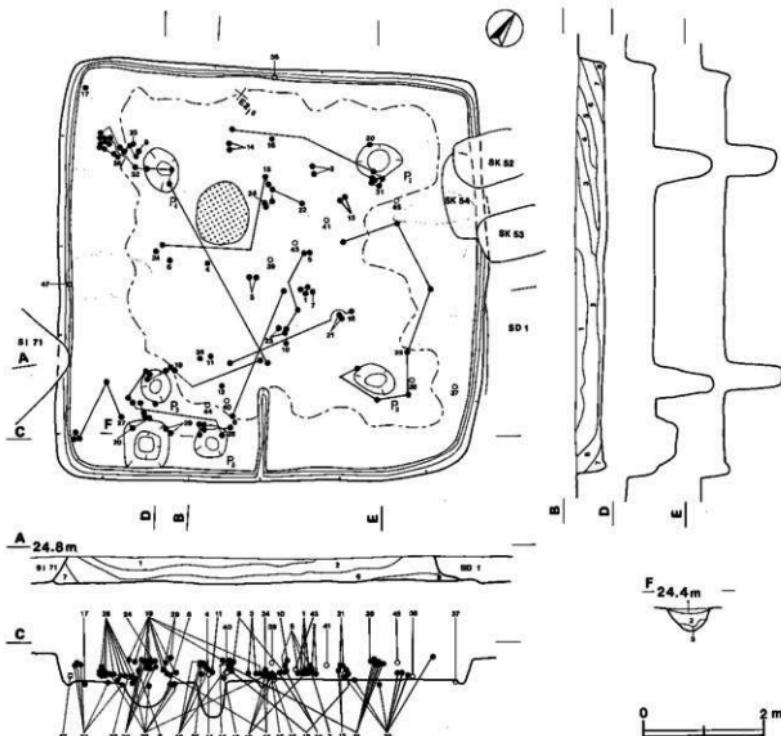
主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は37-44cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ5-10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝1条を確認した。長さ1.35m、上幅20cm、下幅10cm、深さ15cmで、断面形はU字状である。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>-P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>-P<sub>4</sub>は長径55-75cm、短径50-60cmの楕円形、深さ82-98cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は一辺50cmの隅丸方形、深さ58cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第129図 第72号住居跡実測図

**炉** 中央部からやや北西寄りにあり、長径105cm、短径85cmの楕円形で、床面を12cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

**貯蔵穴** 南東壁際の南西コーナー寄りに付設されている。長軸80cm、短軸75cmの隅丸方形で、深さは35cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- 1 桐褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黄色 ローム粒子・ローム小ブロック中量・ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 3 青色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量

**覆土** 8層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

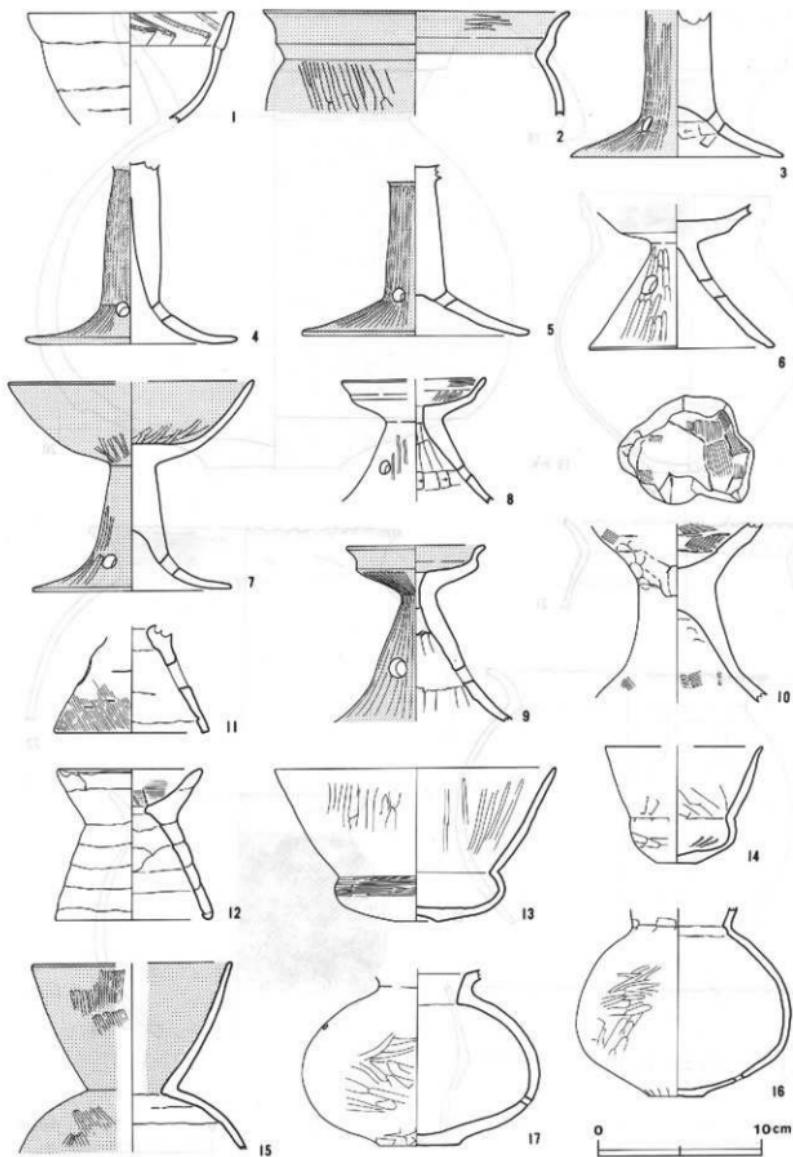
- |       |                              |       |                              |
|-------|------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黑褐色 | ローム粒子中量・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 墓褐色 | ローム粒子多量・ローム小ブロック中量・炭化粒子少量    |
| 2 桐褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   | 6 墓褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 墓褐色 | ローム粒子多量・焼土粒子・炭化粒子少量          | 7 青色  | ローム小ブロック多量・焼土粒子少量            |
| 4 桐褐色 | ローム粒子中量・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黑褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量             |

**遺物** 当遺跡の住居跡では最も多量の遺物が出土している。住居跡全体の覆土上層から床面にかけて土器片及び土製品等が出土しており、比較的中央部からの出土量が多い。覆土上層から中層にかけての出土量が多く、出土量全体から見た完形品の割合は少ない。住居跡の覆土下層から床面にかけて出土している遺物は、1の鉢及び11の器台が中央部から、6の高壺が炉南側から、12の器台が出入り口部から、15の壺、22の壺及び34のミニチュア土器が炉北東側から、16の壺が北西壁中央部寄りから、17の壺、26の壺、32の瓶及び33のミニチュア土器が西コーナー寄りからそれぞれ出土している。2の鉢、13の壺は北部の覆土中層から、3～5・7の高壺、10の器台、18の壺及び21・23の壺は住居跡中央部の覆土上層から中層にかけて、9の器台は西コーナー部の覆土上層から、14の壺は北西壁中央部寄りの覆土上層から、25の壺は東コーナー寄りの覆土中層から、8の器台、28の壺は出入り口部の覆土上層から、24の壺は南西壁寄りの覆土上層から、20の壺及び19・27・29の壺は南コーナー寄りの覆土上層から、35のミニチュア土器は同じく南コーナー寄りの覆土中層から、30・31の壺は北コーナー寄りの覆土上層から出土している。

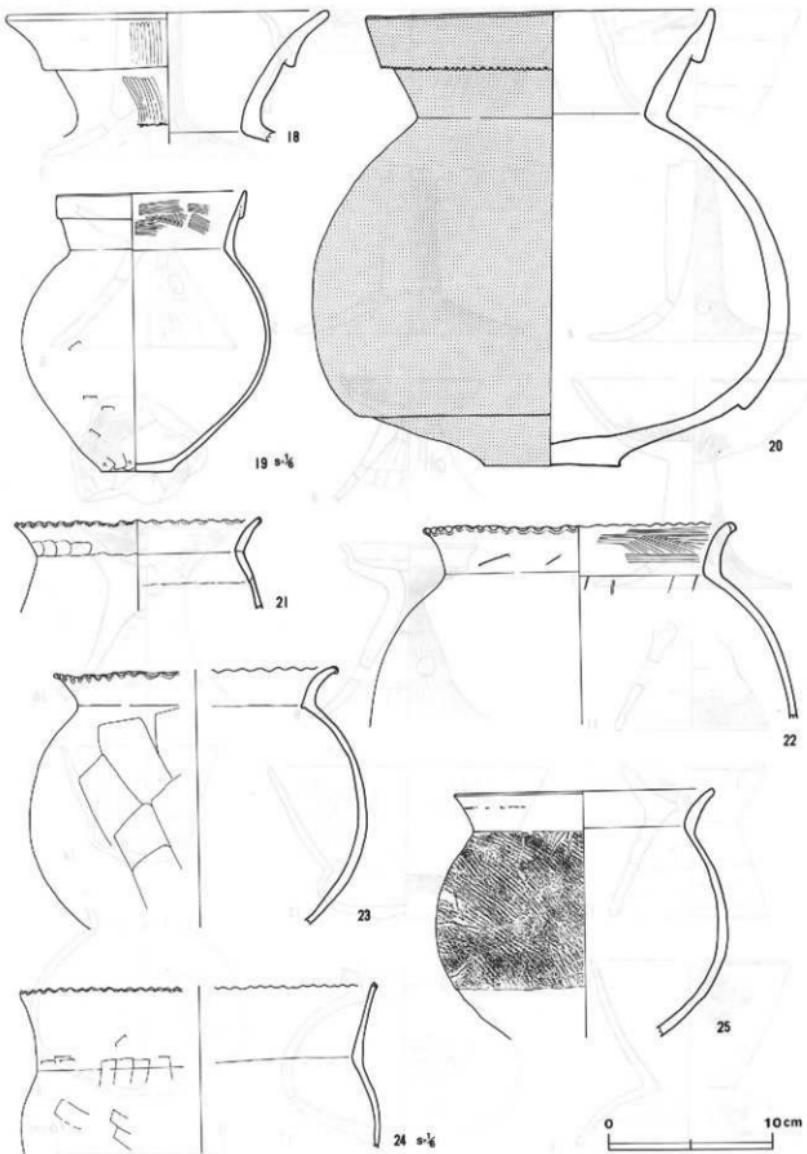
**所見** 本跡の時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。出土状況から遺物の大半は住居跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

第72号住居跡出土遺物観察表

| 国番番号       | 器種       | 計測値(cm)                      | 器形の特徴                                    | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成            | 備考                               |
|------------|----------|------------------------------|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 第130回<br>1 | 鉢<br>土器  | A 12.6<br>B (6.8)            | 底部欠損。体部は内側して立ち上がり、口縁部はやや外傾する。口縁部内面に綫をもつ。 | 口縁部外面横ナデ、内面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部外面に輪積み痕が残る。              | 長石・石英<br>灰白色<br>普通  | P316 80% PL53<br>中央部覆土下層<br>内面剥離 |
| 2          | 鉢<br>土器  | A 18.8<br>B (6.4)            | 口縁部片。口縁部は屈曲して外傾する。口縁部外面中位に綫をもつ。口縁部外削ぎ。   | 口縁部内・外面接位のヘラ磨き。体部内面ナデ、外面纏位のヘラ磨き。<br>口縁部内・外、体部外面赤影。 | 長石・石英<br>暗赤褐色<br>普通 | P317 20%<br>北部覆土中層               |
| 3          | 高壺<br>土器 | D 13.2<br>E (9.0)            | 脚部片。脚部は中柱状で、福部は外下方に大きく開く。脚部下方に3孔を穿つ。     | 脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面赤影。                                | 長石・石英<br>暗赤褐色<br>普通 | P320 40%<br>中央部覆土中層              |
| 4          | 高壺<br>土器 | B (11.2)<br>D 13.0<br>E 10.7 | 脚部片。脚部はラバ状に開く。脚部下方に3孔を穿つ。                | 脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面赤影。                                | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通  | P318 50%<br>中央部覆土中層              |

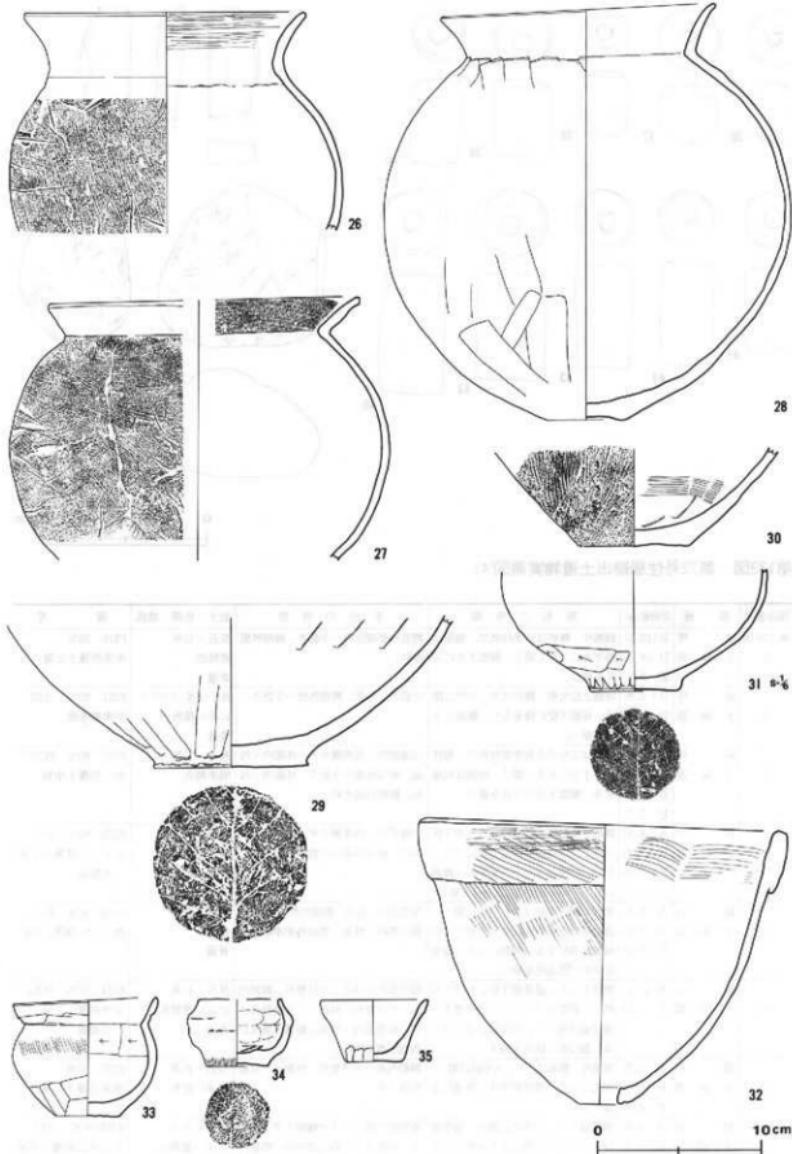


第130図 第72号住居跡出土遺物実測図(1)

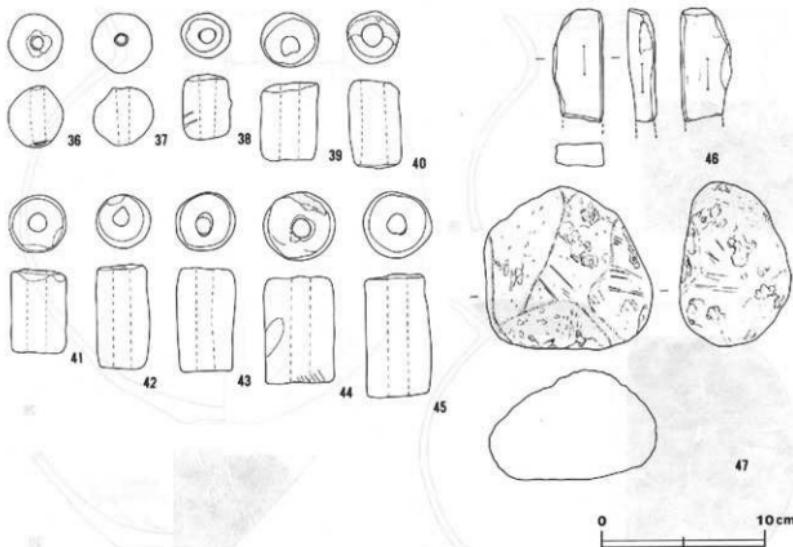


第131図 第72号住居跡出土遺物実測図(2)

西日本古墳出土物研究会編 第二集



第132図 第72号住居跡出土遺物実測図(3)



第133図 第72号住居跡出土遺物実測図(4)

| 図版番号 | 器種               | 計測値(cm)                              | 器形の特徴   | 手法の特徴  | 胎土・色調・施成                  | 備考                                  |
|------|------------------|--------------------------------------|---|--|---------------------------|-------------------------------------|
| 5    | 高<br>土<br>器      | B(10.5)<br>D 14.0<br>E 9.5           | 脚部片。脚部は中実柱状で、底部は外下方に大きく聞く。脚部下方に3孔を穿つ。                             | 脚部外表面のヘラ磨き。脚部外表面赤褐色。                                       | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通        | P319 50%<br>中央部覆土上層                 |
|      | 高<br>土<br>器      | B(8.9)                               | 环部上位欠損。脚部はラバ状に聞く。环部下位に後をもつ。脚部に3孔を穿つ。                              | 环部内・外表面、脚部外表面ヘラ磨き。   | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P321 80% PL53<br>伊南側床面              |
|      | 高<br>土<br>器      | A(15.2)<br>D 12.9<br>E 12.2<br>E 7.7 | 脚部は3分の2程中実柱状で、器部は外下方に大きく聞く。脚部は外傾する。脚部下方に3孔を穿つ。                    | 口縁部内・外表面横ナデ。环部内・外表面、脚部外表面赤褐色。                              | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通       | P322 80% PL55<br>中央部覆土中層            |
| 8    | 器<br>台<br>土<br>器 | A(8.9)<br>B(7.8)<br>E(5.2)           | 脚部下位欠損。脚部は「フ」の字状に聞く。器受部は内壁気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。 | 口縁部内・外表面横ナデ。器受部内・外表面、脚部外表面ヘラ磨き。                            | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通     | P323 60% PL53<br>出入り口部覆土上層<br>二次焼成  |
|      | 器<br>台<br>土<br>器 | A 8.6<br>B(10.8)<br>E(7.9)           | 脚部欠損。脚部はラバ状に聞く。器受部は内壁気味に立ち上がり、口縁部は外反する。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。        | 器受部内・外表面、脚部外表面ヘラ磨き。<br>器受部内・外表面、脚部外表面赤褐色。                  | 長石・石英<br>赤色<br>普通         | P326 80% PL53<br>西コーナー部覆土上層         |
|      | 器<br>台<br>土<br>器 | B(11.1)                              | 脚部上位から器受部下位にかけての破片。脚部は「ハ」の字状に聞く。器受部は「フ」の字状に立ち上がる。器受部に決りを施す。       | 器受部内・外表面ハケ目整形。脚部内面ハケ目整形、外表面ハケ目整形後ナデ。器受部内・外表面に輪積み痕及び指擦痕が残る。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通     | P324 60% PL53<br>中央部覆土上層<br>二次焼成    |
| 11   | 器<br>台<br>土<br>器 | B(6.5)<br>D 9.6<br>E 6.0             | 脚部片。脚部は「フ」の字状に聞く。脚部に2孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。                              | 脚部内面ハケ目整形、外表面ハケ目整形後ナデ。                                     | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P325 50%<br>中央部覆土下層                 |
|      | 器<br>台<br>土<br>器 | A 8.9<br>B 9.3<br>D 9.6<br>E 6.1     | 脚部は「ハ」の字状に聞き、器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。器受部中央に貫通孔を穿つ。                      | 器受部内面ヘナラブ後擦痕ナデ。脚部内・外表面ナデ。器受部外表面、脚部内・外表面に輪積み痕が残る。           | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通     | P327 100% PL53<br>出入り口部覆土下層<br>二次焼成 |

| 国版番号        | 器種  | 計測値(cm)                   | 器形の特徴  | 手法の特徴                                     | 胎土・色調・焼成                   | 備考                                  |
|-------------|-----|---------------------------|--|---|----------------------------|-------------------------------------|
| 第130回<br>13 | 埴輪器 | A 17.3<br>B 9.5           | 中央が凹む丸底。体部は内側して立ち上がり。口縁部は頸部から外方向へ大きく開く。                  | 口縁内・外面縦位のヘラ巻き。体部外面横位のヘラ巻き。                | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通       | P330 70% PL54<br>北部覆土中層<br>二次焼成     |
|             |     | A (9.7)<br>B 7.2<br>C 2.4 | 平底。体部は内側して立ち上がり。口縁部は頸部から外方向へ大きく開く。                       | 口縁部内・外面ヘラナデ。体部内・外面ヘラナデ。                   | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通        | P328 60% PL53<br>西北壁寄り覆土中層<br>外面漆付層 |
| 14          | 埴輪器 | A (12.3)<br>B (11.5)      | 口縁部片。口縁部は頸部から外方向へ大きく開く。                                  | 口縁部内・外面、体部外面縦位のヘラ巻き。口縁部内・外面、体部外面赤形。       | 長石・石英<br>赤色<br>普通          | P329 30%                            |
|             |     | B (11.6)<br>C 3.4         | 口縁部欠損。平底。体部は偏平な球状で最大径を下位にもつ。体部下位に穿孔。                     | 体部外面ヘラ巻き。                                 | 長石・石英・楕円<br>にぶい黄褐色<br>普通   | P331 80% PL54<br>北部覆土下層             |
| 17          | 埴輪器 | B (10.8)<br>C 5.0         | 口縁部欠損。平底。体部は偏平な球状で最大径をやや下位にもつ。体部の上位と下位に穿孔。               | 体部外面ヘラ巻き。                                 | 長石・石英・楕円<br>明黄褐色<br>普通     | P332 80% PL55<br>西コーナー部床面           |
|             |     | A 19.8<br>B (8.0)         | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。折り返し口縁。                         | 口縁部内・外面縦位のヘラ巻き。                           | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通        | P333 10%<br>中央部覆土中層<br>二次焼成         |
| 19          | 埴輪器 | A 23.4<br>B 34.3<br>C 7.4 | 平底。体部は縱長な球状で最大径を中位につく。口縁部は頸部からやや外反する。折り返し口縁。             | 口縁部内・外観ハケ目整形後横ナデ。体部外面ハケ目整形後ヘラナデ。          | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P334 50% PL54<br>南コーナー寄り覆土上層        |
|             |     | A 21.5<br>B 28.0<br>C 8.3 | 突出した平底。体部は偏平な球状で下位に最大径と段をもつ。口縁部は外反する。折り返し口縁。口縁部下端に刻みを施す。 | 口縁部内・外観。体部外面ヘラ巻き。<br>口縁部内・外観、体部外面赤形。      | 長石・石英・スコリア<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P335 80% PL55<br>南コーナー寄り覆土上層        |
| 21          | 埴輪器 | A 15.2<br>B (5.5)         | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。               | 口縁部内・外観横ナデ。口縁部外観下位に斜頭瓦痕が残る。               | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通       | P336 10%<br>中央部覆土上層<br>二次焼成         |
|             |     | A (17.4)<br>B (15.8)      | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。               | 口縁部内・外観横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。                  | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通       | P338 30%<br>中央部覆土中層<br>二次焼成         |
| 24          | 埴輪器 | A (44.0)<br>B (20.5)      | 口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。                           | 口縁部内・外観横ナデ。体部外面縦位のハケ目整形後ヘラナデ。体部外面に赤褐色痕あり。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通          | P337 5%<br>南北壁寄り覆土上層                |
|             |     | A 16.0<br>B (15.1)        | 底縫欠底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。                | 口縁部内面横位のハケ目整形、外観横ナデ。体部外面側位のハケ目整形後ヘラナデ。    | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通         | P340 60% PL54<br>東コーナー寄り覆土中層        |
| 26          | 埴輪器 | A 17.3<br>B (13.5)        | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。                    | 口縁部内面ハケ目整形後ナデ。外観横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。         | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通       | P341 40% PL54<br>西コーナー寄り覆土下層        |
|             |     | A (19.0)<br>B (16.2)      | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。                    | 口縁部内面ハケ目整形後、横ナデ、外観横ナデ。体部外面ハケ目整形。          | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通         | P342 40% PL54<br>南コーナー部覆土上層<br>二次焼成 |
| 28          | 埴輪器 | A 16.9<br>B 25.4<br>C 4.7 | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。                  | 口縁部内・外観横ナデ。体部外面縦位のハケ目整形後ヘラナデ。             | 長石・石英<br>黒色<br>普通          | P346 80% PL55<br>出入り口部覆土上層          |
|             |     | B (9.2)<br>C 9.5          | 底部から体部下位にかけての破片。突出した平底。体部は内側して立ち上がる。                     | 体部外観縦位。外観縦位のハケ目整形。底部と体部の境に横位のナデ。          | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P344 20%<br>南コーナー寄り覆土上層             |
| 30          | 埴輪器 | B (6.0)<br>C 6.7          | 底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内側して立ち上がる。                         | 体部内面横位。外観縦位のハケ目整形。底部と体部の境に横位のナデ。          | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P343 15%<br>北コーナー寄り覆土上層             |
|             |     | B (14.8)<br>C 11.0        | 底部から体部下位にかけての破片。突出した平底。体部は内側して立ち上がる。                     | 体部外面ヘラナデ。底部に木葉痕が残る。                       | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通      | P345 20%<br>北コーナー寄り覆土上層             |

| 図版番号  | 器種      | 計測値(cm)                   | 器形の特徴                                       | 手法の特徴                              | 胎土・色調・焼成              | 備考                            |
|-------|---------|---------------------------|---|------------------------------------|-----------------------|-------------------------------|
| 第132図 | 瓶       | A 22.6<br>B 17.2<br>C 3.3 | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。底部に単孔を有す。<br>折り返し口縁。 | 口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。体部外側ハケ目整形後ヘラナデ。   | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P347 40% PL55<br>西コーナー寄り床面    |
| 32    | 土師器     |                           |   |                                    |                       |                               |
| 33    | ミニチュア土器 | A 8.8<br>B 7.3<br>C 3.8   | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外傾する。                   | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側ハケ目整形後ナデ。           | 長石・石英<br>浅黄褐色<br>普通   | P350 95% PL53<br>西コーナー部床面     |
| 34    | 土師器     | A [5.1]<br>B 4.1<br>C 3.8 | 中央がやや凹む平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は極く内傾する。          | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側ハケ目整形後ナデ。底部に木素痕が残る。 | 長石・石英<br>暗赤褐色<br>普通   | P349 60% PL55<br>炉北東側覆土下層     |
| 35    | ミニチュア土器 | A 6.5<br>B 3.8<br>C 3.4   | 平底。体部は器厚を減じながら外傾し、口縁部はやや器厚を増す。              | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側ハケ目整形後ナデ。           | 長石・石英<br>褐色<br>普通     | P348 100% PL55<br>南コーナー寄り覆土中層 |

| 図版番号   | 種別   | 計測値    |       |        |        | 出土地點  | 備考          |
|--------|------|--------|-------|--------|--------|-------|-------------|
|        |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |       |             |
| 第133図6 | 土玉   | 3.7    | 3.3   | —      | 0.8    | 33.0  | 北東壁中央部床面    |
| 37     | 土玉   | 3.5    | 3.7   | —      | 0.8    | 39.7  | 東コーナー部床面    |
| 38     | 管状土錐 | 4.0    | 3.0   | —      | 1.1    | 37.7  | 東コーナー部床面    |
| 39     | 管状土錐 | 4.8    | 3.6   | —      | 1.1    | 59.3  | 中央部覆土上層     |
| 40     | 管状土錐 | 5.5    | 3.2   | —      | 1.3    | 52.3  | 出入り口部北西覆土中層 |
| 41     | 管状土錐 | 5.1    | 3.5   | —      | 1.1    | 71.6  | 中央部北寄り覆土上層  |
| 42     | 管状土錐 | 6.5    | 3.4   | —      | 1.1    | 77.4  | 覆土中         |
| 43     | 管状土錐 | 6.4    | 3.6   | —      | 1.1    | 102.4 | 中央部北寄り覆土中層  |
| 44     | 管状土錐 | 6.1    | 4.5   | —      | 1.2    | 120.0 | 出入り口部北西覆土中層 |
| 45     | 管状土錐 | 7.5    | 4.3   | —      | 1.2    | 125.5 | 北コーナー付近覆土上層 |

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        |        | 石質  | 出土地點       | 備考  |
|--------|----|--------|-------|--------|--------|-----|------------|-----|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g)  |     |            |     |
| 第133図6 | 砥石 | (5.0)  | 3.1   | 1.7    | (53.3) | 凝灰岩 | 覆土中        | Q20 |
| 47     | 砥石 | 10.0   | 10.2  | 6.9    | 78.6   | 軽石  | 南西壁中央部覆土下層 | Q21 |

### 第73号住居跡 (第134図)

位置 調査区西端部、E2e1区。

重複関係 本跡は東壁が第74号住居跡を、南壁が第150号住居跡を掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸7.75m、短軸7.60mの方形である。

主軸方向 N-18°-W

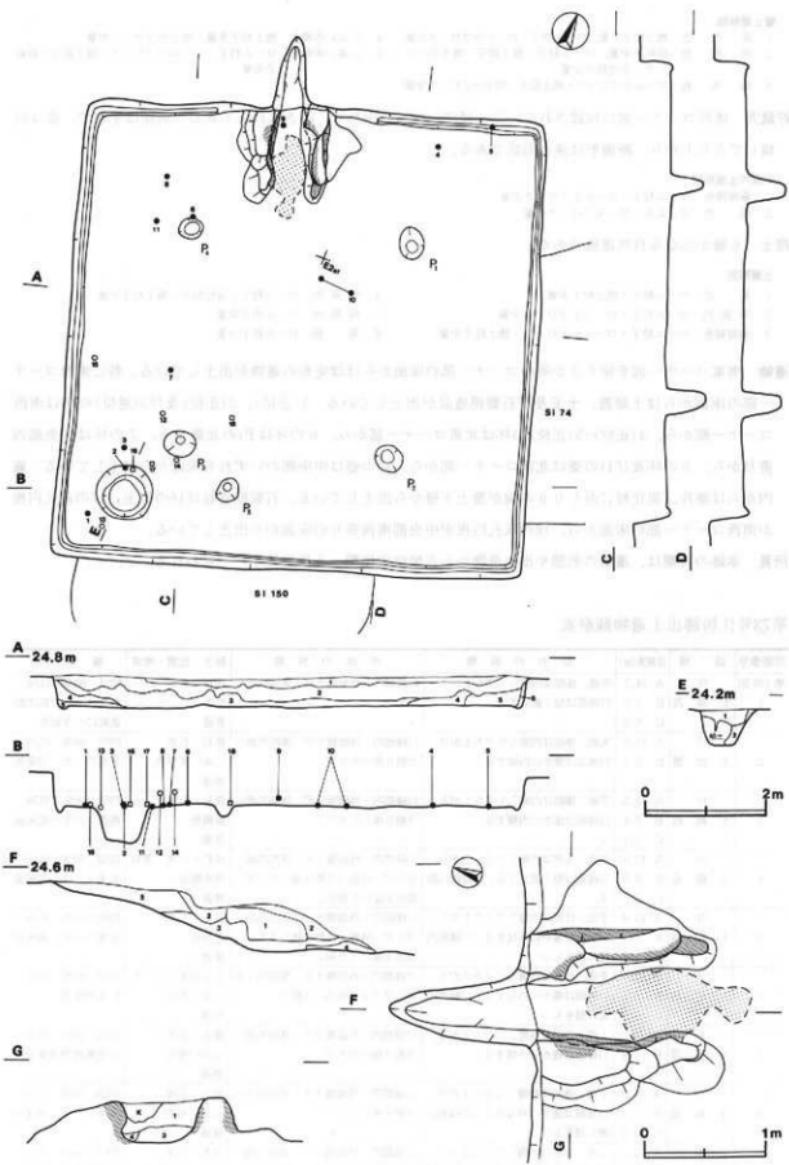
壁 壁高は51~56cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm、深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入り口部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径40~50cm、短径35~40cmの梢円形、深さ53~66cmで、いずれも主柱穴、P5は径40cmの円形、深さ18cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に105cm程掘り込み、ロームと砂質粘土で構築している。規模は長さ270cm、幅200cmである。袖部は地山(ローム)を削り出し、その上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は長さ160cm程で、火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。



第134図 第73号住居跡実測図

## 竪土層解説

|         |                                     |          |                               |
|---------|-------------------------------------|----------|-------------------------------|
| 1 沢 極 色 | 燒土粒子中量。ローム粒子・ローム小ブロック少量             | 4 にぶい赤褐色 | 燒土粒子多量。燒土小ブロック少量              |
| 2 沢 極 色 | 砂粒・中量。ローム粒子・燒土粒子・燒土小ブロ<br>ック・炭化粒子少量 | 5 にぶい赤褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・燒土粒子・砂粒<br>子少量 |
| 3 極 灰 色 | ローム小ブロック・燒土粒子・燒土小ブロック少量             |          |                               |

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。径85~90cmの円形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

## 貯蔵穴土層解説

|         |                  |
|---------|------------------|
| 1 桃珊瑚色  | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 極 灰 色 | ローム小・中・大ブロック中量   |

覆土 6層からなる自然堆積である。

## 土層解説

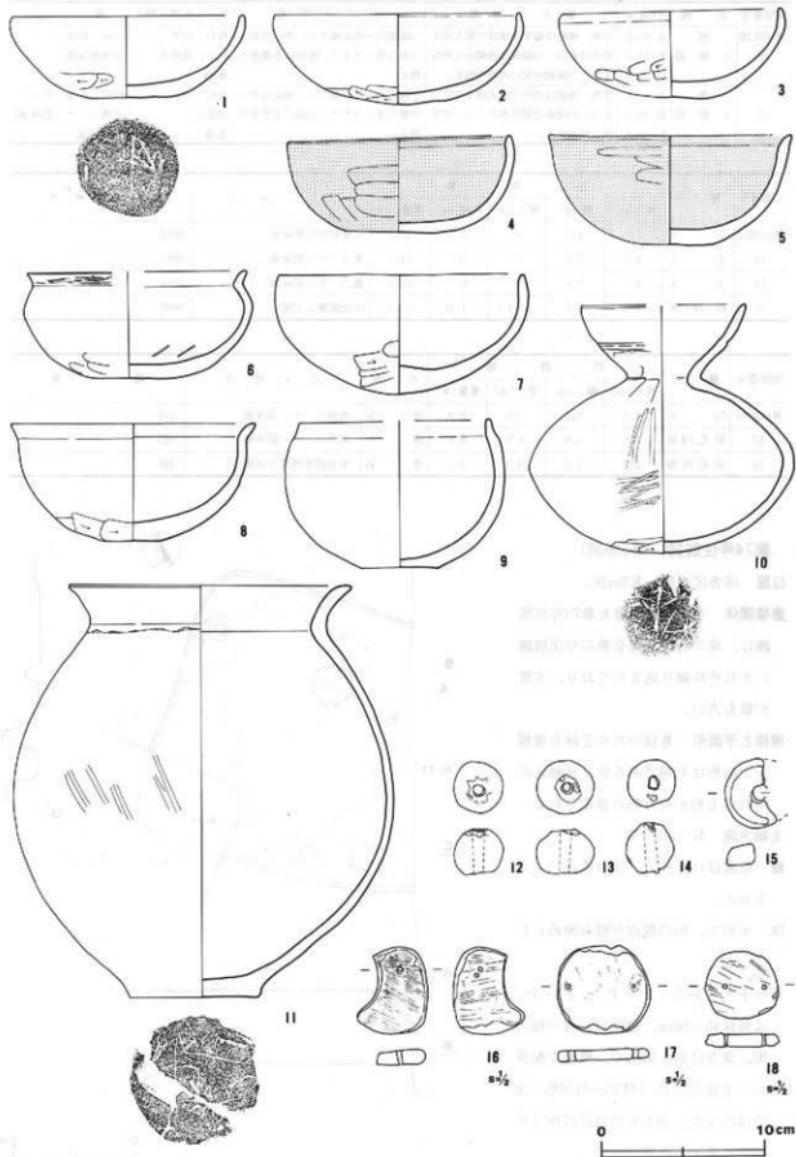
|         |                       |         |                   |
|---------|-----------------------|---------|-------------------|
| 1 黒 色   | ローム粒子・燒土粒子少量          | 4 紫 極 色 | ローム粒子・炭化粒子・燒土粒子少量 |
| 2 黒 深 色 | ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量  | 5 紫 極 色 | ローム粒子少量           |
| 3 桃珊瑚色  | ローム粒子・ローム小ブロック・燒土粒子少量 | 6 極 灰 色 | ローム粒子中量           |

遺物 南東コーナー部を除く3か所のコーナー部の床面からはほぼ完形の遺物が出土している。特に南西コーナー部の床面からは土器類、土玉及び石製模造品が出土している。1(正位)、2(正位)及び3(逆位)の壺は南西コーナー部から、4(正位)・5(正位)の壺は北東コーナー部から、6の壺はP4の北側から、7の壺は中央部西寄りから、8の壺及び11の甕は北西コーナー部から、10の甕は中央部のいずれも床面から出土している。甕内からは瓦片、炭化材に混じり9の碗が覆土下層から出土している。石製模造品は16の勾玉、17の双孔円板が南西コーナー部の床面から、18の双孔円板が中央部南西寄りの床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期(5世紀後半)と思われる。

第73号住居跡出土遺物観察表

| 団番番号          | 器種 | 計測値(cm)                    | 器形の特徴                                 | 手法の特徴                             | 胎土・色調・施成                  | 備考                                    |
|---------------|----|----------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|---------------------------------------|
| 第135団<br>1 土器 | 壺  | A 14.2<br>B 4.9<br>C 5.6   | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は近く直立する。           | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側へラナデ。              | 長石・石英<br>桃色<br>普通         | P351 80% PL56<br>南西コーナー部床面<br>底部にヘラ記号 |
|               | 壺  | A 15.0<br>B 5.5            | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。          | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側へラナデ。削り後へラナデ。      | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通     | P355 60% PL56<br>南西コーナー部床面            |
|               | 壺  | A 13.5<br>B 5.4<br>C 3.4   | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。          | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側へラナデ。削り後へラナデ。      | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通        | P358 100% PL56<br>南西コーナー部床面           |
| 4 土器<br>5 土器  | 壺  | A 13.9<br>B 6.0<br>C 6.0   | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は近く直立する。口縁部内側へ赤茶。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部内側へラナデ。外側へラナデ。底部へ赤茶。 | 長石・石英・雲母<br>明赤褐色<br>普通    | P352 80% PL56<br>北東コーナー部床面            |
|               | 壺  | A 14.9<br>B 6.7<br>C 5.0   | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。口縁部内側へ赤茶。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内側へラナデ。外側へラナデ。底部へ赤茶。 | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通        | P359 100% PL56<br>北東コーナー部床面           |
|               | 壺  | A (13.5)<br>B 6.5<br>C 3.4 | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。口縁部内側へ赤茶。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内側へラナデ。底部へラナデ。       | 長石・石英・スコリア<br>にぶい褐色<br>普通 | P354 60% PL56<br>P4北側床面               |
| 7 土器          | 壺  | A 15.1<br>B 7.4            | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。          | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側へラナデ。底部へラナデ。       | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P357 90% PL56<br>中央部西寄り床面             |
|               | 壺  | A 15.0<br>B 7.2<br>C 4.2   | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は近く直立する。口縁部内側へ赤茶。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側へラナデ。底部へラナデ。       | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通      | P356 90% PL56<br>北西コーナー部床面            |
| 9 土器          | 甕  | A (11.9)<br>B 9.0<br>C 4.8 | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は近く直立する。口縁部内側へ赤茶。  | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側へラナデ。外側へラナデ。       | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通     | P353 50% PL56<br>甕内覆土下層               |



第135図 第73号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号        | 器種 | 計測値(cm)  | 器形の特徴   | 手法の特徴                             | 粘土・色調・焼成              | 備考                                 |
|-------------|----|----------|---|-----------------------------------|-----------------------|------------------------------------|
| 第135図<br>10 | 壺  | A (10.1) | 平底。体部は偏平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は瓶頸から外反する。口縁部中央に沈線を抱す。 | 口縁部内・外面模ナダ。体部外面へ前後へラナダ。底部に木葉痕が残る。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P360 40%<br>中央部床面                  |
|             | 土器 | B 15.2   |   |                                   |                       |                                    |
|             | 土器 | C 3.0    |   |                                   |                       |                                    |
| 11          | 壺  | A 17.4   | 平底。体部は鼓状で最大径を中位にもつ。口縁部は瓶頸から「く」の字形を外反する。         | 口縁部内・外面模ナダ。体部外面へ前後へラナダ。底部に木葉痕が残る。 | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P361 80% PL56<br>北西コーナー部床面<br>二次焼成 |

| 図版番号    | 種別  | 計測値    |       |        |        | 出土地点   | 備考       |
|---------|-----|--------|-------|--------|--------|--------|----------|
|         |     | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |        |          |
| 第135図12 | 土玉  | 2.7    | 3.0   | —      | 0.9    | 25.4   | 東北壁中央部床面 |
| 13      | 土玉  | 2.6    | 3.5   | —      | 0.7    | 31.2   | 東コーナー部床面 |
| 14      | 土玉  | 3.1    | 2.8   | —      | 0.7    | 23.1   | 東コーナー部床面 |
| 15      | 筋縫車 | 4.2    | 3.8   | 1.4    | (1.0)  | (13.0) | 中央部覆土上層  |

| 図版番号    | 種別   | 計測値    |       |        |       | 石質 | 出土地点      | 備考  |
|---------|------|--------|-------|--------|-------|----|-----------|-----|
|         |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |    |           |     |
| 第135図16 | 勾玉   | 3.5    | 2.8   | 0.6    | 8.9   | 滑石 | 南西コーナー部床面 | Q24 |
| 17      | 双孔円板 | 3.6    | 3.8   | 0.5    | 9.4   | 滑石 | 南西コーナー部床面 | Q25 |
| 18      | 双孔円板 | 2.7    | 3.0   | 0.5    | 6.5   | 滑石 | 中央部南西寄り床面 | Q26 |

### 第74号住居跡（第136図）

位置 調査区西部、E2ds区。

重複関係 本跡は南西壁を第73号住居跡に、東コーナー部を第75号住居跡にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。

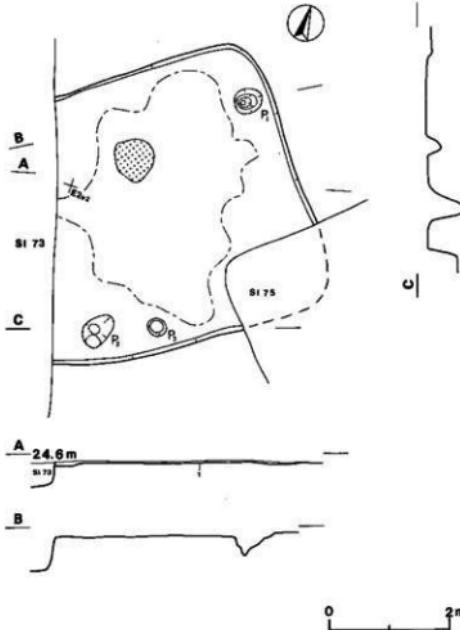
規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、長軸4.60m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は10cm程度、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

ピット 3か所（P<sub>1</sub>～P<sub>3</sub>）。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は長径45～60cm、短径42cm程の楕円形、深さは34～56cmで、規模や配置から主柱穴、P<sub>3</sub>は径30cmの円形、深さは26cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第136図 第74号住居跡実測図

炉 中央部から北西寄りにあり、長径70cm、短径60cmの梢円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 1層からなるが、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒 色 ローム粒子・焼土粒子中量

遺物 土器器の焼片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第75号住居跡（第137図）

位置 洞庭区西部、E2e3区。

重複関係 本跡は西コーナー部が第74号住居跡を掘り込み、南東部を第76号住居跡に掘り込まれていることから、第74号住居跡より新しく、第76号住居跡より古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、長軸4.60m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-46°W

壁 壁高は8~13cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、北コーナー部の周辺が踏み固められている。

ピット P:は径30cmの円形、深さは44cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

1 枕頭褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量  
2 黒褐色 ローム粒子少量

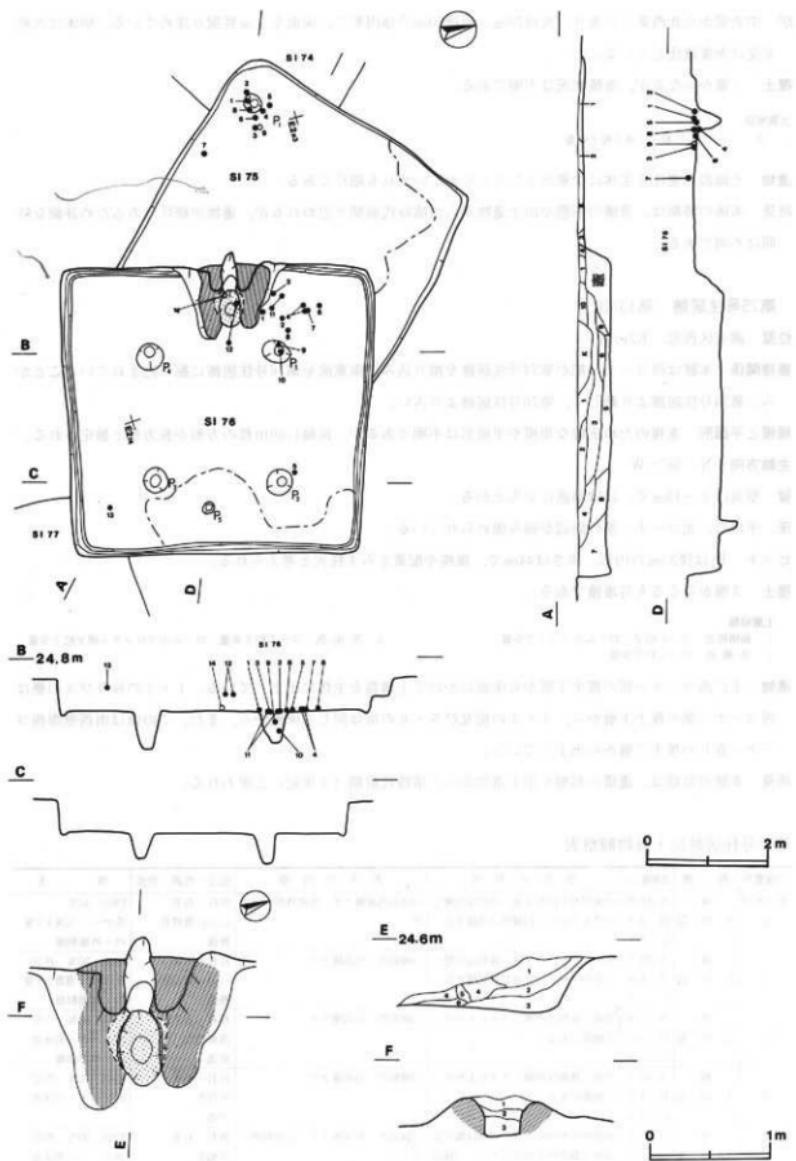
3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物 主に西コーナー部の覆土下層から床面にかけて土器器を主体に出土している。1・2の鉢及び8の壺は西コーナー部の覆土下層から、3・4の碗及び5・6の壺は同じく床面から、また、7の壺は南西壁際西コーナー寄りの覆土下層から出土している。

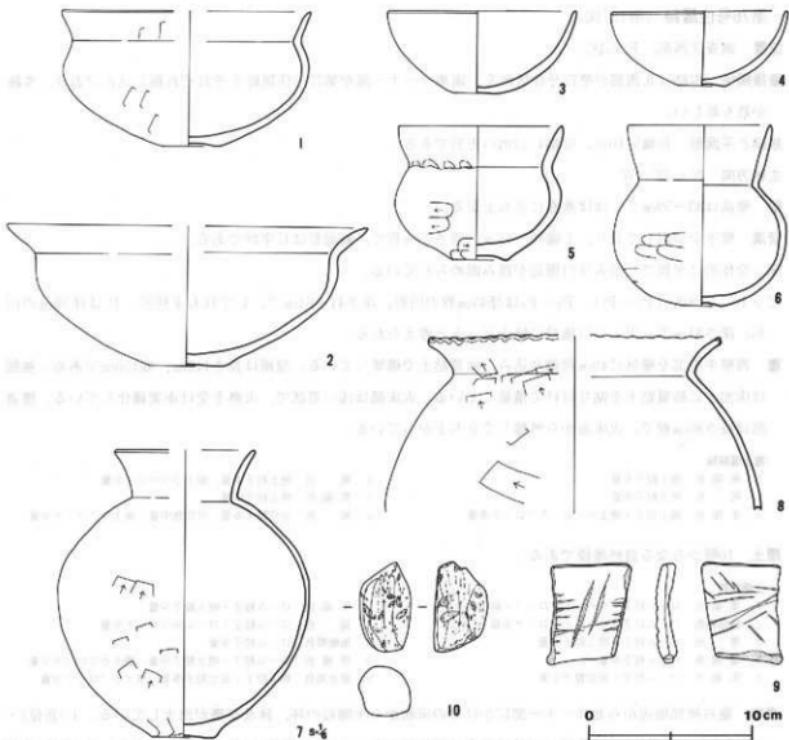
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

第75号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種  | 計測値(cm) | 器形の特徴            | 手法の特徴                | 胎土・色調・焼成              | 備考                                    |
|------|-----|---------|------------------|----------------------|-----------------------|---------------------------------------|
| 1    | 土器器 | A(15.3) | 中央がやや凹む平底。体部は内側し | 口縁部内面横ナギ。体部外側ヘラナ     | 長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P362 40%<br>西コーナー部覆土下層<br>内・外面剥離      |
|      |     | B 8.3   | て立ち上がり。口縁部は外側する。 |                      |                       |                                       |
|      |     | C 3.6   |                  |                      |                       |                                       |
| 2    | 土器器 | A(22.2) | 中央がやや凹む平底。体部は内側し | 口縁部内・外側横ナギ。          | 長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P363 30% PL56<br>西コーナー部覆土下層<br>内・外面剥離 |
|      |     | B 8.6   | て立ち上がり。口縁部は外側する。 |                      |                       |                                       |
|      |     | C 4.7   |                  |                      |                       |                                       |
| 3    | 土器器 | A 11.6  | 平底。体部は内側して立ち上がり。 | 口縁部内・外側横ナギ。          | 長石・石英<br>浅黄橙色<br>普通   | P364 90% PL57<br>西コーナー部床面<br>内・外面剥離   |
|      |     | B 5.0   | 口縁部に歪る。          |                      |                       |                                       |
|      |     | C 2.8   |                  |                      |                       |                                       |
| 4    | 土器器 | A 10.9  | 平底。体部は内側して立ち上がり。 | 口縁部内・外側横ナギ。          | 長石・石英<br>灰白色<br>普通    | P365 70% PL57<br>西コーナー部床面             |
|      |     | B 4.7   | 口縁部に歪る。          |                      |                       |                                       |
|      |     | C 2.8   |                  |                      |                       |                                       |
| 5    | 土器器 | A 10.1  | 中央がやや凹む平底。体部は幅平等 | 口縁部内・外側横ナギ。体部外側ヘラナギ。 | 長石・石英<br>灰褐色<br>普通    | P366 90% PL57<br>西コーナー部床面<br>二次焼成     |
|      |     | B 8.3   | 蝶形で最大径を中位にもつ。口縁部 |                      |                       |                                       |
|      |     | C 3.5   | は外側する。           |                      |                       |                                       |



第137図 第75・76号住居跡実測図



第138図 第75号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号       | 器種   | 計測値(cm)                     | 器形の特徴                                   | 手法の特徴                | 胎土・色調・焼成              | 備考   |
|------------|------|-----------------------------|---|----------------------|-----------------------|--|
| 第138図<br>6 | 岸上部器 | A 8.9<br>B 11.1             | 丸底であるが中央がやや凹む。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。 | 長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P367 100% FL57<br>西コーナー部床面                   |
| 7          | 土器   | A [17.4]<br>B 35.4<br>C 7.6 | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頭部から「く」の字状に外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。 | 長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P368 70% FL57<br>西壁面コーナー部上層<br>二次焼成P368A-B接合 |
| 8          | 土器   | A [18.0]<br>B (10.9)        | 口縁部。口縁部は頭部から「く」の字状に外反する。                | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。 | 長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P369 30%<br>西コーナー部覆土下層<br>二次焼成               |

| 図版番号   | 種別     | 計測値    |       |        |        | 出土地点        | 備考   |
|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------------|------|
|        |        | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |             |      |
| 第138図9 | 土器片 砥石 | 6.2    | 5.2   | 1.3    | —      | 28.1<br>覆土中 | BP86 |

| 図版番号    | 種別 | 計測値    |       |        |       | 石質 | 出土地点 | 備考  |
|---------|----|--------|-------|--------|-------|----|------|-----|
|         |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |    |      |     |
| 第138図10 | 砥石 | 5.5    | 3.2   | 3.3    | 11.5  | 軽石 | 覆土中  | Q30 |

### 第76号住居跡（第137図）

位置 調査区西部、E2e4区。

重複関係 本跡は北西部が第75号住居跡を、南東コーナー部が第77号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸5.10m、短軸4.72mの方形である。

主軸方向 N-73°-W

壁 壁高は33-59cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10-15cm、深さ5cm程度、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、出入り口周辺が踏み固められている。

ピット 5か所（P<sub>1</sub>-P<sub>5</sub>）。P<sub>1</sub>-P<sub>4</sub>は径45cm程度の円形、深さ41-61cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径20cmの円形、深さ31cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

窓 西壁中央部を壁外に40cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ142cm、幅150cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は長さ80cm程度で、火床面から外傾して立ち上がっている。

#### 竪土層解説

|       |                    |       |                        |
|-------|--------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 燒土粒子少量             | 4 梅色  | 燒土粒子中量、燒土小ブロック少量       |
| 2 開褐色 | 燒土粒子中量             | 5 黒褐色 | 燒土粒子中量                 |
| 3 赤褐色 | 燒土粒子・焼土小・中・大ブロック多量 | 6 梅色  | 炭化粒子多量、炭化物中量、燒土中ブロック少量 |

覆土 10層からなる自然堆積である。

#### 土層解説

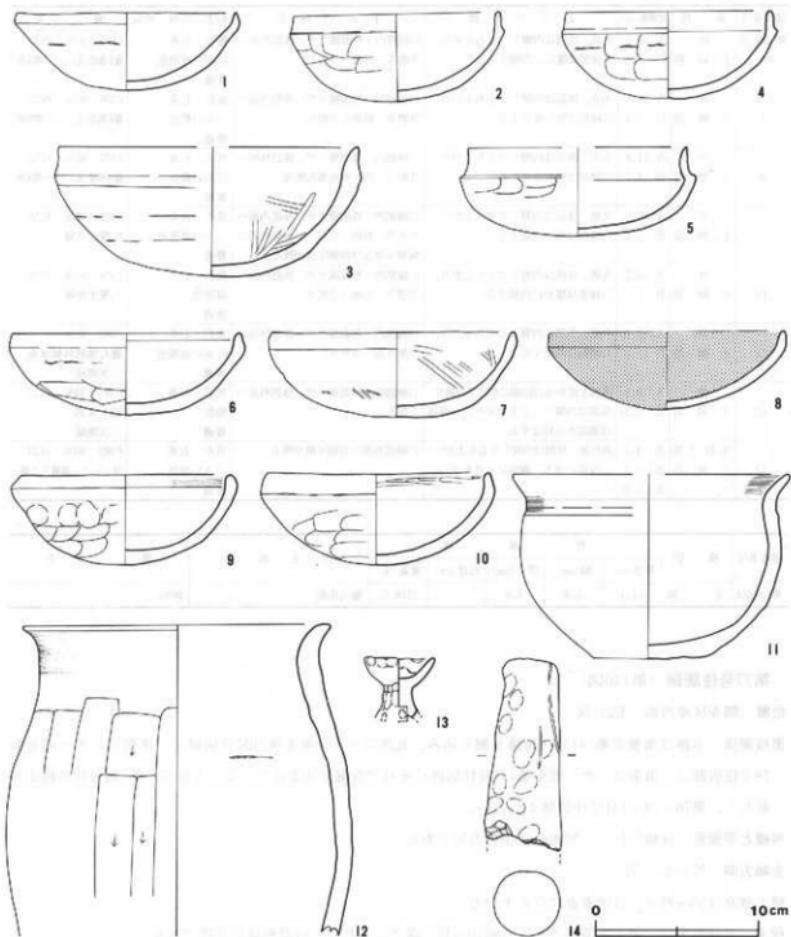
|        |                      |         |                        |
|--------|----------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量 | 6 黒褐色   | ローム粒子・燒土粒子少量           |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量     | 7 梅色    | ローム粒子・ローム小ブロック中量       |
| 3 黒色   | ローム粒子・燒土粒子少量         | 8 極暗褐色  | ローム粒子少量                |
| 4 開褐色  | ローム粒子少量              | 9 黒褐色   | ローム粒子・燒土粒子中量、燒土小ブロック少量 |
| 5 黑褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量         | 10 暗赤褐色 | 燒土粒子・炭化粒子多量、燒土小ブロック少量  |

遺物 竪右袖部周辺から北コーナー部にかけての床面から土師器の壺、鉢及び甕が出土している。1(正位)、2(正位)・3(斜位)の壺及び11の鉢は竪右袖部外側から、4の壺(逆位)は北コーナー部から、5(正位)の壺はP<sub>5</sub>北側から、北コーナー部と竪右袖部付近にかけての床面からは6(横位)、7(逆位)及び8(正位)の壺が北側から順に、9(正位)・10(正位)の壺はP<sub>5</sub>の覆土下層と中層から、12の甕及び14の支脚は竪火床部から、13の手握土器は南コーナー部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期(6世紀後半)と思われる。

### 第76号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種  | 計測値(cm)          | 器形の特徴                                      | 手法の特徴   | 胎土・色調・焼成                   | 備考                         |
|------------|-----|------------------|--|---|----------------------------|----------------------------|
| 第137図<br>1 | 坪土器 | A 14.0<br>B 4.8  | 丸底。体部は内寄して立ち上がり、口縁部は短く直立する。                | 口縁部内・外面削ナダ。体部内面へラナダ、外面ハラ削り。                       | 長石・石英・スコリア<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P370 100% PL57<br>竪右袖部外側床面 |
| 2          | 土器  | A 12.5<br>B 5.3  | 丸底。体部は内寄して立ち上がり、口縁部との境に模様をもつ。口縁部はやや内寄する。   | 口縁部内・外面削ナダ。体部内面へラナダ、外面ハラ削り。                       | 長石・石英<br>橙色<br>普通          | P371 90% PL57<br>竪右袖部外側床面  |
| 3          | 土器  | A(18.4)<br>B 7.9 | 丸底。体部は内寄して立ち上がり、口縁部との境に不明瞭な模様をもつ。口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面削ナダ。体部内面へラナダ、外面ハラ削り後ハラナダ。<br>体部外側に輪積み痕が残る。 | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通       | P379 80% PL57<br>竪右袖部外側床面  |



第139図 第76号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号       | 器種  | 計測値(cm) | 器形の特徴                                   | 手法の特徴                           | 胎土・色調・焼成              | 備考                              |
|------------|-----|---------|---|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 第139図<br>4 | 壺   | A 12.6  | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部との境に棱をもつ。口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外裏横ナデ。体部外面へラ削り。            | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P373 100% PL57<br>北コーナー部床面      |
|            | 土師器 | B 5.5   |   |                                 |                       |                                 |
| 5          | 壺   | A(13.4) | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部との境に棱をもつ。口縁部は直立する。   | 口縁部内・外裏横ナデ。体部内面へナデ。外面ヘラ削り後ヘラナデ。 | 長石・石英<br>暗褐色<br>普通    | P378 40%<br>P <sub>2</sub> 北無床面 |
|            | 土師器 | B 5.4   |   |                                 |                       |                                 |

| 図版番号       | 器種      | 計測値(cm)                     | 器形の特徴  | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成              | 備考                             |
|------------|---------|-----------------------------|--|--|-----------------------|--------------------------------|
| 第139図<br>6 | 坏<br>土器 | A 14.0<br>B 5.0             | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。                   | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面ヘラ削り。                    | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P375 100% PL57<br>竪右袖部北コーナー周辺面 |
| 7          | 坏<br>土器 | A 14.8<br>B 5.4             | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅く直立する。                    | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面ヘラ削り。                    | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P376 90% PL57<br>竪右袖部北コーナー周辺面  |
| 8          | 坏<br>土器 | A 14.4<br>B 4.7             | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅く直立する。                    | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側ヘラ削り。内・外面黒色処理。                  | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P377 90% PL58<br>竪右袖部北コーナー周辺面  |
| 9          | 坏<br>土器 | A 13.0<br>B 5.5             | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。                   | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ、外側ヘラ削り。体部外側に輪模み波及び指捺圧痕が残る。 | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P372 100% PL58<br>P1覆土下層       |
| 10         | 坏<br>土器 | A 13.7<br>B 5.7             | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。                   | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面ヘラ削り。                    | 長石・石英<br>暗褐色<br>普通    | P374 90% PL58<br>P1覆土中層        |
| 11         | 鉢<br>土器 | A (17.0)<br>B 11.2<br>C 6.7 | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外反する。                      | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側ヘラ削り後ヘラナデ。                      | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P380 40%<br>竪右袖部外側床面<br>二次焼成   |
| 12         | 甕<br>土器 | A 18.8<br>B (19.2)          | 体部上から口縁部にかけての破片。<br>体部は内側して立ち上がり、口縁部は張開から外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外側ヘラ削り。                           | 長石・石英<br>褐色<br>普通     | P381 50% PL57<br>竪火穴部<br>二次焼成  |
| 13         | 手握土器    | A 4.3<br>B (3.7)<br>E (1.9) | 高环形。环部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。脚部に6孔を有す。              | 口縁部外側に指捺圧痕が残る。                                 | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P382 80% PL57<br>南コーナー部覆土上層    |

| 図版番号    | 種別 | 計測値    |       |        |        |         | 出土地点 | 備考   |
|---------|----|--------|-------|--------|--------|---------|------|------|
|         |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g)   |      |      |
| 第139図14 | 支脚 | (11.4) | (4.8) | 3.9    | —      | (218.2) | 竪火床部 | DP87 |

## 第77号住居跡（第140図）

位置 調査区南西部、E2f区。

重複関係 本跡は南壁が第144号住居跡を掘り込み、北西コーナー部を第76号住居跡に、南西コーナー部を第78号住居跡に、南東コーナー部を第131号住居跡にそれぞれ掘り込まれていてことから、第144号住居跡より新しく、第76・78・131号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸7.10m、短軸6.50mの方形である。

主軸方向 N - 6° - W

壁 壁高は30cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 重複部を除く壁下に確認され、上幅10cm程、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

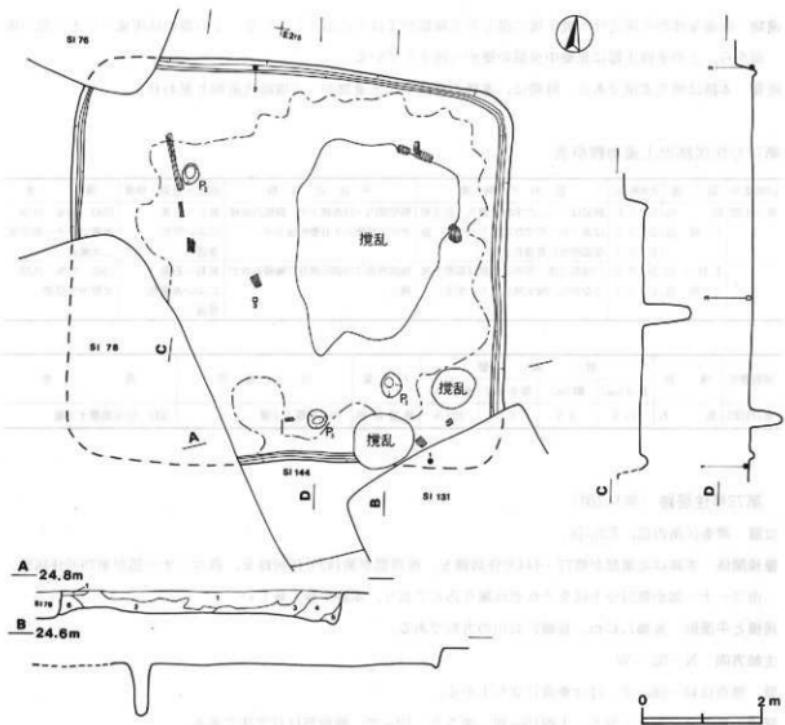
床 全体に平坦で、踏み固められている。

ピット 3か所 (P1-P3)。P1・P2は長径35~40cm、短径25~30cmの楕円形、深さ74~83cmで、規模や配置から主柱穴、P3は径32cmの円形、深さ52cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

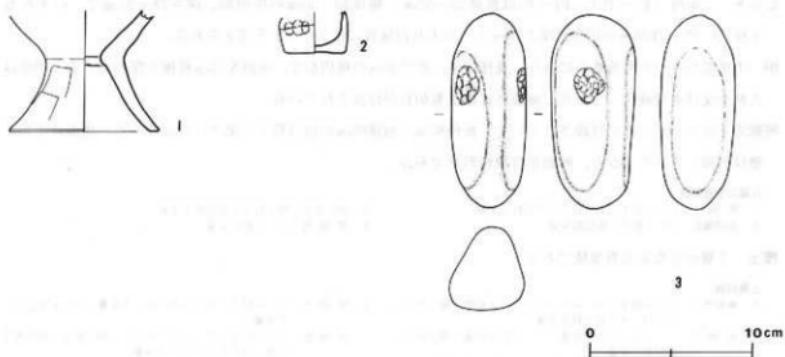
覆土 6層からなる人為堆積である。

### 土層解説

- |       |                                    |       |                         |
|-------|------------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子中量、炭化物少量      | 4 暗褐色 | 炭化粒子多量、ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子多量、ローム中・大ブロック中量 | 5 暗褐色 | ローム中ブロック・炭化粒子中量         |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小・大ブロック・炭化粒子少量          | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量       |



第140図 第77号住居跡実測図



第141図 第77号住居跡出土遺物実測図

**遺物** 床面全体から炭化材と焼土塊に混じり土器がまばらに出土している。1の器台は南東コーナー部の床面から、2の手捏土器は北壁中央部の壁から出土している。

**所見** 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第77号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種   | 計測値(cm)        | 器形の特徴                        | 手法の特徴            | 胎土・色調・焼成        | 備考                         |
|------------|------|----------------|------------------------------|------------------|-----------------|----------------------------|
| 第141図<br>1 | 器台   | B(7.4)         | 脚部は「ハ」の字状に開き、器受部             | 器受部内・外面横ナデ。脚部内面横 | 長石・石英<br>にぶい橙色  | P283 80% PL58<br>南東コーナー部床面 |
|            | 土器   | D 9.2<br>E 4.5 | は逆「L」の字状に立ち上がる。器受部中央に貫通孔を穿つ。 | ナデ。外面ハケ目菱形後ナデ。   | 普通              | 二次焼成                       |
| 2          | 手捏土器 | B(2.5)         | 口縁部欠損。平底。底部は器腹を減             | 体部外面に指彫痕及び輪積み痕が  | 長石・石英<br>にぶい赤褐色 | P385 90% PL58<br>北壁中央部壁    |
|            | 土器   | C 3.6          | じながら内側気泡に立ち上がる。              | 残る。              | 普通              |                            |

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        | 石質    | 出土地点 | 備考      |             |
|--------|----|--------|-------|--------|-------|------|---------|-------------|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) |       |      |         |             |
| 第141図3 | 蔽石 | 11.8   | 4.5   | 5.2    | 423.6 | 硬質砂岩 | 中央部覆土下層 | Q31 中央部覆土下層 |

### 第78号住居跡（第142図）

**位置** 調査区南西部、E2h4区。

**重複関係** 本跡は北東部が第77・144号住居跡を、南西部が第149号住居跡を、西コーナー部が第79号住居跡、南コーナー部が第51号土坑をそれぞれ掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

**規模と平面形** 長軸7.45m、短軸7.32mの方形である。

**主軸方向** N-32°-W

**壁** 壁高は44~58cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

**壁溝** 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

**床** 平坦で、踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ2.00m、上幅10cm、深さ10cmで、断面形はU字状である。

**ピット** 5か所（P1~P5）。P1~P4は長径35~52cm、短径30~50cmの楕円形、深さ78~91cmで、いずれも主柱穴、P5は径26cmの円形、深さ23cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉** 中央部からやや北寄りにあり、長径87cm、短径60cmの楕円形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変化しておらず、南東部には土製炉石が付設されている。

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長径80cm、短径65cmの楕円形で、深さは77cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

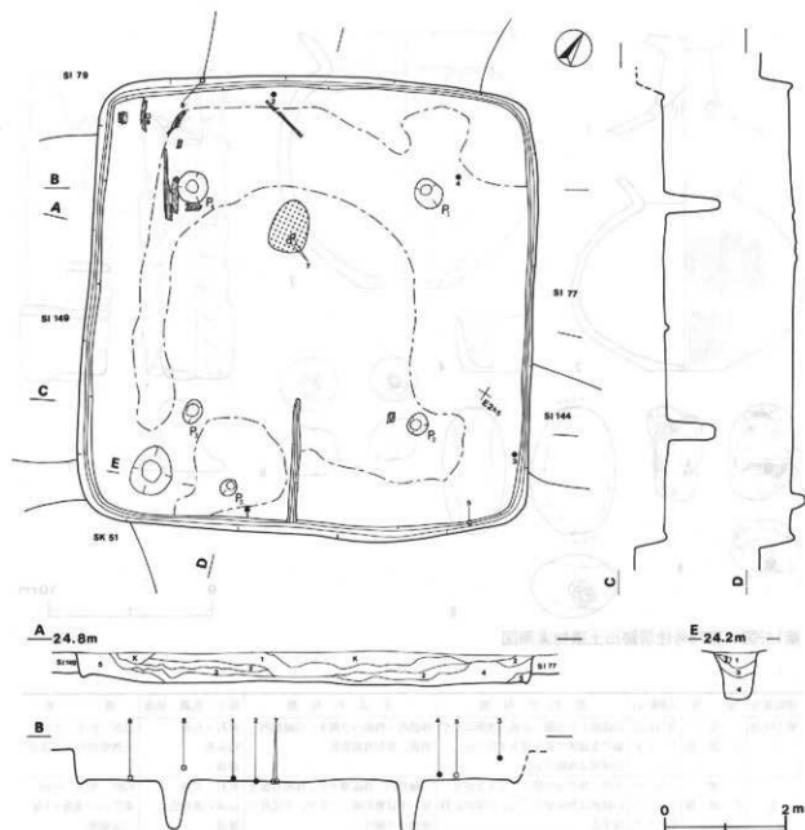
#### 貯蔵穴土層解説

|                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量 |
| 2 桐褐色 ローム粒子・炭化物少量       | 4 黒褐色 ローム粒子少量      |

**覆土** 5層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

|  |   |
|--|---|
| 1 桐褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物中量、ローム<br>中ブロック・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム小ブロック<br>少量           |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子・<br>炭化粒子少量       | 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子<br>中量、ローム小ブロック少量 |
| 3 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・焼土粒子・<br>炭化粒子少量       |   |



第142図 第78号住居跡実測図

遺物 四方の壁下付近から炭化材と焼土塊に混じり少量の土師器片が出土している。1の高坏は出入り口部南東壁際の床面から、2の壺は北西壁際中央部の床面から、3の壺は東コーナー部の覆土上層から、4のミニチュア土器は北コーナー部の覆土下層から出土している。また、炉床の南東部からは7の土製鉗石が炉の長径に対してほぼ直交した状態で出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

#### 第78号住居跡出土遺物観察表

| 団数番号       | 器種          | 計測値(cm)            | 器形の特徴                                       | 手法の特徴               | 胎土・色調・焼成                        | 備考 |
|------------|-------------|--------------------|---|---------------------|---------------------------------|----|
| 第143図<br>1 | 高坏<br>土 师 器 | B( 6.3)<br>E( 5.3) | 脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部内面ハケ目隠形後ナデ、外側ハラ磨き。脚部外表面赤茶。 | 良石・石灰<br>暗赤褐色<br>普通 | P386 20%<br>出入り口部南東壁際床面<br>二次焼成 |    |



第143図 第78号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号       | 器種            | 計測値(cm)                       | 器形の特徴                                     | 手法の特徴                                   | 胎土・色調・焼成              | 備考                                  |
|------------|---------------|-------------------------------|---|---|-----------------------|-------------------------------------|
| 第143図<br>2 | 壺<br>土師器      | B (12.2)<br>C 4.4             | 口縁部上位欠損。平底。体部はやや偏平な球状で最大径を下位にもつ。口縁部は外側する。 | 体内部・外面ヘラ磨き。口縁部内・外側、体外部赤彩。               | 長石・石英<br>暗赤色<br>普通    | F526 80% PL58<br>北西壁際中央部床面          |
| 3          | 壺<br>土師器      | A (13.4)<br>B 15.7<br>C (5.4) | 平底。体部は内輪して立ち上がり。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。      | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ハケ目壺形後ヘラナデ、下位及び底部ヘラ削り。 | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | F387 50% PL58<br>東コーナー部覆土上層<br>二次焼成 |
| 4          | ミニチュア壺<br>土師器 | A (4.8)<br>B 3.4<br>C 3.2     | 平底。体部は器厚を減じながらやや外傾して立ち上がり。口縁部に玉る。         | 体内部・外面ナデ。                               | 長石・石英<br>浅黄褐色<br>普通   | F388 40%<br>北コーナー部覆土下層              |

| 図版番号   | 種別   | 計測値    |       |        |        |         | 出土地點       | 備考         |
|--------|------|--------|-------|--------|--------|---------|------------|------------|
|        |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g)   |            |            |
| 第143図5 | 土玉   | 2.8    | 2.9   | —      | 0.6    | 20.4    | 東コーナー部覆土下層 | DP88       |
| 6      | 土玉   | 3.2    | 3.5   | —      | 0.6    | 34.6    | 覆土中        | DP89       |
| 7      | 土製炉石 | (19.3) | 5.9   | 4.5    | —      | (343.7) | 炉床南東部      | DP90 PL102 |

| 図版番号   | 種別 | 計測値    |       |        |       | 石質   | 出土地點        | 備考  |
|--------|----|--------|-------|--------|-------|------|-------------|-----|
|        |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |      |             |     |
| 第143図8 | 砥石 | 6.0    | 4.3   | 3.5    | 14.8  | 軽石   | 西コーナー寄り覆土下層 | Q32 |
| 9      | 敲石 | 8.0    | 5.2   | 3.8    | 243.3 | 硬質莎岩 | 西コーナー部床面    | Q33 |

第79号住居跡（第144図）

位置 調査区南西部、E2g<sub>2</sub>区。

重複関係 本跡は南東部を第78・145及び第149号住居跡に掘り込まれており、本跡が最も古い。また、本跡内にはほぼ同時期に形成されたものと思われる第3号地点貝塚がある。

規模と平面形 長軸5.60m、短軸3.74mの隅丸長方形である。

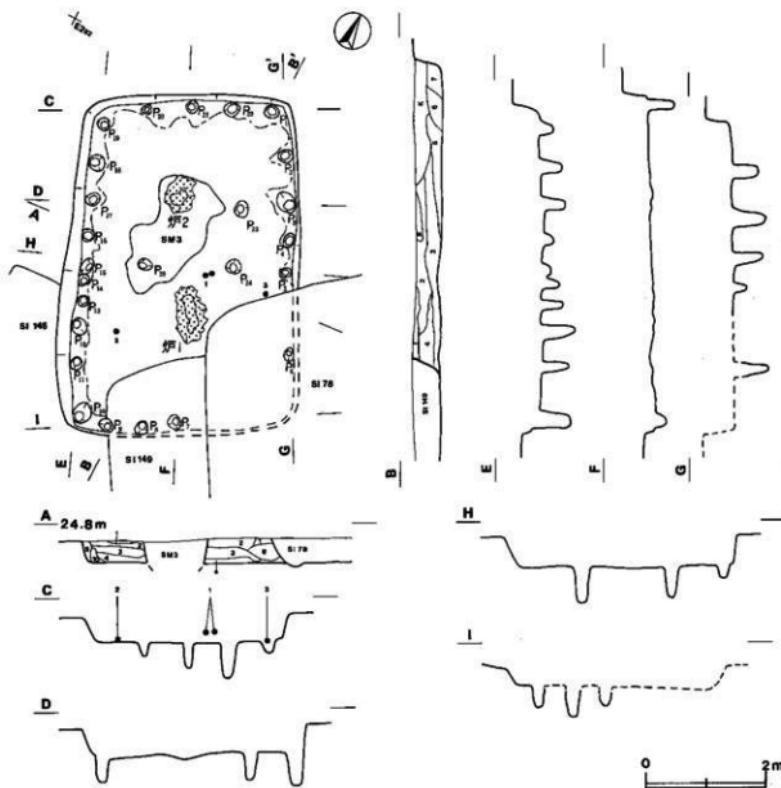
主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は44cm程度で、ほぼ垂直に立ち上がる。

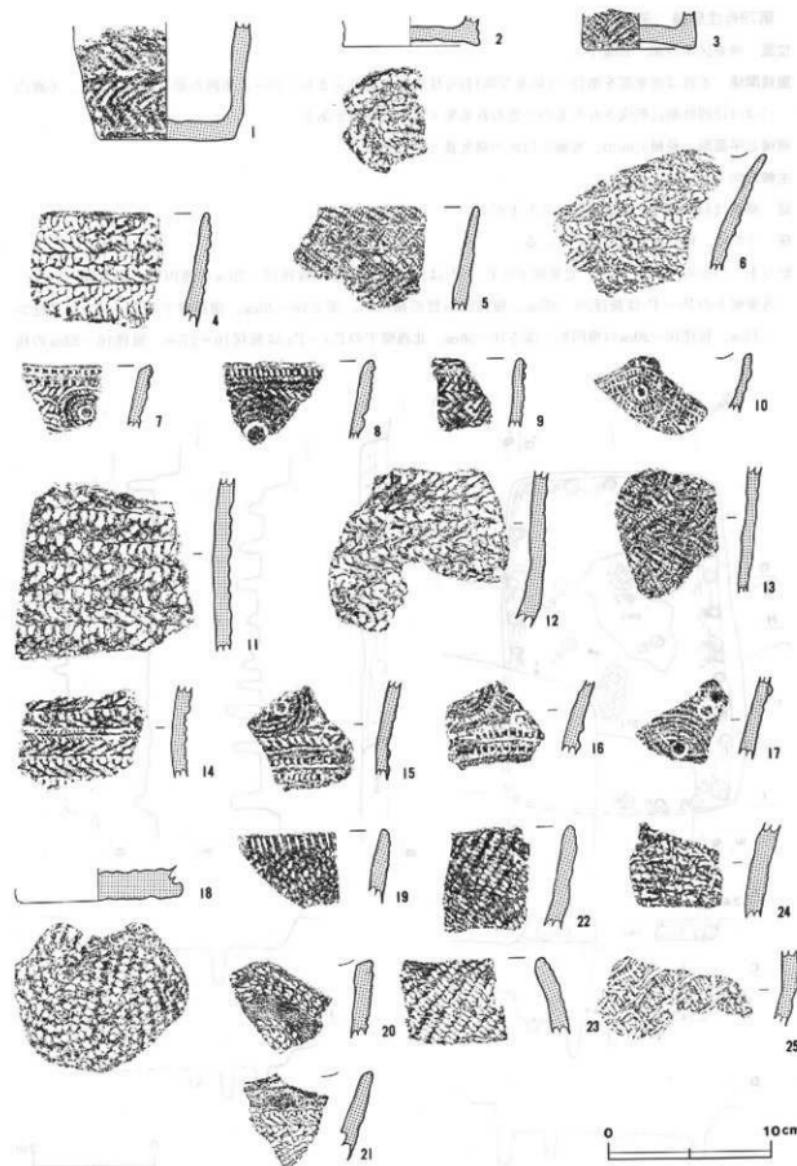
床 平坦で、硬く踏み固められている。

ピット 25か所（P<sub>1</sub>～P<sub>25</sub>）。北東壁下のP<sub>1</sub>～P<sub>5</sub>は長径15～40cm、短径15～25cmの楕円形、深さ20～56cm、

南東壁下のP<sub>6</sub>～P<sub>8</sub>は長径20～25cm、短径22cm程度の楕円形、深さ18～36cm、南西壁下のP<sub>9</sub>～P<sub>14</sub>は長径20～33cm、短径16～30cmの楕円形、深さ16～56cm、北西壁下のP<sub>15</sub>～P<sub>22</sub>は長径16～27cm、短径16～22cmの楕



第144図 第79号住居跡実測図



第145図 第79号住居跡出土遺物実測・拓影図

円形、深さ24~58cmで、いずれも壁柱穴、住居跡中央部にあるP<sub>2a</sub>~P<sub>2d</sub>は長径25cm、短径20~25cmの梢円形あるいは円形、深さ46~58cmで、主柱穴と考えられる。

**炉** 2か所。炉1は中央部からやや南東寄りにあり、長径85cm、短径50cmの不整梢円形で、床面を8cm程掘り窪めている。炉2は中央部からやや北西寄りにあり、長径60cm、短径50cmの不整梢円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉1・2は長軸線上に並び、いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化している。

**覆土** 10層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

|   |     |                    |    |    |                    |
|---|-----|--------------------|----|----|--------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量    | 6  | 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量   |
| 2 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量         | 7  | 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量   |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量     | 8  | 褐色 | ローム粒子多量            |
| 4 | 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  | 9  | 褐色 | ローム中ブロック中量         |
| 5 | 褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 | 10 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |

**遺物** 主に炉1周辺から縄文土器の深鉢片を主体に少量出土している。1の深鉢は炉1北東側の覆土下層から、2の深鉢は炉1南西側の床面から、3の深鉢は北東壁際中央部付近の床面から出土している。また、第3号地点貝塚からは、ヤマトシジミ、マガキを主体とする貝に混じり縄文土器の深鉢片(二ツ木式期)が出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前業(二ツ木式期)と思われる。また、出土遺物から第3号地点貝塚は、住居廃絶とほぼ同時期に形成されたものと考えられる。

第79号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種   | 目測値(cm) | 器形の特徴及び文様   | 胎土・色調・焼成             | 備考                                 |
|------------|------|---------|---|----------------------|------------------------------------|
| 第145図<br>1 | 深鉢   | B(7.2)  | 底部から胴部下位にかけての破片。底部は無文で平底。胴部下位に単節LRで羽状構文が施されている。                     | 長石・スコリア<br>黄褐色<br>普通 | F389 10% PL58<br>炉1北東側覆土下層<br>縄文土器 |
|            | 縄文土器 | C 8.2   |   |                      |                                    |
| 2          | 深鉢   | B(1.8)  | 底部片。底は上げ底で平底。単節LRとRLの末端をループさせた部分で羽状縄文が施され、底部端部には単節RLで一周した縄文が施されている。 | 長石<br>にぶい黄褐色<br>普通   | F391 5%<br>炉1南西側床面<br>縄文土器         |
|            | 縄文土器 | C 8.4   |   |                      |                                    |
| 3          | 深鉢   | B(2.2)  | 底部から胴部下端にかけての破片。底部は無文で中央が凹む平底。                                      | 長石                   | F390 5%                            |
|            | 縄文土器 | C 6.8   | 胴部下端は単節LRで端部の羽状縄文が施されている。   | 褐色<br>普通             | 北東壁際中央部床面<br>縄文土器                  |

第145図4~25は、第79号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。4~10は口縁部片である。4~6はループ文が、7~10は隆帯上あるいは口縁部に刺突が施され、7~8・10は円形竹管文が施されている。11~17は胴部片である。11~12はループ文が、13は単節RLの羽状縄文が、14~17は原体による押圧が施されている。18は底部片であり、単節LRの縄文が施されている。19~23は口縁部片である。19は口縁部に継の沈線が施され、20~21は原体による押圧及びループ文による羽状縄文が施された波状口縁で、22~23は単節LRの縄文が施されている。24~25は胴部片である。25は異条縄文が施されている。

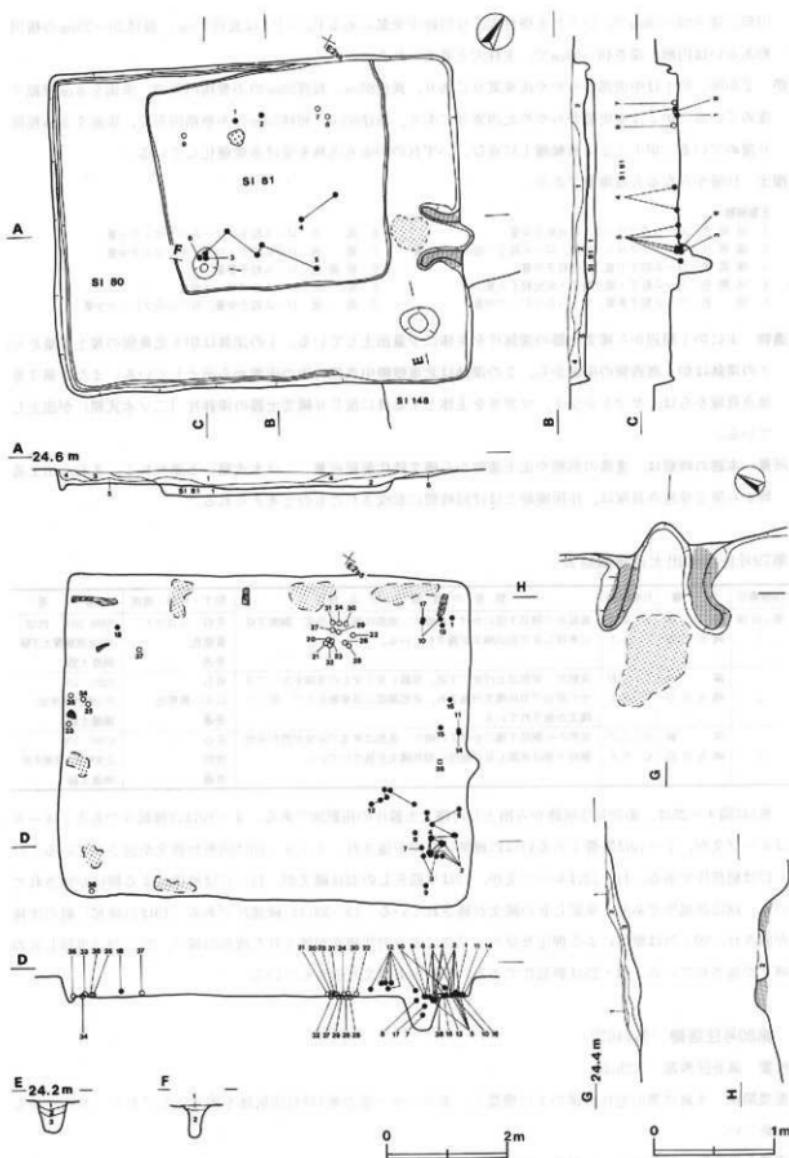
第80号住居跡(第146図)

位置 調査区西部、E2b区。

**重複関係** 本跡は第81号住居跡の上に構築し、東コーナー部が第148号住居跡を掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

**規模と平面形** 長軸6.71m、短軸5.29mの長方形である。

**主軸方向** N-59°-E



第146図 第80・81号住居跡実測図

壁 壁高は26~31cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北・東コーナー部と北東壁を除いた三方の壁下に確認され、上幅5~10cm、深さ7cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固められている。

竈 北東壁中央部に、砂質粘土で構築している。規模は長さ100cm、幅120cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は長さ75cm程で、火床部から緩やかに立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- 1 黒褐色 烟土粒子少量  
2 赤褐色 烟土粒子多量、焼土小ブロック中量

- 3 赤褐色 烟土粒子・焼土小ブロック中量、焼土中・大ブロック・炭化粒子少量

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径64cm、短径50cmの楕円形で、深さは52cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量  
2 暗褐色 炭化物多量、ローム中ブロック少量

- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量

覆土 6層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量  
2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量  
3 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量

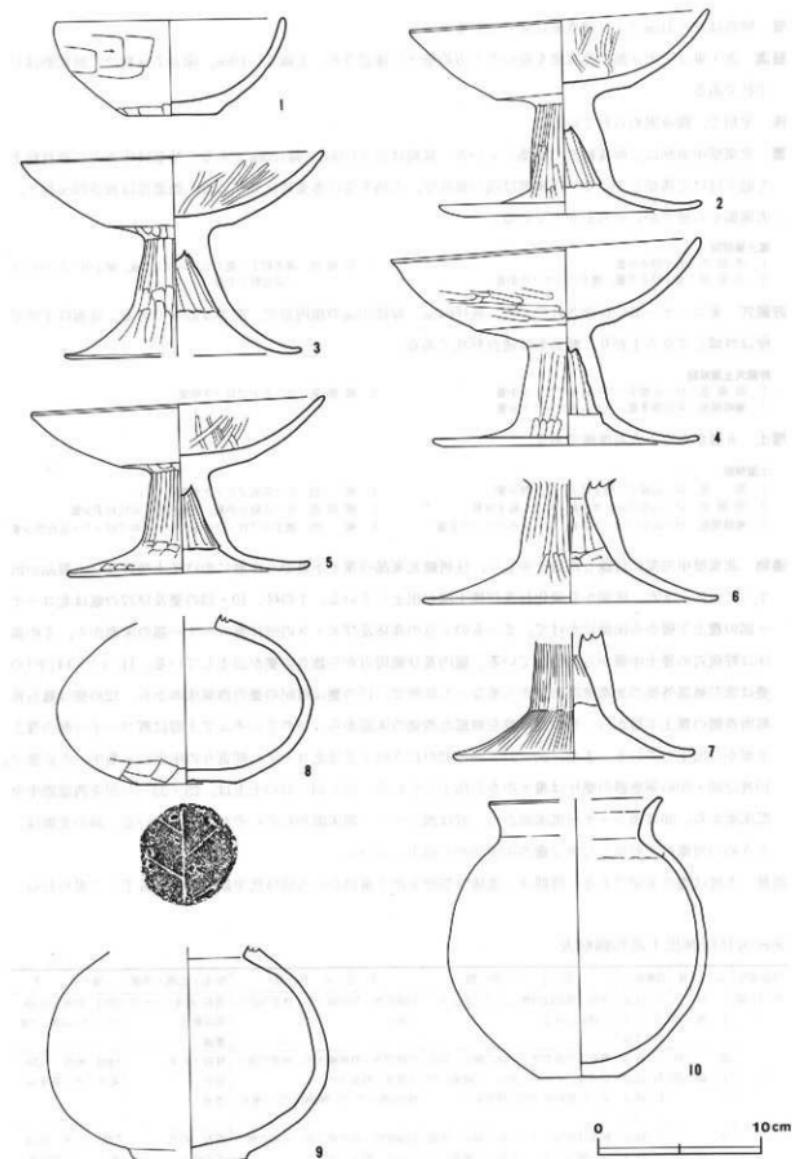
- 4 黄色 ローム大ブロック多量  
5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
6 黄色 烧土小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化物少量

遺物 北東壁中央部に付設した竈を中心に、住居跡北東部の覆土下層から床面にかけて土器及び土製品が出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の壺、10・13の壺及び17の甌は北コーナー部の覆土下層から床面にかけて、2~6の5点の高壺及び8・9の甌は東コーナー部の床面から、7の高壺は貯蔵穴の覆土中層から出土している。甌内及び甌周辺から数点の甌が出土している。11(上)・14(下)の甌は竈左袖部外側の北東壁床面から重なった状態で、15の甌は前記の甌の西側床面から、12の甌は竈右袖部南西側の覆土下層から、16の甌は竈左袖部北西側の床面から、18のミニチュア土器は西コーナー部の覆土下層から出土している。また、20~24・26~32の12点の土玉は北コーナー部寄りの床面から集中した状態で、19及び39・40の須恵器の甌片は覆土中から出土している。25・33~37の土玉は、25・33~35が南西壁際中央部床面から、36は南コーナー部床面から、37は西コーナー部床面からそれぞれ出土している。38の支脚は、大きめの川原石を利用した物で竈の火床部から出土している。

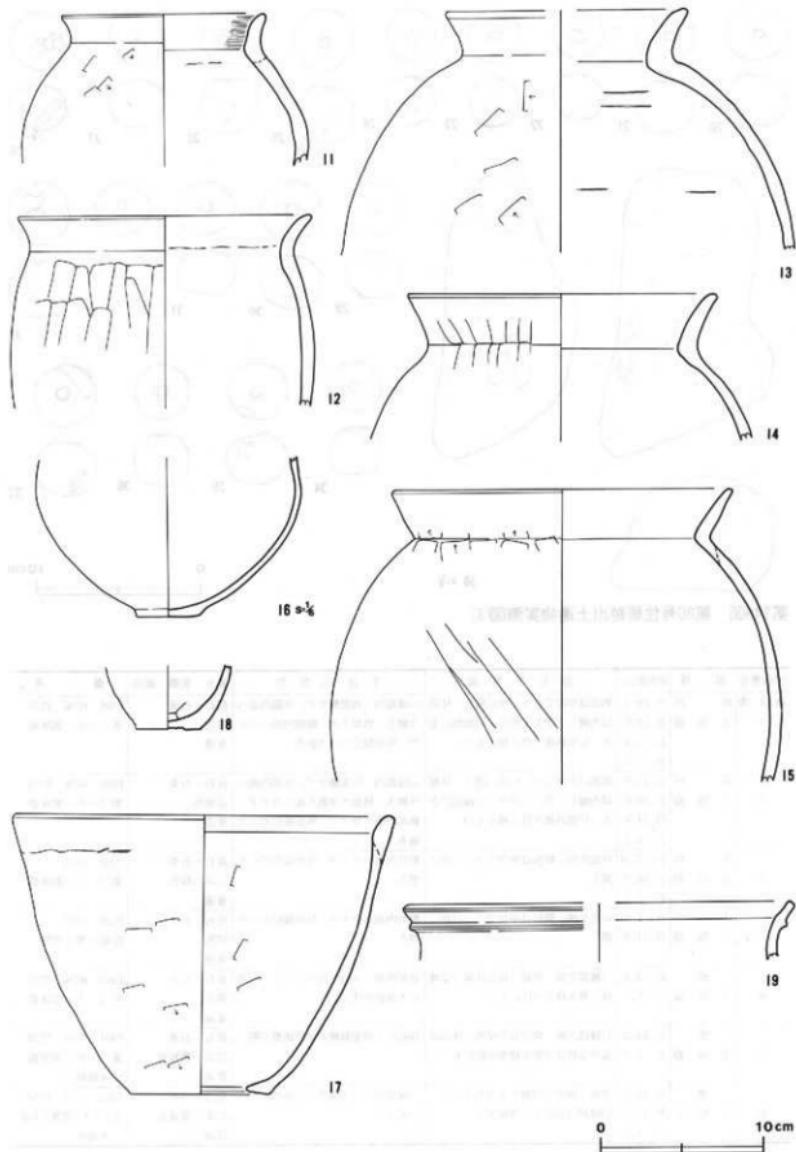
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、造構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第80号住居跡出土遺物観察表

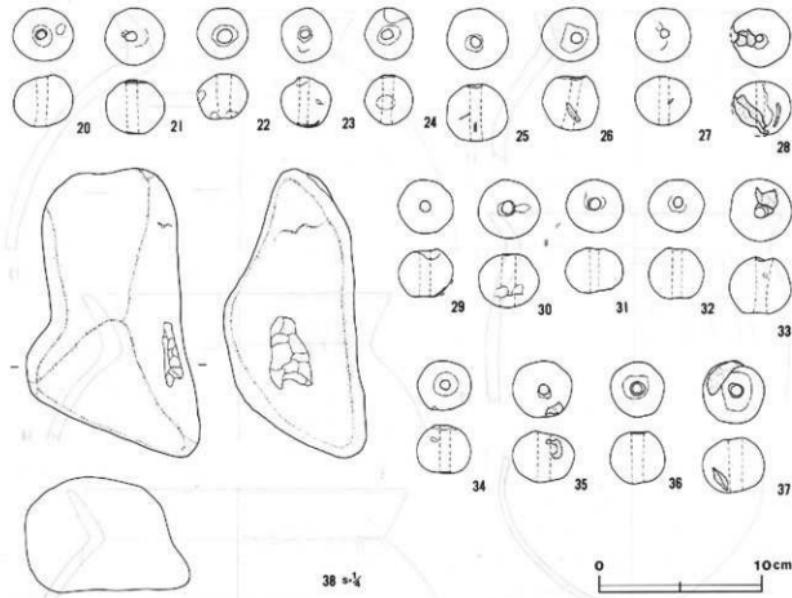
| 図版番号 | 器種  | 計測値(cm) | 器形の特徴   | 手法の特徴                     | 胎土・色調・焼成                | 備考                          |
|------|-----|---------|---|---------------------------|-------------------------|-----------------------------|
| 1    | 壺   | A 14.2  | 平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。                         | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。      | 灰石・石英・パミス<br>明赤褐色<br>普通 | P393 90% FL58<br>北コーナー部覆土下層 |
|      |     | B 5.8   |   |                           |                         |                             |
|      |     | C 5.6   |   |                           |                         |                             |
| 2    | 土師器 | A 18.3  | 脚部は中空でラッパ状に開く。壺部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。壺部が底面下位に接をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。壺部内面ヘラ削き、外面ナデ。 | 長石・石英<br>褐色<br>普通       | P394 80% FL58<br>東コーナー部床面   |
|      |     | B 12.2  |   |                           |                         |                             |
|      |     | D 16.1  |   |                           |                         |                             |
| 3    | 高脚壺 | E 6.9   |   |                           |                         |                             |
|      |     | A 18.6  | 脚部は中空でラッパ状に開く。壺部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。壺部が底面下位に接をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。壺部内面ヘラ削き、外面ナデ。 | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通     | P395 70% FL58<br>東コーナー部床面   |
|      |     | B 12.4  |   |                           |                         |                             |
|      |     | D(14.5) |   |                           |                         |                             |
|      |     | E 7.2   |   |                           |                         |                             |



第147図 第80号住居跡出土遺物実測図(1)



第148図 第80号住居跡出土遺物実測図(2)



第149図 第80号住居跡出土遺物実測図(3)

| 図版番号        | 器種    | 計測値(cm)  | 器形の特徴            | 手法の特徴             | 胎土・色調・焼成 | 備考            |
|-------------|-------|----------|------------------|-------------------|----------|---------------|
| 第147 図<br>4 | 高 壺   | A 19.1   | 脚部は中空でラッパ状に開く。环部 | 口縁部内・外面横ナデ。环部内面へ  | 長石・石英    | F396 80% PL59 |
|             | 土 簡 器 | B 12.6   | は内側して立ち上がり、口縁部に至 | ラ磨き、外面ナデ。脚部内面ヘラナ  | 橙色       | 東コーナー部床面      |
|             |       | D 16.4   | る。环部外面下位に棱をもつ。   | デ、外面継縫のヘラ磨き。      | 普通       |               |
|             |       | E 6.7    |                  |                   |          |               |
| 5           | 高 壺   | A 17.9   | 脚部は中空でラッパ状に開く。环部 | 口縁部内・外面横ナデ。环部内面へ  | 長石・石英    | F397 80% PL59 |
|             | 土 簇 器 | B 10.6   | は内側して立ち上がり、口縁部に至 | ラ磨き、外面ヘラ削り後ヘラナデ。  | 赤褐色      | 東コーナー部床面      |
|             |       | D 14.8   | る。环部外面下位に棱をもつ。   | 脚部内面ヘラナデ、外面継縫のヘラ  | 普通       |               |
|             |       | E 6.1    | 磨き。              | 磨き。               |          |               |
| 6           | 高 壺   | B (7.5)  | 环部欠損。脚部は中空でラッパ状に | 脚部内面ヘラナデ、外面継縫のヘラ  | 長石・石英    | F398 90%      |
|             | 土 簇 器 | D 18.2   | 開く。              | 磨き。               | にぶい橙色    | 東コーナー部床面      |
|             |       | E 7.1    |                  |                   | 普通       |               |
| 7           | 高 壺   | B (7.8)  | 环部欠損。脚部は中空でラッパ状に | 脚部内面ヘラナデ、外面継縫のヘラ  | 長石・石英    | F399 40%      |
|             | 土 簇 器 | D 14.9   | 開く。              | 磨き。               | 橙色       | 貯蔵穴裏土層        |
|             |       |          |                  |                   | 普通       |               |
| 8           | 壺     | B (10.3) | 口縁部欠損。平底。体部は偏平な球 | 体部外表面ヘラ削り後ヘラナデ。底部 | 長石・石英    | F400 80% PL59 |
|             | 土 簇 器 | C 6.0    | 状で最大径を中位にもつ。     | に木葉痕が残る。          | 橙色       | 東コーナー部床面      |
|             |       |          |                  |                   | 普通       |               |
| 9           | 壺     | B (13.2) | 口縁部欠損。突出した平底。体部は | 体部内・外面剥離のため調整不明。  | 長石・石英    | F401 50% PL59 |
|             | 土 簇 器 | C 6.4    | 偏平な球状で最大径を中位にもつ。 |                   | にぶい黄褐色   | 東コーナー部床面      |
|             |       |          |                  |                   | 普通       |               |
| 10          | 壺     | A (10.8) | 半底。体部は内側して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外表面へ | 長石・石英    | F402 50% PL60 |
|             | 土 簇 器 | B 17.0   | 口縁部は隔壁から外反する。    | ラ削り。              | にぶい黄褐色   | 北コーナー部屋土層     |
|             |       | C (4.8)  |                  |                   | 普通       |               |

| 図版番号        | 器種             | 計測値(cm)                   | 器形の特徴   | 手法の特徴                                 | 胎土・色調・焼成              | 備考                                  |
|-------------|----------------|---------------------------|---|---------------------------------------|-----------------------|-------------------------------------|
| 第148図<br>11 | 甕<br>土師器       | A 12.5<br>B ( 9.3 )       | 体部上位から口縁部にかけての被片。<br>口縁部は頸部から僅かに外反する。             | 口縁部内・外面横ナギ。体部外面へラ削り後ヘラナギ。             | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P403 40%<br>竈左袖外側北東側底面<br>P406の上    |
| 12          | 甕<br>土師器       | A 18.0<br>B ( 11.8 )      |   | 口縁部内・外面横ナギ。体部外面脇位のヘラ削り。               | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通   | P404 30%<br>竈右袖南西側底土層<br>二次焼成       |
| 13          | 甕<br>土師器       | A ( 14.9 )<br>B ( 14.8 )  | 体部上位から口縁部にかけての被片。<br>体部は内彎して立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。   | 口縁部内・外面横ナギ。体部外面へラ削り後ヘラナギ。             | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P405 40% PL80<br>北コーナー部底面<br>二次焼成   |
| 14          | 甕<br>土師器       | A 19.0<br>B ( 9.0 )       | 体部上位から口縁部にかけての被片。<br>体部は内彎して立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。   | 口縁部内・外面横ナギ。頸部外面脇位のヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ヘラナギ。 | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P406 20%<br>竈左袖外側北東側底面<br>P403の下    |
| 15          | 甕<br>土師器       | A 21.0<br>B ( 18.0 )      | 体部上位から口縁部にかけての被片。<br>体部は内彎して立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。   | 口縁部内・外面横ナギ。体部外面脇位のヘラ削り。               | 長石・石英<br>明黄褐色<br>普通   | P407 20%<br>竈左袖外側底面                 |
| 16          | 甕<br>土師器       | B ( 19.5 )<br>C 7.4       | 底部から体部中位にかけての被片。<br>突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。          | 体部外面ヘラ削り後ヘラナギ。                        | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P408 40% PL59<br>竈左袖北西側底面<br>内・外面削離 |
| 17          | 瓶<br>土師器       | A 23.5<br>B 17.1<br>C 8.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がる。<br>口縁部は内側に肥厚し、内面に棱をもつ。底部には穿孔を穿つ。 | 口縁部内面横ナギ。口縁部外側、体部外面へラ削り後ヘラナギ。         | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通    | P409 40% PL59<br>北コーナー部底面<br>二次焼成   |
| 18          | ミニチュア土器<br>土師器 | B ( 3.9 )<br>C 4.0        | 口縁部欠損。中央がやや凹む平底。<br>体部は内彎して立ち上がる。                 | 体部外面へラ削り後ヘラナギ。                        | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P410 40%<br>百コーナー部底土層<br>内・外面削離     |
| 19          | 甕<br>須恵器       | A ( 24.0 )<br>B ( 3.6 )   | 口縁部。口縁部は外反する。口縁部外面中位に棱をもつ。                        | 口クロ形。                                 | 長石<br>灰色<br>普通        | P411 5%<br>底土中                      |

| 図版番号    | 種別 | 計測値    |       |        |        | 出土地点 | 備考              |
|---------|----|--------|-------|--------|--------|------|-----------------|
|         |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |      |                 |
| 第149図20 | 土玉 | 3.2    | 3.7   | —      | 0.7    | 38.0 | 北コーナー寄り床面 DP93  |
| 21      | 土玉 | 3.3    | 3.6   | —      | 0.7    | 38.9 | 北コーナー寄り床面 DP95  |
| 22      | 土玉 | 2.7    | 3.1   | —      | 0.9    | 25.9 | 北コーナー寄り床面 DP96  |
| 23      | 土玉 | 3.1    | 3.1   | —      | 0.5    | 30.1 | 北コーナー寄り床面 DP97  |
| 24      | 土玉 | 3.1    | 2.9   | —      | 0.7    | 28.9 | 北コーナー寄り床面 DP98  |
| 25      | 土玉 | 3.4    | 3.7   | —      | 0.6    | 46.8 | 南西壁側中央部床面 DP99  |
| 26      | 土玉 | 3.2    | 3.5   | —      | 0.7    | 40.5 | 北コーナー寄り床面 DP100 |
| 27      | 土玉 | 2.9    | 3.5   | —      | 0.6    | 32.0 | 北コーナー寄り床面 DP102 |
| 28      | 土玉 | 3.1    | 3.4   | —      | 0.5    | 33.0 | 北コーナー寄り床面 DP104 |
| 29      | 土玉 | 3.0    | 3.4   | —      | 0.7    | 30.2 | 北コーナー寄り床面 DP105 |
| 30      | 土玉 | 3.3    | 3.8   | —      | 0.8    | 36.8 | 北コーナー寄り床面 DP106 |
| 31      | 土玉 | 2.8    | 3.5   | —      | 0.6    | 29.9 | 北コーナー寄り床面 DP107 |
| 32      | 土玉 | 3.2    | 3.5   | —      | 0.6    | 33.5 | 北コーナー寄り床面 DP108 |
| 33      | 土玉 | 3.4    | 3.7   | —      | 0.7    | 42.6 | 南西壁側中央部床面 DP94  |
| 34      | 土玉 | 3.0    | 3.3   | —      | 0.7    | 28.8 | 南西壁側中央部床面 DP101 |
| 35      | 土玉 | 3.2    | 3.7   | —      | 0.8    | 36.6 | 南西壁側中央部床面 DP103 |
| 36      | 土玉 | 3.2    | 3.4   | —      | 0.8    | 33.0 | 南コーナー部床面 DP91   |
| 37      | 土玉 | 3.8    | 3.8   | —      | 0.9    | 44.9 | 西コーナー部床面 DP92   |

| 図版番号    | 種別 | 計測値    |       |        |        | 石質  | 出土地点 | 備考  |
|---------|----|--------|-------|--------|--------|-----|------|-----|
|         |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g)  |     |      |     |
| 第149図38 | 支脚 | 23.6   | 14.3  | 11.9   | 3708.3 | 安山岩 | 竈火床部 | Q39 |

第81号住居跡（第146図）

位置 調査区西部、E2bs区。

重複関係 本跡は第80号住居跡の下に構築しており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.80m、短軸3.54mの方形である。

主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は9~14cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

炉 中央部から北西寄りにあり、径25cm程のほぼ円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は弱く赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さは51cmである。底面は皿状で壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

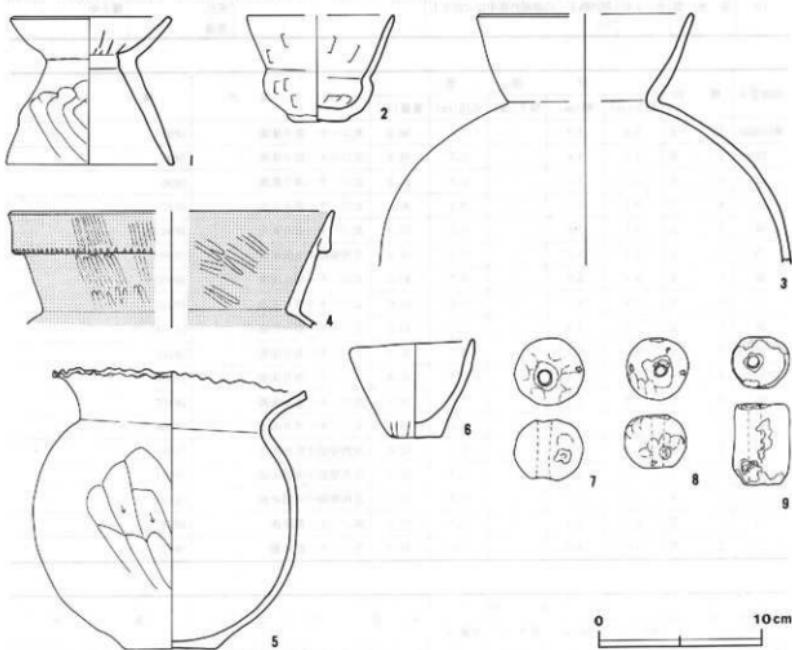
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック少量

覆土 1層を確認したが、重複のため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量

遺物 土器部が床面からまばらに出土している。1の器台及び2の壺は北西壁中央部寄りの床面から、3の壺



第150図 第81号住居跡出土遺物実測図

は貯蔵穴の覆土上層から、4の壺は中央部東寄りの床面から、5の壺及び6のミニチュア土器は南コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

### 第81号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種      | 計測値(cm)                           | 器形の特徴   | 手法の特徴                      | 胎土・色調・焼成              | 備考                                  |
|------------|---------|-----------------------------------|---|----------------------------|-----------------------|-------------------------------------|
| 第150回<br>1 | 器台      | A 9.9<br>B 9.1<br>D 10.2<br>E 6.7 | 脚部は「ハ」の字状に開き、器受部には内骨気孔に立ち上がる。口縁部外削ぎ、器受部中央に貫通孔を穿つ。 | 器受部内・外面、脚部内・外面へラナダ。        | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P412 100% PL60<br>北西壁中央部寄り床面        |
|            | 埴輪器     | A(9.1)<br>B 6.5<br>C 3.4          | A突出した平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は大きく開く。                   | 口縁部内・外面へラナダ。体部内・外面へラナダ。    | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P413 60% PL59<br>北西壁中央部寄り床面<br>二次焼成 |
|            | 壺       | A(13.4)<br>B(15.4)                | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は腹部から外傾する。                    | 口縁部内・外面横ナダ。体部外側へラナダ。       | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P414 20% PL60<br>貯蔵穴覆土上層            |
|            | 壺       | A(20.0)<br>B(7.2)                 | 口縁部。口縁部は腹部から外傾する。口縁部下端に削みを施す。折り返し口縁。              | 口縁部内・外面、腹部内・外面へラナダ。内・外面赤茶。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通     | P415 5%<br>中央部東寄り床面                 |
| 5          | 土師器     | A 15.5<br>B 17.1<br>C 5.7         | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。          | 口縁部内・外面横ナダ。体部外側へラナダ。       | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P416 50% PL60<br>南コーナー部床面           |
|            | ミニチュア土器 | A 7.5<br>B 6.0<br>C 3.0           | 平底。体部は器厚を減じながら内側気味に立ち上がり、口縁部に至る。                  | 体部内面ナダ、外側へラナダ。             | 長石<br>にぶい褐色<br>普通     | P417 80% PL59<br>南コーナー部床面           |

| 図版番号       | 種別   | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点       | 備考         |
|------------|------|--------|-------|--------|--------|-------|------------|------------|
|            |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |            |            |
| 第150回<br>7 | 土玉   | 3.7    | 4.2   | —      | 0.9    | 59.6  | 北コーナー部床面   | DP111      |
| 8          | 土玉   | 3.4    | 3.8   | —      | 0.9    | 46.7  | 北コーナー部床面   | DP112      |
| 9          | 管状土錐 | 5.1    | 3.5   | —      | 0.9    | 60.4  | 西コーナー部覆土上層 | DP113 PL99 |

### 第82号住居跡（第151図）

位置 調査区南部、E3e4区。

重複関係 本跡は南壁が第83号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸6.37m、短軸6.25mの方形である。

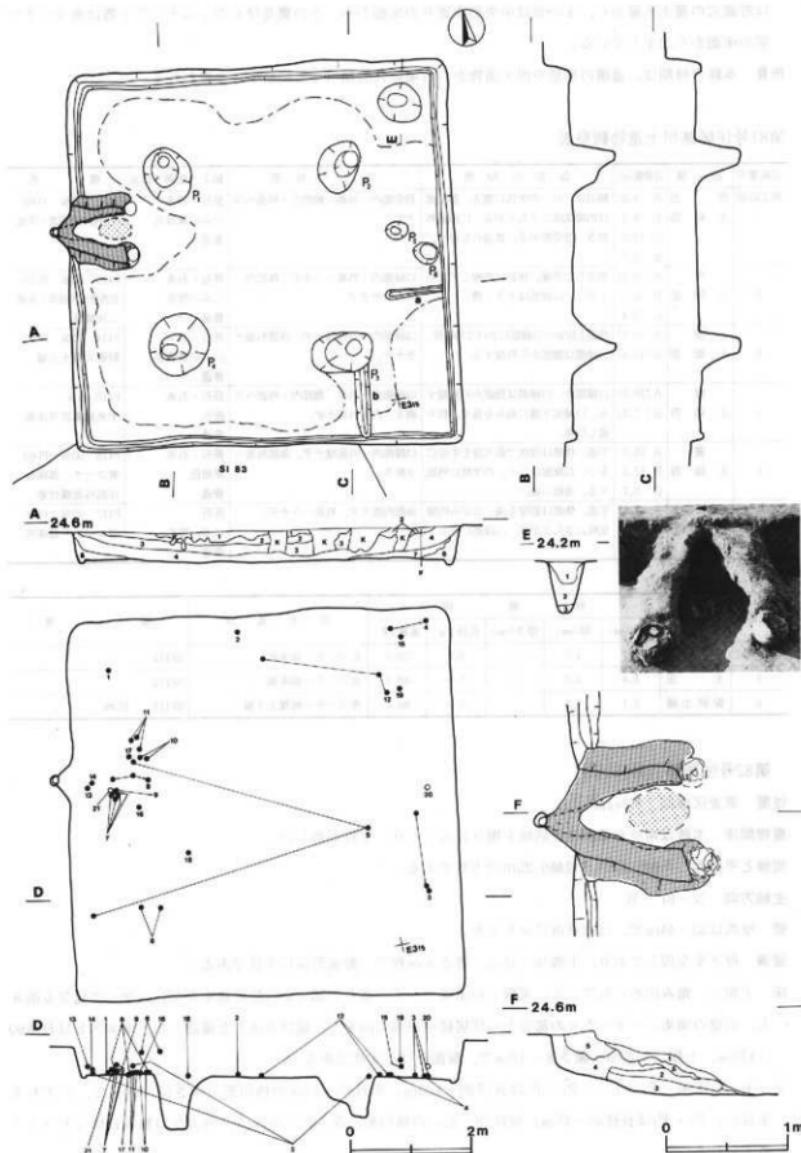
主軸方向 N-81°-W

壁 壁高は33~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10~15cm、深さ8cm程度、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固められている。東壁下の南東コーナー寄りの部分から住居跡中央部に向かって延びる溝aと、南壁の南東コーナー寄りの部分から住居跡中央部に向かって延びる溝bを確認した。溝a・bは長さ90~110cm、上幅15~25cm、深さ8~18cmで、断面形はU字状である。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は長径90~100cm、短径65~95cmの楕円形、深さ68~90cmで、いずれも主柱穴、P5・P6は長径35~45cm、短径28~32cmの楕円形、深さ13~38cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第151図 第82号住居跡実測・遺物出土位置図

■ 西壁中央部を整外に45cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ150cm、幅130cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築し、両袖部の先端には逆位の甕を補強材として使用している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は長さ100cm程で、火床面からやや傾斜して立ち上がっている。壁外には径10cm程の櫛出し穴が残存している。

#### 塵土層解説

|        |                                     |         |                                    |
|--------|-------------------------------------|---------|------------------------------------|
| 1 墓赤褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック中量             | 3 墓赤褐色  | ローム小ブロック・焼土小ブロック中量。ローム中<br>ローム粒子少量 |
| 2 赤褐色  | 焼土粒子・焼土小ブロック多量。ローム粒子・ロー<br>ム小ブロック中量 | 4 明黄褐色  | 焼土粒子・砂粒子多量                         |
|        |                                     | 5 橙暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量                   |

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径70cm、短径60cmの梢円形で、深さは88cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯蔵穴土層解説

|        |                       |       |                    |
|--------|-----------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 3 灰褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 |
| 2 楔形褐色 | ローム小・中ブロック中量。ローム粒子少量  |       |                    |

覆土 7層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

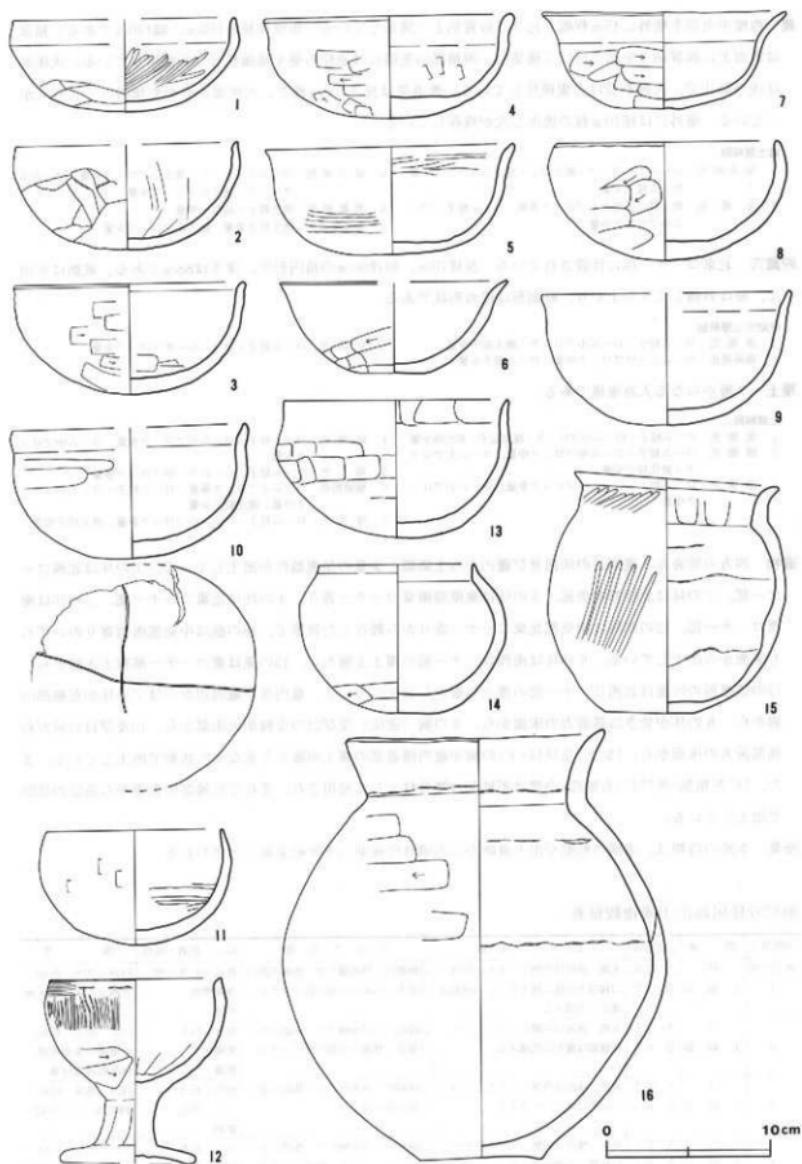
|        |                                      |       |  |
|--------|--------------------------------------|-------|--|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量            | 4 灰褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロッ<br>ク少量        |
| 2 楔形褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量。ローム大ブロッ<br>ク・炭化粒子少量 | 5 開褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック多量                     |
| 3 暗褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック多量。ローム中ブロッ<br>ク中量      | 6 楠褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子・ローム中ブロッ<br>ク中量、焼土粒子少量 |
|        |                                      | 7 灰褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子中量                |

遺物 四方の壁寄りと竈周辺の床面及び窓内から土器と少量の須恵器片が出土している。1の壺は北西コーナー部、2の壺は北壁際中央部、3の壺は東壁際南東コーナー寄り、4の壺は北東コーナー部、5の壺は南西コーナー部、12の高壺は中央部北東コーナー寄りから散在した状態で、18の瓶は中央部南西寄りのいずれも床面から出土している。6の壺は南西コーナー部の覆土上層から、15の甕は東コーナー部覆土下層から、19の須恵器の壺蓋は北西コーナー部の覆土中層から出土している。窓内及び竈周辺からは7の壺が左袖部内側から、8の壺が焚き口部前方の床面から、9の瓶(逆位)及び21の支脚が火床部から、10及び11の瓶が右袖部前方の床面から、13(上)及び14(下)の碗が窓内煙道部の覆土中層から重なった状態で出土している。また、16(左袖部)及び17(右袖部)の甕は両袖部の補強材として使用され、それぞれ袖部の先端から逆位の状態で出土している。

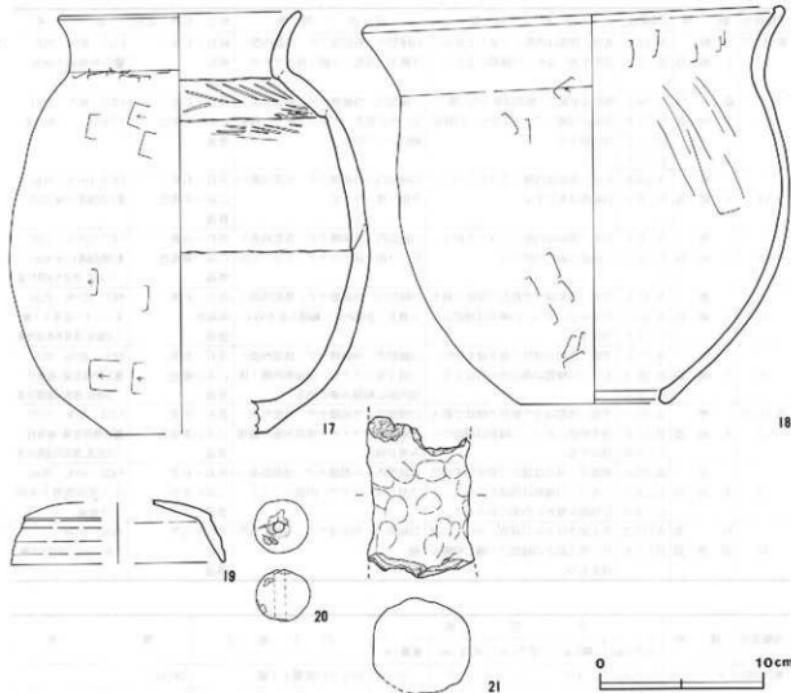
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期(5世紀末葉)と思われる。

第82号住居跡出土遺物観察表

| 回収番号       | 器種      | 計測値(cm)           | 器形の特徴  | 手法の特徴                                      | 地上・色調・焼成              | 備考                                   |
|------------|---------|-------------------|--|--|-----------------------|--------------------------------------|
| 第152号<br>1 | 壺<br>土器 | A (13.8)<br>B 5.7 | 丸底。体部は内側して立ち上がり、<br>口縁部との境に接をもつ。口縁部は<br>僅かに内傾する。 | 口縁部内・外泥模ナデ。体部内面へ<br>ラ書き、外面へウ前り後ヘラナデ。<br>普通 | 長石・石英・釋<br>浅黄褐色<br>普通 | P418 70% PL60<br>北西コーナー部床面<br>二次焼成   |
| 2          | 壺<br>土器 | A (13.6)<br>B 6.4 | 丸底。体部は内側して立ち上がり、<br>口縁部は僅かに内傾する。                 | 口縁部内・外泥模ナデ。体部内面へ<br>ラ書き、外面へウ前り後ヘラナデ。<br>普通 | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P422 60% PL60<br>北壁際中央部床面<br>体部外面焼付着 |
| 3          | 壺<br>土器 | A 14.2<br>B 6.7   | 丸底。体部は内側して立ち上がり、<br>口縁部は僅かに外反する。                 | 口縁部内・外泥模ナデ。体部外側へ<br>ウ前り後ヘラナデ。<br>普通        | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P424 90% PL60<br>東壁際南東コーナー部床面        |
| 4          | 壺<br>土器 | A 15.3<br>B 6.2   | 丸底。体部は内側して立ち上がり、<br>口縁部との境に接をもつ。口縁部は<br>外反する。    | 口縁部内・外泥模ナデ。体部外側へ<br>ウ前り後ヘラナデ、内面ヘラナデ。<br>普通 | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P427 90% PL61<br>北東コーナー部床面           |



第152図 第82号住居跡出土遺物実測図(1)



第153図 第82号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号       | 器種       | 計測値(cm)                    | 器形の特徴   | 手法の特徴   | 胎土・色調・焼成                | 備考                                   |
|------------|----------|----------------------------|---|---|-------------------------|--------------------------------------|
| 第152図<br>5 | 壺<br>土師器 | A 15.8<br>B 6.7            | 丸底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部は外反する。                       | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外<br>面ヘラ磨き。                    | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通      | P428 80% PL61<br>南西コーナー部裏土上層         |
| 6          | 壺<br>土師器 | A [14.0]<br>B 5.6<br>C 4.4 | 平底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部は外反する。                       | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘ<br>ラナデ。外面ヘラ削り後ヘラナデ。          | 長石・石英<br>浅黄褐色<br>普通     | P419 60% PL60<br>南西コーナー部裏土上層<br>二次焼成 |
| 7          | 壺<br>土師器 | A 15.0<br>B 6.0            | 丸底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部は外反する。口縁部内面に不<br>明瞭な棱をもつ。    | 口縁部内面ヘラ磨き。外縁横ナデ。<br>体部内面ヘラ磨き、外縁ヘラ削り後<br>ヘラナデ。 | 長石・石英・スコリア<br>明褐色<br>普通 | P420 80% PL61<br>離左袖部内側<br>二次焼成      |
| 8          | 壺<br>土師器 | A 14.0<br>B 7.2            | 丸底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部は僅かに内側する。                    | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘ<br>ラ削り後ヘラナデ。                 | 長石・石英<br>濃褐色<br>普通      | P425 70% PL61<br>離焚口部前方床面            |
| 9          | 壺<br>土師器 | A [15.4]<br>B 8.1          | 丸底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部は僅かに外反する。口縁部内<br>面に不明瞭な棱をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘ<br>ラ削り後ヘラナデ。                 | 長石・石英<br>明褐色<br>普通      | P426 70% PL61<br>離火床部<br>二次焼成        |
| 10         | 壺<br>土師器 | A [14.4]<br>B 8.0          | 丸底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部は僅かに外反する。口縁部内<br>面に棱をもつ。     | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘ<br>ラ削り後ヘラナデ。体部外面にヘラ<br>記号。   | 長石・石英<br>明褐色<br>普通      | P423 40%<br>離右袖部前方床面<br>二次焼成         |

| 図版番号        | 器種                     | 計測値(cm)                             | 器形の特徴   | 手法の特徴  | 胎土・色調・焼成              | 備考  |
|-------------|------------------------|-------------------------------------|---|--|-----------------------|---|
| 第152回<br>11 | 輪<br>土器                | A 10.8<br>B 7.0                     | 丸底。体部は内側して立ち上がり、器厚を減じながら口縁部に至る。                 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ巻き。外面へラ削り後へラナデ。               | 長石・石英<br>橙色<br>普通     | P421 80% PL61<br>竪右袖部前方床面                     |
| 12          | 高<br>环<br>土器           | A 10.5<br>B 11.4<br>D(8.2)<br>E 3.8 | 脚部は中央で、握部は横方向に廻る。<br>环部は内側して立ち上がり、口縁部は内傾する。     | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ハケ且豊頃、下位へラ削り。脚部底位へラ削り。        | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P430 80% PL61<br>中央部北東コーナー寄り床面                |
| 13          | 輪<br>土器                | A 13.8<br>B 8.5                     | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は直立する。                       | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位へラ削り後へラナデ。                    | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P429 100% PL61<br>室内落葉層上中層(431の上)             |
| 14          | 輪<br>土器                | A 9.6<br>B 9.1                      | 丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。                     | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位へラ削り後へラナデ。下位へラ削り。             | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P431 100% PL61<br>室内落葉層上中層(430の下)             |
| 15          | 高<br>脚<br>土器           | A 12.6<br>B 15.0<br>C 5.6           | 平底。体部はやや膨張の球状で最大径を中位にもつ。口縁部は脚部から外反する。           | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位へラ巻き。体部内面に輪積み痕が残る。            | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P432 100% PL61<br>東コーナー部覆土下層<br>二次焼成。体部外面落葉付着 |
| 16          | 高<br>脚<br>土器           | A 16.0<br>B 26.3<br>C 7.6           | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は脚部から外反する。                | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位へラ削り後へラナデ。口縁部内面・体部内面に輪積み痕が残る。 | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P433 60% PL62<br>竪左脚部先端(被強材)<br>二次焼成。体部外面落葉付着 |
| 第153回<br>17 | 高<br>脚<br>土器           | A 15.0<br>B 25.8<br>C(9.8)          | 平底。体部はやや膨張の球状で最大径を中位にもつ。口縁部は脚部から外反する。           | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位へラ削り後へラナデ。体部内面に輪積み痕が残る。       | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P434 60% PL62<br>竪右脚部先端(被強材)<br>二次焼成。体部外面落葉付着 |
| 18          | 瓶<br>土器                | A 25.8<br>B 24.7<br>C 9.4           | 無底式。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は脚部から外反し、口唇部を僅かに内側に折り返す。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位へラ削り後へラナデ。内面へラナデ。             | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P435 60% PL62<br>中央部南西寄り床面<br>二次焼成            |
| 19          | 环<br>颈<br>高<br>脚<br>土器 | A(13.2)<br>B(3.8)                   | 天井部下位から口縁部にかけての破片。天井部と口縁部との境に明瞭な接をもつ。           | 口縁部内・外面横ナデ。外面に自然凹凸。                            | 長石・石英<br>灰色<br>普通     | P436 15%<br>北西コーナー部覆土中層                       |

| 図版番号        | 種別 | 計測値    |       |        |        | 出土地点    | 備考       |       |
|-------------|----|--------|-------|--------|--------|---------|----------|-------|
|             |    | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |         |          |       |
| 第153回<br>20 | 土玉 | 3.1    | 3.4   | —      | 0.7    | 29.0    | 出入口部覆土下層 | DP114 |
| 21          | 支脚 | (9.9)  | 6.6   | —      | —      | (320.3) | 竪火床部     | DP115 |

### 第83号住居跡（第154回）

位置 調査区南部、E314区。

重複関係 本跡は北部を第82号住居跡に掘り込まれておらず、本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.05m、短軸5.70mの方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は27~38cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 重複部を除く壁下を全周しておらず、上幅10cm程、深さ10cm程で、断面形はU字状である。

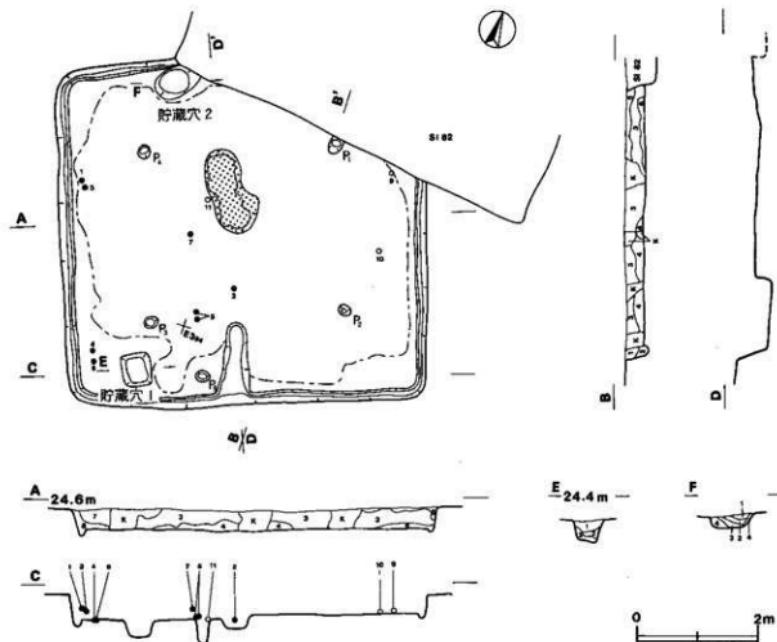
床 全体に平坦で、硬く踏み固められている。南壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。

長さ115cm、上幅35~50cm、深さ20~25cmで、断面形はU字状である。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は径22cm程の円形、深さ29~67cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径25cmの円形、深さ39cmで、出入口口施設に伴うピットと考えられる。

炉 炉は中央部にあり、長径125cm、短径45cmの不定形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け強く赤変色化している。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南西コーナー部に付設されている。長軸55cm、短軸50cmの隅丸長方形で、深さは



第154図 第83号住居跡実測図

41cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。貯藏穴2は炉北西の北壁際下中央部に付設されている。長径75cm、短径45cmの橢円形で、深さは22cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

**貯藏穴1 土層解説**  
 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量  
 2 黄色 ローム粒子・ローム小ブロック中量  
 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量

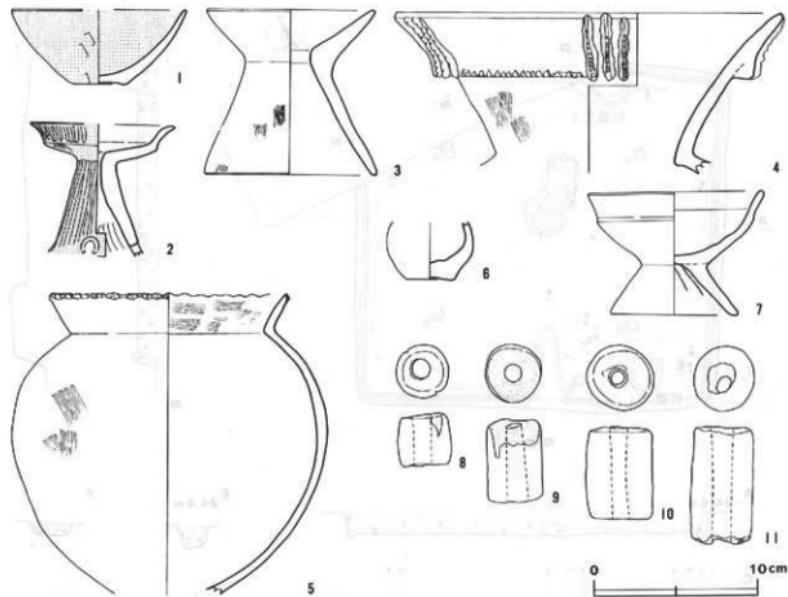
**貯藏穴2 土層解説**  
 1 暗褐色 ローム粒子少量  
 2 黄色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量  
 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
 4 黄色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、ローム大ブロック少量

**覆土** 8層からなる人為堆積である。

**土層解説**  
 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量  
 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量  
 3 黄色 ローム小・中ブロック中量、ローム粒子少量  
 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量  
 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量  
 6 黑褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量  
 7 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量  
 8 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

**遺物** 主に住居跡西部の覆土下層から床面にかけて土師器が出土している。1の碗及び3の器台は西壁際北西コーナー寄りの覆土下層から、7の高杯は中央部の覆土下層から、2の器台及び5の台付甕は中央部南寄りの床面から、4の壺及び6のミニチュア土器は南西コーナー部の床面から出土している。7の高杯は、流れ込みと思われる。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。



第155図 第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種      | 計測値(cm) | 器形の特徴   | 手法の特徴                                     | 粘土・色調・焼成              | 備考                                       |
|------------|---------|---------|---|---|-----------------------|--|
| 第155図<br>1 | 碗       | A(10.9) | 平底。底部は器厚を減じながら内側気味に立ち上がり、口縁部に至る。                            | 口縁部内・外面横ナデ。底部外側へラ磨き。内・外面赤彩。               | 長石・石英<br>赤色<br>普通     | P437 60% PL61<br>西端北コナー付底上層              |
|            | 土師器     | B 4.6   |   |   |                       |  |
|            | C 3.2   |         |   |   |                       |  |
| 2          | 器       | A(9.0)  | 器部は内側気味に立ち上がり、口縁部との境に後をもつ。口縁部は外反する。脚部に4孔。器受部中央に貫通孔を有す。      | 器受部内・外側、脚部外側へラ磨き。脚部内部へラナデ。器受部内・外側、脚部外側赤彩。 | 長石・石英<br>赤色<br>普通     | P438 80% PL61<br>中央部南寄り床面                |
|            | 台       | B(8.1)  |   |   |                       |  |
|            | E(5.7)  |         |   |   |                       |  |
| 3          | 器       | A 10.5  | 脚部は「フ」の字状に開く。器受部は器厚を減じながら左「フ」の字状に立ち上がり、口縁部に至る。器受部中央に貫通孔を有す。 | 口縁部内・外面横ナデ。脚部外側ハケ日彫形後ナデ。                  | 長石・石英<br>浅黄褐色<br>普通   | P440 70% PL62<br>西端北コナー付底上層<br>二次焼成      |
|            | 台       | B 10.1  |   |   |                       |  |
|            | D 10.8  |         |   |   |                       |  |
|            | E 6.9   |         |   |   |                       |  |
| 4          | 壺       | A 24.2  | 口縁部は脚部から外反する。口縁部外側に3本一对の横状浮文を5か所、下端に割を施す。有段口縁。              | 口縁部内・外面横ナデ。頭部内面へラ磨き、外側ハケ日彫形後ナデ。           | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P441 30% PL62<br>南北コナー付底面                |
|            | 土師器     | B(9.8)  |   |   |                       |  |
| 5          | 台付壺     | A 14.9  | 台付壺。底部は球狀で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。                   | 口縁部内・外側、底部外側ハケ日彫形後ナデ。                     | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P442 70% PL63<br>中央部南寄り床面<br>二次焼成、底部深埋付着 |
|            | 土師器     | B(18.4) |   |   |                       |  |
| 6          | ミニチュア土器 | A(3.6)  | 口縁部欠損。平底。底部は器厚を減じながら内側気味に立ち上がる。                             | 体部内・外面ナデ。                                 | 長石<br>にぶい赤褐色<br>普通    | P443 80% PL61<br>南北コナー付床面                |
|            | 土師器     | C 3.0   |   |   |                       |  |
| 7          | 高環      | A 10.9  | 脚部は「ハ」の字状に開く。环部は内側気味に立ち上がり、口縁部との境に後をもつ。口縁部は外反する。            | 口縁部内・外面横ナデ。环部外側、脚部内・外面ナデ。                 | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P439 80% PL61<br>中央部底上層(埋れ込み)<br>二次焼成    |
|            | 土師器     | B 7.6   |   |   |                       |  |
|            | D 7.8   |         |   |   |                       |  |
|            | E 2.9   |         |   |   |                       |  |

| 図版番号   | 種 別  | 計 測 値  |       |        |        |         | 出 土 地 点    | 備 考        |
|--------|------|--------|-------|--------|--------|---------|------------|------------|
|        |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g)   |            |            |
| 第155図8 | 管状土錐 | 3.1    | 3.3   | —      | 1.2    | 33.2    | 覆土中        | DP116 PL99 |
| 9      | 管状土錐 | 5.0    | 3.5   | —      | 1.0    | 64.1    | 東北コーナー寄り床面 | DP117 PL99 |
| 10     | 管状土錐 | 5.6    | 4.2   | —      | 1.1    | 109.5   | 東北壁部中央部床面  | DP118 PL99 |
| 11     | 管状土錐 | (7.2)  | 3.8   | —      | 1.2    | (125.3) | 中央部床面      | DP119 PL99 |

#### 第84号住居跡（第156図）

位置 調査区南部、E3hs区。

重複関係 本跡は第104号土坑の上に構築しており、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.05m、短軸3.94mの方形である。

主軸方向 N-42°-W

壁 壁高は21~31cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を周全しており、上幅10cm程、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 全体に平坦で、炉の周辺が踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ85cm、上幅16~20cm、深さ10cmで、断面形はU字状である。

ピット P1は径24cmの円形、深さ32cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり、長径45cm、短径35cmの梢円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、南東端部には甕の体部片が付設されている。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径38cmの円形で、深さは38cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

##### 貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量  
2 植縫褐色 ローム粒子少量

3 桶色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック中量

覆土 2層からなる人為堆積である。

##### 土層解説

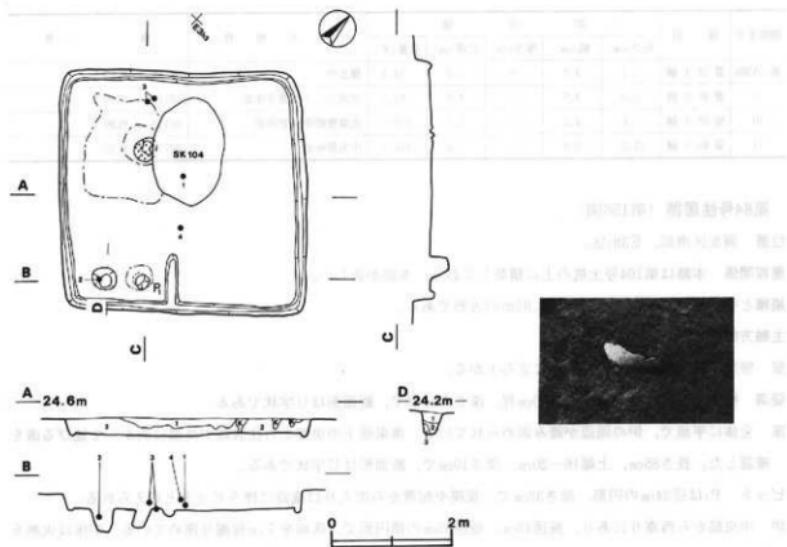
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・灰化物少量  
2 植縫褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量

遺物 中央部から南コーナー部を中心とする住居跡南部の覆土中層から床面にかけて土師器がまばらに出土している。1の器合は中央部の覆土下層から、2の壺は貯蔵穴から、3の壺は炉北側の床面から、4のミニチュア土器は中央部の覆土中層から出土している。また、炉床の南東端部からは炉の長径に対してほぼ直交した状態で、長さ35cm、高さ10cm程の甕の体部片が出土している。

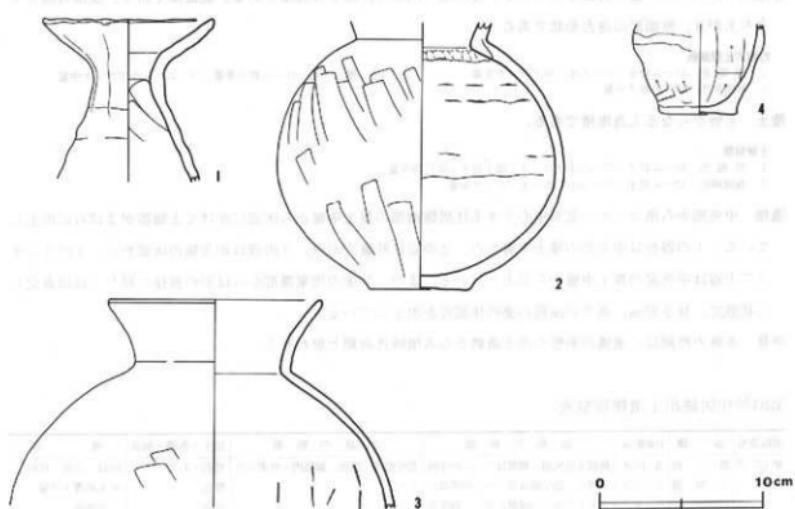
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

#### 第84号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種  | 計測値(cm)                      | 器 形 の 特 徴                          | 手 法 の 特 徴             | 地 土・色調・焼成             | 備 考                              |
|------------|-----|------------------------------|------------------------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 第157図<br>1 | 土師器 | A 10.6<br>B( 9.9)<br>E( 6.7) | 脚部下位欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。蓋部は逆「ハ」の字状にナデ。 | 器部内・外表面、脚部内・外表面ヘラナデ。  | 長石・石英<br>橙色<br>普通     | P444 70% PL62<br>中央部覆土下層<br>二次焼成 |
|            |     | B(16.3)                      | 口縁部欠損。突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。      | 体部外表面へラナデ。内面に輪積み痕が残る。 | 長石・石英<br>にぼい黄褐色<br>普通 | P445 80% PL63<br>貯蔵穴覆土上層         |
|            |     | C 6.0                        |                                    |                       |                       |                                  |



第156図 第84号住居跡実測図



第157図 第84号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号       | 器種      | 計測値(cm)   | 器形の特徴                           | 手法の特徴                    | 胎土・色調・焼成       | 備考                |
|------------|---------|-----------|---------------------------------|--------------------------|----------------|-------------------|
| 第157図<br>3 | 壺       | A 13.2    | 体部上位から口縁部にかけての破片。               | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘナダ。 | 長石・石英<br>にぶい褐色 | P446 30%<br>炉北側床面 |
|            | 土師器     | B (12.7)  | 口縁部は頸部から外反する。                   |                          | 普通             |                   |
| 4          | ミニチュア土器 | B (< 5.6) | 口縁部欠損。平底。体部は豊厚を減じながら内輪気味に立ち上がる。 | 体部内・外面ヘナダ。体部外面に輪積み表が残る。  | 長石<br>にぶい黄橙色   | P447 80% PL62     |
|            | 土師器     | C 4.8     |                                 |                          | 普通             | 中央部覆土中層           |

### 第85号住居跡（第158図）

位置 調査区南部、E3iz区。

重複関係 本跡は南東部が第86号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.18m、短軸4.60mの長方形である。

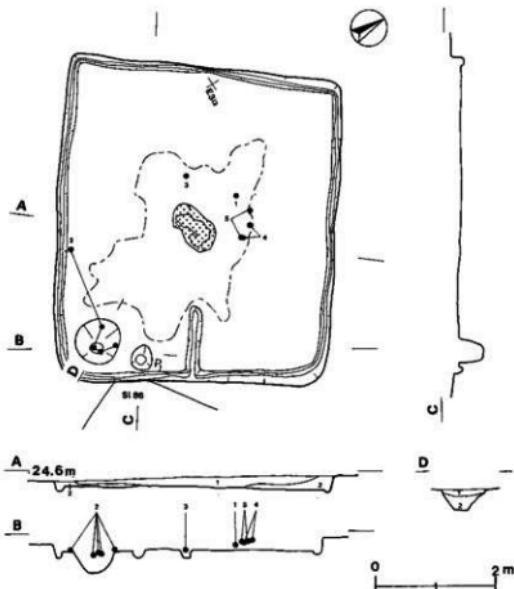
主軸方向 N-57°-W

壁 壁高は20cm程度で、ほぼ垂直に立ち上がる。

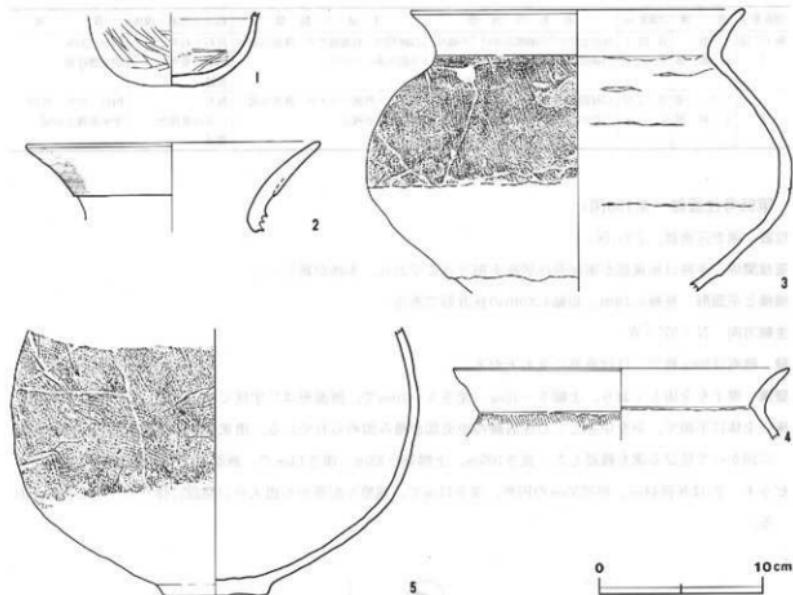
壁溝 壁下を全周しており、上幅5~10cm、深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 全体に平坦で、炉を中心とした住居跡の中央部が踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ105cm、上幅18~23cm、深さ14cmで、断面形はU字状である。

ピット P1は長径44cm、短径35cmの円形、深さ41cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第158図 第85号住居跡実測図



第159図 第85号住居跡出土遺物実測図

**炉** 中央部にあり、長径85cm、短径50cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。径70cmの円形で、深さは35cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量

**覆土** 2層からなる人為堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・燒土粒子・炭化物少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量

**遺物** 出入り口部と南西部を除いた住居跡の覆土上層から床面にかけて土器が出土している。1の楕は中央部の覆土中層から、2の壺は南コーナー部の床面から、3の甕は中央部の床面から、4・5の甕は中央部北東寄りの覆土上層から出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第85号住居跡出土遺物観察表

| 回収番号       | 器種         | 計測値(cm)           | 器 形 の 特 徴                               | 手 法 の 特 徴              | 胎土・色調・焼成          | 備 考   |
|------------|------------|-------------------|---|------------------------|-------------------|---|
| 第159回<br>1 | 碗<br>土 部 器 | B(4.5)<br>C 2.6   | 口縁部上位欠損。平底。体部は内側して立ち上がり。内面の口縁部との境に波をもつ。 | 体部内・外側ヘラナデ。            | 長石・石英にぶい褐色<br>普通  | P448 60% PL62<br>中央部覆土中層                        |
| 2          | 壺<br>土 部 器 | A 18.0<br>B(5.6)  | 口縁部片。口縁部は頸部から外反する。折り返し口縁。               | 口縁部内・外側ハケ目菱形模様ナデ。      | 長石・石英にぶい黄褐色<br>普通 | P449 10% PL63<br>南コーナー部床面                       |
| 3          | 壺<br>土 部 器 | A 20.5<br>B(17.5) | 底部欠損。体部は扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外反する。   | 口縁部内・外側模様ナデ。体部外側ハケ目菱形。 | 長石・石英にぶい黄褐色<br>普通 | P450 60% PL63<br>中央部床面<br>二次焼成                  |
| 4          | 壺<br>土 部 器 | A 20.6<br>B(4.4)  | 頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外反する。            | 口縁部内・外側模様ナデ。頸部外側ハケ目菱形。 | 長石・石英にぶい褐色<br>普通  | P451A 10%<br>中央部北寄り覆土上層<br>P451Bと同一個体           |
| 5          | 壺<br>土 部 器 | B(16.3)<br>C 6.4  | 口縁部欠損。突出した平底。体部は内壁しながら立ち上がる。            | 体部内面ナデ、外側ハケ目菱形。        | 長石・石英にぶい黄褐色<br>普通 | P451B 10% PL63<br>中央部北寄り覆土上層<br>P451Aと同一個体、二次焼成 |

第86号住居跡（第160図）

位置 調査区南部。E3js区。

重複関係 本跡は西コーナー部を第85号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.55m、短軸3.05mの長方形である。

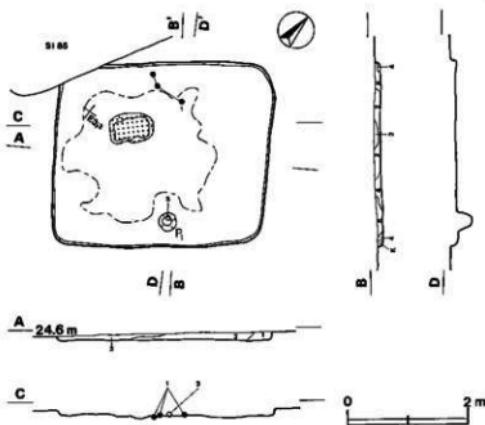
主軸方向 N-31°-W

壁 壁高は10cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

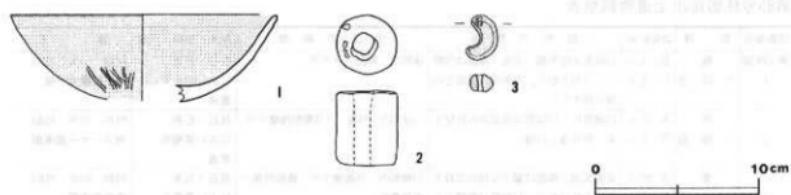
床 全体に平坦で、住居跡の中央部が踏み固められている。

ピット P1は径30cmの円形、深さ27cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり、長径75cm、短径50cmの楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第160図 第86号住居跡実測図



第161図 第86号住居跡出土遺物実測図

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- |       |                           |       |                         |
|-------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 1 塗褐色 | ローム粒子・炭化物少量               | 3 桃褐色 | ローム中ブロック中量。ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 塗褐色 | ローム小・中ブロック中量。ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量。ローム大ブロック少量 |

遺物 中央部から西部にかけての床面から少量の土師器が出土している。1の高坏は北西壁際中央部の床面から、3の赤彩された土製勾玉は出入り口部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第86号住居跡出土遺物観察表

| 国版番号  | 器種  | 計測値(cm)           | 器形の特徴                            | 手法の特徴                              | 胎土・色調・焼成           | 備考       |                   |
|-------|-----|-------------------|----------------------------------|------------------------------------|--------------------|----------|-------------------|
|       |     |                   |                                  |                                    |                    | 高        | 幅                 |
| 第161図 | 高坏  | A 16.6<br>B (5.3) | 环部は部厚を減じながら内<br>輪して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部内・外面擴ナダ。环部内・外<br>面ハラ磨き。环部内・外赤彩。 | 長石・石英<br>暗赤色<br>普通 | P452 40% | 北西壁際中央部床面<br>二次焼成 |
| 1     | 土師器 |                   |                                  |                                    |                    |          |                   |

| 国版番号   | 種別   | 計測値    |       |        |        |       | 出土地点    | 備考             |
|--------|------|--------|-------|--------|--------|-------|---------|----------------|
|        |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) |         |                |
| 第161図2 | 管状土鍼 | 4.6    | 3.6   | —      | 1.0    | 73.9  | 覆土中     | DP120 PL99     |
| 3      | 土製勾玉 | 2.7    | 2.0   | 1.0    | —      | 5.2   | 出入り口部床面 | DP121 PL100 赤彩 |

第87号住居跡（第162図）

位置 調査区南部、E2i-e区。

重複関係 本跡は南西部が第164号住居跡を、北東部が第88号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸3.30m、短軸3.20mの方形である。

主軸方向 N-34°-E

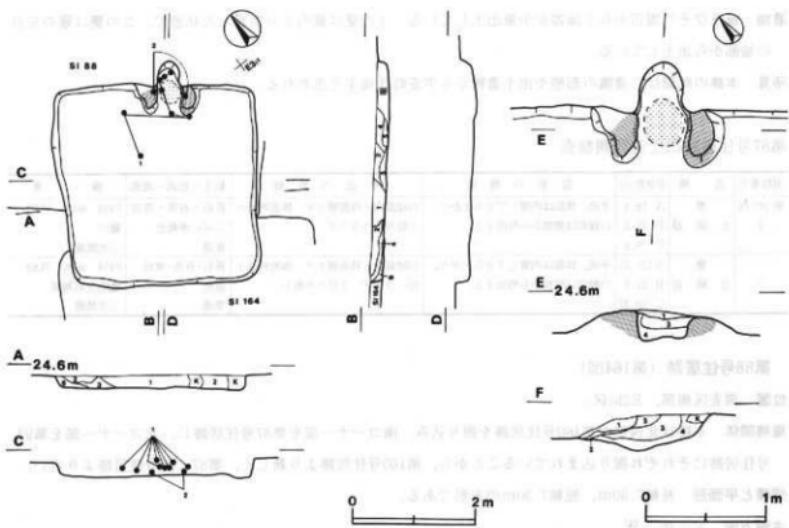
壁 壁高は24cm程で、ほぼ直立に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

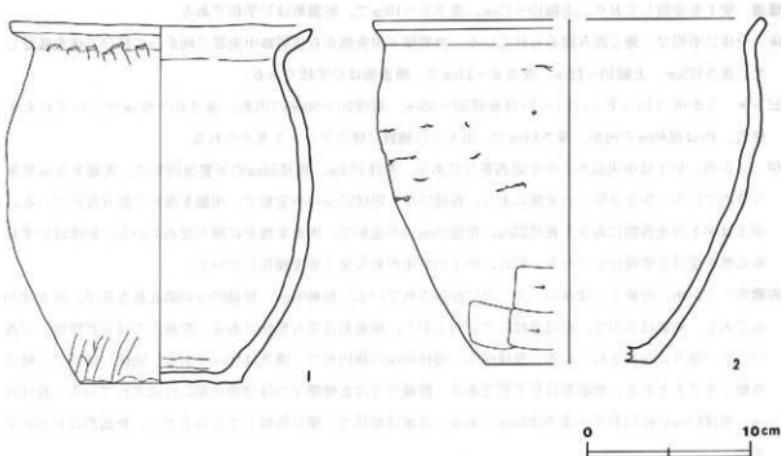
竈 北東壁中央部を壁外に40cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ90cm、幅110cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は長さ30cm程で、火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

土層解説

- |       |                                   |          |                               |
|-------|-----------------------------------|----------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子多量                 | 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量          |
| 2 赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子多量。焼土中ブロック中量。砂粒子少量 | 4 紫赤褐色   | 焼土粒子・炭化粒子多量。焼土小ブロック・粘土小ブロック少量 |



第162図 第87号住居跡実測図



第163図 第87号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 線 色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子、ローム小ブロック少量
- 3 線 色 ローム大ブロック中量、ローム粒子少量

- 4 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化物少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土中ブロック中量

遺物 窓及びその周辺から土師器が少量出土している。1の窓は窓内から散在した状態で、2の窓は窓の左右の袖部から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代後半と思われる。

#### 第87号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号       | 器種 | 計測値(cm)                      | 器形の特徴                             | 手法の特徴                             | 粘土・色調・焼成               | 備考                              |
|------------|----|------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------------------------|---------------------------------|
| 第163図<br>1 | 窓  | A 18.4<br>B 22.2<br>C 9.8    | 平底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部は腰部から外反する。 | 口縁部内・外面横ナナ。体部外面上<br>にぶい赤褐色<br>普通  | 長石・石英・雲母<br>窓内<br>二次焼成 | P453 60% PL63                   |
|            | 窓  | A(24.3)<br>B 21.1<br>C(10.2) | 平底。体部は内側して立ち上がり。<br>口縁部は腰部から外反する。 | 口縁部内・外面横ナナ。体部外面上<br>位ヘラナダ。下位ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通   | P454 40% PL63<br>窓内左右袖部<br>二次焼成 |
|            |    |                              |                                   |                                   |                        |                                 |

#### 第88号住居跡（第164図）

位置 調査区南部、E2号区。

重複関係 本跡は北西壁が第160号住居跡を掘り込み、南コーナー部を第87号住居跡に、北コーナー部を第92号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから、第160号住居跡より新しく、第87・92号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸7.50m、短軸7.30mの方形である。

主軸方向 N-46°-W

壁 壁高は48~58cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10~15cm、深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 全体に平坦で、硬く踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ175cm、上幅10~12cm、深さ8~11cmで、断面形はU字状である。

ピット 5か所 (P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は長径50~65cm、短径50~60cmの円形、深さ40~80cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径40cmの円形、深さ43cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 3か所。炉1は中央部からやや北西寄りにあり、長径103cm、短径55cmの不整梢円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉2は炉1の北側にあり、長径55cm、短径25cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。

炉3は炉1の北西側にあり、長径25cm、短径20cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床はいずれも火熱を受け赤変硬化しており、特に、炉1の炉床が最も強く赤変硬化している。

貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されている。長軸95cm、短軸85cmの隅丸長方形で、深さは70cmである。底面は平坦で、壁は急傾斜して立ち上がり、断面形は逆台形状である。貯蔵穴2は北西壁際下の西コーナー寄りに付設されている。長径60cm、短径40cmの梢円形で、深さは19cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。貯蔵穴3は北壁際下のほぼ中央部に付設されている。長径78cm、短径58cmの梢円形で、深さは20cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

##### 貯蔵穴1 土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

3 暗 黑 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

##### 貯蔵穴2 土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム中ブロック少量

##### 貯蔵穴3 土層解説

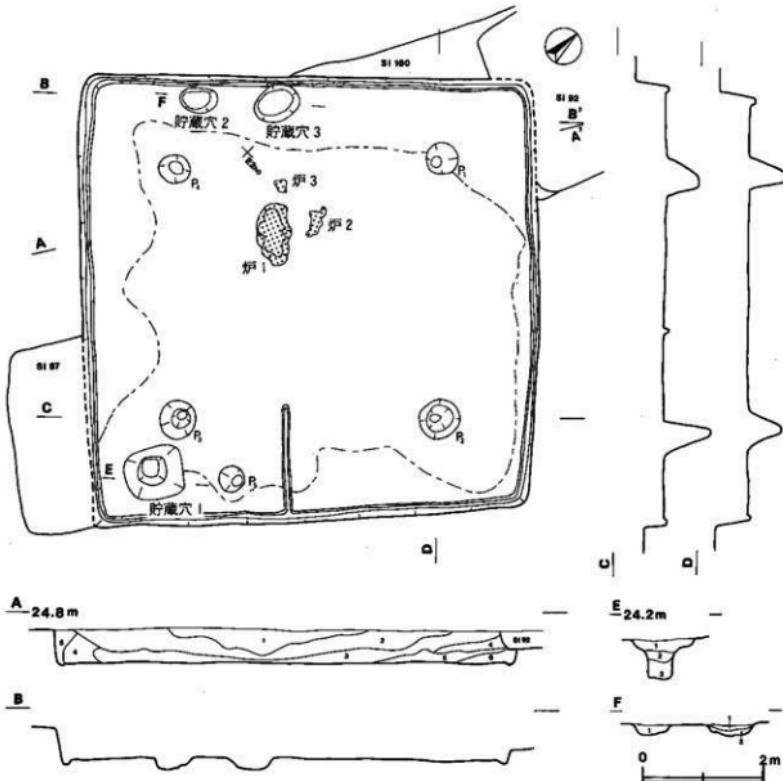
- 1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 2 黒 色 ローム粒子・ローム中・大ブロック少量

覆土 6層からなる人為堆積である。

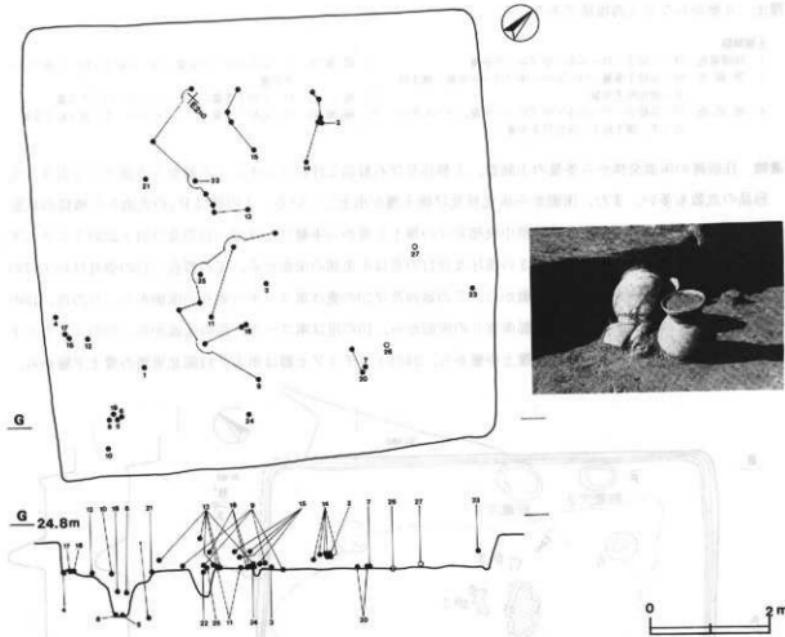
土質解説

- |        |   |       |                             |
|--------|---|-------|-----------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック中量                      | 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子多量、ローム小・中ブロック中量、焼土粒子、炭化粒子少量        | 5 黄褐色 | ローム粒子多量、ローム小・中ブロック少量        |
| 3 暗褐色  | ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、ローム大ブロック、焼土粒子、炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子少量     |

遺物 住居跡の床面全体から多量の土師器、土製品及び石製品と共にミニチュア土器が5点出土しており、完形品の点数も多い。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の鉢はP<sub>3</sub>の底面から横位の状態で、2の鉢及び14・15の甕は北西壁中央部寄りの覆土上層から中層にかけて、13甕及び21・22のミニチュア土器は中央部西寄りの床面から、3の高杯及び11の甕は中央部の床面から、4の器台、12の甕及び16・17の甕は南西壁際南コーナー寄りの床面から、7の器台及び20の甕は東コーナー寄りの床面から、9の壺、18の甕及び25のミニチュア土器は中央部南寄りの床面から、10の壺は南コーナー部の床面から、23のミニチュア土器は北東壁際東コーナー寄りの覆土中層から、24のミニチュア土器は出入り口部北東側の覆土下層から、



第164図 第88号住居跡出土遺物実測図

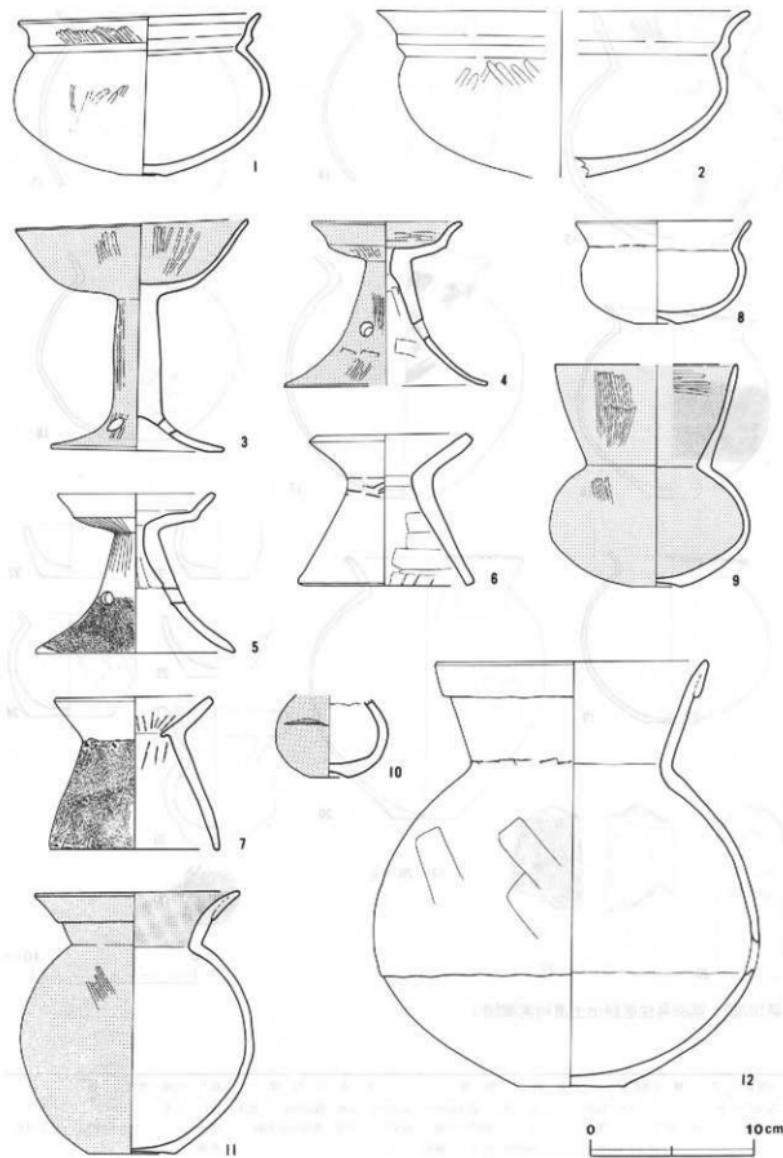


第165図 第88号住居跡遺物出土位置図

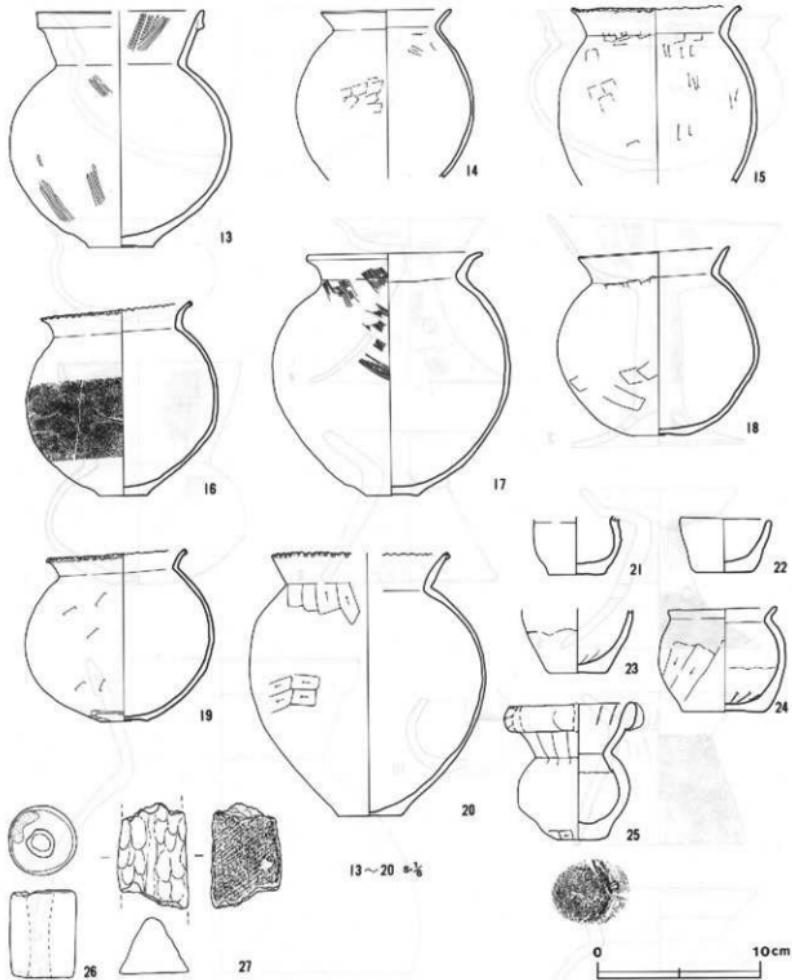
貯蔵穴1からはほぼ完形の土師器が4点（上から19の壺、8の器台、5の器台の頸）出土している。また、26の管状土錘は東コーナー付近床面から、27の土製炉石は北東壁中央部寄り床面から出土している。所見 本跡は焼失家屋である。遺物の大部分が覆土下層から床面にかけて出土しており、本跡に伴うものと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

#### 第88号住居跡出土遺物観察表

| 回収番号       | 器種        | 計測値(cm)  | 器形の特徴                                      | 手法の特徴                              | 胎土・色調・焼成           | 備考                                    |
|------------|-----------|----------|--|------------------------------------|--------------------|---------------------------------------|
| 第166回<br>1 | 土師器       | A 14.8   | 中央がやや凹む平底。体部は内側して立上がり、口縁部は屈曲して外反する。口縁部外削ぎ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。               | 長石・石英にぶい褐色<br>普通   | P455 100% PL64<br>P3底面<br>二次焼成、体部外面磨き |
|            |           | B 10.1   | 立上がり、口縁部は屈曲して外反する。口縁部外削ぎ。                  | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剥離のため調整不明。        | 長石・石英にぶい褐色<br>普通   | P456 70% PL64<br>北西壁中央部寄り覆土中層<br>二次焼成 |
|            |           | C 2.6    |  |                                    |                    |                                       |
| 2          | 土師器       | A (23.0) | 底部欠損。体部は内側して立上がり、口縁部は屈曲して外反する。             | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剥離のため調整不明。        | 長石・石英にぶい褐色<br>普通   | P456 70% PL64<br>北西壁中央部寄り覆土中層<br>二次焼成 |
|            |           | B (10.2) |  |                                    |                    |                                       |
| 3          | 高脚<br>土師器 | A 14.3   | 脚部は中実柱状で、基部はラッパ状に開く。環縁は均一な器形を保たない。         | 环縁部内・外面、脚部・脚部外側へラ磨き。环縁部・外面、脚部外側赤褐色 | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通 | P457 90% PL64<br>中央部床面                |
|            |           | B 14.2   |  |                                    |                    |                                       |
|            |           | D 10.6   | がら内側して立上がり。口縁部に                            |                                    |                    |                                       |
|            |           | E 9.3    | 至る。基部に3孔を穿つ。                               |                                    |                    |                                       |
|            |           |          |  |                                    |                    |                                       |



第166図 第88号住居跡出土遺物実測図(1)



第167図 第88号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号       | 器種      | 計測値(cm)                              | 器形の特徴   | 手法の特徴                                | 胎土・色調・焼成           | 備考                            |
|------------|---------|--------------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------|-------------------------------|
| 第166図<br>4 | 器<br>土器 | A 9.2<br>B 10.1<br>D [12.4]<br>E 7.7 | 口部はラッパ状に開く。器受部は内<br>側して立ち上がり、口縁部との境に<br>後をもつ。口縁部は外反する。脚部<br>に3孔。器受部中央に貫通孔を有す。 | 器受部内・外面、脚部外面ハラ磨き。<br>器受部内・外面、脚部外面赤彩。 | 長石・石英<br>暗赤色<br>普通 | P458 80% PL64<br>米西壁面コーナー書り直面 |

| 国版番号        | 器種      | 計測値(cm)                           | 器形の特徴  | 手法の特徴                                   | 胎土・色調・焼成              | 備考  |
|-------------|---------|-----------------------------------|--|---|-----------------------|---|
| 第166図<br>5  | 器台      | A 9.6<br>B 9.8<br>D 12.3<br>E 7.4 | 脚部はラッグ形に開く。器受部は内側を立ち上がり、口縁部との境に棱をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。 | 器受部内・外側、脚部外面へラ磨き。一部に赤彩の痕跡が残る。           | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P459 100% PL64<br>貯藏穴1 覆土下層<br>二次焼成、体部外面剥落有   |
|             | 土師器     | A 9.9<br>B 9.4<br>D 10.7<br>E 6.6 | 脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外側削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。             | 器受部内・外側、脚部内・外側へラナデ。                     | 長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P460 95% PL64<br>貯藏穴1 覆土下層                    |
|             | 器台      | A 9.7<br>B 9.4<br>D 10.4<br>E 7.1 | 脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外側削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。             | 器受部、脚部内面へラナデ。脚部外側へカ目整形。                 | 長石・石英<br>にぶい褐色<br>普通  | P461 100% PL64<br>東コーナー寄り床面<br>二次焼成           |
|             | 土師器     | A 10.8<br>B 6.3                   | 丸底であるが中央がやや凹む。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外反する。                             | 体部外側へラナデ。                               | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P462 90% PL64<br>貯藏穴1 覆土下層                    |
|             | 埴輪      | A [11.2]<br>B 13.6                | 丸底であるが中央がやや凹む。体部は偏平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は内側削ぎに立ち上がる。                 | 口縁部内・外側、体部外側へラ磨き。<br>口縁部はから体部内・外側赤彩。    | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通   | P463 70%<br>中央部南寄り床面                          |
| 第167図<br>10 | 埴輪      | B (5.1)                           | 口縁部欠損。丸底であるが中央が凹む。体部は内側して立ち上がる。体部上位に横窓の刻痕。                       | 体部内・外側ナデ。体部外側赤彩。                        | 長石・石英<br>赤褐色<br>普通    | P478 80%<br>南コーナー部床面<br>瓦石転用                  |
|             | 壺       | A 12.6<br>B 16.3<br>C 5.4         | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。折り返し口縁。                              | 口縁部内・外側、体部外側へラ磨き。<br>口縁部内・外側、体部外側赤彩。    | 長石・石英<br>暗赤褐色<br>普通   | P464 70% PL64<br>中央部床面                        |
|             | 壺       | A 16.9<br>B 26.2<br>C 6.6         | 平底。体部はやや偏平な球状で最大径を下位にもつ。口縁部は外反する。折り返し口縁。体部穿孔。                    | 口縁部内・外側ナデ。体部外側へラ削り後ナデ。体部外側に段違いの輪積み痕が残る。 | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P465 100% PL65<br>西壁背面→寄り床面<br>二次焼成、体部外側剥離付着  |
| 第167図<br>13 | 壺       | A [20.6]<br>B 29.0<br>C 8.0       | 平底。体部は球状で最大径を下位にもつ。口縁部はやや外傾する。折り返し口縁。                            | 口縁部内へラ磨き、外側横ナデ。体部外側へラ磨き。                | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P466 80%<br>中央部南西寄り床面                         |
|             | 壺       | A 16.0<br>B (20.7)                | 底部欠損。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。                       | 口縁部内・外側横ナデ。体部外側へラナデ。                    | 長石・石英<br>にぶい黃橙色<br>普通 | P467 60% PL66<br>北西壁中央部寄り土上層<br>二次焼成、体部外側剥離付着 |
|             | 壺       | A 20.9<br>B (21.8)                | 底部欠損。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。                       | 口縁部内・外側横ナデ。体部外側へラナデ。                    | 長石・石英<br>にぶい黃橙色<br>普通 | P468 40% PL65<br>北西壁中央部寄り土上層<br>二次焼成、体部外側剥離付着 |
| 第167図<br>16 | 壺       | A 18.6<br>B 23.7<br>C 5.9         | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。                         | 口縁部内・外側横ナデ。体部外側ハケ目整形ナデ。                 | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P469 80% PL66<br>中央部南寄り床面<br>二次焼成、体部外側剥離付着    |
|             | 壺       | A 21.6<br>B 29.9<br>C 6.4         | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。                              | 口縁部内・外側横ナデ。体部外側ハケ目整形後ナデ。                | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通   | P470 50% PL65<br>西壁背面→寄り床面<br>二次焼成、体部外側剥離付着   |
|             | 壺       | A 18.5<br>B 23.1<br>C 6.5         | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。                              | 口縁部内・外側横ナデ。体部外側へラナデ。                    | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P471 80% PL64<br>中央部南寄り床面<br>二次焼成、体部外側剥離付着    |
| 第167図<br>19 | 壺       | A 17.2<br>B 21.0<br>C 5.5         | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。                         | 口縁部内・外側横ナデ。体部外側へラナデ。                    | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P470 90% PL65<br>前藏穴1 覆土上層<br>二次焼成、体部外側剥離付着   |
|             | 壺       | A [22.1]<br>B 32.1<br>C 7.8       | 平底。体部はやや長い球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。                          | 口縁部内・外側横ナデ。体部外側へラナデ。                    | 長石・石英<br>明赤褐色<br>普通   | P472 65% PL65<br>東コーナー寄り床面<br>二次焼成、体部外側剥離付着   |
|             | ミニチュア土器 | B (3.6)<br>C 3.5                  | 口縁部欠損。平底。体部は内側して立ち上がる。   | 体部内・外側ナデ。                               | 長石・石英<br>浅黄褐色<br>普通   | P475 85% PL63<br>中央部西寄り床面                     |
| 22          | 土師器     | A 5.5<br>B 3.4<br>C 3.6           | 平底。体部は厚唇を減じながら内側気味に立ち上がり、口縁部に直る。                                 | 体部内・外側ナデ。                               | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P476 100% PL63<br>中央部西寄り床面                    |

| 図版番号        | 器 様              | 計測値(cm)                 | 器 形 の 特 徴                                    | 手 法 の 特 徴            | 粘 土・色調・焼成             | 備 考                         |
|-------------|------------------|-------------------------|--|----------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 第167図<br>23 | ミニチュア土器<br>土 器 器 | B (3.9)<br>C 3.5        | 口縁部欠損。平底。体部は内傾して立ち上がる。                       | 体部内・外面ナデ。            | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P477 90% PL63<br>北東部コート付近床面 |
| 24          | ミニチュア土器<br>土 器 器 | A 6.7<br>B 6.5<br>C 5.2 | 平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。                    | 体部内・外面ヘラナデ。          | 長石・石英<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P479 95% PL65<br>出入り口部北東部床面 |
| 25          | ミニチュア土器<br>土 器 器 | A 7.5<br>B 8.4<br>C 3.1 | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾し、外面に2本の横状浮文を4か所施す。 | 体部内・外面ナデ。底部に楕円压痕が残る。 | 長石・石英<br>に深い褐色<br>普通  | P480 95% PL65<br>中央部南寄り床面   |

| 図版番号    | 種 別     | 計 測 値  |       |        |        | 出 土 地 点 | 備 考        |                         |
|---------|---------|--------|-------|--------|--------|---------|------------|-------------------------|
|         |         | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |         |            |                         |
| 第167図26 | 管 状 土 管 | 5.3    | 4.2   | —      | 1.2    | 114.0   | 東コーナー付近床面  | DP122 PL99              |
| 27      | 土 管 炉 石 | (6.5)  | 4.4   | 3.4    | —      | (71.8)  | 北東部中央部寄り床面 | NP123 PL102 表面に楕円压痕、考古痕 |

### 第89号住居跡（第168図）

位置 調査区南部, E3g:区。

規模と平面形 長軸3.70m, 短軸3.60mの

方形である。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は26~32cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、出入り口付近が踏み固められている。

ピット P1は径20cmの円形、深さ39cmで、

規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり、長径70cm、

短径50cmの不整規円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。

径45cmの円形で、深さは48cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、

断面形はU字状である。

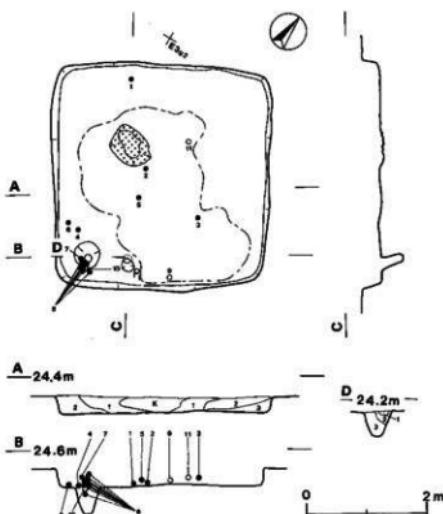
#### 貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 燃土粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・燃土粒子中量、ローム大ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック中量、ローム粒子少量

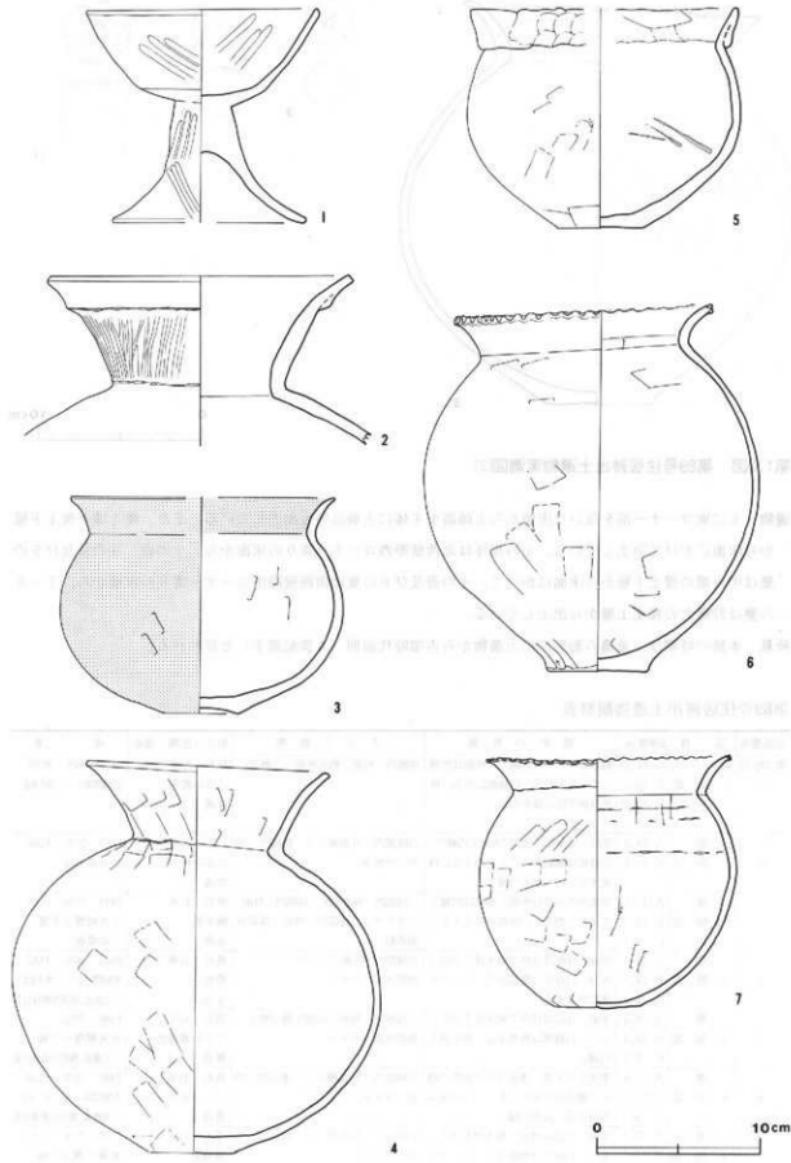
覆土 3層からなる人為堆積である。

#### 土層解説

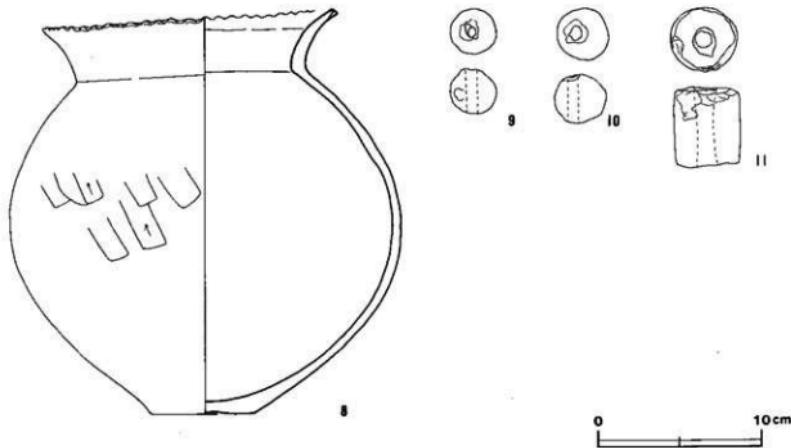
- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・燃土粒子少量
- 2 黑褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・燃土粒子少量



第168図 第89号住居跡実測図



第169図 第89号住居跡出土遺物実測図(1)



第170図 第89号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物 主に東コーナー部を除いた床面から土器等を主体に土製品等も出土している。また、焼土塊が覆土下層から床面にかけて出土している。1の高坏は北西壁際西コーナー寄りの床面から、2の壺、3の鉢及び5の甕は中央部の覆土下層から床面にかけて、4の壺及び6の甕は南西壁際南コーナー寄りの床面から、7・8の甕は貯蔵穴の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第89号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号              | 器種 | 計測値(cm)                             | 器形の特徴  | 手法の特徴                                | 胎土・色調・焼成              | 備考   |
|-------------------|----|-------------------------------------|--|--------------------------------------|-----------------------|--|
| 第169図<br>1<br>土 壷 | 壺  | A 14.2<br>B 13.0<br>C 11.8<br>D 7.5 | 壺部はラバ状に開く。壺部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。壺部外側下位に後をもつ。   | 壺部内・外側、脚部外側へラ磨き。                     | 長石・石英にぶい橙色<br>普通      | P482 90% PL66<br>北西壁際西コーナー寄り床面                 |
| 2<br>土 鉢 壺        | 壺  | A 18.8<br>B (10.4)                  | 体部上位から口縁部にかけての腹片。口縁部は腹部から「く」の字状に外反する。折り返し口縁。 | 口縁部内・外側面ナデ。腹部内・外側へラ磨き。               | 長石・石英にぶい橙色<br>普通      | P483 20% PL66<br>中央部床面                         |
| 3<br>土 鉢 壺        | 鉢  | A (16.1)<br>B 13.3<br>C 4.4         | 中央がやや凹む平底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外反する。             | 口縁部内・外側ナデ。腹部内・外側へラナデ。口縁部内・外側、体部外側赤色。 | 長石・石英暗赤色<br>普通        | P481 70% PL67<br>中央部覆土下層<br>二次焼成               |
| 4<br>土 鉢 壺        | 壺  | A 15.0<br>B 24.0<br>C 4.9           | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は腹部から「く」の字状に外反する。      | 口縁部内・外側へラナデ。体部外側ナデ。                  | 長石・石英<br>橙色<br>普通     | P484 90% PL67<br>南西壁際南コーナー寄り床面<br>二次焼成、体部外側黒付着 |
| 5<br>土 鉢 壺        | 甕  | A (16.4)<br>B 13.4<br>C 5.3         | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。折り返し口縁。          | 口縁部内・外側に指痕压痕が残る。体部外側へラナデ。            | 長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P486 50%<br>中央部覆土下層<br>二次焼成、体部外側黒付着            |
| 6<br>土 鉢 壺        | 甕  | A 15.8<br>B 22.5<br>C 6.2           | 突出した平底。体部はやや縦長の球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。波状口縁。   | 口縁部内・外側面ナデ。体部内・外側へラナデ。               | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通  | P487 70% PL66<br>南西壁際南コーナー寄り床面<br>二次焼成、体部外側黒付着 |
| 7<br>土 鉢 壺        | 甕  | A 15.1<br>B 15.4<br>C 5.4           | 平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は腹部から「く」の字状に外反する。波状口縁。 | 口縁部内・外側面ナデ。体部内・外側へラナデ。体部内面に輪積痕が残る。   | 長石・石英<br>黒褐色<br>普通    | P485 90% PL66<br>貯蔵穴覆土上層<br>二次焼成、体部外側黒付着       |

| 図版番号       | 器種  | 測定値(cm) | 器形の特徴            | 手法の特徴                        | 施土・色調・焼成 | 備考            |
|------------|-----|---------|------------------|------------------------------|----------|---------------|
| 第170図<br>8 | 亮   | A 18.2  | 平底。体部は波状で最大径を中位に | 口縁部内・外縁横ナゲ。体部外面へ<br>ラ削り後ヘナゲ。 | 長石・石英    | P488 80% PL67 |
|            | 土師器 | B 24.8  | もつ。口縁部は頸部から「く」の字 |                              | 黒褐色      | 貯藏穴覆土上層       |
|            |     | C 6.4   | 状に外反する。波状口縁。     |                              | 普通       | 二次焼成、体部外面漆付着  |

| 図版番号         | 種別   | 計測値    |       |        |        | 出土地点 | 備考                 |
|--------------|------|--------|-------|--------|--------|------|--------------------|
|              |      | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) |      |                    |
| 第170図9<br>10 | 土玉   | 2.8    | 2.9   | —      | 0.6    | 19.0 | 南西壁下中央部覆土下層 DP124  |
| 11           | 土玉   | 2.9    | 3.1   | —      | 0.6    | 24.7 | 貯藏穴覆土中層 DP125      |
|              | 管状土錐 | 4.9    | 4.1   | —      | 1.0    | 86.5 | 中央部覆土下層 DP126 PL99 |

### 第90号住居跡（第171図）

位置 調査区南部、E3e1区。

重複関係 本跡は北西壁が第91号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸8.55m、短軸7.95mの方形である。

主軸方向 N-52°-W

壁 壁高は42~53cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しておる。上幅7~15cm、深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 全体に平坦で、硬く踏み固められ、南コーナー付近から南西壁下にかけての硬化面は一段高くなっている。

南東壁下中央部付近から1条(a)、南西壁下から2条(b・c)それぞれ住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。aは長さ146cm、上幅10~15cm、深さ10cm程、bは長さ145cm、上幅13cm程、深さ9cm程、cは長さ113cm、上幅10cm、深さ9cm程で、断面形はいずれもU字状である。

ピット 5か所(P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>)。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は径35~45cmの円形、深さ119~134cmで、いずれも主柱穴、P<sub>5</sub>は径30cmの円形、深さ53cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部からやや北西寄りで、P<sub>1</sub>とP<sub>4</sub>の間にあり、長径60cm、短径45cmの楕円形で、床面を10cm程掘り産めている。炉床は火熱を受け赤変化している。

貯藏穴 4か所。貯藏穴1は南コーナー部に付設されている。径70cm程の円形で、深さは63cmである。底面は平坦で、壁は急傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。貯藏穴2は南西壁下の南コーナー寄りに付設されている。長径55cm、短径50cmの円形で、深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。貯藏穴3は北西壁際下の西コーナー寄りに付設されている。長径60cm、短径45cmの楕円形で、深さは25cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。貯藏穴4は北コーナー部に付設されている。長径55cm、短径50cmの円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

#### 貯藏穴1土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量

#### 貯藏穴2土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量

#### 貯藏穴3土層解説

1 黑褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、ローム中・大ブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック中量

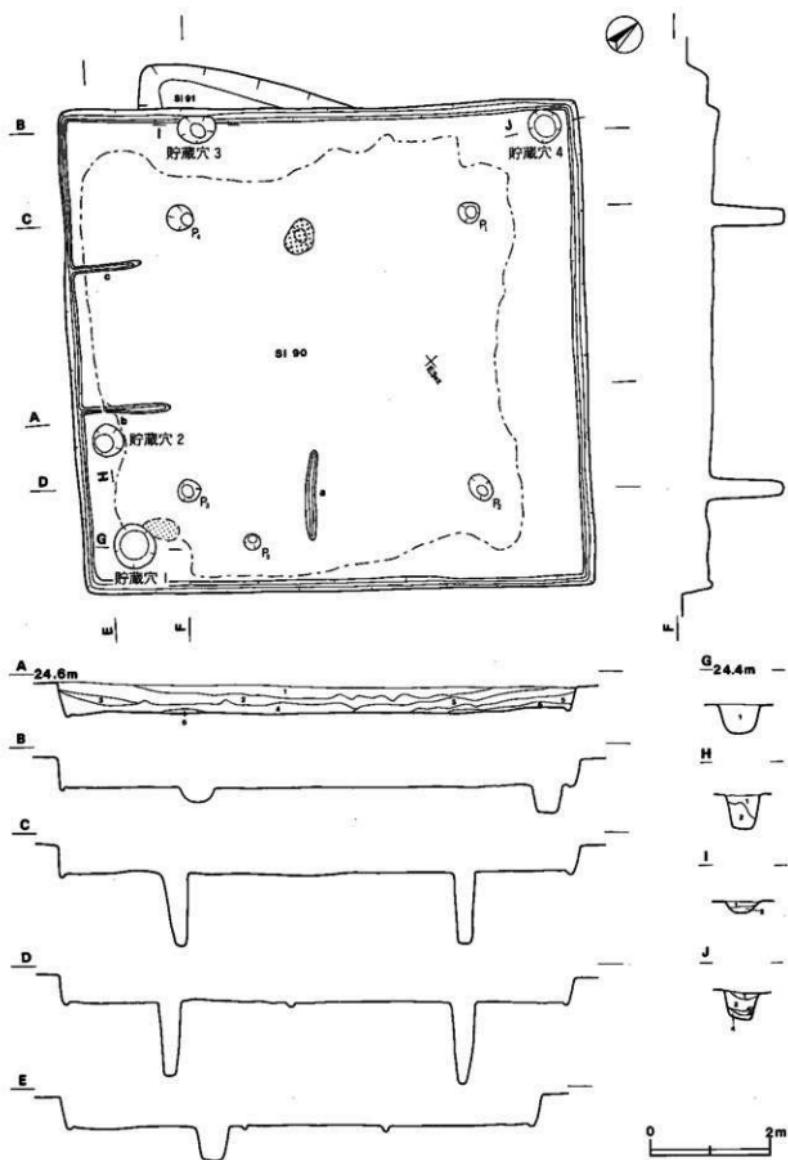
#### 貯藏穴4土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・炭化物少量

2 暗褐色 ローム粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量

4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第171図 第90・91号住居跡実測図